

明石市地域医療のあり方検討プロジェクトチーム

調 査 報 告 書

2024年3月31日
明石市

はじめに	2
------	---

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

1. 国及び県の医療政策	4
2. 明石市における医療提供体制調査	8
3. 明石市における患者の疾病動向・受療動向調査	17
4. 明石市における患者の将来医療需要推計	20
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析	27
6. 明石市の医療的施策の実施状況	83
7. 明石市における診療領域ごとの分析	89
8. 調査のまとめ	93

II. 明石市立市民病院を取り巻く医療について

(市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等)

II-1 市民病院診療圏における地域医療提供体制

1. 診療圏における医療提供体制調査	98
2. 診療圏における患者の将来医療需要推計	107
3. 診療領域ごとの分析	114
4. 調査のまとめ	117

II-2 市民病院の現状と課題

1. ベンチマーク（BM）設定について	120
2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）	124
3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）	143
4. 調査のまとめ	173

II-3 市民病院の病床・機能分析

1. 病院機能・診療領域及び役割分析	182
2. 必要病床数の検証	185

III. 明石市立市民病院の再整備について

(建物に関する調査検証等)

1. 建物の調査結果	201
2. 整備手法別検討	213
3. 経営面での影響	216

IV. まとめ

IV-1 調査結果のまとめ

1. 明石市の地域医療について	230
2. 明石市立市民病院を取り巻く医療について （市民病院診療圏における地域医療提供体制）	231
（市民病院の現状と課題）	232
3. 市民病院の施設・設備について	233
4. 市民病院の経営について	234

IV-2 課題整理

1. 明石市の地域医療について	236
2. 市民病院が担うべき役割及び医療機能	237
3. 市民病院の施設・設備について	238
4. 市民病院の経営・市財政について	239
5. 市民理解と取組体制について	240
今後の検討にあたって	241

用語集	242
-----	-----

はじめに

はじめに

住み慣れた地域で、すべての市民が適切な医療を受けることができる医療環境を構築することは、行政の責務となっています。

一方、人口減少や少子高齢化に伴う医療需要の変化、医師等の不足や働き方改革など地域医療を取り巻く環境は非常に厳しい状況となっています。

さらに明石市において、その中核を担う地方独立行政法人明石市立市民病院については、社会情勢の変化による疾病構造の多様化や医療ニーズの変化への対応とともに、施設の老朽化への対応が求められています。

そのような中、明石市では将来にわたり、市民の安心を支える持続可能な地域医療提供体制の確保を目指し、令和5年7月、庁内プロジェクトチームを設置しました。

プロジェクトチームでは、現状の医療資源や医療ニーズの状況把握、将来の人口構造を踏まえた地域医療のあり方の検討、市民病院が担うべき役割などの整理や分析など、今後の方向性について、様々な角度から調査・検討を行いました。

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

1. 国及び県の医療政策

1. 国及び県の医療政策

(1) 医療政策の基本的考え方の変遷

社会保障制度改革国民会議 最終報告（2013年8月）

- 【医療提供体制の改革】
- 「病院完結型」から、地域全体で治し、支える「地域完結型」に転換
 - 急性期医療を中心に人的・物的資源を集中投入し、早期の家庭復帰・社会復帰を実現するとともに、受け皿となる地域の病床や在宅医療・介護を充実
 - 医療から介護へ、病院・施設から地域・在宅への観点から、医療・介護を一体見直し
- 【医療資源の計画的再編】
- 医療機能に係る情報の都道府県への報告制度（病床機能報告制度）を早急に導入
 - 地域医療ビジョンを都道府県が策定
 - 基金方式の財政支援で再編を推進
- 【医療給付の重点化・効率化】
- 中長期的に医療保険制度の持続可能性を高める観点から、引き続き給付を重点化・効率化
 - 紹介状のない大病院の外来受診について、一定の定額自己負担を求める
 - 後発医薬品の使用促進

社会保障制度改革法（プログラム法 2013年12月）

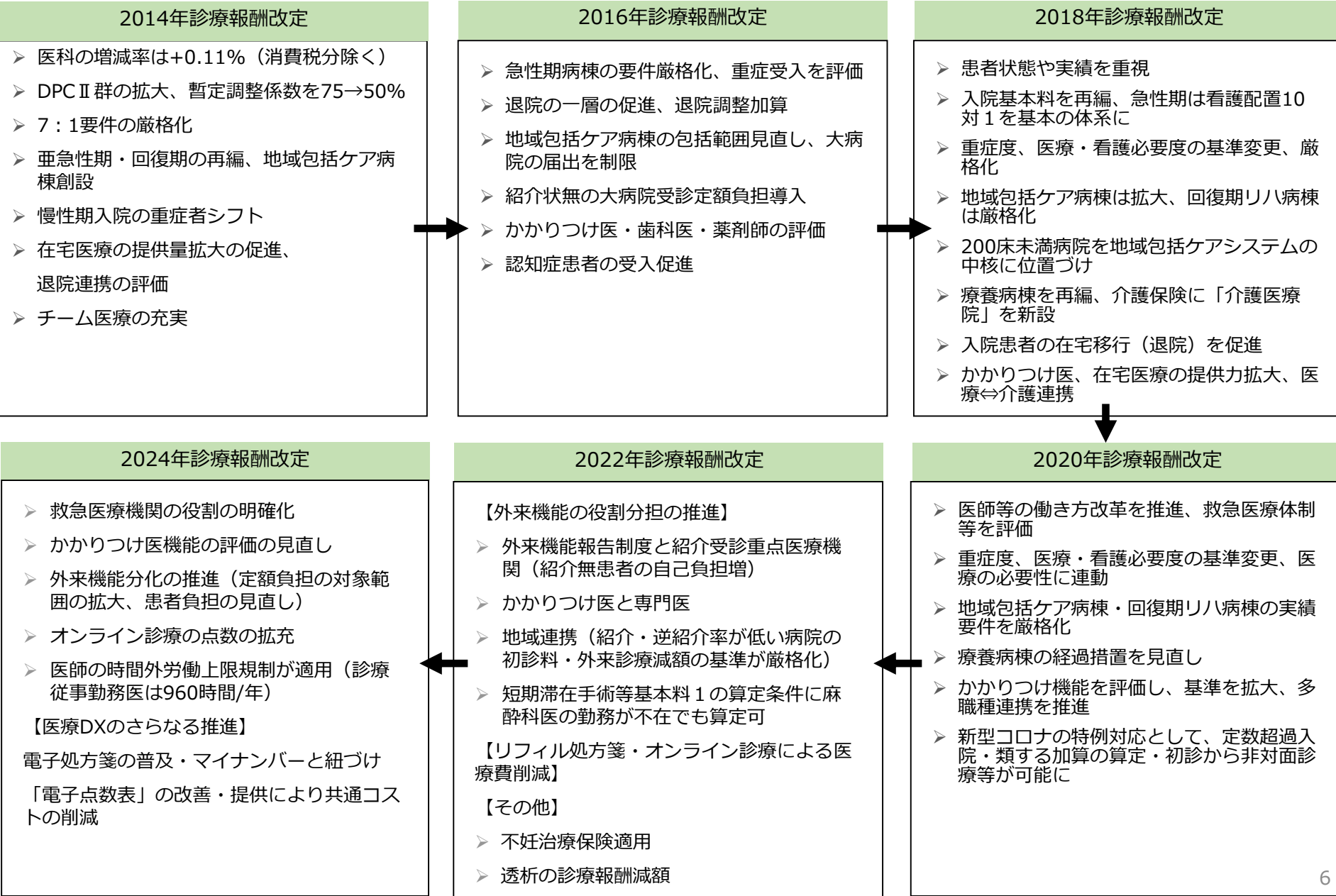
- 受益と負担の均衡がとれた持続可能な社会保障制度の確立を図るため、医療制度、介護保険制度等の改革について①改革の検討項目、②改革の実施時期と関連法案の国会提出時期の目途を明らかにするもの
- 少子化対策
 - 医療制度（病床機能報告制度の創設・地域の医療提供体制の構想の策定等による病床機能の分化及び連携、国保の保険者・運営等の在り方の改革、後期高齢者支援金の全面総報酬割、70～74歳の患者負担・高額療養費の見直し、難病対策 等）
 - 介護保険制度
 - 公的年金制度
- ※ 医療サービスの提供体制、介護保険制度及び難病対策等については平成26年通常国会に、医療保険制度については平成27年通常国会に、必要な法律案を提出することを目指すと規定
- 【改革推進体制】
- 上記の措置の円滑な実施を推進するとともに、引き続き、中長期的に受益と負担の均衡がとれた持続可能な社会保障制度を確立するための検討等を行うため、関係閣僚からなる社会保障制度改革推進本部、有識者からなる社会保障制度改革推進会議を設置

医療・介護総合確保推進法（2014年6月）

- 【新たな基金の創設】
- 都道府県の医療・介護事業（病床の機能分化・連携、在宅医療・介護の推進等）のため基金を設置
- 【地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保】
- 都道府県は、病床機能報告をもとに地域医療構想を医療計画で策定
 - 地域医療構想に基づいて、病床機能を地域ごとに必要な数に再配置
- 【地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化】
- 全国一律の予防給付（訪問介護・通所介護）を地域支援事業に移行
 - 特別養護老人ホームは中重度（要介護3以上）に重点化
 - 低所得者の保険料軽減を拡充
 - 一定以上の所得のある利用者の自己負担を2割へ引上げ
 - 「補足給付」に資産要件追加
- 【チーム医療の推進】
- 特定行為を明確化し、看護師の研修制度を新設
- 【その他】
- 医療法人社団と医療法人財団の合併、持分なし医療法人への移行促進策を措置

1. 国及び県の医療政策

(2) 診療報酬改定の観点の変遷



1. 国及び県の医療政策

(3) 第8次医療計画のポイント(2024～2029年度)

全体について

- 新型コロナの感染拡大により浮き彫りとなった地域医療の様々な課題に対応するとともに、人口構造の変化への対応を図る
- 新興感染症への対応に関する事項を追加
- 第7次医療計画に追加した「医師確保計画」「外来医療計画」についてもそれぞれのガイドラインに基づき併せて見直しを行う
- 二次医療圏の設定について先行して議論を行う

5 疾病・6 事業及び在宅医療について

【がん】がん医療の均てん化及び拠点病院等の役割分担と連携による地域の実情に応じた集約化を推進

【脳卒中】急性期診療体制の構築、回復期や維持期・生活期の医療体制の強化

【心血管疾患】回復期・慢性期の診療体制強化等、急性期から一貫した体制整備

【糖尿病】発症予防、糖尿病及び合併症の治療・重症化予防のそれぞれのステージに重点を置いて取り組むための体制構築

【精神疾患】患者の病状に応じ、医療、障害福祉・介護その他のサービスを切れ目なく受けられる体制整備

【救急】増加する高齢者の救急や、特に配慮を要する救急患者を受け入れるために、地域における救急医療機関の役割を明確化

【災害】災害拠点病院等の豪雨災害の被害を軽減するため、地域の浸水対策推進

【新興感染症】新型コロナ対応の教訓を踏まえ、当該対応での最大規模の体制を目指し、地域の役割分担を踏まえた新興感染症及び通常医療の提供体制の確保

【へき地】医師確保への配慮とともに、オンライン診療を含む遠隔医療を活用

【周産期・小児】ハイリスク妊産婦への対応や、医療的ケア児への支援にかかる体制整備

【在宅医療】在宅医療において積極的役割を担う医療機関及び在宅医療に必要な連携を担う拠点を位置付け、適切な在宅医療の圏域を設定。各職種の機能・役割についても明確化

外来医療について

- 紹介受診重点医療機関となる医療機関を明確化するとともに、地域の外来医療の提供状況について把握、今後の地域の人口動態・外来患者推計等も踏まえ外来医療提供体制のあり方について検討を行う

医療従事者の確保について

- 2024年4月に医師の時間外・休日労働の上限規制が施行されることを踏まえ、医療機関における医師の働き方改革に関する取組の推進、地域医療構想に関する取組と連動させ、医師確保の取組を推進
- 医師確保計画の策定において基礎となる、医師偏在指標について精緻化等
- 地域医療介護総合確保基金を積極的に活用し、病院と歯科診療所の連携、歯科専門職の確保、薬剤師（特に病院）の確保を進める
- 特定行為研修修了者その他の専門性の高い看護師の養成と確保を推進する

その他の事項

- 医療事故調査制度運用に関する研修、医療安全支援センターの相談職員の研修の受講推進
- 地域医療支援病院は必要に応じて責務の追加・見直しを検討するとともに、新興感染症への対応に関する事項との連携にも留意

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

2. 明石市における医療提供体制調査

2. 明石市における医療提供体制調査

(1) 明石市内の医療機関情報

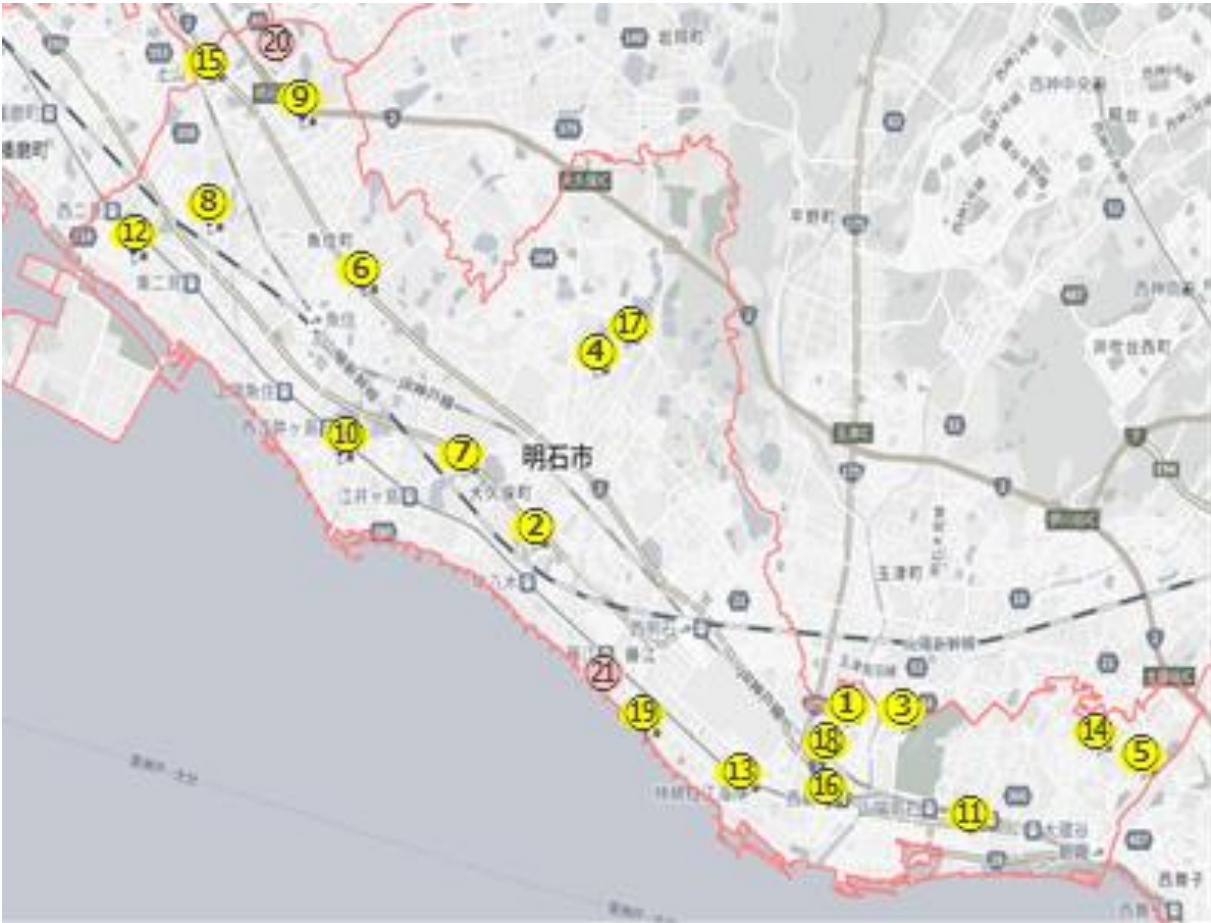
明石市内には病院が21施設あり、一般病床もしくは療養病床を有する病院は19病院、精神科病床を有する病院が2病院ある。

■ 明石市内の病院一覧

NO.	施設名	病床区分
1	兵庫県立がんセンター	一般
2	明石医療センター	一般
3	明石市立市民病院	一般
4	大久保病院	一般、療養
5	明舞中央病院	一般、療養
6	野木病院	一般、療養
7	大西脳神経外科病院	一般
8	明石回生病院	一般
9	明石仁十病院	一般、療養
10	江井島病院	一般、療養
11	石井病院	一般、療養
12	明石リハビリテーション病院	療養
13	あさひ病院	一般
14	あさぎり病院	一般
15	明石同仁病院	療養
16	ふくやま病院	一般
17	神明病院	療養
18	王子回生病院	一般
19	明海病院	療養
20	明石土山病院	精神
21	明石こころのホスピタル	精神

■ 明石市内の病院分布

※2024年3月現在



2. 明石市における医療提供体制調査

(1) 明石市内の医療機関情報

明石市内の一般病床もしくは療養病床を有する各病院の診療実績には、それぞれの病院の特色が反映されている。

■病院の基本情報一覧（一般病床もしくは療養病床を有する）

施設名	設立母体	許可病床数 (床)		稼働病床数 (床)		延べ患者数 (人)	病床 稼働率	平均 在院日数 (日)	新入院 (転棟含む) (人)	退院 (転棟含む) (人)
		一般	療養	一般	療養					
兵庫県立がんセンター	自治体	400	0	343	0	80,994	60.2%	11.5	9,953	9,945
明石医療センター	民間	382	0	382	0	127,424	91.9%	10.7	13,324	19,139
明石市立市民病院	自治体	329	0	303	0	86,885	78.6%	13.0	7,823	7,836
大久保病院	民間	160	39	159	39	58,757	78.2%	23.4	3,353	3,329
明舞中央病院	民間	149	50	141	50	41,273	59.2%	43.2	955	—
野木病院	民間	118	80	114	80	31,117	84.4%	40.6	758	888
大西脳神経外科病院	民間	172	0	152	0	48,369	81.2%	20.7	3,816	4,829
明石回生病院	民間	155	0	147	0	45,525	82.2%	65.2	868	877
明石仁十病院	民間	49	100	50	100	50,184	94.4%	81.1	715	860
江井島病院	民間	120	0	120	0	38,722	84.6%	58.4	1,110	1,098
石井病院	民間	46	57	40	57	29,664	85.1%	38.3	997	980
明石リハビリテーション病院	民間	0	103	0	103	32,284	77.6%	82.5	385	389
あさひ病院	民間	100	0	100	0	33,520	87.5%	65.7	471	480
あさぎり病院	民間	99	0	76	0	15,239	70.5%	6.0	3,974	3,967
明石同仁病院	民間	0	99	0	99	39,291	87.3%	310.6	63	72
ふくやま病院	民間	92	0	75	0	21,472	78.1%	20.9	1,326	1,326
神明病院	民間	0	71	0	70	19,230	91.2%	126.0	176	169
王子回生病院	民間	69	0	69	0	25,051	97.9%	425.2	65	67
明海病院	民間	0	60	0	60	18,593	86.9%	216.2	51	87

※ 1：病床稼働率＝年間延べ患者数÷年間延べ病床数

※ 2：明石市立市民病院の延べ患者数及び病床稼働率、平均在院日数は病院受領データ（2021年度）より

※ 3：明舞中央病院の平均在院日数は延べ患者数を新規入院患者数で割り戻し算出

2. 明石市における医療提供体制調査

(2) 病床機能報告による医療機能ごとの病床の現状

兵庫県の保健医療計画では、2040年の東播磨圏域における急性期病床と回復期病床の必要数は同程度必要とされている。それに対して2021年時点では急性期病床は過剰、回復期病床は不足している。
明石市における病床の整備状況としても、2021年度の病床機能報告では、急性期病床数は回復期病床数よりも1,000床以上多い。ただし、病床数を入院基本料をベースに急性期・回復期に振り分けた結果としては、病床数の差が100床未満となった。

■ 東播磨圏域における機能別病床数 参照：第7次兵庫県保健医療計画

	2021年	2040年	過不足
	最大使用病床数	必要病床数	▲：不足
高度急性期	418 床	702 床	▲ 284 床
急性期	3,249 床	2,229 床	1,020 床
回復期	911 床	2,155 床	▲ 1,244 床
慢性期	1,291 床	1,445 床	▲ 154 床
合 計	5,869 床	6,531 床	▲ 662 床

【高度急性期】
特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、新生児特定集中治療室管理料
【急性期】
急性期一般入院料1、専門病院7対1入院基本料、小児入院医療管理料
【回復期】
急性期一般入院料2～7、地域一般入院料、地域包括ケア病棟入院料・入院管理料、回復期リハビリテーション病棟入院料
【慢性期】
療養病棟入院料、障害者施設等入院基本料

■ 明石市内19病院の稼働病床数（2021年度病床機能報告）

（左記値を上記入院基本料・特定入院料をベースに振り分け）
※左記値は各病院が自己申告している内容であり、入院基本料・特定入院料ベースで振り分けた

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
兵庫県立がんセンター	8	335			343
明石医療センター	22	360			382
明石市立市民病院	6	217	80		303
大久保病院		111	48	39	198
明舞中央病院		141		50	191
野木病院		57		40	97
大西脳神経外科病院	78	43	31		152
明石回生病院		70		77	147
明石仁十病院		29	21	100	150
江井島病院		60	60		120
石井病院		40	24	33	97
明石リハビリテーション病院			103		103
あさひ病院			100		100
あさぎり病院		76			76
明石同仁病院				99	99
ふくやま病院		75			75
神明病院				70	70
王子回生病院				69	69
明海病院				60	60
合計	114	1,614	467	637	2,832

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
兵庫県立がんセンター	8	335	0	0	343
明石医療センター	22	360	0	0	382
明石市立市民病院	6	217	80	0	303
大久保病院	0	93	66	39	198
明舞中央病院	0	0	141	50	191
野木病院	0	0	57	40	97
大西脳神経外科病院	6	115	31	0	152
明石回生病院	0	0	70	77	147
明石仁十病院	0	0	50	100	150
江井島病院	0	0	120	0	120
石井病院	0	0	64	33	97
明石リハビリテーション病院	0	0	103	0	103
あさひ病院	0	0	100	0	100
あさぎり病院	0	0	76	0	76
明石同仁病院	0	0	0	99	99
ふくやま病院	0	0	75	0	75
神明病院	0	0	0	70	70
王子回生病院	0	0	0	69	69
明海病院	0	0	0	60	60
合計	42	1,120	1,033	637	2,832

〔高度急性期〕〔急性期〕〔回復期〕〔慢性期〕 巻末用語集参照

2. 明石市における医療提供体制調査

(2) 病床機能報告による医療機能ごとの病床の現状

明石市内で高度急性期・急性期機能の病床を保有する病院は、明石市立市民病院、明石医療センター、兵庫県立がんセンター、大久保病院、大西脳神経外科病院の5病院。
その他は回復期病床、慢性期病床を中心に保有している。

■ 明石市内19病院の入院基本料・特定入院料別の稼働病床数（2021年度各医療機関報告値）(床)

	高度急性期				急性期												回復期					慢性期	
	特定集中治療室管理料 3	ハイケアユニット入院医療管理料 1	新生児特定集中治療室管理料 2	急性期一般入院料 1	急性期一般入院料 1	専門病院 7 対 1 入院基本料	小児入院医療管理料 4	急性期一般入院料 4	急性期一般入院料 5	急性期一般入院料 6	急性期一般入院料 7	地域一般入院料 1	緩和ケア病棟入院料 1	地域包括ケア入院医療管理料 1	入院料記載なし	地域一般入院料 3	回復期リハビリテーション病棟入院料 1	回復期リハビリテーション病棟入院料 3	地域包括ケア病棟入院料 1	地域包括ケア病棟入院料 2	療養病棟入院料 1	障害者施設等 10対 1 入院基本料	
兵庫県立がんセンター	8					335																	
明石医療センター	8	8	6		350		10																
明石市立市民病院		6			196		21											30		50			
大久保病院					93								18						48		39		
明舞中央病院								45							96						50		
野木病院									38					19							40		
大西脳神経外科病院		6		72	43												31						
明石回生病院									50					20								77	
明石仁十病院												29						21			100		
江井島病院									29					31			60						
石井病院											6			34				24			33		
明石リハビリテーション病院																	60	43					
あさひ病院																100							
あさぎり病院										44	32												
明石同仁病院																					99		
ふくやま病院											15		29	31									
神明病院																					70		
王子回生病院																						69	
明海病院																					60		
合計	16	20	6	72	682	335	31	45	117	44	53	29	47	135	96	100	151	118	48	50	491	146	

参照：病床機能報告 2021年度
〔高度急性期〕〔急性期〕〔回復期〕〔慢性期〕 巻末用語集参照

2. 明石市における医療提供体制調査

(3) 周辺医療機関標ぼう診療科

明石市内では感染症内科、小児外科を標榜する医療機関はない。

■ 明石市内の病院の診療科目一覧

施設名	診療科目																																								
	内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科	腎臓内科	神経内科	糖尿病内科	血液内科	皮膚科	アレルギー科	リウマチ科	感染症内科	小児科	精神科	心療内科	外科	呼吸器外科	循環器外科	乳腺外科	気管食道外科	消化器外科	泌尿器科	肛門外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	美容外科	眼科	耳鼻いんこう科	小児外科	産婦人科	産科	婦人科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	病理診断科	救急科			
兵庫県立がんセンター		●	●	●				●	●					●			●		●			●	●		●	●	●						●	●	●	●	●				
明石医療センター	●	●	●	●	●								●			●	●					●			●	●			●			●									
明石市立市民病院			●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●						●		●	●	●			●	●					●	●	●	●	●	●	
大久保病院	●	●	●	●	●		●									●								●	●						●						●		●		
明舞中央病院	●		●	●	●		●									●			●		●			●	●								●	●	●						
野木病院	●	●	●	●			●									●		●	●				●	●	●										●	●					
大西脳神経外科病院						●																		●											●	●	●				
明石回生病院	●		●				●									●							●			●															
明石仁十病院	●	●	●	●		●	●									●						●			●					●					●	●					
江井島病院	●		●			●			●				●		●	●						●		●	●													●			
石井病院	●		●	●							●			●		●							●		●				●									●			
明石リハビリテーション病院	●															●								●	●										●						
あさひ病院	●		●	●												●							●		●	●	●	●							●	●					
あさぎり病院	●															●													●			●									
明石同仁病院	●													●	●	●									●				●												
ふくやま病院	●			●			●									●					●		●	●	●										●	●	●				
神明病院	●		●	●												●					●			●		●															
王子回生病院	●			●												●					●				●										●	●					
明海病院	●	●		●					●	●																										●	●				
明石土山病院			●											●	●																				●	●					
明石こころのホスピタル						●								●	●																				●	●					
病院 標ぼう数	16	6	13	13	4	5	7	2	4	1	1	0	3	6	5	16	2	2	3	0	5	6	4	9	16	2	1	5	2	0	4	0	2	13	12	6	2	2			
診療所 標ぼう数	83	7	26	31	3	4	7	0	19	10	11	0	31	18	15	19	1	2	3	2	2	10	2	3	32	5	4	18	11	0	9	1	5	27	6	3	0	0			

参考：兵庫県医療機関情報システム 2023年12月15日確認

※ 1 診療科のラインナップは上記情報システム上の検索項目 ※ 歯科系除く

※ 2 消化器内科には胃腸科を含む

※ 3 糖尿病内科には代謝内科を含む

※ 4 循環器外科には心臓外科・血管外科を含む

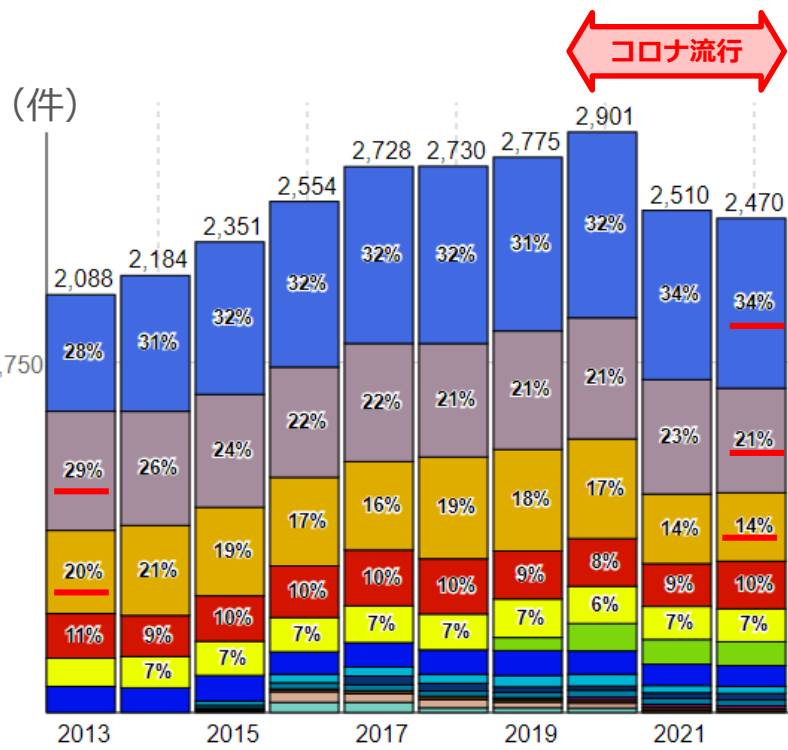
※ 5 消化器外科には胃腸外科を含む

2. 明石市における医療提供体制調査

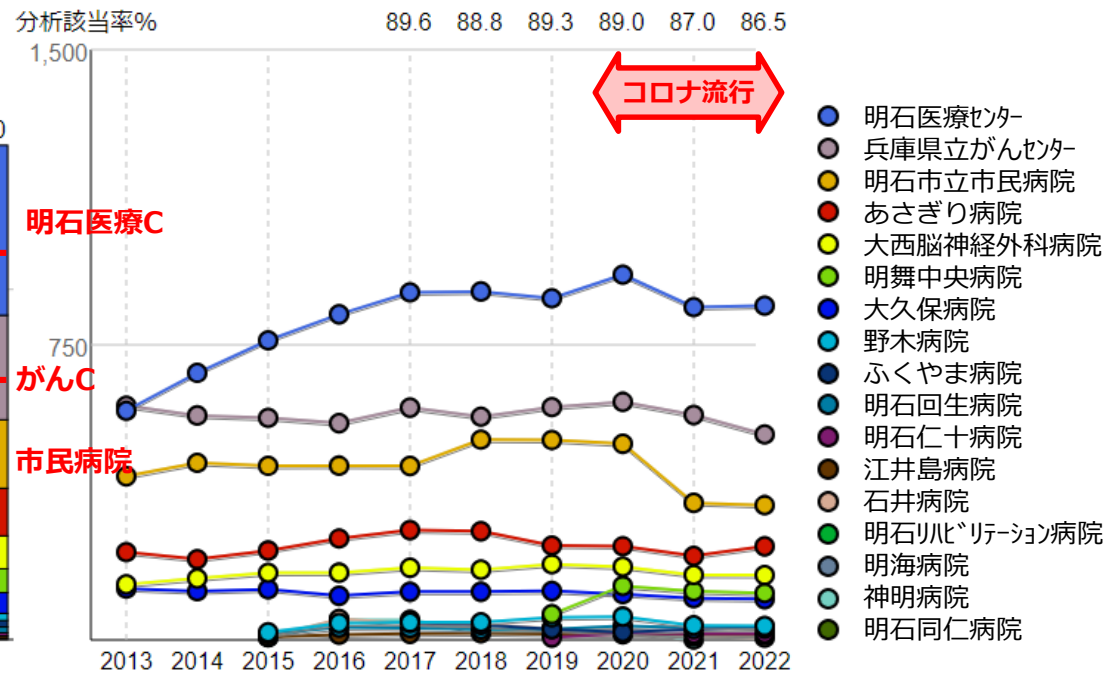
(4) 明石市内の医療機関別退院患者数及びシェア率

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、2022年度の明石市内の医療機関におけるDPC退院患者のうち、明石医療センター、がんセンター、市民病院の3病院で約70%に対応している。

■ 医療機関別退院患者割合の推移（明石市）



■ 医療機関別退院患者数の推移（明石市）



参照：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」 2013年度～2021年度 厚生労働省 （DPC）巻末用語集参照
DPCデータは、急性期患者のみを対象としているため、実際の対応患者数とは異なる。

2. 明石市における医療提供体制調査

(4) 明石市内の医療機関別退院患者数及びシェア率

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、2019年度の明石市内の医療機関におけるDPC患者の受入れ数のうち、明石医療センター、がんセンター、市民病院の3病院で約70%以上に対応している。

■ 明石市内医療機関のDPC患者受入状況（2019年度）

傷病名	DPC受入状況（上段：受入件数 下段：地域内シェア率）						
	兵庫県立がんセンター	明石医療センター	明石市立市民病院	大久保病院	明舞中央病院	大西脳神経外科病院	あさざり病院
①神経系	68	159	197	41	499	1,749	-
	2.4%	5.7%	7.0%	1.5%	17.8%	62.4%	-
②眼科系	-	-	613	-	-	-	1,619
	-	-	27.5%	-	-	-	72.5%
③耳鼻咽喉科系	347	184	360	33	11	-	-
	33.9%	18.0%	35.2%	3.2%	1.1%	-	-
④呼吸器系	1,085	1,784	650	167	131	-	46
	25.2%	41.4%	15.1%	3.9%	3.0%	-	1.1%
⑤循環器系	17	2,161	401	123	36	-	14
	0.6%	70.3%	13.0%	4.0%	1.2%	-	0.5%
⑥消化器系	2,129	2,821	1,737	361	157	-	99
	27.0%	35.8%	22.0%	4.6%	2.0%	-	1.3%
⑦筋骨格系	365	319	88	211	179	165	-
	26.7%	23.3%	6.4%	15.4%	13.1%	12.1%	-
⑧皮膚系	169	100	115	-	12	-	-
	40.2%	23.8%	27.4%	-	2.9%	-	-
⑨乳房系	368	-	58	-	-	-	-
	86.4%	-	13.6%	-	-	-	-
⑩内分泌系	78	263	92	44	64	15	31
	11.4%	38.3%	13.4%	6.4%	9.3%	2.2%	4.5%

傷病名	DPC受入状況（上段：受入件数 下段：地域内シェア率）						
	兵庫県立がんセンター	明石医療センター	明石市立市民病院	大久保病院	明舞中央病院	大西脳神経外科病院	あさざり病院
⑪泌尿路系	849	456	752	82	92	-	25
	35.4%	19.0%	31.3%	3.4%	3.8%	-	1.0%
⑫女性生殖器官系	1,326	632	283	-	-	-	232
	53.6%	25.6%	11.4%	-	-	-	9.4%
⑬血液系	289	77	159	-	18	-	-
	52.2%	13.9%	28.7%	-	3.2%	-	-
⑭新生児系	-	540	-	-	-	-	201
	-	72.9%	-	-	-	-	27.1%
⑮小児系	-	31	64	-	-	-	-
	-	32.6%	67.4%	-	-	-	-
⑯外傷系	-	763	288	273	395	274	36
	-	33.1%	12.5%	11.9%	17.2%	11.9%	1.6%
⑰精神系	-	18	-	-	-	-	-
	-	100.0%	-	-	-	-	-
⑱その他	113	183	71	-	-	-	-
	28.6%	46.3%	18.0%	-	-	-	-
合計	7,203	10,491	5,928	1,335	1,594	2,203	2,303
	21.7%	31.6%	17.9%	4.0%	4.8%	6.6%	6.9%

※ 1 DPC受入件数について10件未満について、公開データの特性上「-」表示となっている。
※ 2 DPC受入件数の合計が1,000件以上の病院のみ記載

2. 明石市における医療提供体制調査

(4) 明石市内の医療機関別退院患者数及びシェア率

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、コロナ禍である2021年度でも、明石市内の医療機関におけるDPC患者の受入れ数のうち、明石医療センター、がんセンター、市民病院の3病院で約70%以上に対応している。

■ 明石市内医療機関のDPC患者受入状況（2021年度）

傷病名	DPC受入状況（上段：受入件数 下段：地域内シェア率）						
	兵庫県立がんセンター	明石医療センター	明石市立市民病院	大久保病院	明舞中央病院	大西脳神経外科病院	あさぎり病院
①神経系	59 2.5%	157 6.6%	130 5.5%	36 1.5%	433 18.2%	1,517 63.6%	- -
②眼科系	- -	- -	238 12.6%	- -	- -	- -	1,634 86.7%
③耳鼻咽喉科系	251 34.9%	203 28.2%	193 26.8%	34 4.7%	- -	- -	- -
④呼吸器系	818 28.7%	1,369 48.1%	287 10.1%	73 2.6%	81 2.8%	- 0.0%	32 1.1%
⑤循環器系	- -	1,626 72.1%	363 16.1%	88 3.9%	40 1.8%	10 0.4%	18 0.8%
⑥消化器系	1,912 28.3%	2,685 39.7%	1,211 17.9%	331 4.9%	143 2.1%	- -	116 1.7%
⑦筋骨格系	194 17.7%	284 25.9%	76 6.9%	238 21.7%	150 13.7%	137 12.5%	- -
⑧皮膚系	123 35.9%	82 23.9%	89 25.9%	16 4.7%	20 5.8%	- -	13 3.8%
⑨乳房系	418 86.9%	- -	63 13.1%	- -	- -	- -	- -
⑩内分泌系	63 10.9%	266 46.2%	64 11.1%	40 6.9%	47 8.2%	10 1.7%	26 4.5%

傷病名	DPC受入状況（上段：受入件数 下段：地域内シェア率）						
	兵庫県立がんセンター	明石医療センター	明石市立市民病院	大久保病院	明舞中央病院	大西脳神経外科病院	あさぎり病院
⑪腎尿路系	736 36.3%	471 23.2%	598 29.5%	84 4.1%	56 2.8%	- -	27 1.3%
⑫女性生殖系	1,299 50.3%	765 29.6%	290 11.2%	10 0.4%	- -	- -	219 8.5%
⑬血液系	247 48.6%	85 16.7%	162 31.9%	- -	14 2.8%	- -	- -
⑭新生児系	- -	189 51.8%	- -	- -	- -	- -	176 48.2%
⑮小児系	- -	34 56.7%	26 43.3%	- -	- -	- -	- -
⑯外傷系	- -	660 33.6%	191 9.7%	262 13.3%	408 20.8%	277 14.1%	23 1.2%
⑰精神系	- -	13 37.1%	22 62.9%	- -	- -	- -	- -
⑱その他	97 22.0%	245 55.6%	57 12.9%	- -	- -	- -	11 2.5%
合計	6,255 22.9%	9,134 33.4%	4,060 14.8%	1,212 4.4%	1,392 5.1%	1,951 7.1%	2,295 8.4%

※ 1 DPC受入件数について10件未満について、公開データの特性上「-」表示となっている。
※ 2 DPC受入件数の合計が1,000件以上の病院のみ記載

参照：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」 2021年度 厚生労働省
DPCデータは、急性期患者のみを対象としているため、実際の対応患者数とは異なる。

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

3. 明石市における患者の疾病動向・受療動向調査

3. 明石市における患者の疾病動向・受療動向調査

(1) 患者流出状況調査

明石市のレセプトデータからみた外来患者について、市内完結率は85%となっている。
流出状況として、神戸市西区へは精神系、神戸市中央区へは周産期系・先天奇形が流出傾向にある。

■ 国保レセプト・後期高齢者レセプトからみる外来患者流出状況（明石市）

※レセプト件数をもとに算出

傷病別	明石市	明石市立 市民病院	その他	東播磨 医療圏	神戸市 垂水区	神戸市 西区	神戸市 中央区	兵庫県内 その他	県外	総計 【件数】
①感染症及び寄生虫症	81%	4%	76%	8%	1%	5%	2%	2%	1%	21,753
②新生物	84%	13%	71%	4%	1%	4%	4%	2%	1%	23,720
③血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	80%	13%	66%	3%	0%	9%	4%	3%	1%	3,469
④内分泌、栄養及び代謝疾患	87%	1%	85%	3%	1%	5%	3%	2%	0%	121,690
⑤精神及び行動の障害	76%	1%	76%	4%	2%	10%	3%	4%	0%	46,720
⑥神経系の疾患	81%	2%	79%	4%	1%	8%	2%	2%	1%	45,948
⑦眼及び付属器の疾患	90%	2%	88%	2%	1%	3%	2%	2%	0%	102,621
⑧耳及び乳様突起の疾患	88%	2%	86%	4%	1%	4%	1%	2%	0%	16,954
⑨循環器系の疾患	89%	1%	88%	3%	1%	4%	1%	1%	0%	233,616
⑩呼吸器系の疾患	86%	1%	85%	3%	1%	6%	1%	2%	0%	51,151
⑪消化器系の疾患	84%	3%	81%	3%	1%	7%	2%	2%	0%	54,981
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	75%	2%	73%	11%	3%	6%	2%	3%	0%	47,807
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	85%	1%	84%	4%	1%	6%	2%	2%	0%	138,934
⑭腎尿路生殖器系の疾患	87%	6%	82%	4%	1%	4%	2%	2%	0%	51,963
⑮妊娠、分娩及び産じょく	64%	0%	64%	22%	1%	6%	3%	3%	0%	419
⑯周産期に発生した病態	42%	2%	39%	11%	0%	8%	34%	3%	2%	185
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	58%	5%	53%	14%	1%	4%	15%	6%	2%	1,821
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	84%	2%	82%	4%	1%	3%	3%	4%	0%	20,289
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	85%	4%	80%	4%	1%	5%	1%	2%	1%	30,636
総計	85%	2%	83%	4%	1%	5%	2%	2%	0%	1,014,677

参照：国保レセプトデータ及び後期高齢者レセプトデータ（2022年度）
青着色：明石市の領域別市内完結率のうち、総計の市内完結率よりも少ない箇所 緑着色：10%以上流出

3. 明石市における患者の疾病動向・受療動向調査

(1) 患者流出状況調査

明石市のレセプトデータからみた入院患者について、市内完結率は74%となっている。
流出状況として、神戸市西区へは精神系・筋骨格系・周産期系、神戸市中央区へは周産期系・先天奇形が流出傾向にある。

■国保レセプト・後期高齢者レセプトからみる入院患者流出状況（明石市）※レセプト件数をもとに算出

傷病別	明石市	明石市立 市民病院	その他	東播磨 医療圏	神戸市 垂水区	神戸市 西区	神戸市 中央区	兵庫県内 その他	県外	総計 【件数】
①感染症及び寄生虫症	75%	14%	60%	7%	2%	9%	3%	4%	1%	554
②新生物	83%	14%	69%	5%	0%	1%	6%	3%	1%	4,282
③血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	83%	19%	64%	3%	1%	2%	4%	7%	0%	212
④内分泌、栄養及び代謝疾患	84%	9%	75%	4%	1%	4%	3%	2%	1%	1,412
⑤精神及び行動の障害	45%	0%	44%	8%	0%	34%	0%	11%	2%	3,686
⑥神経系の疾患	66%	2%	65%	5%	1%	10%	1%	14%	3%	2,840
⑦眼及び付属器の疾患	79%	16%	63%	2%	0%	4%	9%	6%	1%	763
⑧耳及び乳様突起の疾患	76%	40%	36%	4%	5%	4%	3%	6%	3%	80
⑨循環器系の疾患	82%	7%	75%	4%	1%	4%	3%	4%	1%	7,028
⑩呼吸器系の疾患	76%	11%	65%	3%	4%	10%	3%	4%	1%	2,330
⑪消化器系の疾患	84%	16%	68%	4%	2%	4%	3%	3%	1%	2,700
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	67%	7%	59%	13%	1%	5%	6%	8%	0%	529
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	63%	5%	58%	6%	1%	17%	6%	6%	2%	2,650
⑭腎尿路生殖器系の疾患	81%	16%	66%	3%	2%	5%	3%	4%	1%	2,103
⑮妊娠、分娩及び産じょく	76%	0%	76%	6%	1%	5%	6%	3%	2%	110
⑯周産期に発生した病態	63%	4%	58%	2%	0%	10%	17%	6%	2%	48
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	33%	12%	21%	9%	0%	2%	29%	26%	2%	58
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	69%	3%	66%	8%	1%	8%	1%	8%	4%	647
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	79%	12%	68%	5%	3%	5%	2%	4%	1%	4,476
総計	74%	9%	65%	5%	1%	9%	3%	6%	1%	36,508

参照：国保レセプトデータ及び後期高齢者レセプトデータ（2022年度）
青着色：明石市の領域別市内完結率のうち、総計の市内完結率よりも少ない箇所 緑着色：10%以上流出 【レセプト】巻末用語集参照

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

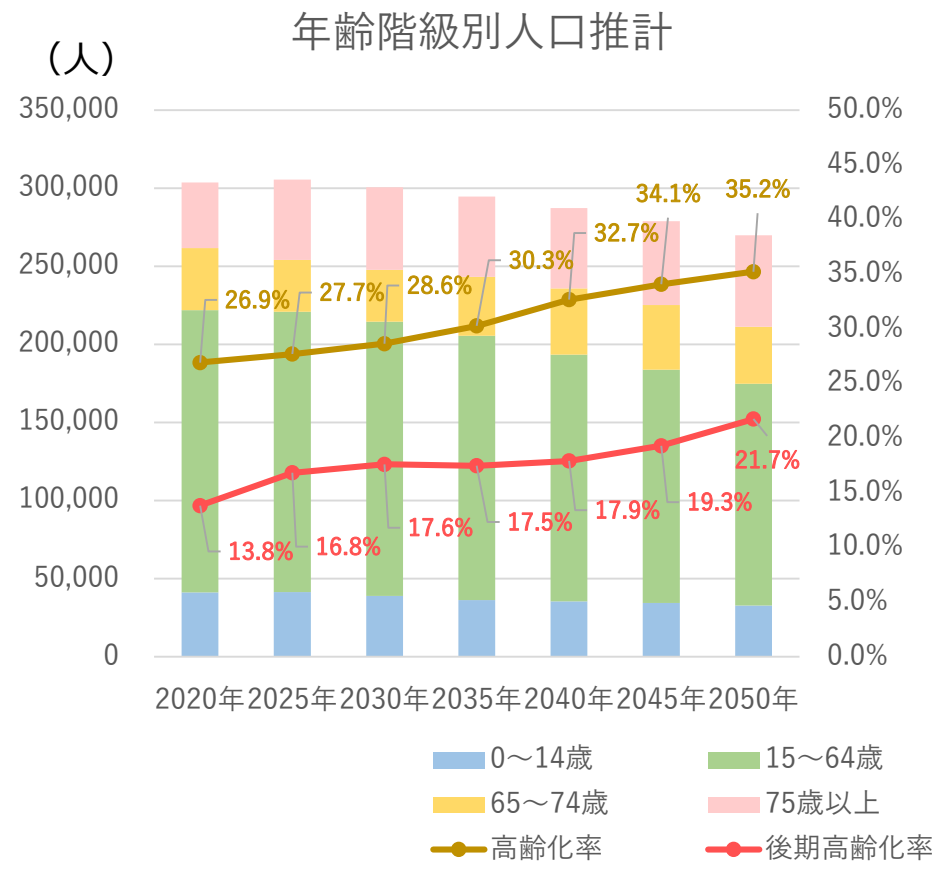
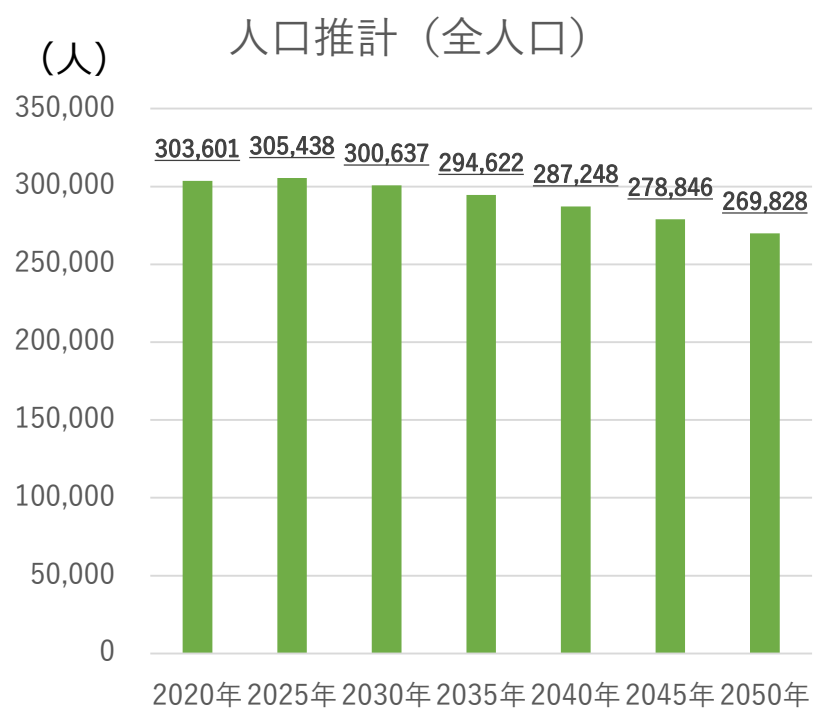
4. 明石市における患者の将来医療需要推計

4. 明石市における患者の将来医療需要推計

(1) 人口推計

明石市の総人口は2025年をピークとし、減少傾向となる見込み。
高齢化率・後期高齢化率ともに2020年から2050年の間に約8%増加する。

■人口推計（明石市）



参照：男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）

4. 明石市における患者の将来医療需要推計

(2) 将来外来患者推計

明石市の外来患者数は2025年まで増加し、その後減少傾向に転じる。
傷病別にみると、神経系・循環器系は少なくとも2035年までは増加傾向にあり、精神系・呼吸器系・皮膚系・妊娠・周産期系・先天奇形は既に減少傾向にある。

■ ICD10疾患分類別 外来患者推計（明石市）
※増減率減少：青色網掛（95%、90%、85%以下を区切りに濃淡）
増加率増加：オレンジ網掛（105%、110%、115%以上を区切りに濃淡）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
①感染症及び寄生虫症	417	421	412	406	400	392	380	100%	101%	99%	97%	96%	94%	91%
②新生物	603	628	630	631	631	629	624	100%	104%	105%	105%	105%	104%	104%
③血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	53	53	52	52	50	49	48	100%	101%	100%	98%	95%	93%	91%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	1,057	1,100	1,106	1,109	1,113	1,111	1,098	100%	104%	105%	105%	105%	105%	104%
⑤精神及び行動の障害	625	632	622	610	593	573	555	100%	101%	100%	98%	95%	92%	89%
⑥神経系の疾患	397	432	451	461	455	449	453	100%	109%	114%	116%	115%	113%	114%
⑦眼及び付属器の疾患	869	907	906	903	905	907	903	100%	104%	104%	104%	104%	104%	104%
⑧耳及び乳様突起の疾患	248	252	248	244	243	241	237	100%	102%	100%	99%	98%	97%	96%
⑨循環器系の疾患	2,141	2,333	2,424	2,480	2,488	2,495	2,523	100%	109%	113%	116%	116%	117%	118%
⑩呼吸器系の疾患	1,593	1,579	1,530	1,493	1,457	1,416	1,365	100%	99%	96%	94%	91%	89%	86%
⑪消化器系の疾患	3,106	3,164	3,124	3,085	3,056	3,012	2,938	100%	102%	101%	99%	98%	97%	95%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	743	745	732	721	705	686	665	100%	100%	98%	97%	95%	92%	89%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	2,118	2,261	2,280	2,265	2,274	2,306	2,324	100%	107%	108%	107%	107%	109%	110%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	776	802	801	796	789	781	770	100%	103%	103%	103%	102%	101%	99%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	37	35	33	32	31	30	28	100%	96%	90%	86%	85%	82%	76%
⑯周産期に発生した病態	8	7	7	7	7	7	6	100%	91%	87%	86%	84%	80%	75%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	37	36	34	34	33	32	30	100%	97%	94%	92%	89%	86%	82%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	191	197	197	196	193	190	188	100%	103%	103%	102%	101%	99%	98%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	722	741	737	726	711	696	682	100%	103%	102%	101%	98%	96%	94%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,711	1,750	1,733	1,720	1,709	1,690	1,660	100%	102%	101%	101%	100%	99%	97%
計	17,450	18,076	18,060	17,969	17,840	17,692	17,477	100%	104%	103%	103%	102%	101%	100%

4. 明石市における患者の将来医療需要推計

(3) 将来入院患者推計

明石市の入院患者数は2035年まで増加し、その後減少傾向に転じる見込み。
ほとんどの傷病で2020年よりも増加し、特に呼吸器系の増加率が高くなる見込み。
一方、妊娠・周産期・先天奇形は既に減少傾向にある。

■ ICD10疾患分類別 入院患者推計（明石市）

※増減率減少：青色網掛（95%、90%、85%以下を区切りに濃淡）
増加率増加：オレンジ網掛（105%、110%、115%以上を区切りに濃淡）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
①感染症及び寄生虫症	49	55	60	62	61	61	62.1	100%	113%	122%	127%	125%	124%	127%
②新生物	346	370	381	388	389	390	392.3	100%	107%	110%	112%	113%	113%	114%
③血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	14	16	17	18	18	18	18.3	100%	114%	123%	130%	128%	126%	129%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	81	91	99	104	103	101	103.2	100%	113%	122%	129%	127%	125%	128%
⑤精神及び行動の障害	597	624	635	640	634	621	610.7	100%	105%	106%	107%	106%	104%	102%
⑥神経系の疾患	307	348	373	387	382	378	388.8	100%	113%	122%	126%	124%	123%	127%
⑦眼及び付属器の疾患	28	30	30	30	31	31	31.9	100%	107%	108%	108%	110%	112%	114%
⑧耳及び乳様突起の疾患	6	7	7	7	7	7	6.9	100%	106%	109%	111%	111%	110%	109%
⑨循環器系の疾患	559	646	708	754	747	736	758.2	100%	116%	127%	135%	134%	132%	136%
⑩呼吸器系の疾患	246	291	324	353	347	340	353.4	100%	118%	132%	144%	141%	138%	144%
⑪消化器系の疾患	161	178	188	194	193	191	194.1	100%	111%	117%	120%	119%	118%	120%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	28	32	34	36	36	35	36.1	100%	114%	124%	130%	128%	126%	130%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	173	192	202	208	207	207	210.8	100%	111%	117%	120%	120%	119%	122%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	124	140	151	158	157	155	159.5	100%	113%	121%	127%	126%	125%	129%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	45	43	40	39	38	37	34	100%	96%	90%	86%	85%	82%	76%
⑯周産期に発生した病態	20	18	17	17	17	16	15	100%	90%	87%	86%	84%	80%	75%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	14	14	13	13	12	12	11.2	100%	96%	92%	90%	87%	83%	79%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	35	40	45	48	47	46	47	100%	116%	129%	138%	136%	132%	137%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	334	382	415	436	431	425	436.5	100%	115%	124%	131%	129%	127%	131%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	29	31	32	33	32	32	31.7	100%	107%	111%	113%	111%	110%	110%
計	3,194	3,549	3,771	3,926	3,889	3,839	3,902	100%	111%	118%	123%	122%	120%	122%

4. 明石市における患者の将来医療需要推計

(3) 将来入院患者推計

別指標でも明石市の入院実患者は2035年まで増加し、その後減少傾向に転じる見込み。
疾病別では、神経系・眼科系・呼吸器系・循環器系・腎尿路系・血液系・外傷系・その他で2035年まで増加する見込み。
一方、女性生殖器系・新生児系・小児系は既に減少傾向にある。

■ MDC疾患分類別 入院実患者推計（明石市）

※増減率減少：青色網掛け（95%、90%、85%以下を区切りに濃淡）
増加率増加：オレンジ網掛け（105%、110%、115%以上を区切りに濃淡）

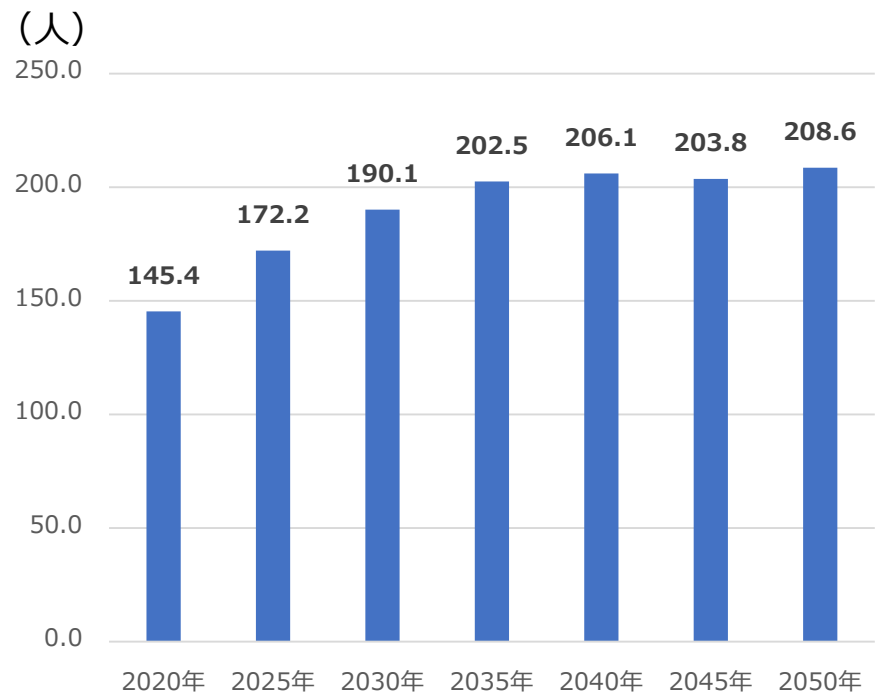
傷病名	推定実患者数 (件)							2020年からの増減率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
①神経系	1,447	1,532	1,592	1,610	1,584	1,565	1,564	100%	106%	110%	111%	109%	108%	108%
②眼科系	1,132	1,200	1,249	1,282	1,276	1,265	1,261	100%	106%	110%	113%	113%	112%	111%
③耳鼻咽喉科系	1,004	1,001	986	977	959	933	901	100%	100%	98%	97%	96%	93%	90%
④呼吸器系	2,783	2,933	3,075	3,122	3,069	3,033	3,040	100%	105%	110%	112%	110%	109%	109%
⑤循環器系	2,578	2,768	2,919	2,983	2,950	2,928	2,947	100%	107%	113%	116%	114%	114%	114%
⑥消化器系	5,462	5,706	5,866	5,959	5,904	5,829	5,780	100%	104%	107%	109%	108%	107%	106%
⑦筋骨格系	1,135	1,172	1,189	1,200	1,189	1,169	1,150	100%	103%	105%	106%	105%	103%	101%
⑧皮膚系	426	439	448	446	436	428	423	100%	103%	105%	105%	102%	100%	99%
⑨乳房系	352	355	348	343	337	328	317	100%	101%	99%	97%	96%	93%	90%
⑩内分泌系	681	707	720	718	705	692	684	100%	104%	106%	105%	104%	102%	100%
⑪腎尿路系	1,913	2,020	2,101	2,144	2,123	2,101	2,097	100%	106%	110%	112%	111%	110%	110%
⑫女性生殖器系	1,192	1,169	1,124	1,089	1,062	1,019	971	100%	98%	94%	91%	89%	86%	81%
⑬血液系	598	630	652	664	657	650	647	100%	105%	109%	111%	110%	109%	108%
⑭新生児系	541	498	481	472	457	438	411	100%	92%	89%	87%	84%	81%	76%
⑮小児系	107	99	95	93	90	86	81	100%	92%	88%	87%	84%	80%	75%
⑯外傷系	1,525	1,633	1,713	1,718	1,671	1,648	1,656	100%	107%	112%	113%	110%	108%	109%
⑰精神系	40	40	39	39	37	36	35	100%	100%	99%	97%	95%	92%	89%
⑱その他	368	387	401	405	398	393	392	100%	105%	109%	110%	108%	107%	107%
合計	23,284	24,288	24,998	25,264	24,906	24,541	24,356	100%	104%	107%	109%	107%	105%	105%

4. 明石市における患者の将来医療需要推計

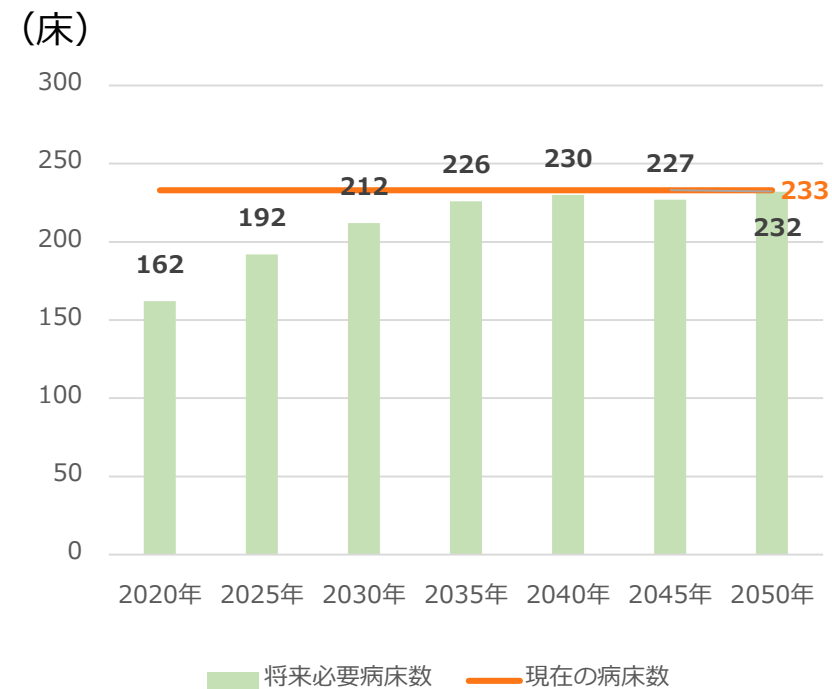
(4) 将来入院患者推計（地域包括ケア病棟）

地域包括ケア病棟における入院患者は、少なくとも2040年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。
現在、明石市内にて整備されている病床数は、将来必要となる病床数を上回っている。

■ 1日あたり入院患者推計（明石市）



■ 将来必要病床数推計（明石市）



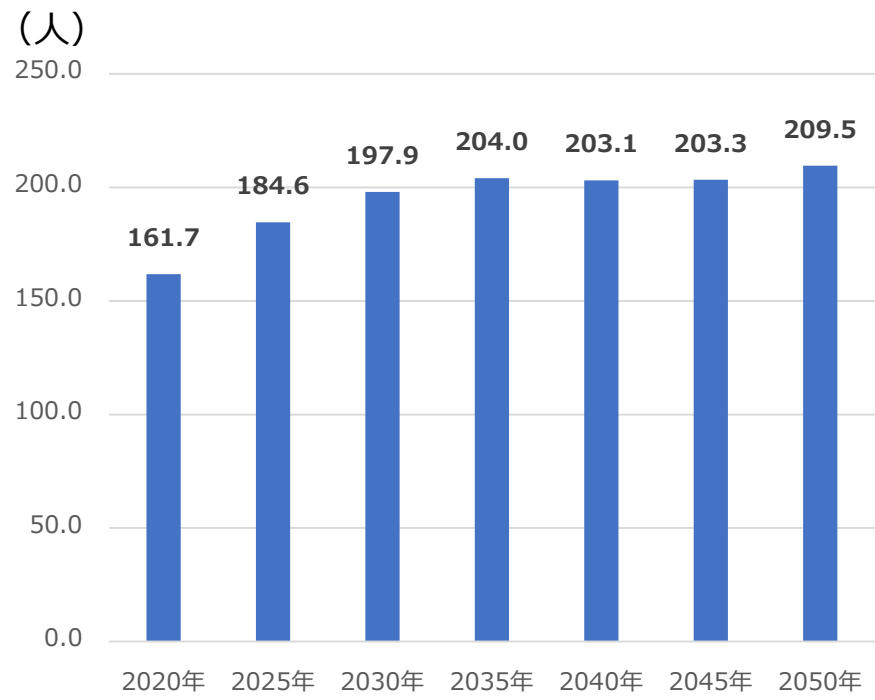
入院患者数 : NDBオープンデータより、男女5歳階級別の各入院料の算定件数を取りまとめ、受療率を設定。
その値に明石市の人口推計値を掛け合わせ算出。
将来必要病床数 : 上記入院患者数を病床稼働率(90% ※1)で割り戻し算出。
※1 厚生労働省が地域医療構想上機能別の病床数を算出する上で、設定している病床稼働率
現在の病床数 : 明石市内の現在の病床数。(令和3年度病床機能報告)

4. 明石市における患者の将来医療需要推計

(5) 将来入院患者推計（回復期リハビリテーション病棟）

回復期リハビリテーション病棟における入院患者は、少なくとも2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。
現在、明石市内にて整備されている病床数は、将来必要となる病床数を上回っている。

■ 1日あたり入院患者推計（明石市）



■ 将来必要病床数推計（明石市）



入院患者数 : NDBオープンデータより、男女5歳階級別の各入院料の算定件数を取りまとめ、受療率を設定。
その値に明石市の人口推計値を掛け合わせ算出。
将来必要病床数 : 上記入院患者数を病床稼働率(90% ※1)で割り戻し算出。
※1 厚生労働省が地域医療構想上機能別の病床数を算出する上で、設定している病床稼働率
現在の病床数 : 明石市内の現在の病床数。(令和3年度病床機能報告)

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 ア. 救急医療

(1) 救急医療の実施状況

明石市内において、三次救急に対応している医療施設はない。
二次救急体制としては、市内の医療機関12施設で輪番体制を実施している。
一次救急体制としては、夜間休日応急診療所及び在宅当番医制をもって対応している。

■ 明石市における救急医療体制

R5.4.1 現在

3次
(重篤)

救急救命センター

県立加古川医療センター（明石市外）
（東播磨圏域・北播磨圏域）

2次
(重症)

病院群輪番制（市内12医療機関による輪番制）

明石市立市民病院 明舞中央病院 あさぎり病院
石井病院 あさひ病院 ふくやま病院 明石医療
センター 大久保病院 江井島病院 野木病院
明石回生病院 大西脳神経外科病院

※あさぎり病院以外は救急告示病院

救急告示病院

市内11病院

1次
(軽症)

夜間休日応急診療所

内科：毎日21時～翌6時
日曜・祝日・年末年始9時～18時

ユニバーサル歯科診療所

歯科：日曜・祝日・年末年始10時～14時

在宅当番医制

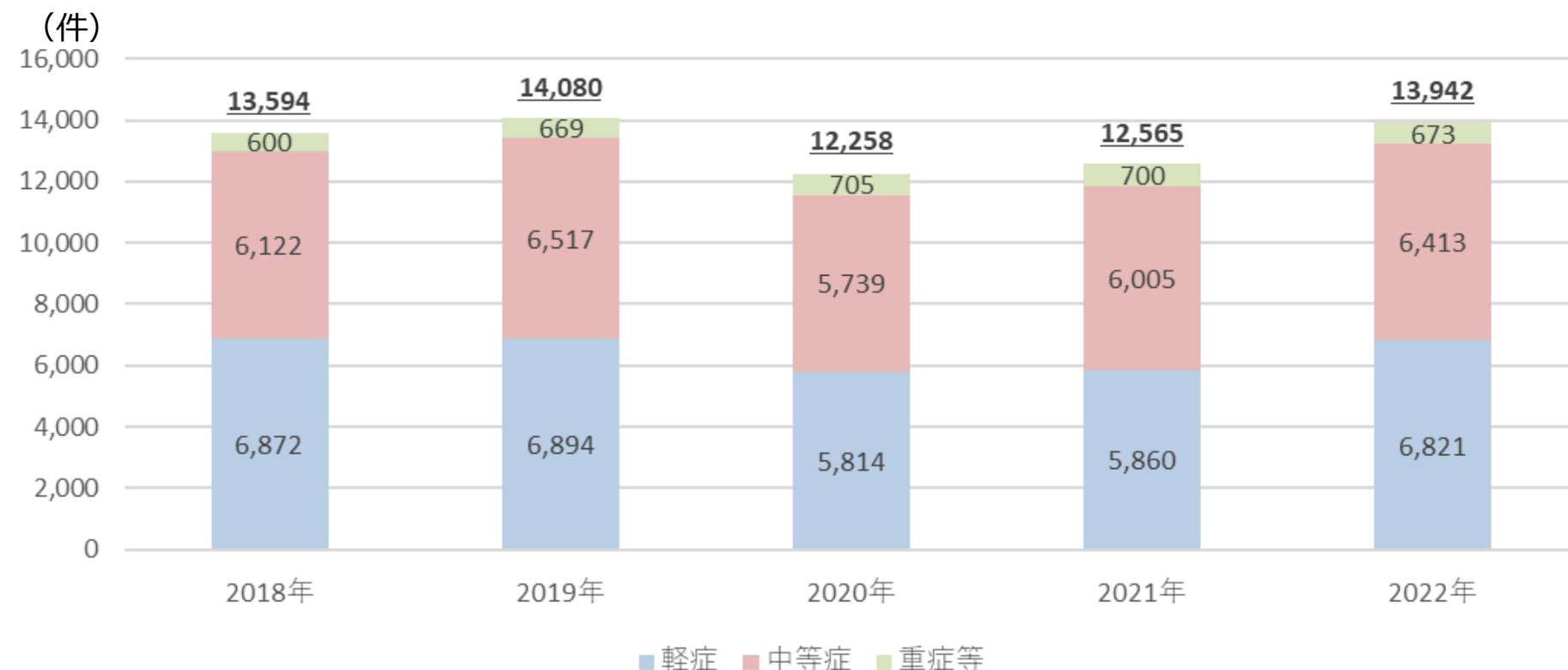
市内医療機関等による輪番制
眼科：日曜・祝日・年末年始
外科系：ゴールデンウィーク及び年末年始
内科：年末年始

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 ア. 救急医療

(1) 救急医療の実施状況

明石市内における救急搬送件数は、2018年～2022年の5年間に於いて2019年が最も多く、約14,000件の救急搬送があった。その後、コロナ禍となる2020年、2021年においては救急搬送件数は12,000件台に減少。2022年においては2019年度と同程度まで件数が増加した。

■ 明石市における救急搬送件数の推移



参照：明石市消防局データ（2018～2022年）

傷病区分定義

軽症：傷病程度が入院加療を必要としないもの

中等症：傷病程度が重症または軽症以外のもの

重症等：重症（傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの）と死亡（初診時において死亡が確認されたもの）の合計

(1) 救急医療の実施状況

救急搬送における市内完結率は、85%程度で推移している。
循環器系（脳疾患・心疾患とも）、消化器系、打撲・血腫、挫傷に関しては件数が500件を超え、市内完結率も高い。
一方、非開放性骨折に関しては件数が500件を超えているが、平均よりも市内完結率が低い。

■ 救急搬送の市内完結率の推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
軽症	87%	86%	88%	87%	87%
中等症	82%	84%	85%	84%	81%
重症等	83%	84%	84%	81%	81%
総計	84%	85%	86%	85%	84%

参照：明石市消防局データ（2018～2022年）

■ 傷病分類別市内完結率（2022年）

傷病名	(件)			
	総計	市内	市外	市内完結率
循環器系 脳疾患	800	689	111	86%
循環器系 心疾患	1,212	1,091	121	90%
消化器系	795	716	79	90%
呼吸器系	673	543	130	81%
精神系	245	220	25	90%
感覚系	521	428	93	82%
泌尿器系	374	309	65	83%
新生物	215	176	39	82%
その他	2,353	1,927	426	82%
症状、徴候及び 診断名不明確の状態	3,559	2,944	615	83%
離脱	3	1	2	33%
打撲・血腫	1,372	1,180	192	86%
開放性骨折	20	12	8	60%
非開放性骨折	810	647	163	80%
脱臼・捻挫	120	92	28	77%
神経・頸椎(髄)損傷	24	18	6	75%
開放創	29	22	7	76%
挫創	533	464	69	87%
刺創	19	15	4	79%
切創	53	43	10	81%
剥皮創	21	20	1	95%
内部損傷	20	10	10	50%
異物・誤飲	43	30	13	70%
溺水	6	6		100%
熱傷・火傷	30	22	8	73%
窒息	13	12	1	92%
中毒	47	43	4	91%
多発外傷	16	5	11	31%
その他 (医療機関以外含む)	12	10	2	83%
診断不明等	4	4		100%
総計	13,942	11,699	2,243	84%

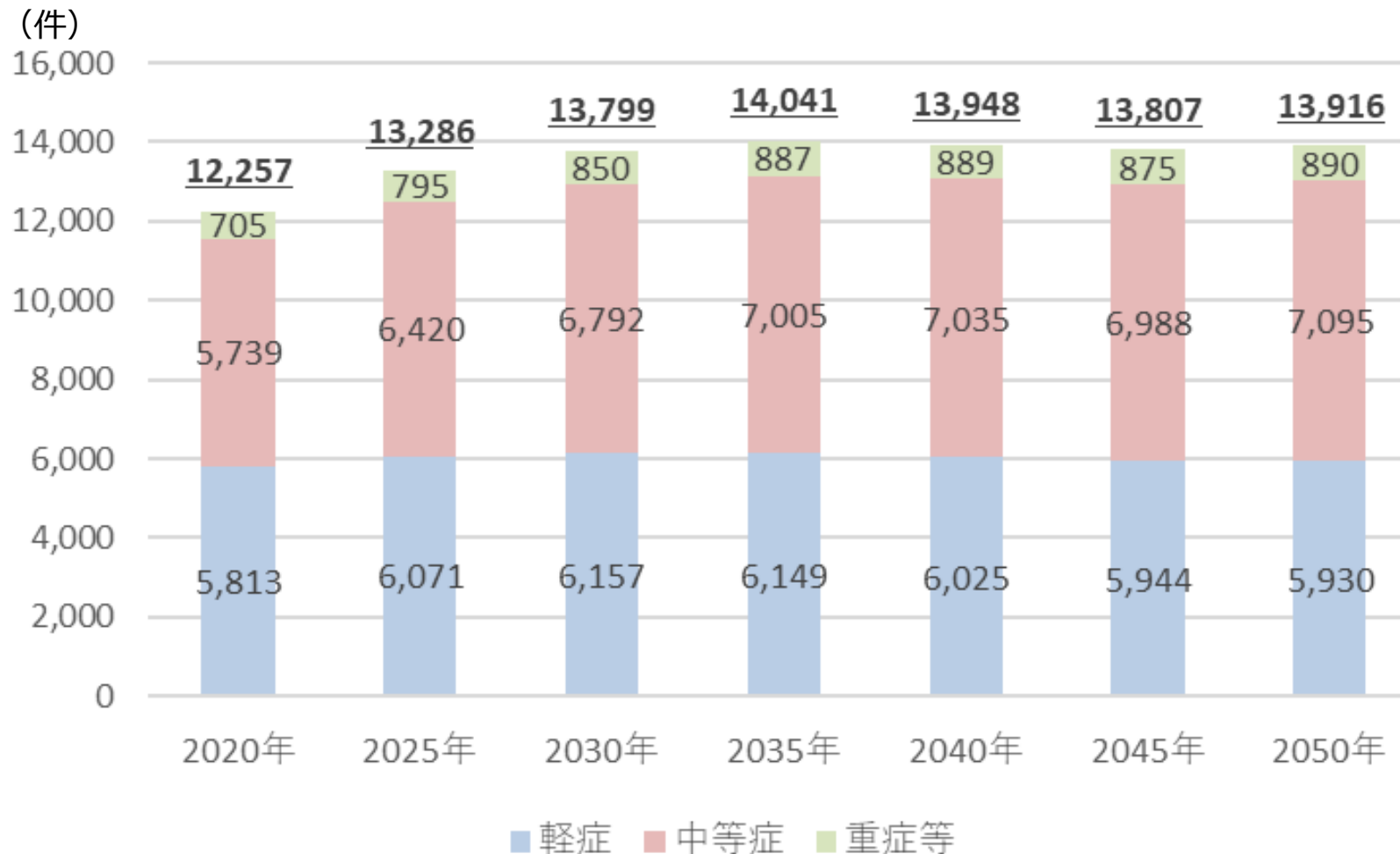
市内完結率：赤色網掛（85%、90%、95%以上を区切りに濃淡）
青色網掛（80%、75%、70%以下を区切りに濃淡）

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 ア. 救急医療

(2) 救急搬送件数の将来推計

明石市の救急搬送件数は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。

■ 明石市における救急搬送患者の将来推計



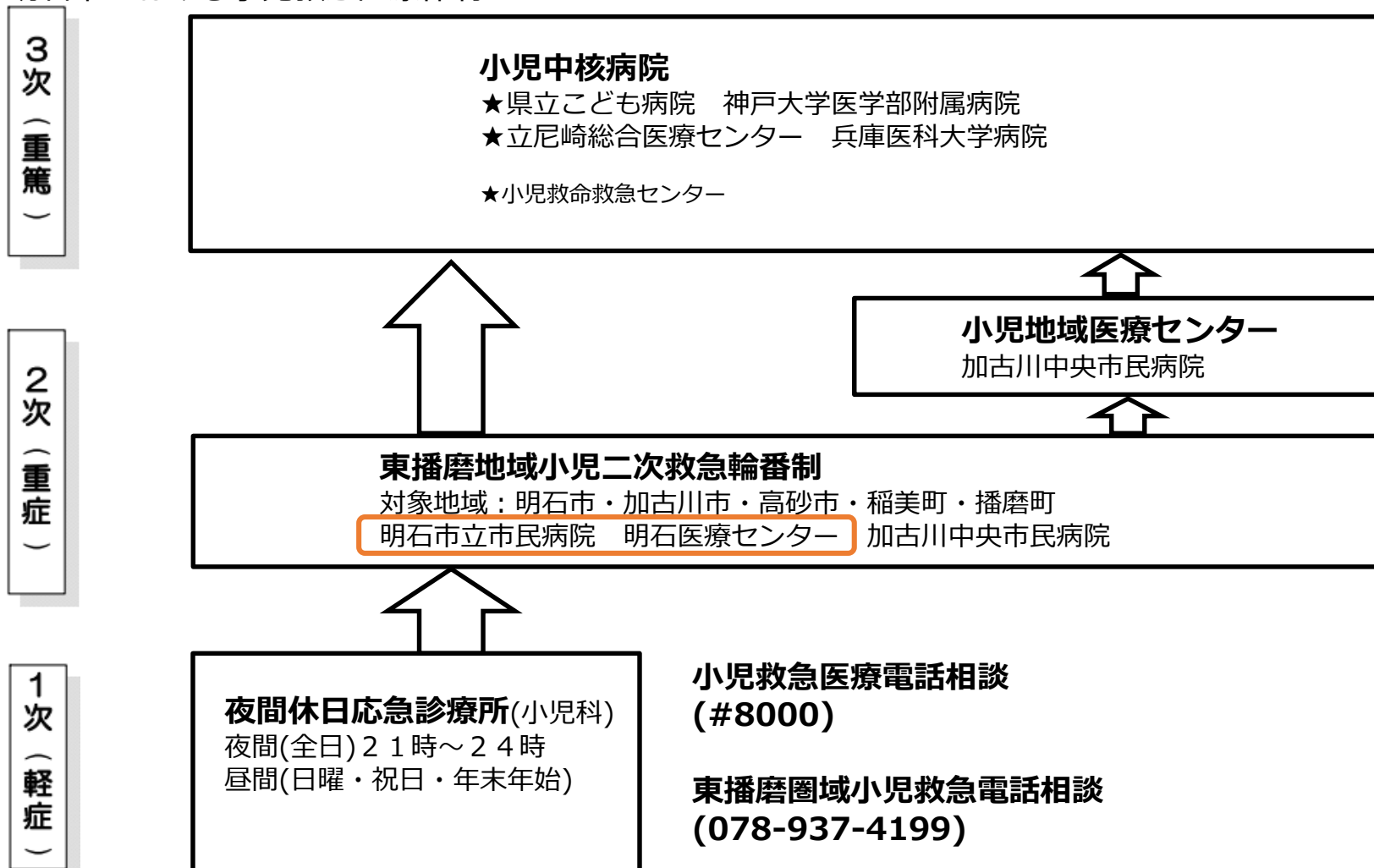
(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	市内に三次救急医療施設はない。 医療圏内において県立加古川医療センターが三次救急に対応。
②	供給面	二次救急体制としては市内12の医療機関で、病院群輪番制で対応。
③	供給面	一次救急としては夜間休日応急診療所及び在宅当番医制をもって対応。
④	供給面	救急搬送件数は近年では2019年が最も多く、約14,000件の救急搬送。市内完結率については、85%程度で推移。
⑤	将来需要	明石市の救急搬送件数は2035年まで増加し、その後横ばいに推移する見込み。

(1) 小児救急の実施状況

明石市における小児救急の受入体制として、明石市立市民病院及び明石医療センターの2病院が東播磨臨海地域小児二次救急輪番制の対応病院として、二次救急の受入を実施している。
また一次救急については、夜間休日応急診療所に対応している。

■ 明石市における小児救急医療体制



5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 イ. 小児救急を含む小児医療

(1) 小児救急の実施状況

明石市における診療科目ごとの救急搬送状況については、眼科、耳鼻科、小児科、重症外傷の市内完結率が50%を下回っている。

■ 明石市における診療科目別搬送人員（2022年）

(件)

診療科目	延べ搬送人員	うち市内搬送人員	うち市外搬送人員	市内完結率
内科	4,228	3,794	434	89.7%
外科	534	456	78	85.4%
整形外科	2,081	1,729	352	83.1%
循環器科	1,253	1,148	105	91.6%
呼吸器科	353	303	50	85.8%
消化器科	1,018	938	80	92.1%
脳外・脳内	2,738	2,393	345	87.4%
泌尿器科	309	248	61	80.3%
眼科	23	8	15	34.8%
耳鼻科	73	34	39	46.6%
小児科	1,023	476	547	46.5%
産婦人科	140	82	58	58.6%
精神科	77	68	9	88.3%
歯科	7	1	6	14.3%
重症外傷	49	1	48	2.0%
特殊科	36	20	16	55.6%
合計	13,942	11,699	2,243	83.9%

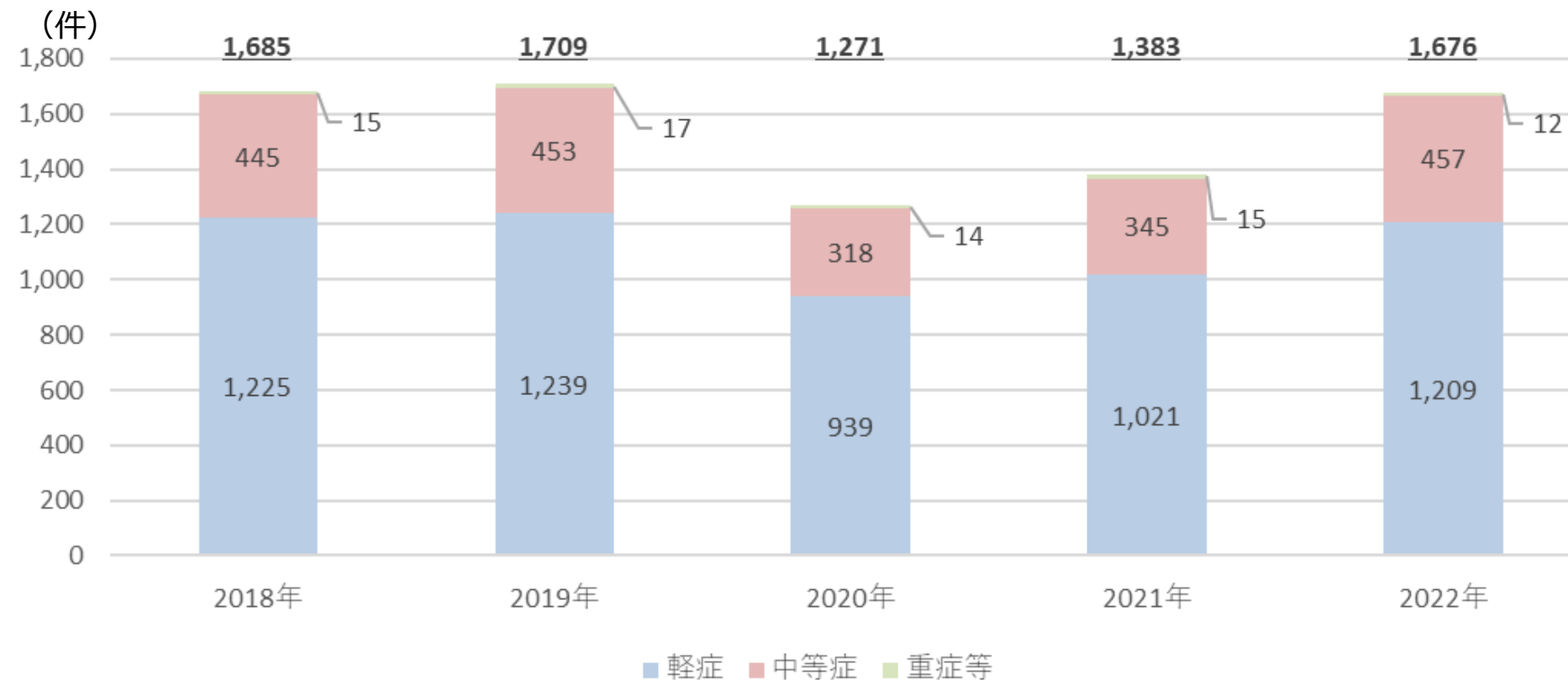
参照：明石市消防局データ
小児科は15歳未満の患者を対象とする

(1) 小児救急の実施状況

※小児患者：20歳未満の患者と設定（日本小児学会）

小児救急搬送件数は近年では2019年が最も多く、約1,700件の救急搬送があった。
その後、2020年、2021年においては救急搬送件数は1,200～1,300件台にまで減少している。
2022年においては、2019年と同程度まで件数が増加した。

■ 明石市における小児救急搬送件数の推移



参照：明石市消防局データ（2018～2022年）

傷病区分定義

軽症：傷病程度が入院加療を必要としないもの
 中等症：傷病程度が重症または軽症以外のもの
 重症等：重症（傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの）と死亡（初診時において死亡が確認されたもの）の合計

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析

イ. 小児救急を含む小児医療

(1) 小児救急の実施状況

※小児患者：20歳未満の患者と設定（日本小児学会）

小児救急搬送の市内完結率は、60%程度で推移している。これは全体の救急完結率（85%程度）と比較すると低い。
市外搬送の約3分の2は加古川中央市民病院で受け入れている。

■小児救急搬送の市内完結率の推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
軽症	69%	64%	68%	65%	69%
中等症	51%	46%	52%	44%	41%
重症等	33%	35%	57%	24%	20%
総計	64%	59%	64%	60%	61%

■小児救急搬送の市外への搬送状況

(件)						
病院名	所在地	軽症	中等症	重症等	合計	割合
加古川中央市民病院	加古川市	1,320	606	13	1,939	65.0%
県立こども病院	神戸市中央区	110	287	16	413	13.8%
西神戸医療センター	神戸市西区	197	78	1	276	9.3%
神戸徳洲会病院	神戸市垂水区	42	11		53	1.8%
中谷整形外科	加古川市	35	11		46	1.5%
神戸掖済会病院	神戸市垂水区	41	3		44	1.5%
神戸大学医学部附属病院	神戸市中央区	22	20	1	43	1.4%
順心病院	加古川市	22	1		23	0.8%
神戸市立医療センター中央市民病院	神戸市中央区	6	14	1	21	0.7%
県立加古川医療センター	加古川市	2	9	8	19	0.6%
順心神戸病院	神戸市垂水区	15	1		16	0.5%
兵庫県災害医療センター	神戸市中央区	4	4	3	11	0.4%
その他		42	32	5	79	2.6%
総計		1,858	1,077	48	2,983	—

■傷病分類別市内完結率（2022年）_(件)

傷病名	総計	市内	市外	市内完結率
循環器系 脳疾患	6	1	5	17%
循環器系 心疾患	6	3	3	50%
消化器系	21	14	7	67%
呼吸器系	108	45	63	42%
精神系	23	20	3	87%
感覚系	73	37	36	51%
泌尿器系	18	10	8	56%
新生物	1		1	0%
その他	360	233	127	65%
症状、徴候及び 診断名不明確の状態	618	309	309	50%
打撲・血腫	215	174	41	81%
開放性骨折	1	1		100%
非開放性骨折	33	15	18	45%
脱臼・捻挫	17	14	3	82%
神経・頸椎(髄)損傷	1	1		100%
開放創	6	5	1	83%
挫創	105	97	8	92%
刺創	4	4		100%
切創	7	7		100%
剥皮創	1	1		100%
内部損傷	4		4	0%
異物・誤飲	19	7	12	37%
熱傷・火傷	20	16	4	80%
中毒	3	1	2	33%
多発外傷	2		2	0%
その他 (医療機関以外含む)	3	3		100%
診断不明等	1	1		100%
総計	1,676	1,019	657	61%

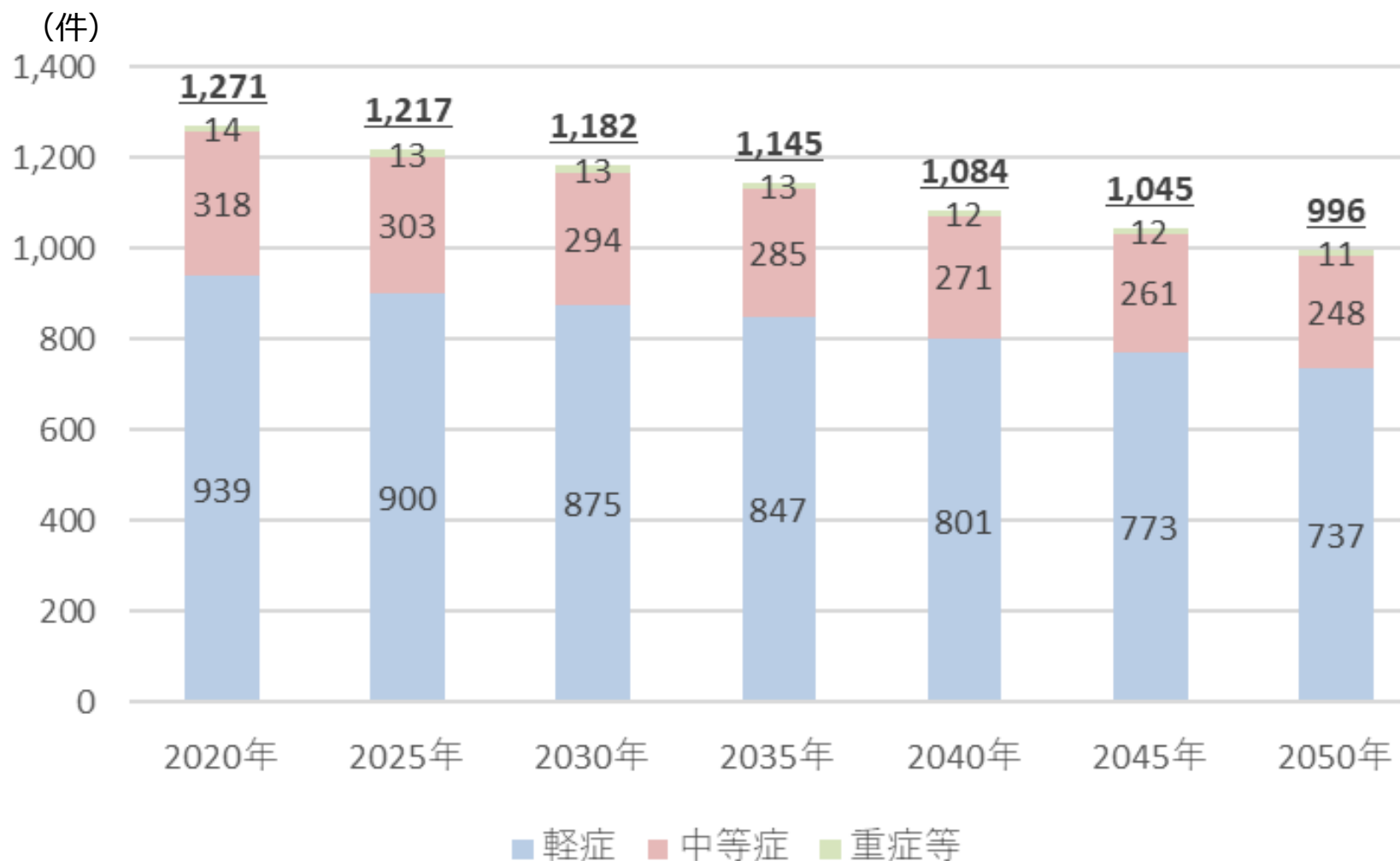
市内完結率：赤色網掛（65%、70%、75%以上を区切りに濃淡）
青色網掛（60%、55%、50%以下を区切りに濃淡）

参照：明石市消防局データ（2018～2022年）

(2) 小児救急搬送件数の将来推計

明石市の小児救急搬送件数は今後、減少傾向となる見込み。

■ 明石市における小児救急搬送患者の将来推計



5. 明石市における政策的医療の需給状況分析

イ. 小児救急を含む小児医療

(3) 小児医療の提供体制

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市内の医療機関では、新生児・小児疾患分野で対応している疾患が少ない。近隣では加古川中央市民病院での対応件数が多い。

■MDC⑭新生児系疾患、MDC⑮小児系疾患の受入状況（東播磨圏域）

(件)																					
所在地	施設名	140010		140070		140080		140190		140210		140280		14029x		14031x		140420		140430	
		妊娠期間短縮、低 出産体重に関連する 障害		頭蓋、顔面骨の先 天異常		脳、脊髄の先天異 常		小耳症・耳介異 常・外耳道閉鎖		先天性耳瘻孔、副 耳		気道の先天異常		動脈管開存症、心 房中隔欠損症		先天性心疾患（動脈 管開存症、心房中隔 欠損症を除く。）		腸重積		腸管の先天異	
		手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有
明石市	明石市立市民病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明石市	社会医療法人 愛仁会 明石医療センター	166	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明石市	あさぎり病院	176	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
加古川市	加古川中央市民病院	579	30	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	34	14	-	10	-	-

参考）神戸市	兵庫県立こども病院	256	98	-	-	26	26	-	13	-	14	29	-	-	65	147	201	-	12	-	14
--------	-----------	-----	----	---	---	----	----	---	----	---	----	----	---	---	----	-----	-----	---	----	---	----

所在地	施設名	14044x		140490		140510		14056x		140580		140590		140620		150040		150070			
		直腸肛門奇形、ヒルシュスプルング病		手足先天性疾患		股関節先天性疾患、大腿骨先天性疾患		先天性水腎症、先天性上部尿路疾患		先天性的下部尿路疾患		停留精巣		その他の先天異常		熱性けいれん		川崎病			
		手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有		
明石市	明石市立市民病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-		
明石市	社会医療法人 愛仁会 明石医療センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-		
明石市	あさぎり病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
加古川市		加古川中央市民病院		-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	20	-	-	115	-	45	-	
考)	神戸市	兵庫県立こども病院		13	-	13	65	-	13	-	17	-	71	-	54	-	10	92	-	52	-

参照：「DPC導入の影響評価に関する調査：（8）疾患別手術別集計、（10）疾患別手術有無別処置2有無別集計」 厚生労働省 2021年
※公開データの特性上、件数が10件未満であるものについては「-」と表記している。

(4) 小児患者の将来患者推計

20歳未満の将来患者数について、入院患者・外来患者ともに現在から既に減少傾向にある。

■ICD10疾患分類別 外来患者推計（明石市） 20歳未満 (件)

傷病名	推定患者数							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
計	2,167	2,117	2,015	1,929	1,849	1,787	1,702	100%	98%	93%	89%	85%	82%	79%
計（精神及び行動の傷害のぞく）	2,116	2,066	1,965	1,882	1,805	1,744	1,661	100%	98%	93%	89%	85%	82%	79%

■ICD10疾患分類別 入院患者推計（明石市） 20歳未満 (件)

傷病名	推定患者数							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
計	90	86	83	81	77	74	70	100%	95%	93%	90%	85%	82%	78%
計（精神及び行動の傷害のぞく）	84	79	77	74	71	68	65	100%	95%	92%	89%	85%	82%	78%

■MDC疾患分類別 入院患者推計（明石市） 20歳未満 (件)

傷病名	推定実患者数							2020年からの増減率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
合計	2,598	2,458	2,378	2,303	2,205	2,121	2,010	100%	95%	92%	89%	85%	82%	77%

※日本小児科学会が小児科の対象年齢を20歳までと提言しているため、20歳未満で患者推計を実施。

参照【ICD10】：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
【MDC】：退院患者調査 2019年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
〔ICD10〕〔MDC〕巻末用語集参照

(5) まとめ

■小児救急

No.	領域	内容
①	供給面	明石市立市民病院及び明石医療センターの2病院が東播磨臨海地域小児二次救急輪番制の対応病院として、二次救急の受け入れを実施。
②	供給面	一次救急については、夜間休日応急診療所で対応。
③	供給面	小児科における救急搬送件数は、2022年で市内完結率は50%を下回っている。
④	将来需要	明石市の小児救急搬送件数は今後、減少傾向となる見込み。

■小児医療

No.	領域	内容
①	供給面	明石市において、新生児・小児疾患を受け入れている施設は少なく、先天性疾患等の患者に関しては、加古川中央市民病院が受け入れ。
②	将来需要	20歳未満の将来患者数について、入院患者・外来患者ともに現在から既に減少傾向にある。

(1) 災害拠点病院

東播磨圏域においては、県立加古川医療センターと加古川中央市民病院が「災害拠点病院」に指定されている。
明石市では、明石市立市民病院と明石医療センターを「災害対応病院」に指定している。

■兵庫県における災害拠点病院一覧

災害医療圏域	所在地	医療機関名	災害拠点病院
神戸	神戸市中央区	兵庫県災害医療センター	基幹
	神戸市中央区	神戸赤十字病院	基幹
	神戸市中央区	神戸大学医学部附属病院	地域
	神戸市中央区	神戸市立医療センター中央市民病院	地域
阪神南	尼崎市	県立尼崎総合医療センター	地域
	西宮市	兵庫医科大学病院	地域
	西宮市	県立西宮病院	地域
阪神北	宝塚市	宝塚市立病院	地域
東播磨	加古川市	県立加古川医療センター	地域
	加古川市	地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院	地域
北播磨	西脇市	西脇市立西脇病院	地域
中播磨	姫路市	県立はりま姫路総合医療センター	地域
	姫路市	姫路赤十字病院	地域
	姫路市	独立行政法人国立病院機構姫路医療センター	地域
西播磨	赤穂市	赤穂市民病院	地域
但馬	豊岡市	公立豊岡病院	地域
	養父市	公立八鹿病院	地域
丹波	丹波市	県立丹波医療センター	地域
淡路	洲本市	県立淡路医療センター	地域

災害対応病院(明石市指定)
明石市立市民病院
明石医療センター

【役割】

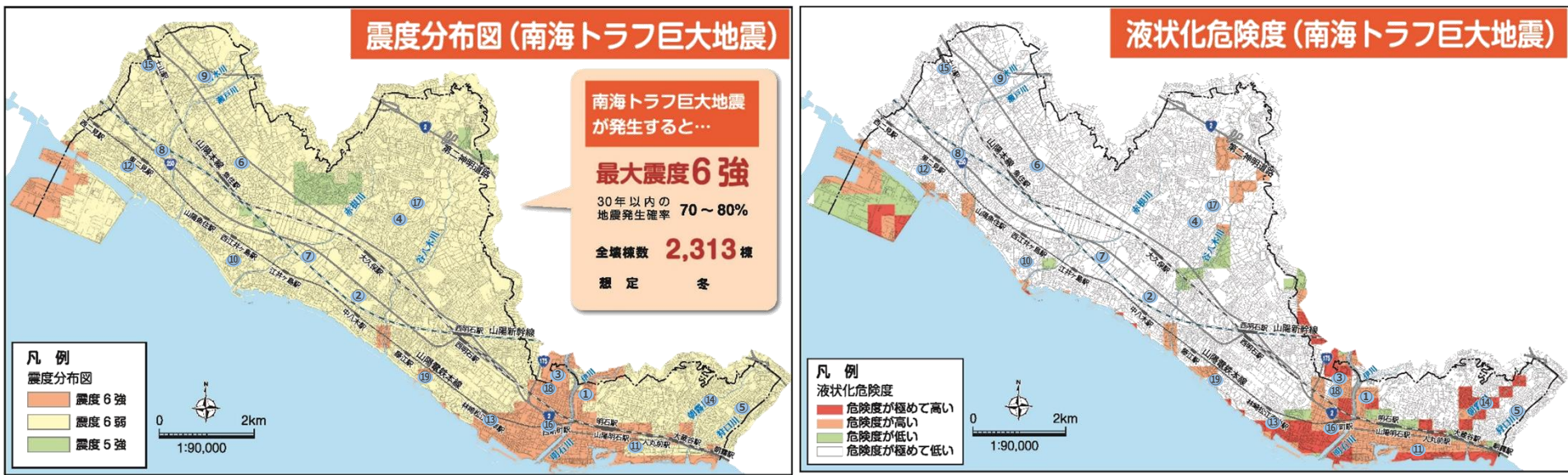
- ・被災地内において対応できない傷病者の受け入れ
- ・市が設置する救護所に医薬品、衛生資材等の提供及び応急用資器材の貸出
- ・救護班を編成し、災害拠点病院・救護所等に派遣
- ・必要に応じて地域の医療機関に医薬品等の提供並びに応急用資器材の貸出
- ・災害拠点病院の機能が不十分な場合に、DMATや医療チームを受け入れ、地域における必要な医療救護活動を実施

(2) 南海トラフ地震による被害想定

南海トラフ地震が発生した場合に明石市においては、最大震度6強が予測されている。また、海辺に近いエリアにおいては、液状化の危険度が高いエリアもある。

南海トラフにおける負傷者数は約1,200～1,900人程度、うち、重症者数は140～200人と想定されている。

■ 南海トラフ巨大地震による震度・液状化分布図 参照：明石市ハザードマップ



■ 南海トラフ巨大地震による被害想定 参照：明石市地域防災計画

発生時刻	冬5時	夏12時	冬18時
死者数	137人	125人	198人
負傷者数	1,916人	1,224人	1,477人
重症者数（負傷者数の内数）	200人	140人	166人
避難者数（当日）	6,440人	6,261人	6,575人
帰宅困難者数	—	16,643人	11,588人

(2) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	東播磨圏域の災害拠点病院は、県立加古川医療センターと加古川中央市民病院である。明石市では市民病院と明石医療センターが災害対応病院に指定されている。
②	将来需要	南海トラフにおける負傷者数は約1,200～1,900人程度、うち重症者数は140～200人と想定。

(1) 周産期医療の提供体制

明石市内において、周産期医療に関する指定病院は2施設。明石医療センターは地域周産期母子医療センター、あさぎり病院は地域周産期病院として指定されている。

■ 兵庫県における周産期母子医療センター・地域周産期病院一覧

	周産期医療圏	所在地	病院名
総合母子医療センター	神戸・三田	神戸市中央区	県立こども病院
		神戸市中央区	神戸市立医療センター中央市民病院
		神戸市中央区	神戸大学医学部附属病院
	阪神	尼崎市	兵庫県立尼崎総合医療センター
		西宮市	兵庫医科大学病院
	播磨姫路	姫路市	姫路赤十字病院
地域周産期母子医療センター	神戸・三田	神戸市北区	済生会兵庫県病院
	阪神	西宮市	県立西宮病院
	播磨東	加古川市	加古川中央市民病院
		明石市	明石医療センター
	但馬	豊岡市	公立豊岡病院
	淡路	洲本市	県立淡路医療センター
	神戸・三田	神戸市東灘区	甲南医療センター
		神戸市中央区	パルモア病院
		神戸市中央区	母と子の上田病院
		神戸市北区	神戸アドベンチスト病院
		神戸市西区	なでしこレディースホスピタル
		神戸市長田区	神戸市立西市民病院
		神戸市須磨区	神戸医療センター
		神戸市西区	神戸市立西神戸医療センター
		三田市	三田市民病院

	周産期医療圏	所在地	病院名
地域周産期病院	阪神	尼崎市	関西労災病院
		西宮市	明和病院
		伊丹市	近畿中央病院
		伊丹市	市立伊丹病院
	播磨東	明石市	あさぎり病院
	播磨姫路	姫路市	姫路聖マリア病院
		姫路市	県立はりま姫路総合医療センター
		宍粟市	公立宍粟総合病院
	丹波	丹波市	県立丹波医療センター

参照：兵庫県保健医療計画
「周産期母子医療センター及び地域周産期病院の一覧」
(2022年11月1日時点)

(1) 周産期医療の提供体制

市内の分娩取り扱い施設における年間分娩件数は、明石市の出生数を上回っている。
明石医療センターのみNICU(新生児特定集中治療室)・GCU(新生児回復室)を保有している。

■ 明石市における施設別年間分娩件数

(2021年度)

施設名	分娩件数 (件)	NICU (床)	GCU (床)	医師数(人) (常勤換算)
あさぎり病院	930	—	—	7.0
明石医療センター	755	6	10	11.0
はまなレディースクリニック	436	—	—	1.0
アイビスマキクリニック	348	—	—	1.2
医療法人社団私立二見レディースクリニック	260	—	—	1.0
医療法人社団博愛産科婦人科	211	—	—	1.8
合計	2,940	6	10	23.0

参照
分娩件数・NICU・GCU：病床機能報告（2021年度）
医師数：各病院HP及び病床機能報告（2021年度）

※分娩件数の報告があったもののみ記載
※明石医療センターのみ常勤換算数不明のため、医師数（実数）を記載

参考

明石市の出生数（2021年）2,734人
※人口の動き（令和3年中の人口動態）

(1) 周産期医療の提供体制

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市では、周産期疾患を受け入れているのは明石医療センター及びあさぎり病院の2病院である。

■周産期系疾患の受入状況（東播磨圏域）

(件)

所在地	施設名	120130		120140		120150		120160		120165		120170		120182		120200	
		異所性妊娠（子宮外妊娠）		流産		妊娠早期の出血		妊娠高血圧症候群関連疾患		妊娠合併症等		早産、切迫早産		前置胎盤及び低置胎盤		妊娠中の糖尿病	
		手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有
明石市	明石市立市民病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明石市	明石医療センター	-	13	-	34	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-
明石市	あさぎり病院	-	-	-	-	-	-	-	-	31	-	18	-	-	-	62	-

加古川市	加古川中央市民病院	-	13	-	13	12	-	36	-	12	-	38	61	-	26	-	-
------	-----------	---	----	---	----	----	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---	---

所在地	施設名	120260		120270	
		分娩の異常		産褥期を中心とするその他の疾患	
		手術無	手術有	手術無	手術有
明石市	明石市立市民病院	-	-	-	-
明石市	明石医療センター	-	-	-	-
明石市	あさぎり病院	-	-	-	-

加古川市	加古川中央市民病院	-	66	-	10
------	-----------	---	----	---	----

参照：「D P C 導入の影響評価に関する調査：（10）疾患別手術有無別処置2有無別集計」 厚生労働省 2021年
※公開データの特性上、件数が10件未満であるものについては「-」と表記している。

(2) 周産期系疾患の将来患者推計

周産期系疾患の将来患者数について、外来患者・入院患者ともに現在から既に減少傾向にある。

■ ICD10疾患分類別

⑮妊娠、分娩及び産じょく、⑯周産期に発生した病態

外来患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
⑮妊娠、分娩及び産じょく	37	35	33	32	31	30	28	100%	96%	90%	86%	85%	82%	76%
⑯周産期に発生した病態	8	7	7	7	7	7	6	100%	91%	87%	86%	84%	80%	75%

■ ICD10疾患分類別

⑮妊娠、分娩及び産じょく、⑯周産期に発生した病態

入院患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
⑮妊娠、分娩及び産じょく	45	43	40	39	38	37	34	100%	96%	90%	86%	85%	82%	76%
⑯周産期に発生した病態	20	18	17	17	17	16	15	100%	90%	87%	86%	84%	80%	75%

■ MDC疾患分類別

周産期系

入院患者推計（明石市）

6桁コード	傷病名	推定実患者数 (件)							2020年からの増減率						
		2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
120130	異所性妊娠（子宮外妊娠）	16.1	15.4	14.6	14.1	13.8	13.1	12.3	100%	95%	91%	88%	86%	81%	77%
120140	流産	15.8	15.2	14.4	13.9	13.5	12.8	12.0	100%	96%	91%	88%	85%	81%	76%
120150	妊娠早期の出血	12.8	12.2	11.6	11.2	10.9	10.4	9.8	100%	96%	91%	88%	86%	81%	76%
120160	妊娠高血圧症候群関連疾患	18.3	17.5	16.6	16.1	15.6	14.9	14.0	100%	96%	91%	88%	85%	81%	76%
120165	妊娠合併症等	20.3	19.3	18.4	17.8	17.4	16.5	15.5	100%	95%	91%	88%	86%	82%	77%
120170	早産、切迫早産	64.8	61.8	58.7	57.0	55.5	52.8	49.6	100%	95%	91%	88%	86%	82%	77%
120182	前置胎盤及び低置胎盤	7.9	7.5	7.1	6.9	6.7	6.4	6.0	100%	96%	91%	88%	85%	81%	76%
120200	妊娠中の糖尿病	18.7	17.9	17.0	16.4	16.0	15.2	14.3	100%	96%	91%	88%	85%	81%	76%
120260	分娩の異常	50.3	48.1	45.6	44.1	43.0	40.9	38.4	100%	96%	91%	88%	86%	81%	76%
120270	産褥期を中心とするその他の疾患	6.4	6.1	5.8	5.6	5.5	5.2	4.9	100%	96%	91%	88%	86%	81%	77%

参照【ICD10】：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
【MDC】：退院患者調査 2019年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
【ICD10】【MDC】巻末用語集参照

(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	明石市内において、周産期医療を提供している病院は2施設あり、明石医療センターは地域周産期母子医療センターとして、あさぎり病院は地域周産期病院として周産期医療を提供。
②	供給面	明石市内の分娩取扱い施設における年間分娩件数は明石市の出生数を上回っている。
③	供給面	NICU・GCUを保有している医療機関は明石医療センターのみ。
④	将来需要	周産期系疾患の将来患者数について、外来患者・入院患者ともに現在から既に減少傾向にある。

(1) がん医療の提供体制

専門的ながん診療の機能を有する病院は、東播磨圏域において6施設、うち明石市に2施設ある。
 県立がんセンターが国指定のがん診療拠点病院、県立加古川医療センターが県指定のがん拠点病院を取得している。
 緩和ケアチームを保有する病院は明石市内には5施設あり、ふくやま病院・大久保病院が緩和ケア病床を保有している。

■専門的ながん診療の機能を有する病院（東播磨圏域）

参照：第7次兵庫県保健医療計画

【選定条件】

- ① 手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた**集学的治療の実施**
 （放射線治療については、他病院との連携により実施可能な場合も含む）
- ② 年間**入院がん患者数が 500 人以上**

※明石医療センターと高砂市民病院について、
 上記①の条件は他病院との連携により実施可能

病院名	市町村	がん診療拠点病院
県立がんセンター	明石市	国指定
明石市立市民病院	明石市	—
県立加古川医療センター	加古川市	県指定
加古川中央市民病院	加古川市	—
明石医療センター ※	明石市	—
高砂市民病院 ※	高砂市	—

■緩和ケアチームを有する病院（東播磨圏域）

病院名	市町村	緩和ケアチームを有する病院	緩和ケア病床を有する病院
高砂市民病院	高砂市	●	● (18床)
大久保病院	明石市	●	● (18床)
ふくやま病院	明石市	●	● (34床)
県立がんセンター	明石市	●	—
明石医療センター	明石市	●	—
明石市立市民病院	明石市	●	—
加古川中央市民病院	加古川市	●	—
県立加古川医療センター	加古川市	●	—
松本病院	加古川市	●	—

参照
 緩和ケア病棟の整備状況：病床機能報告（2021年度）
 緩和ケアチームの保有状況：第7次兵庫県保健医療計画

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 才. がん対策

(1) がん医療の提供体制

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市内の医療機関では、がん患者の診療を兵庫県立がんセンターで年間4,000件程度、明石医療センターで年間1,000件程度対応している。

■ 主ながん疾患の受入状況（明石市）

施設名	010010		03001x		040010		040040		060010		060020		060030		060035		060040		060050		060060		070040	
	脳腫瘍		頭頸部悪性腫瘍		縦隔悪性腫瘍、 縦隔・胸膜の悪性腫瘍		肺の悪性腫瘍		食道の悪性腫瘍 （頭部を含む。）		胃の悪性腫瘍		小腸の悪性腫瘍、 腹膜の悪性腫瘍		結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍		直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍		肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）		胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍		骨の悪性腫瘍 （脊椎を除く。）	
	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有
明石市立市民病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	28	-	-	15	34	12	11	10	-	-	12	-	-
明石医療センター	-	-	-	-	-	-	288	90	-	17	58	116	-	13	49	157	24	62	22	60	13	36	-	-
兵庫県立がんセンター	27	13	79	115	23	-	405	234	176	155	92	176	32	32	65	152	62	121	50	128	16	43	26	-
明舞中央病院	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大西脳神経外科病院	27	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
江井島病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

施設名	070041		080005		080006		90010		100020		110080		120010		12002x		120030		130030		130040	
	軟部の悪性腫瘍 （脊椎を除く。）		黒色腫		皮膚の悪性腫瘍 （黒色腫以外）		乳房の悪性腫瘍		甲状腺の悪性腫瘍		前立腺の悪性腫瘍		卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍		子宮頸・体部の悪性腫瘍		外陰の悪性腫瘍		非ホジキンリンパ腫		多発性骨髄腫、 免疫系悪性新生物	
	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有
明石市立市民病院	-	-	-	-	-	-	30	24	-	-	37	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-
明石医療センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	25	21	55	-	-	11	11	-	-
兵庫県立がんセンター	16	44	13	16	-	48	81	325	-	27	205	-	145	156	347	382	-	14	119	44	18	-
明舞中央病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大西脳神経外科病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
江井島病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

参照：「DPC導入の影響評価に関する調査：（8）疾患別手術別集計」 厚生労働省 2021年
※公開データの特性上、件数が10件未満であるものについては「-」と表記している。

(1) がん医療の提供体制

兵庫県立がんセンターはがん治療に関連する検査機器・治療設備ともに複数台保有している。
明石医療センターはS P E C T 1 台と内視鏡手術用支援機器 1 台、明石市立市民病院はS P E C T を 1 台を保有している。

■ 大型放射線検査・治療設備等の整備状況（明石市）

(台)

施設名	S P E C T	P E T	P E T - C T	P E T - M R I	ガ ン マ ナ イ フ	サイ バー ナイ フ	強 度 変 調 放 射 線 治 療 器	小 遠 線 隔 源 操 作 式 密 封 治 療 装 置	内 視 鏡 手 術 用 支 援 機 器
兵庫県立がんセンター	1	0	2	0	0	0	2	1	1
明石医療センター	1	0	0	0	0	0	0	0	1
明石市立市民病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0

参照：病床機能報告（2021年度）
※〔SPETCT〕〔PET〕〔PET-CT〕〔PET-MRI〕〔ガンマナイフ〕〔サイバーナイフ〕〔ダヴィンチ〕巻末用語集参照。

(2) がん患者の将来患者推計

がん患者の将来患者数について、外来患者は2045年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。
疾患別にみると、肝及び肝内胆管が大幅な増加が見られる一方で乳房・子宮は減少傾向である。
入院患者は少なくとも2050年まで増加する見込み。
疾患別にみると、胃・結腸・肝及び肝内胆管が大幅な増加が見られる一方で乳房・子宮・白血病で減少傾向である。

■ICD10疾患分類別 ②新生物 外来患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
新生物	441.7	466.1	471.9	475.1	478.1	480.6	480.4	100%	106%	107%	108%	108%	109%	109%
胃の悪性新生物	47.6	51.1	52.2	52.3	52.9	53.9	54.6	100%	107%	110%	110%	111%	113%	115%
結腸の悪性新生物	50.0	52.8	53.3	54.1	54.7	55.1	55.1	100%	106%	107%	108%	109%	110%	110%
直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	22.0	23.0	23.4	23.7	24.0	24.0	23.8	100%	105%	106%	108%	109%	109%	108%
肝及び肝内胆管の悪性新生物	12.9	14.4	15.2	15.5	15.5	15.6	16.1	100%	112%	118%	120%	120%	121%	124%
気管、気管支及び肺の悪性新生物	41.3	43.5	44.2	44.8	45.5	46.0	46.0	100%	105%	107%	108%	110%	111%	111%
乳房の悪性新生物	65.8	66.8	66.0	65.0	63.9	62.4	60.3	100%	102%	100%	99%	97%	95%	92%
子宮の悪性新生物	15.7	15.7	15.4	15.1	14.8	14.3	13.7	100%	100%	98%	96%	94%	91%	87%
悪性リンパ腫	16.0	16.7	16.9	17.0	17.1	17.2	17.0	100%	104%	106%	106%	107%	108%	107%
白血病	5.4	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.5	100%	105%	104%	101%	100%	101%	100%
その他の悪性新生物	165.0	176.3	179.6	182.2	184.3	186.5	188.3	100%	107%	109%	110%	112%	113%	114%

■ICD10疾患分類別 ②新生物 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
新生物	304.9	327.7	338.0	345.1	347.0	348.2	350.5	100%	107%	111%	113%	114%	114%	115%
胃の悪性新生物	31.5	34.7	36.4	37.6	37.8	38.0	38.7	100%	110%	115%	119%	120%	121%	123%
結腸の悪性新生物	28.4	31.6	33.3	34.2	34.2	34.4	35.2	100%	111%	117%	120%	120%	121%	124%
直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	16.1	17.1	17.7	18.0	18.0	18.0	17.9	100%	106%	110%	112%	112%	112%	111%
肝及び肝内胆管の悪性新生物	14.4	16.0	16.8	17.0	17.1	17.4	17.9	100%	111%	116%	118%	119%	121%	124%
気管、気管支及び肺の悪性新生物	42.8	45.2	46.0	47.2	48.2	48.7	48.8	100%	106%	108%	110%	113%	114%	114%
乳房の悪性新生物	13.6	14.1	14.2	14.1	13.9	13.6	13.3	100%	104%	104%	104%	102%	100%	98%
子宮の悪性新生物	6.9	7.1	7.2	7.1	7.0	6.8	6.6	100%	102%	103%	102%	101%	98%	95%
悪性リンパ腫	18.0	19.3	19.8	20.0	20.1	20.4	20.5	100%	108%	110%	111%	112%	114%	114%
白血病	11.0	11.1	11.2	11.1	11.0	10.8	10.5	100%	102%	102%	102%	101%	99%	96%
その他の悪性新生物	122.2	131.4	135.5	138.7	139.6	140.1	141.1	100%	108%	111%	114%	114%	115%	115%

参照【ICD10】：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
【ICD10】 巻末用語集参照

(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	県立がんセンターががん診療拠点病院（国指定）を取得。
②	供給面	緩和ケアチームを保有する病院は明石市内には5施設あり、ふくやま病院・大久保病院が緩和ケア病床を保有。
③	供給面	明石市内において、兵庫県立がんセンター（約4,000件/年）と明石医療センター（約1,000件/年）が多くのがん患者を受け入れ。
④	供給面	兵庫県立がんセンターはがん治療に関連する検査機器・治療設備ともに複数台保有。
⑤	将来需要	外来患者は2045年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、肝及び肝内胆管が大幅な増加が見られる一方で乳房・子宮は減少傾向。
⑥	将来需要	入院患者は少なくとも2050年まで増加する見込み。疾患別にみると、胃・結腸・肝及び肝内胆管が大幅な増加が見られる一方で乳房・子宮・白血病で減少傾向。

（１）脳血管疾患医療の提供体制

脳卒中の急性期医療の機能を有する病院は東播磨圏域に 5 施設、うち明石市には 2 施設ある。
回復期医療の機能を有する病院は東播磨圏域に 10 施設、うち明石市に 6 施設ある。

■脳卒中の急性期医療の機能を有する病院（東播磨圏域）

【選定条件】

- ① **検査**（X線検査、CT検査、MRI（拡散強調画像）、血管連続撮影）が**24時間**実施可能
- ② 適応がある症例では**超急性期**に血栓回収療法等が**24 時間当直体制**で実施可能
- ③ **血栓溶解療法**（t-PA）が24 時間実施可能
- ④ **外科的治療**が必要な場合**2 時間以内に治療開始**（24 時間対応）
- ⑤ **急性期リハビリテーションの実施**

病院名	市町村	①	②	③	④	⑤
明石市立市民病院	明石市	診療時間内のみの対応項目あり				
順心病院	加古川市	●	●	●	●	●
大西脳神経外科病院	明石市	●	オンコールにて24時間対応可能	●	●	●
県立加古川医療センター	加古川市	●		●	●	●
加古川中央市民病院	加古川市	●		●	●	●

■脳卒中の回復期医療の機能を有する病院（東播磨圏域）

【選定条件】

脳卒中患者に対する回復期リハビリテーションを実施するとともに、次のいずれかに該当する病院

- ① **脳血管疾患等リハビリテーション料（I）**を届け出ている病院
- ② **訓練室**があり、スタッフに**常勤**の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が各**1名**以上いる病院
- ③ **回復期リハビリテーション病棟**を設置している病院

病院名	市町村
大久保病院	明石市
野木病院	明石市
明石仁十病院	明石市
江井島病院	明石市
石井病院	明石市
明石リハビリテーション病院	明石市
順心リハビリテーション病院	加古川市
松本病院	加古川市
たずみ病院	加古川市
高砂市民病院	高砂市

参照：第7次兵庫県保健医療計画
〔超急性期〕〔急性期〕〔回復期〕巻末用語集参照

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 力. 脳卒中対策（脳血管疾患対策）

(1) 脳血管疾患医療の提供体制

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市内では、大西脳神経外科病院が最も多くの脳血管疾患の患者を受け入れている。

■ 主な脳血管疾患患者の受入状況（明石市） (件)

施設名	010020		010030		010060		010070	
	くも膜下出血、破裂 脳動脈瘤		未破裂脳動脈瘤		脳梗塞		脳血管障害	
	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有
明石市立市民病院	-	-	-	-	43	-	-	-
明石医療センター	-	-	-	-	12	-	41	-
兵庫県立がんセンター	-	-	-	-	10	-	-	-
大久保病院	-	-	-	-	11	-	-	-
明舞中央病院	-	-	-	-	11	-	-	-
大西脳神経外科病院	14	18	128	85	500	80	71	60

参照：「DPC導入の影響評価に関する調査：（8）疾患別手術別集計」 厚生労働省 2021年
※公開データの特性上、件数が10件未満であるものについては「-」と表記している。

（2）脳血管疾患の将来患者推計

脳血管疾患患者の将来患者数について、入院患者・外来患者ともに2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。
疾患別にみると、外来患者ではパーキンソン病、アルツハイマー病、脳梗塞、入院患者ではパーキンソン病、アルツハイマー病、脳内出血、脳梗塞、その他の脳血管疾患の患者数が大幅増加傾向。

■ICD10疾患分類別 脳血管疾患患者 外来患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
神経系の疾患	603.6	661.4	691.9	709.5	703.4	698.2	707.9	100%	110%	115%	118%	117%	116%	117%
パーキンソン病	31.9	35.7	37.1	37.4	37.5	38.4	39.7	100%	112%	116%	117%	118%	120%	124%
アルツハイマー病	113.7	138.8	157.3	170.0	167.1	164.2	172.1	100%	122%	138%	150%	147%	144%	151%
てんかん	36.6	36.9	36.4	35.6	34.8	33.8	32.8	100%	101%	99%	97%	95%	92%	89%
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	12.8	12.8	12.5	12.2	12.0	11.7	11.2	100%	100%	98%	96%	94%	92%	88%
自律神経系の障害	6.1	6.2	6.2	6.0	6.0	5.8	5.7	100%	102%	102%	100%	98%	96%	93%
その他の神経系の疾患	195.8	202.2	201.6	199.8	197.3	194.9	192.0	100%	103%	103%	102%	101%	100%	98%
くも膜下出血	6.3	6.5	6.7	6.8	6.8	6.7	6.6	100%	104%	107%	109%	108%	106%	105%
脳内出血	23.7	25.3	26.2	26.9	26.9	26.6	26.5	100%	107%	111%	114%	114%	112%	112%
脳梗塞	146.6	164.9	175.3	181.8	181.8	182.5	187.5	100%	112%	120%	124%	124%	124%	128%
脳動脈硬化（症）	0.7	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.9	100%	120%	123%	113%	108%	115%	124%
その他の脳血管疾患	29.5	31.3	31.7	32.1	32.5	32.9	33.0	100%	106%	107%	109%	110%	111%	112%

■ICD10疾患分類別 脳血管疾患患者 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
神経系の疾患	662.0	757.2	819.4	859.2	850.0	841.5	865.8	100%	114%	124%	130%	128%	127%	131%
パーキンソン病	44.2	51.6	55.3	56.4	56.1	57.0	59.8	100%	117%	125%	127%	127%	129%	135%
アルツハイマー病	121.1	146.5	165.1	177.7	175.0	172.4	180.6	100%	121%	136%	147%	145%	142%	149%
てんかん	18.1	19.1	19.6	19.8	19.4	19.0	18.9	100%	105%	108%	109%	107%	105%	104%
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	27.0	27.1	26.4	25.5	24.3	23.2	22.2	100%	100%	98%	94%	90%	86%	82%
自律神経系の障害	5.6	6.0	6.2	6.4	6.4	6.4	6.3	100%	106%	110%	113%	113%	113%	112%
その他の神経系の疾患	91.0	97.9	100.8	101.5	100.8	100.6	101.4	100%	108%	111%	112%	111%	111%	111%
くも膜下出血	25.8	28.2	29.4	29.8	29.6	29.5	29.8	100%	109%	114%	115%	115%	114%	115%
脳内出血	94.4	105.8	112.6	116.5	115.7	114.9	117.2	100%	112%	119%	123%	123%	122%	124%
脳梗塞	222.1	261.1	289.2	310.4	307.5	303.2	314.3	100%	118%	130%	140%	138%	137%	142%
脳動脈硬化（症）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
その他の脳血管疾患	12.6	13.9	14.8	15.4	15.3	15.2	15.4	100%	111%	118%	122%	122%	121%	122%

参照【ICD10】：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
〔ICD10〕巻末用語集参照
※入院における脳動脈硬化（症）の実績データが確認できず。

56

（2）脳血管疾患の将来患者推計

脳血管疾患患者の将来患者数について、MDC疾患分類別にみると、2035年まで増加し、その後減少傾向にある。

■ MDC疾患分類別 脳血管疾患患者 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定実患者数（件）							2020年からの増減率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
①神経系	1,447	1,532	1,592	1,610	1,584	1,565	1,564	100%	106%	110%	111%	109%	108%	108%

参照【MDC】：退院患者調査 2019年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
〔MDC〕巻末用語集参照

(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	脳卒中の急性期医療の機能を有する病院は明石市には2施設ある。また、回復期医療の機能を有する病院は明石市に6施設ある。
②	供給面	明石市内において、大西脳神経外科病院が最も多くの脳血管疾患の患者を受け入れ。
③	将来需要	外来患者は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳梗塞の患者数が大幅に増加傾向。
④	将来需要	入院患者は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移。疾患別にみると、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳内出血、脳梗塞、その他の脳血管疾患の患者数が大幅に増加傾向。

(1) 心血管疾患医療の提供体制

心血管疾患の急性期医療の機能を有する病院は東播磨圏域に3施設、うち明石市には2施設ある。
回復期医療の機能を有する病院は東播磨圏域に5施設、うち明石市に4施設ある。

■ 心血管疾患の急性期医療の機能を有する病院（東播磨圏域）

【選定条件】

- ① 専門的検査（心臓カテーテル検査・CT検査等）及び専門的診療（大動脈バルーンパンピング・緊急ペーシング等）の24時間対応
- ② 経皮的冠動脈形成術（経皮的冠動脈ステント留置術を含む）を年間200症例以上実施
- ③ 救急入院患者の受入実績がある
- ④ 心臓血管外科に常勤医を配置
- ⑤ 冠動脈バイパス術を実施

病院名	市町村	①	②	③	④	⑤
明石医療センター	明石市	●	●	●	●	●
明石市立市民病院	明石市	●	年間100以上200症例未満	●		
加古川中央市民病院	加古川市	●	●	●	●	●

■ 心血管疾患の回復期医療の機能を有する病院（東播磨圏域）

【選定条件】

次のいずれにも該当する病院

- ① 心臓リハビリテーションを実施
- ② リハビリテーションのスタッフを配置

病院名	市町村
明石医療センター	明石市
明石市立市民病院	明石市
野木病院	明石市
石井病院	明石市
加古川中央市民病院	加古川市

参照：第7次兵庫県保健医療計画
〔急性期〕〔回復期〕巻末用語集参照

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 ㏑. 心血管疾患対策

(1) 心血管疾患医療の提供体制

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市内では、明石医療センターが心血管疾患の患者を最も多く受け入れている。その他の施設においては、明石市立市民病院、大久保病院、明舞中央病院、野木病院、明石回生病院、石井病院、ふくやま病院が受け入れている。

■ 主な心血管疾患患者の受入状況（明石市）

(件)

施設名	050030		050050		050070		050080		050130		050161		050163		050170	
	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞		狭心症、慢性虚血性心疾患		頻脈性不整脈		弁膜症（連合弁膜症を含む。）		心不全		解離性大動脈瘤		非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤		閉塞性動脈疾患	
	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有
明石市立市民病院	-	20	53	62	-	25	-	-	86	10	-	-	-	-	-	23
明石医療センター	13	106	118	186	38	188	24	41	335	21	29	27	29	74	24	69
大久保病院	-	-	23	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	13
明舞中央病院	-	-	-	-	-	-	-	-	28	-	-	-	-	-	-	-
野木病院	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-
明石回生病院	-	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-
石井病院	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ふくやま病院	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-

施設名	050180		050190		050200		050210		050340	
	静脈・リンパ管疾患		肺塞栓症		循環器疾患（その他）		徐脈性不整脈		その他の循環器の障害	
	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有	手術無	手術有
明石市立市民病院	-	-	-	-	-	-	-	28	-	-
明石医療センター	-	17	25	-	15	-	20	110	-	10
大久保病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明舞中央病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
野木病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明石回生病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石井病院	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-
ふくやま病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

参照：「DPC導入の影響評価に関する調査：（8）疾患別手術別集計」 厚生労働省 2021年
※公開データの特性上、件数が10件未満であるものについては「-」と表記している。

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 キ. 心血管疾患対策

(1) 心血管疾患医療の提供体制

明石市内において血管撮影装置を整備している病院は6病院ある。
そのうち、心血管疾患の急性期医療の機能を有する病院で、ハイブリッド手術室を整備している病院は明石医療センター 1 病院である。

■ 血管撮影装置及びハイブリッド手術室の整備状況（明石市）

参照：医療機器システム白書（2021年度）
発行元→株式会社エム・イー振興協会
各病院HP

施設名	血管連続 撮影装置	機器の タイプ	プレーン タイプ	ハイブリッド 手術室
兵庫県立がんセンター	1 台	腹部血管 1 台	シングルプレーン 1 台	—
明石医療センター	3 台	心血管 1 台	シングルプレーン 1 台	1 室
		全身血管 2 台	シングルプレーン 2 台	
明石市立市民病院	1 台	全身血管 1 台	デュアルプレーン 1 台	—
大久保病院	1 台	心血管 1 台	シングルプレーン 1 台	—
大西脳神経外科病院	1 台	脳血管 1 台	バイプレーン 1 台	1 室
石井病院	1 台	心血管 1 台	シングルプレーン 1 台	—
合計	8 台	—	—	—

(2) 心血管疾患の将来患者推計

心血管疾患患者の将来患者数について、外来患者は少なくとも2050年まで増加する見込み。
疾患別にみると、高血圧性疾患、虚血性心疾患、その他の心疾患、動脈硬化（症）で大幅に増加する見込み。
入院患者は2035年まで増加傾向、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、ほとんどの疾患で大幅な増加が見られる。なお、MDC疾患分類別にみると、循環器系疾患は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいの傾向。

■ICD10疾患分類別 心血管疾患患者 外来患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
循環器系の疾患	1,936.7	2,107.6	2,186.5	2,235.7	2,243.1	2,249.1	2,271.9	100%	109%	113%	115%	116%	116%	117%
高血圧性疾患	1,550.4	1,681.3	1,739.8	1,774.7	1,782.0	1,787.5	1,802.1	100%	108%	112%	114%	115%	115%	116%
虚血性心疾患	134.8	147.7	153.9	159.1	160.2	160.8	163.1	100%	110%	114%	118%	119%	119%	121%
その他の心疾患	192.9	216.0	229.2	238.2	237.3	236.8	242.4	100%	112%	119%	124%	123%	123%	126%
くも膜下出血	6.3	6.5	6.7	6.8	6.8	6.7	6.6	100%	104%	107%	109%	108%	106%	105%
動脈硬化（症）	11.7	12.9	13.3	13.5	13.5	13.7	14.0	100%	110%	114%	116%	116%	117%	120%
低血圧（症）	2.5	2.5	2.4	2.2	2.2	2.2	2.2	100%	102%	99%	91%	90%	91%	88%
その他の循環器系の疾患	38.2	40.7	41.1	41.0	41.1	41.3	41.6	100%	106%	108%	107%	108%	108%	109%

■ICD10疾患分類別 心血管疾患患者 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
循環器系の疾患	225.2	261.0	287.2	308.2	305.1	299.4	307.8	100%	116%	128%	137%	135%	133%	137%
高血圧性疾患	12.6	15.4	17.9	19.9	19.5	18.8	19.6	100%	123%	142%	158%	155%	150%	156%
虚血性心疾患	36.8	40.5	42.6	43.9	44.0	44.0	44.7	100%	110%	116%	119%	120%	120%	121%
その他の心疾患	119.7	143.2	161.9	177.9	175.2	170.1	176.1	100%	120%	135%	149%	146%	142%	147%
くも膜下出血	25.8	28.2	29.4	29.8	29.6	29.5	29.8	100%	109%	114%	115%	115%	114%	115%
動脈硬化（症）	7.4	8.3	8.7	9.2	9.3	9.4	9.6	100%	112%	118%	124%	126%	127%	130%
低血圧（症）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
その他の循環器系の疾患	22.9	25.4	26.7	27.6	27.5	27.6	28.1	100%	111%	117%	121%	120%	120%	123%

■MDC疾患分類別 心血管疾患患者 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定実患者数 (件)							2020年からの増減率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
⑤循環器系	2,578	2,768	2,919	2,983	2,950	2,928	2,947	100%	107%	113%	116%	114%	114%	114%

参照【ICD10】：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
【MDC】：退院患者調査 2019年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
※入院における低血圧（症）の実績データが確認できず。

(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	心血管疾患の急性期医療の機能を有する病院は明石市には2施設ある。また、回復期医療の機能を有する病院は明石市に4施設ある。
②	供給面	明石市において、心血管疾患の患者を最も多く受け入れているのは明石医療センター。
③	供給面	明石市内において、血管撮影装置を整備している病院は6施設あり、明石医療センターは3台保有。
④	供給面	明石医療センターはハイブリッド手術室を整備。
⑤	将来需要	外来患者は少なくとも2050年までは増加する見込み。疾患別にみると、高血圧性疾患、虚血性心疾患、その他の心疾患、動脈硬化（症）で大幅に増加する見込み。
⑥	将来需要	入院患者は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、ほとんどの領域で大幅に増加する見込み。

(1) 糖尿病医療の提供体制

糖尿病の専門治療の機能を有する病院は東播磨圏域に 5 施設あり、うち明石市には 2 施設ある。
糖尿病の急性増悪時治療の機能を有する病院は東播磨圏域に 7 施設、うち明石市に 4 施設ある。
糖尿病の慢性合併症治療の機能を有する病院は東播磨圏域に 4 施設あり、うち明石市には 1 施設ある。

■糖尿病の専門治療の機能を有する病院（東播磨圏域）

【選定条件】

次のいずれにも該当する病院

- ① 糖尿病の**専門的検査**、**専門的治療**の実施（75gOGTT 検査、運動療法、食事療法）
- ② 専門職種のチームによる**教育入院**の実施
- ③ 糖尿病患者の**妊娠**への対応
- ④ **常勤**の日本**糖尿病学会専門医**又は日本**内分泌学会内分泌代謝科専門医**がいる

病院名	市町村
明石医療センター	明石市
明舞中央病院	明石市
加古川中央市民病院	加古川市
県立加古川医療センター	加古川市
高砂市民病院	高砂市

■糖尿病の急性増悪時治療の機能を有する病院（東播磨圏域）

【選定条件】

次のいずれにも該当する病院

- ① 糖尿病**昏睡等急性合併症**の治療が可能
- ② 糖尿病の**急性合併症**の患者を **24 時間**受入可能

病院名	市町村
明石医療センター	明石市
明舞中央病院	明石市
石井病院	明石市
あさひ病院	明石市
加古川中央市民病院	加古川市
県立加古川医療センター	加古川市
松本病院	加古川市

■糖尿病の慢性合併症治療の機能を有する病院（東播磨圏域）

【選定条件】

慢性合併症の検査・治療の実施

- ① **蛍光眼底造影検査**、**光凝固療法**、**硝子体出血・網膜剥離の手術**が全て実施可能（糖尿病網膜症）
- ② **腎生検**、**腎臓超音波検査**、**人工透析等**が全て実施可能（糖尿病腎症）
- ③ **神経伝導速度検査**が実施可能（糖尿病神経障害）

病院名	市町村
明石市立市民病院	明石市
加古川中央市民病院	加古川市
県立加古川医療センター	加古川市
高砂市民病院	高砂市

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析

ク. 糖尿病対策

(1) 糖尿病医療の提供体制

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市内の糖尿病患者の受入状況をみると明石医療センター、大久保病院、明舞中央病院、あさぎり病院で受け入れている。

■糖尿病患者の受入状況（明石市）

(件)

施設名	10006x	10007x	10008x
	1 型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	2 型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）
明石医療センター	10	62	-
大久保病院	11	11	-
明舞中央病院	-	15	-
あさぎり病院	-	15	-

参照：「D P C 導入の影響評価に関する調査：（1 0）疾患別手術有無別処置 2 有無別集計」 厚生労働省 2021年
※公開データの特性上、件数が10件未満であるものについては「 - 」と表記している。

明石市立市民病院	2	45	2
----------	---	----	---

参照：病院受領データより（2021年度実績）

(2) 糖尿病患者の将来患者推計

糖尿病患者の将来患者数について、外来患者は2045年度まで増加傾向、その後横ばいに推移する見込みである。
入院患者は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。
MDC疾患分類別にみると、糖尿病は2035年まで増加し、その後減少傾向にある。

■ ICD10疾患分類別 糖尿病患者 外来患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
糖尿病	534.3	561.2	568.1	572.3	577.2	579.2	575.9	100%	105%	106%	107%	108%	108%	108%

■ ICD10疾患分類別 糖尿病患者 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
糖尿病	45.8	51.2	54.5	56.8	56.2	55.6	56.6	100%	112%	119%	124%	123%	122%	124%

■ MDC疾患分類別 糖尿病患者 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定実患者数 (件)							2020年からの増減率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
糖尿病	206.3	213.1	215.9	217.7	215.6	212.0	208.5	100%	103%	105%	106%	104%	103%	101%
1型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く/末梢循環不全なし）	12.3	12.4	12.2	11.9	11.6	11.3	11.0	100%	101%	99%	97%	95%	92%	89%
1型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く/末梢循環不全あり）	4.6	4.7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.4	100%	102%	102%	102%	101%	99%	96%
2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く/末梢循環不全なし）	114.2	118.1	119.7	120.7	119.5	117.5	115.6	100%	103%	105%	106%	105%	103%	101%
2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く/末梢循環不全あり）	65.8	68.0	69.1	70.0	69.5	68.5	67.4	100%	103%	105%	106%	106%	104%	102%
その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く/末梢循環不全なし）	7.2	7.6	7.9	8.0	7.9	7.8	7.8	100%	106%	110%	111%	110%	109%	108%
その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く/末梢循環不全あり）	2.3	2.3	2.3	2.4	2.3	2.3	2.3	100%	103%	104%	105%	104%	102%	100%

参照【ICD10】：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
【MDC】：退院患者調査 2019年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
【ICD10】 【MDC】 巻末用語集参照

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析

ク. 糖尿病対策

(3) 人工透析医療の需給状況

明石市において14施設が人工透析を提供しており、最大約1,170人の透析患者の受入が可能である。
将来実患者数（血液透析患者かつ通院患者）は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。
供給が需要を上回っている。

■人工透析提供体制（明石市）

施設名	透析 ベッド数 (床)	最大透析 患者数 (人)	夜間透析	治療法	
				腹膜透析 及び 血液透析	血液透析 のみ
明石医療センター	20	60		●	
明石市立市民病院	17	40		●	
大久保病院	34	85			●
明舞中央病院	45	135	●		●
明石回生病院	36	144	●		●
江井島病院	17	68			●
石井病院	10	30			●
あさひ病院	20	60	●	●	
神明病院	33	99			●
じんけいクリニック	37	148	●		●
まつい栄養&認知症クリニック	40	160	●	●	
森本クリニック	13	26			●
神明クリニック	22	66			●
今井泌尿器科	15	45	●		●
計	359	1,166	-	-	-

■人工透析実患者推計（明石市）



参照：『わが国の慢性透析療法の現況 2019 年 12 月 31 日現在』（日本透析医学会）
男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年推計』（国立社会保障・人口問題研究所）

(4) まとめ

■ 糖尿病対策

No.	領域	内容
①	供給面	糖尿病の専門治療の機能を有する病院は明石市に2施設ある。 糖尿病の急性増悪時治療の機能を有する病院は明石市に4施設ある。 糖尿病の慢性合併症治療の機能を有する病院は明石市に1施設ある。
②	供給面	明石市内の糖尿病患者の受入状況をみると明石医療センター、大久保病院、明舞中央病院、あさぎり病院で受け入れ。
③	将来需要	外来患者は2045年まで増加し、その後横ばいに推移する見込み。
④	将来需要	入院患者は2035年まで増加し、その後横ばいに推移する見込み。

■ 人工透析

No.	領域	内容
①	供給面	明石市において14施設が人工透析を提供しており、最大約1,170人の透析患者の受入が可能。
②	将来需要	将来実患者数（血液透析患者かつ通院患者）は2035年まで増加し、その後横ばいに推移する見込み。 供給が需要を上回っている。

(1) 精神医療の提供体制

参照：第7次兵庫県保健医療計画

精神病床を有する病院は東播磨圏域に4施設あり、うち明石市に2施設ある。
精神疾患の身体合併症への対応が可能な病院は、東播磨圏域に8施設あり、うち明石市に6施設ある。
精神疾患に係る診断及び治療について対応が可能な病院は、東播磨圏域に11施設あり、うち明石市に8施設ある。

■精神病床を有する病院（東播磨圏域）

病院名	市町村	指定	応急	特例	特定	救急
明石こころのホスピタル	明石市	●	●	●	●	●
明石土山病院	明石市	●	●	●	●	●
播磨サナトリウム	加古郡稲美町	●	●			●
東加古川病院	加古川市	●	●			●

指定 … 「指定病院」
応急 … 「応急入院指定病院」
特例 … 「特例措置を採ることができる応急入院指定病院」
特定 … 「特定病院」
救急 … 「兵庫県精神科救急医療体制参画病院」

■精神疾患の身体合併症への対応が可能な病院（東播磨圏域）

病院名	市町村	院内での 治療を実施	院外との連携により実施		
			一般病院	精神科病院	診療所
明石市立市民病院	明石市	●	●	●	●
明石回生病院	明石市	●			
江井島病院	明石市			●	
明石同仁病院	明石市	●			
明石こころのホスピタル	明石市	●	●		
明石土山病院	明石市	●			
加古川中央市民病院	加古川市	●			
東加古川病院	加古川市	●			

■精神疾患に係る診断及び治療について対応が可能な病院（東播磨圏域）

※診断から治療に至るまでの一連の専門的な治療が可能な病院

病院名	市町村	対応する診断及び治療内容				診断及び治療を実施している診療科					連携先		
		統合 失調症	認知症	アルコール 依存症	気分障害 (うつ病含 む)	小児科	精神科	神経 内科	心療 内科	内科	一般 病院	精神科 病院	診療所
明石市立市民病院	明石市	●	●	●	●		●		●		●	●	●
野木病院	明石市		●	●						●		●	●
明石仁十病院	明石市	●	●		●			●		●		●	
江井島病院	明石市		●		●				●	●		●	●
あさひ病院	明石市	●	●		●					●		●	
明石同仁病院	明石市	●	●		●		●						
明石こころのホスピタル	明石市	●	●	●	●		●				●	●	●
明石土山病院	明石市	●	●	●	●		●		●		●		●
加古川中央市民病院	加古川市	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
東加古川病院	加古川市	●	●	●	●		●				●	●	●
高砂市民病院	高砂市					●							

(2) 精神疾患患者の将来患者推計

精神疾患患者の将来患者数について、外来患者は2035年まで増加傾向、その後減少傾向になる見込み。
疾患別にみると、認知症は大幅な増加が見られる。
入院患者は2030年以降、減少傾向になる見込み。
疾患別にみると、認知症は外来同様に大幅な増加が見られ、それ以外の疾患では減少傾向である。

■ ICD10疾患分類別 ⑤精神及び行動の障害 外来患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
精神及び行動の障害	595.5	622.4	633.2	638.4	632.0	619.5	608.9	100%	105%	106%	107%	106%	104%	102%
血管性及び詳細不明の認知症	68.3	81.3	90.6	97.3	96.3	95.1	99.1	100%	119%	133%	142%	141%	139%	145%
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	30.1	30.7	30.7	30.7	30.5	30.0	29.1	100%	102%	102%	102%	101%	100%	97%
統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	360.3	366.8	366.4	365.2	361.7	353.0	340.9	100%	102%	102%	101%	100%	98%	95%
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	71.2	74.8	75.4	75.3	75.0	74.5	73.8	100%	105%	106%	106%	105%	105%	104%
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	12.7	13.3	13.5	13.4	13.0	12.8	12.6	100%	105%	106%	105%	102%	100%	99%
知的障害＜精神遅滞＞	16.0	16.2	16.0	15.6	15.2	14.7	14.1	100%	101%	99%	97%	95%	91%	88%
その他の精神及び行動の障害	36.8	39.3	40.6	41.0	40.3	39.4	39.3	100%	107%	110%	111%	109%	107%	107%

■ ICD10疾患分類別 ⑤精神及び行動の障害 入院患者推計（明石市）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
精神及び行動の障害	625.2	632.6	622.8	610.4	593.4	573.6	555.2	100%	101%	100%	98%	95%	92%	89%
血管性及び詳細不明の認知症	29.0	35.1	39.9	44.1	43.6	42.5	44.2	100%	121%	138%	152%	150%	147%	153%
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	17.6	17.9	17.6	17.2	16.8	16.3	15.6	100%	101%	100%	98%	95%	92%	88%
統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	148.0	148.0	145.7	142.6	138.1	132.1	126.1	100%	100%	98%	96%	93%	89%	85%
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	213.9	215.1	209.8	203.7	198.2	192.5	186.0	100%	101%	98%	95%	93%	90%	87%
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	142.3	141.9	138.0	133.8	129.9	125.9	121.4	100%	100%	97%	94%	91%	88%	85%
知的障害＜精神遅滞＞	10.6	10.3	9.9	9.6	9.3	8.8	8.3	100%	98%	94%	91%	88%	83%	79%
その他の精神及び行動の障害	63.7	64.4	61.9	59.5	57.6	55.6	53.6	100%	101%	97%	93%	90%	87%	84%

参照【ICD10】：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）

(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	精神病床を有する病院は明石市に2施設ある。精神疾患の身体合併症への対応が可能な病院は、明石市に6施設ある。精神疾患に係る診断及び治療について対応が可能な病院は明石市に8施設ある。
②	将来需要	外来患者は2035年まで増加傾向、その後減少傾向になる見込み。疾患別にみると、認知症は大幅な増加が見られる。
③	将来需要	入院患者は2030年以降、減少傾向になる見込み。疾患別にみると、認知症が2050年まで約53%（対2020年）と大幅な増加が見られ、それ以外の疾患では減少傾向。

5. 明石市における政策的医療の需給状況分析 コ. 新興感染症対策

(1) 感染症医療の提供体制

感染症病床を有する病院に関して、東播磨圏域において、県立加古川医療センターが第1種・2種感染症病床を保有している。明石市においては、感染症病床を保有している病院はない。

■ 感染症病床を有する病院（兵庫県内）

病院名	2次医療圏	所在地	病床数		
			第1種 感染症病床	第2種 感染症病床	結核病床 (稼働病床)
神戸市立医療センター中央市民病院	神戸	神戸市中央区	2床	8床	
神戸市立西神戸医療センター	神戸	神戸市中央区			50床
兵庫県立尼崎総合医療センター	阪神	尼崎市		8床	
谷向病院	阪神	西宮市			28床
独立行政法人国立病院機構 兵庫中央病院	阪神	三田市			50床
兵庫県立加古川医療センター	東播磨	加古川市	2床	6床	
市立加西病院	北播磨	加西市		6床	
姫路赤十字病院	播磨姫路	姫路市		6床	
赤穂市民病院	播磨姫路	赤穂市		4床	
公立豊岡病院	但馬	豊岡市		4床	
公立八鹿病院	但馬	養父市			7床
兵庫県立丹波医療センター	丹波	丹波市		4床	
兵庫県立淡路医療センター	淡路	洲本市		4床	15床

参照：感染症指定医療機関の指定状況（2022年4月1日現在） 厚生労働省
※〔第1種・2種感染症病床〕巻末用語集参照。

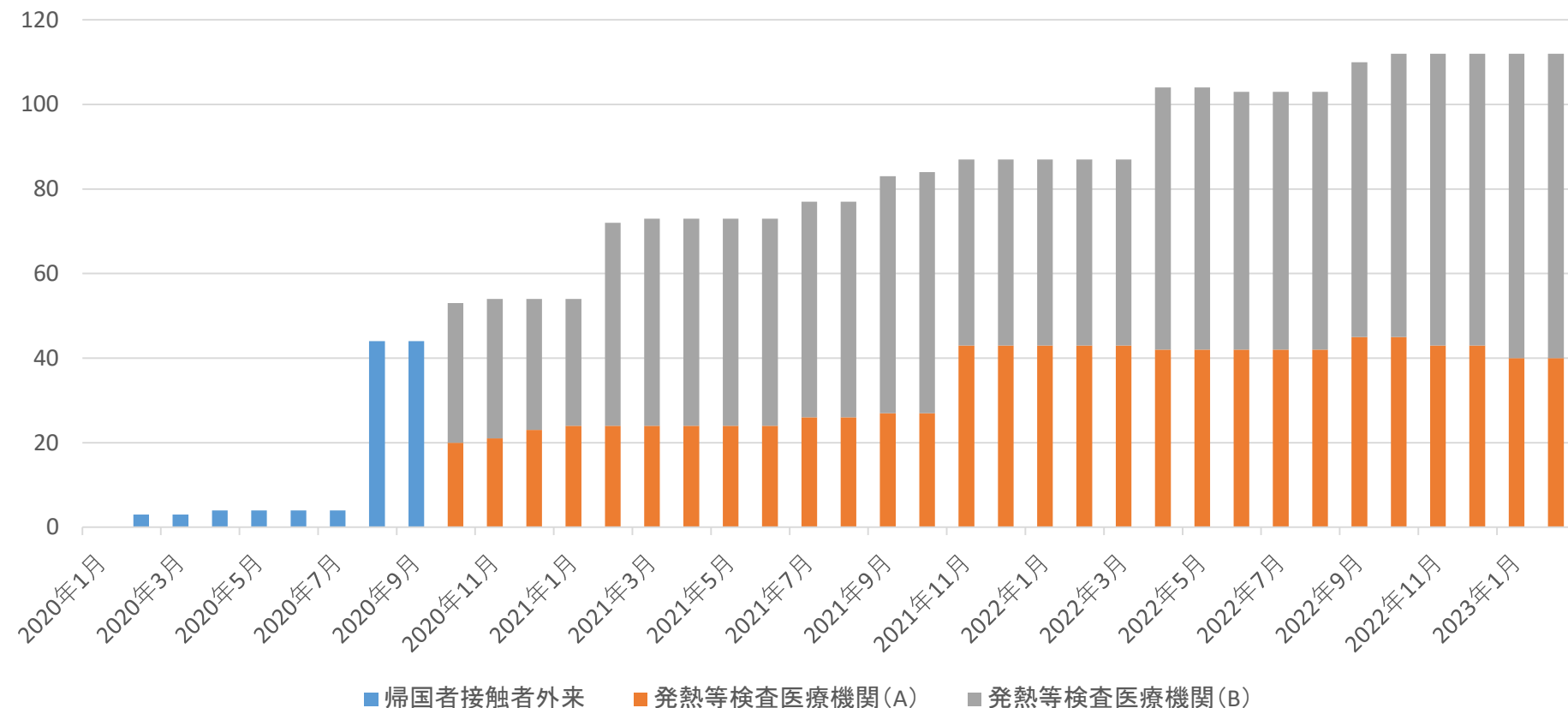
(2) 新型コロナウイルス感染症流行時における市内の医療提供体制

2020年2月厚労省「新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制について」通知に基づき、市内3医療機関に帰国者接触者外来を設置。同年8月に医師会との集合契約により市内44医療機関に拡大。
 同年9月事務連絡「次のインフルエンザ流行に備えた体制整備について」に基づき、10月には県が市内53医療機関を発熱等検査医療機関に指定した。当該医療機関は順次拡大し、2023年2末には112医療機関が登録。

外来

帰国者・接触者外来、発熱等検査医療機関の推移

(施設)



発熱等検査医療機関 (A) …発熱患者等の診療・検査を実施
 発熱等検査医療機関 (B) …原則、かかりつけ患者に限り、診療・検査を実施

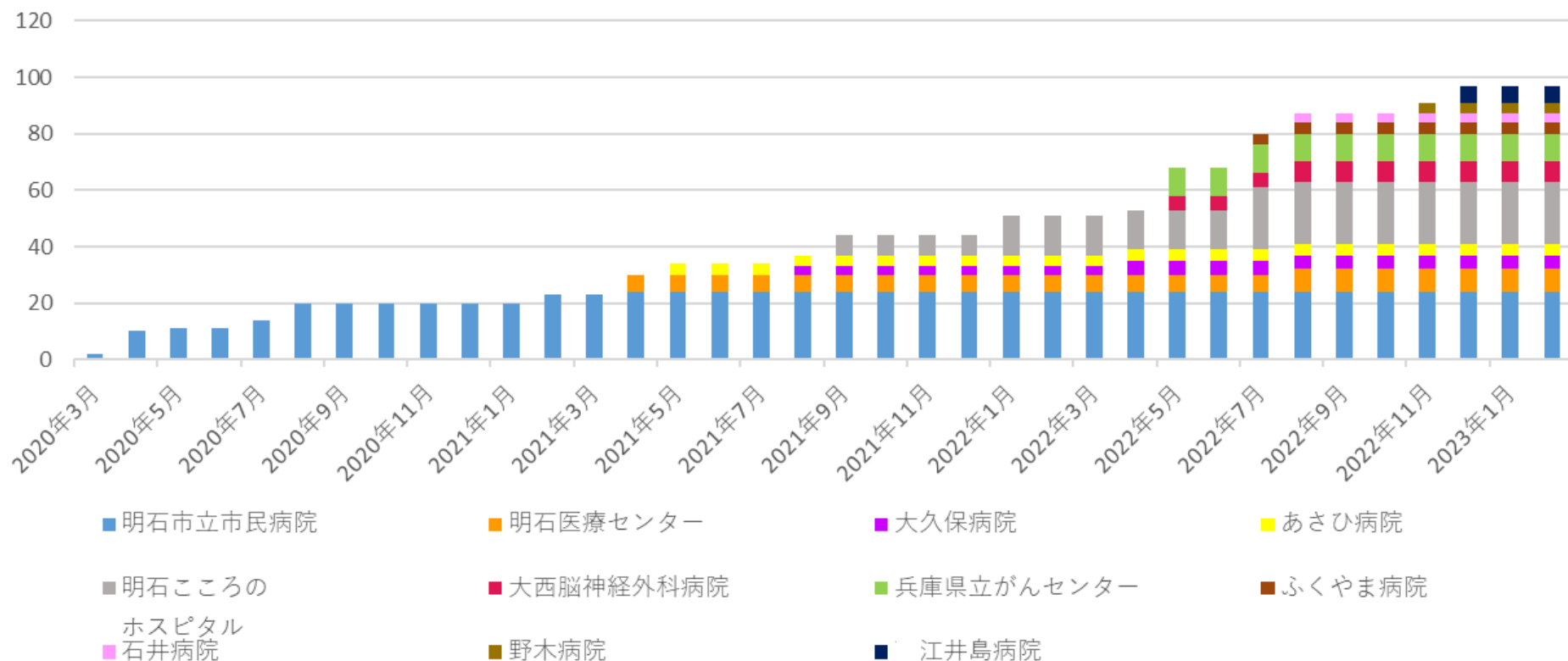
(2) 新型コロナウイルス感染症流行時における市内の医療提供体制

2020年3月、兵庫県からのコロナ受入病床確保の依頼に基づき、明石市では自治体病院である明石市立市民病院に2床の病床を確保し、軽症・中等症患者の受け入れを開始。2021年4月からは、重症病床1床を確保し、確保病床は24床となった。同時期に、明石医療センターでは6床で受入を開始し、2022年8月には小児及び妊婦の受入れ病床(2床)を増床した。2021年中には3病院、2022年には6病院が受入を開始し、2023年2月には市内97床の受入病床を確保するに至った。

入院

市内におけるコロナ受入病床数の推移

(床)



明石市立市民病院24床のうち1床は重症病床。
明石医療センター8床のうち2床は、小児及び妊婦の受入病床。

参考) 新興感染症に関する第8次医療計画策定にあたる方向性

想定する新興感染症

参考：第8次医療計画等に関する検討会
意見のとりまとめ（新興感染症発生・まん延時における医療）

- 対応する新興感染症は、**感染症法に定める新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症を基本**とする。医療計画の策定にあたっては、感染症に関する国内外の最新の知見を踏まえつつ、一定の想定を置くこととするが、まずは現に対応しており、これまでの対応の教訓を生かすことができる新型コロナウイルス感染症への対応を念頭に取り組む。
- 実際に発生・まん延した感染症が、「事前の想定とは大きく異なる事態」となった場合は、その**感染症の特性に合わせて、都道府県と医療機関は協定の内容を見直すなど、実際の状況に応じた機動的な対応を行う。**

この「事前の想定とは大きく異なる事態」の判断については、新型コロナへの対応（株の変異等の都度、政府方針を提示）を参考に、国として、国内外の最新の知見や、現場の状況を把握しながら、適切に判断し、周知する。

新興感染症発生・まん延時（初期）から一定期間経過後の対応

感染発生早期

- 国内での感染発生早期の段階は、**現行の感染症指定医療機関の感染症病床を中心に対応**する。その際、当該感染症指定医療機関は、新興感染症についての知見の収集及び分析を行う。

流行初期

- 発生の公表後の流行初期の一定期間（3箇月を基本として必要最小限の期間を想定）には、まずは発生の公表前から対応実績のある**当該感染症指定医療機関**が流行初期医療確保措置の対象となる協定に基づく対応も含め、引き続き対応する。
- また、国が、当該医療機関の実際の対応に基づいた対応方法を含め、国内外の最新の知見について、都道府県及びその他医療機関に情報提供した上で、**流行初期医療確保措置の対象となる協定を締結するその他医療機関も、各都道府県の判断を契機として、対応**していく。

一定期間経過後

- 一定期間経過後は、これらに加え、その他の協定締結医療機関のうち、公的医療機関等（対応可能な民間医療機関を含む）も中心となった対応とし、その後3箇月程度（**発生の公表後6箇月程度**）を目途に、**順次速やかに全ての協定締結医療機関での対応**を目指す。

病床関係

参考：第8次医療計画等に関する検討会
意見のとりまとめ（新興感染症発生・まん延時における医療）

■ 協定締結医療機関について

- 病床確保の医療措置協定を締結する医療機関は、新型コロナ対応の重点医療機関の施設要件も参考に、**確保している病床で、酸素投与及び呼吸モニタリングが可能**で、また、**都道府県からの要請後速やかに（2週間以内を目途に）即応病床化**する。また、上記協定締結医療機関の基準は以下のとおり。
 - ①最新の知見に基づき適切な感染の防止対策が可能
 - ②他の患者と可能な限り接触することがなく診察可能
 - ③都道府県知事からの要請を受けて、感染症患者を入院させ、検査、医療従事者への訓練・研修等の感染症患者に対する人材確保も含めた必要な医療を提供する体制が整っている

■ 流行初期医療確保措置の対象となる協定締結医療機関について

- 流行初期医療確保措置の対象となる協定を締結する医療機関については、**一定規模の対応を行う医療機関から確保**していくことを目安とする。また、上記協定締結医療機関の基準は以下のとおり。
 - ①感染症発生・まん延時に入院患者を受け入れる**病床を一定数（例えば30床）以上確保し継続して対応**できること
 - ②発生の公表後、**都道府県知事の要請後速やかに（1週間以内を目途に）即応病床化**すること
 - ③病床の確保に当たり影響が生じ得る**一般患者への対応について、後方支援を行う医療機関との連携も含め、あらかじめ確認**を行うこと

■ 重症者や特に配慮が必要な患者の病床確保について

- **重症者用病床**の確保に当たっては、重症の感染症患者に使用する人工呼吸器等の設備や、当該患者に対応する医療従事者（人工呼吸器に関する講習受講や、集中治療室等における勤務ローテーションによる治療の経験を有する医療従事者）の確保に留意する。
- 各都道府県は、新型コロナ対応での実績を参考に、地域の実情に応じて、**精神疾患を有する患者、妊産婦、小児、透析患者、障害児者、認知症患者、がん患者、外国人**等、特に配慮が必要な患者を受け入れる病床の確保を行う。
- **新興感染症の疑い患者**については、その他の患者と接触しないよう、独立した動線等を要することから、新型コロナ対応に当たっての協力医療機関の個室等の施設要件も参考に、病床の確保を図る。

発熱外来関係

参考：第8次医療計画等に関する検討会
意見のとりまとめ（新興感染症発生・まん延時における医療）

■協定締結医療機関について

- 新型コロナ対応の診療・検査医療機関の施設要件も参考に、**発熱患者等専用の診察室**（時間的・空間的分離を行い、プレハブ・簡易テント・駐車場等で診療する場合を含む）を設けた上で、予め発熱患者等の対応時間帯を住民に周知し、又は地域の医療機関等と情報共有して、発熱患者等を受け入れる体制を有するほか、関係学会等の最新の知見に基づくガイドライン等を参考に、院内感染対策（ゾーニング、換気、个人防护具の着脱等を含む研修・訓練等）を適切に実施し、発熱外来を行う。また、上記協定締結医療機関の基準は以下のとおり。
 - ①最新の知見に基づき適切な感染の防止対策が可能
 - ②他の患者と可能な限り接触することがなく診察可能
 - ③発熱等患者の診療、検査を行う体制が整っている

■流行初期医療確保措置の対象となる協定締結医療機関について

- 流行初期医療確保措置の対象となる協定を締結する医療機関については、**一定規模の対応を行う医療機関から確保**していくことを目安とする。また、医療機関の基準は以下のとおり。
 - ①流行初期から**一定数（例えば 20 人/日）以上の発熱患者を診察**できること
 - ②発生の公表後、**都道府県知事の要請後速やかに（1 週間以内を目途に）発熱外来を開始**すること

参考) 新興感染症に関する第8次医療計画策定にあたる方向性

自宅・宿泊療養者・高齢者施設での療養者等への医療の提供関係

参考：第8次医療計画等に関する検討会
意見のとりまとめ（新興感染症発生・まん延時における医療）

■ 協定締結医療機関について

- 自宅・宿泊療養者・高齢者施設での療養者等への医療の提供について、新型コロナ対応と同様、病院、診療所は、必要に応じ、薬局や訪問看護事業所と連携し、また、各機関間や事業所間でも連携しながら、往診やオンライン診療等、訪問看護や医薬品対応等を行う。また、自宅療養者等が症状悪化した場合に入院医療機関等へ適切につなぐ。診療所等と救急医療機関との連携も重要である。さらに、関係学会等の最新の知見に基づくガイドライン等を参考に、感染対策（ゾーニング、換気、個人防護具の着脱等を含む研修・訓練等）を適切に実施し、医療の提供を行う。また、上記協定締結医療機関の基準は以下のとおり。
 - ①最新の知見に基づき適切な感染の防止対策が可能
 - ②都道府県知事からの要請を受けて、オンライン診療、電話診療、往診、その他自宅・宿泊療養者・高齢者施設での療養者等に対する医療の提供を行う体制が整っている

後方支援関係

- 後方支援の協定締結医療機関は、通常医療の確保のため、①特に流行初期の感染症患者以外の患者の受け入れや②感染症から回復後に入院が必要な患者の転院の受け入れを行う

人材派遣関係

- 人材派遣の協定締結医療機関は、1人以上の医療従事者を派遣することを基本とする。
- 人材派遣の協定締結医療機関は、自院の医療従事者への訓練・研修等を通じ、対応能力を高める。

(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	感染症病床を有する病院に関して、東播磨圏域において、県立加古川医療センターが第1種・2種感染症病床を保有。 明石市においては、感染症病床を保有している病院はない。
②	その他	第8次医療計画において、感染症対策における平時及び感染拡大時の対応方針の検討がなされる。

(1) 在宅医療の提供体制

明石市の在宅療養施設は全国値と比較して多く、明石市には在宅療養支援診療所が42施設、在宅療養支援病院が5施設、在宅療養後方支援病院が1施設、訪問看護事業所が36施設ある。

■施設・事業所数と65歳以上人口10万人当たりの数

		明石市	東播磨	兵庫県	全国
在宅療養支援診療所	施設数	42	80	925	14,440
	10万人あたり	13.83	11.17	16.93	11.45
在宅療養支援病院	施設数	5	8	87	1,705
	10万人あたり	1.65	1.12	1.59	1.35
在宅療養後方支援病院	施設数	1	3	20	485
	10万人あたり	0.33	0.42	0.37	0.38
訪問看護事業所	施設数	36	80	720	14,079
	10万人あたり	11.85	11.17	13.18	11.16

■在宅療養支援病院・在宅療養後方支援病院一覧

	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院
明石市立市民病院		●
明石仁十病院	●	
江井島病院	●	
ふくやま病院	●	
石井病院	●	
大久保病院	●	

参照：地域医療情報システム 2023年12月15日確認

在宅療養支援診療所

患者を直接担当する医師または看護師が、患者及びその家族と24時間連絡が取れる体制や患者の求めに応じて24時間往診の可能な体制を維持し、在宅での看取も行う診療所。

在宅療養支援病院

保険医療機関である病院であって、**許可病床数が200床未満**（又は当該病院を中心とした半径4 km以内に診療所が存在しない）24時間在宅医療を提供し、**緊急時に入院できる病床**を確保している病院。

在宅療養後方支援病院

連携医療機関の求めに応じて入院を必要とする患者の診療が24時間可能な体制を確保する許可病床200床以上の病院。

(2) 在宅医療の将来患者推計

東播磨圏域における訪問診療需要については、2025年度は2017年度対比で、兵庫県内で最も高い増加率である約1.6倍に増加する見込みである。
今後、要介護状態になるリスクが高い後期高齢者の割合が多くなることから、要介護認定率は高くなると見込まれる。

■ 訪問診療需要見込み

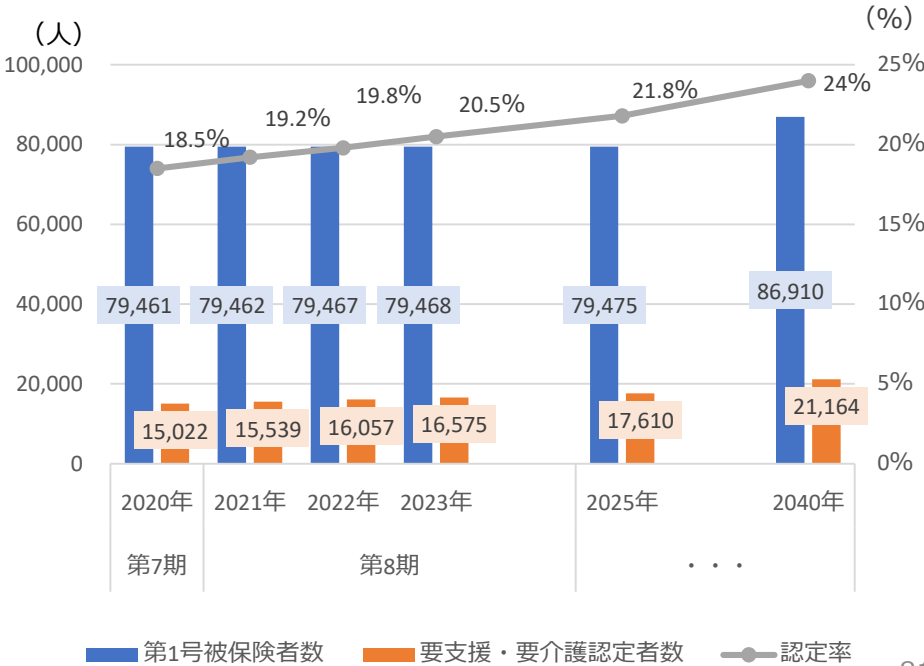
圏域名	神戸	阪神	東播磨	北播磨	播磨姫路	但馬	丹波	淡路	合計
2017年度推計	13,238	13,708	2,846	1,192	3,594	987	555	692	36,812
2025年度推計	17,393	20,632	4,519	1,441	4,771	1,097	705	993	51,551
増加率	131%	151%	159%	121%	133%	111%	127%	143%	140%

参照：第7次兵庫県保健医療計画

■ 第1号被保険者の要介護（要支援）認定者数の推移

区分	第7期				第8期		
	2020年	2021年	2022年	2023年	2025年	2040年	
第1号被保険者数	79,461	79,462	79,467	79,468	79,475	86,910	
要支援・要介護認定者数	15,022	15,539	16,057	16,575	17,610	21,164	
第1号被保険者	14,725	15,238	15,759	16,274	17,305	20,892	
第2号被保険者	297	301	298	301	305	272	
認定率	18.5%	19.2%	19.8%	20.5%	21.8%	24.0%	

参照：明石市高齢者いきいき福祉計画及び第8期介護保険事業計画



(3) まとめ

No.	領域	内容
①	供給面	明石市の在宅療養施設は全国値と比較して多く、明石市には在宅療養支援診療所が42施設、在宅療養支援病院が5施設、在宅療養後方支援病院が1施設、訪問看護事業所が36施設ある。
②	将来需要	訪問診療需要は、2017年度に比べ 2025年度には、約 1.6 倍に増加する見込み。
③	将来需要	今後、要介護状態になるリスクが高い後期高齢者の割合が多くなることから、要介護認定率は高くなる見込み。

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

6. 明石市の医療的施策の実施状況

6. 明石市の医療的施策の実施状況

(1) 主な医療的施策

施策		事業名		事業概要
ア	保健予防施策	(1)	予防接種事業	予防接種法に基づくインフルエンザ・肺炎球菌・風しん予防接種、新型コロナウイルスワクチン接種事業を実施。
		(2)	健診事業	疾病予防の観点から、肝炎、がん、生活習慣病、歯周病等のリスクを抱える市民を対象に、検診事業を実施。
イ	高齢者施策	(1)	認知症診断費等助成事業	認知症の疑いのある市民等に対して認知症の診断に係る経費等を助成し、早期の受診を促進し、早期の支援を実施。
		(2)	高齢者補聴器購入助成事業	聴力機能の低下により日常生活に支障がある高齢者に補聴器の装用を促進することにより、高齢者の社会参加及び地域交流を支援し、高齢者の認知症予防に資するため、補聴器の購入に要する費用を助成。
ウ	障がい者施策	(1)	医療的ケア児支援事業	医療的ケアが日常的に必要なこども（医療的ケア児）やその家族の日常生活及び社会生活を地域全体で支えるため、医療、福祉、保健、子育て支援、教育等が連携し、切れ目ない支援を実施。
		(2)	難病保健事業	①家族の介護負担軽減のために、在宅の難病患者・小児慢性特定疾病児について、医療保険による短期のレスパイト入院の利用を支援。 ②在宅療養が難しくなった際に、終身での長期入院を支援。
エ	子ども施策	(1)	病児保育事業	子育てと就労等の両立を支援するため、病気やけがの症状の進行が見られる時期（急性期）または症状の進行が止まり治癒に向かっている時期（回復期）にあり、保育所や放課後児童クラブ等での保育が困難な児童を対象に、専用施設での一時的預かりを実施。
		(2)	産後ケア事業	産婦の心身の回復・安定を図るため、育児方法や産婦の休息における支援を、宿泊・通所型を産科医療機関と助産所に、訪問型を個人の助産師や保健師等の専門職に委託して実施。
		(3)	療育事業	発達検査の受検及び療育支援の必要性のある対象者等へ医療機関等を紹介し、円滑に必要な医療につなぐ支援を実施。（令和5年度から開始）

6. 明石市の医療的施策の実施状況 ア. 保健予防

(1) 予防接種事業

予防接種法に基づくインフルエンザ・肺炎球菌・風しん予防接種、新型コロナウイルスワクチン接種事業を実施している。

■ 事業実績

(2022年度)

予防接種	市内実施医療機関数			対象者	対象者数(人)	接種者数(人)	接種率
	病院	診療所	合計				
高齢者インフルエンザ	18	158	176	①65歳以上の市民 ②満60歳以上65歳未満で 身体障害者手帳1級相当の市民	80,036	51,007	63.7%
高齢者肺炎球菌	18	129	147	①過去に接種歴がない 満65歳の市民 (R6~) ②満60歳以上65歳未満で 身体障害者手帳1級相当の市民	10,692	2,283	21.4%
風しん	16	91	107	(抗体検査) S37.4.2~S54.4.1生まれの男性 (予防接種) 抗体検査の結果、抗体価が低い方	212	174	82.1%
新型コロナウイルス感染症 ※生後6ヶ月以上の市民	18	102	120	①65歳以上の市民 ②満60歳以上65歳未満で 身体障害者手帳1級相当の市民	304,575	240,240 ※初回完了	78.9%

医療上の課題

- ・ 高齢者肺炎球菌、風しん、新型コロナウイルス感染症の予防接種については、医師会等と連携のもと対応医療機関を増やし、かかりつけ医で接種できるよう体制を整備する必要がある。

(2) 検診事業

疾病予防の観点から、肝炎、がん、生活習慣病、歯周病等のリスクを抱える市民を対象に、検診事業を実施している。

■ 事業実績

(2022年度)

検診		市内実施医療機関数			対象者	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率
		病院	診療所	合計				
肝炎ウイルス		17	90	106	40歳以上の市民	30,016	1,336	4.5%
がん	大腸がん	17	90	107	40歳以上の市民	95,993	11,261	11.7%
	胸部	5	1※	6		95,993	8,017	8.4%
	胃がん	17	90	107		95,993	2,654	2.8%
	子宮がん	4	11	15		70,961	11,355	16.0%
	乳がん	7	11	18		58,417	8,813	15.1%
一般健康診査		17	90	106	40歳以上の医療保険未加入者	4,016	166	4.1%
歯周病		115(障害歯科含む)			40、50、60、70歳の市民	15,861	759	4.8%

※集団検診のみ

医療上の課題

- ・ 医師会等と連携し、受診率の向上を図る。

(3) 乳幼児健康診査事業

乳幼児の健康状態を確認し、疾病の早期発見・早期治療や健やかな発達を促すとともに育児の支援を行うため、乳幼児を対象に健康診査事業を実施している。

■ 事業実績

(2022年度)

健康診査	市内実施医療機関数				受診者数(人)
	病院	診療所	こども健康センター	合計	
4 か月児健診	1	12	1	14	2,657
1 0 か月児健診	2	12		14	2,726
1 歳 6 か月児健診			1	1	2,748
3 歳 6 か月児健診			1	1	2,833

医療上の課題

- ・複数の健診に対応するための小児科医の確保

(1) 病児保育事業

- 事業概要 子育てと就労等の両立を支援するため、病気やけがの症状の進行が見られる時期（急性期）または症状の進行が止まり治癒に向かっている時期（回復期）にあり、保育所や放課後児童クラブ等での保育が困難な児童を対象に、専用施設での一時的預かりを実施。

〔市内の施設〕

病児保育室にこ 鷹匠町1-33 （明石市立市民病院内）
病児保育室ふたば 大久保町西島742-3 （医療法人双葉会）

- 事業実績 利用者数(人)

2021年度	473
2022年度	520

医療上の課題

- ・病児保育事業において、児童の急変時の安全・安心に万全を期すため、医療機関に併設する形で実施されることが望ましい。
- ・病児保育事業にニーズがあることから今後も増設していく必要があるが、実施可能な医療機関が見つかりにくい。
- ・民間保育施設が市の委託を受けて実施する形で新たに施設を設ける予定だが、指導医や連携施設が必要となる。

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

7. 明石市における診療領域ごとの分析

7. 明石市における診療領域ごとの分析

次ページ及び次々ページの各領域（A・B・C・D）の解釈の仕方

A領域（完結率**高**、需要**増**）

→現在、地域完結率が高く、今後患者増加が見込まれる領域。

そのため、今後増加する患者の受入体制を整える必要がある。

B領域（完結率**高**、需要**減**）

→現在、地域完結率が高く、今後患者減少が見込まれる領域。

そのため、今後機能強化を図る必要性はないが、患者数に併せ、受入体制を維持していく必要がある。

C領域（完結率**低**、需要**増**）

→現在、地域完結率が低く、今後患者増加が見込まれる領域。

そのため、将来の患者増加分だけでなく、地域完結率向上の観点からも受入体制の拡張が求められる。

D領域（完結率**低**、需要**減**）

→現在、地域完結率が低く、今後患者減少が見込まれる領域。

地域完結率が低いという状況を改善する必要性がある一方で、患者需要が少なくなることから、

特定の医療機関に機能集約する等、効率的な医療提供を考える必要がある。

7. 明石市における診療領域ごとの分析【入院】

縦軸⇒ICD疾患分類別**将来入院患者増減率**（2020年～2040年・2050年）

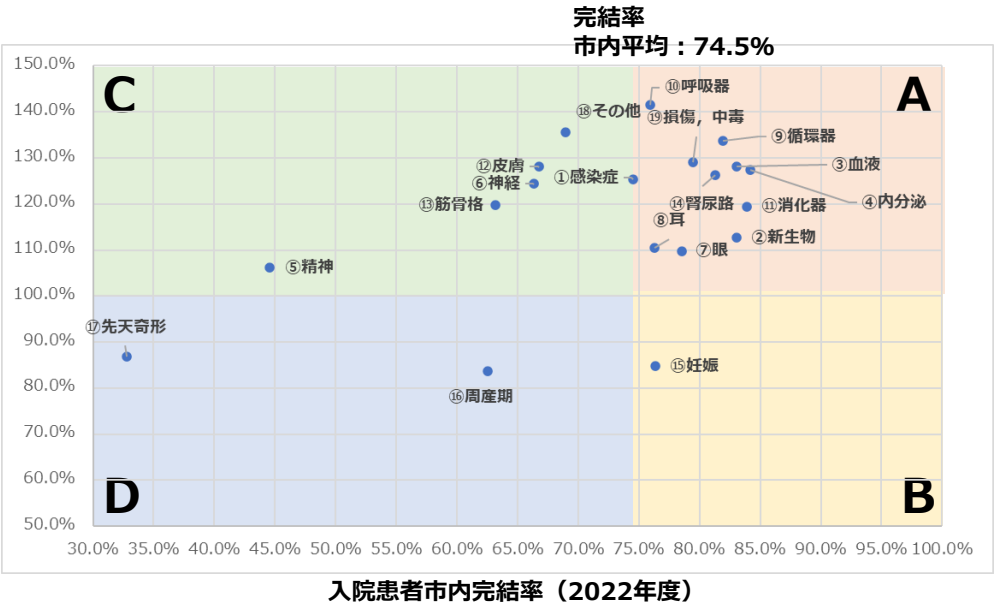
参照：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）

横軸⇒国保レセプト・後期高齢者レセプトからみる入院患者市内完結率(2022年度)

参照：国保レセプトデータ及び後期高齢者レセプトデータ（2022年度）

2040年時点

将来入院患者増減率（2040年時点）



A領域（完結率高、需要増）
→新生物、血液、内分泌、眼、耳、循環器、呼吸器、消化器、腎尿路、損傷・中毒

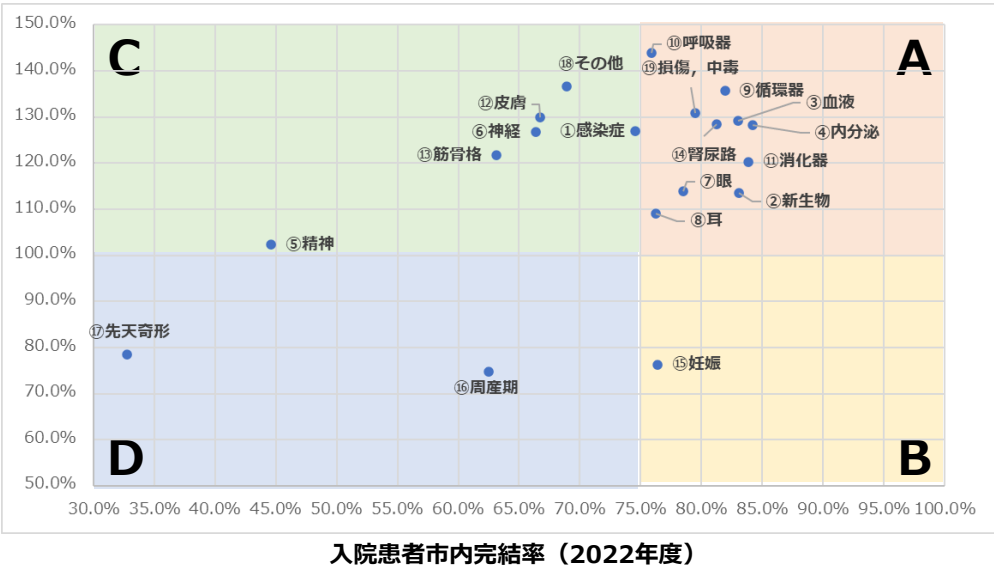
B領域（完結率高、需要減）
→妊娠

C領域（完結率低、需要増）
→感染症、精神、神経、皮膚、筋骨格、その他

D領域（完結率低、需要減）
→周産期、先天奇形

2050年時点

将来入院患者増減率（2050年時点）



A領域（完結率高、需要増）
→新生物、血液、内分泌、眼、耳、循環器、呼吸器、消化器、腎尿路、損傷・中毒

B領域（完結率高、需要減）
→妊娠

C領域（完結率低、需要増）
→感染症、精神、神経、皮膚、筋骨格、その他

D領域（完結率低、需要減）
→周産期、先天奇形

7. 明石市における診療領域ごとの分析【外来】

縦軸⇒ICD疾患分類別**将来外来患者増減率**（2020年～2040年・2050年）

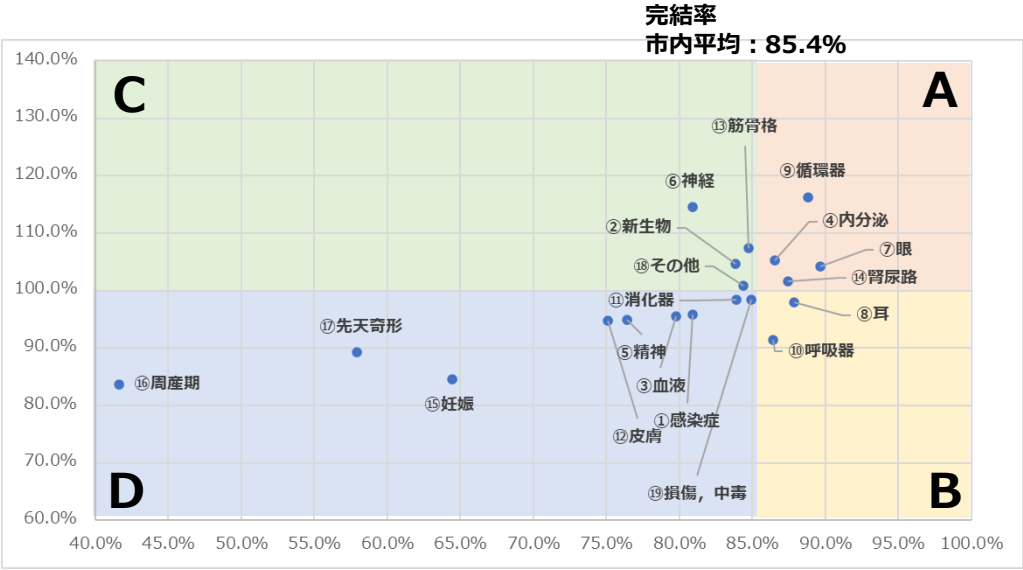
参照：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）

横軸⇒国保レセプト・後期高齢者レセプトからみる外来患者市内完結率(2022年度)

参照：国保レセプトデータ及び後期高齢者レセプトデータ（2022年度）

2040年時点

将来外来患者増減率（2040年時点）



外来患者市内完結率（2022年度）

A領域（需要**増**、完結率**高**）
→内分泌、眼、循環器、腎尿路

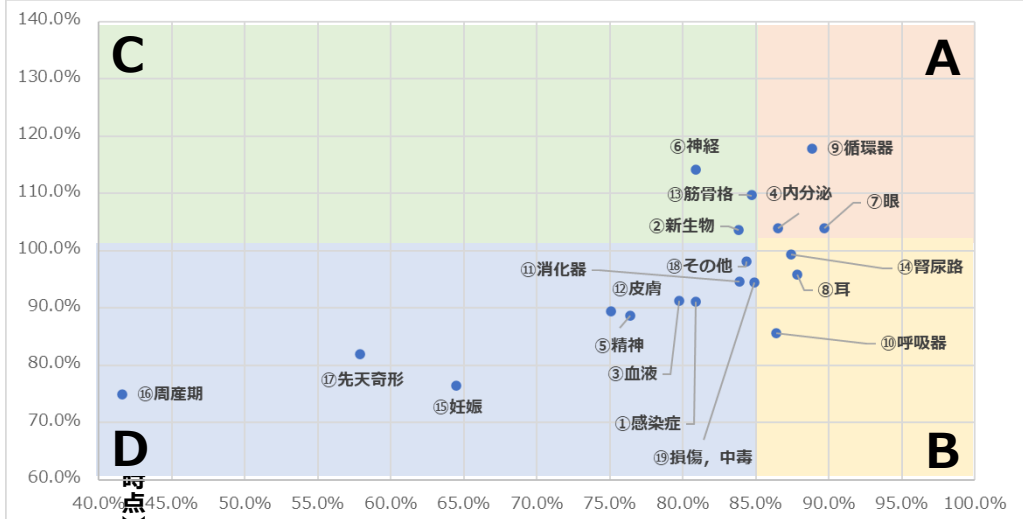
B領域（需要**減**、完結率**高**）
→耳、呼吸器

C領域（需要**増**、完結率**低**）
→新生物、神経、筋骨格、その他

D領域（需要**減**、完結率**低**）
→感染症、血液、精神、消化器、皮膚、妊娠、周産期、先天奇形、損傷・中毒

2050年時点

将来外来患者増減率（2050年時点）



外来患者市内完結率（2022年度）

A領域（需要**増**、完結率**高**）
→内分泌、眼、循環器

B領域（需要**減**、完結率**高**）
→耳、呼吸器、腎尿路

C領域（需要**増**、完結率**低**）
→新生物、神経、筋骨格

D領域（需要**減**、完結率**低**）
→感染症、血液、精神、消化器、皮膚、妊娠、周産期、先天奇形、その他、損傷・中毒

I. 明石市の地域医療について

(市の地域医療の現状把握及び将来推計等)

8. 調査のまとめ

8. 調査のまとめ

項目	ポイント
1. 国及び県の医療政策	第8次医療計画策定のポイントとして、新興感染症対策を新たな事業として盛り込むほか、第7次医療計画に追加した医師確保計画、外来医療計画も見直しを行う。 2024年診療報酬改定において、救急医療機関の役割の明確化、かかりつけ医機能の評価見直し、外来機能分化の推進、オンライン診療の点数拡充、医師の働き方改革、医療DXの推進等がポイントとされている。
2. 明石市における医療提供体制調査	明石市内には病院が21施設あり、一般病床もしくは療養病床を保有する病院は19病院、精神科病床を有する病院が2病院ある。 兵庫県の保健医療計画では、2040年の東播磨医療圏における急性期病床と回復期病床の必要数は同程度必要とされており、それに対して2021年時点では急性期病床は過剰、回復期病床は不足している。 明石市における病床の整備状況としても、2021年度の病床機能報告でも急性期病床数は回復期病床数よりも1000床以上多い。ただし、病床数を入院基本料をベースに急性期・回復期に振り分けた結果、病床数の差が100床未満となった。 明石市内で高度急性期・急性期機能の病床を保有する病院は、明石市立市民病院、明石医療センター、兵庫県立がんセンター、大久保病院、大西脳神経外科病院の5病院である。 明石市内の200床未満の病院は回復期病床、慢性期病床を中心に保有している。 明石市内で標ぼうする医療機関がない診療科目として、感染症内科、小児外科が該当する。 明石市内の医療機関におけるDPC退院患者のうち明石医療センターの患者が全体の3割以上を占めており、続いて兵庫県立がんセンター、明石市立市民病院の順で退院患者数の割合が高い。
3. 明石市における患者の疾病動向・受療動向調査	明石市のレセプトデータからみた外来患者について、市内完結率は85%である。流出状況として、神戸市西区へは精神系、神戸市中央区へは周産期系及び先天奇形が流出傾向にある。 明石市のレセプトデータからみた入院患者について、市内完結率は74%である。流出状況として、神戸市西区へは精神系、筋骨格系、周産期系、神戸市中央区へは周産期系及び先天奇形が流出傾向にある。

8. 調査のまとめ

項目	ポイント
4. 明石市における 患者の将来医療 需要推計	総人口は 減少傾向 である。
	高齢化率・後期高齢化率 ともに 2020年から2050年の間に約8%増加 する。
	明石市の 外来患者数は2025年まで増加し、その後減少傾向 にある。
	明石市の 外来患者推計を傷病別にみると、神経系・循環器系は少なくとも2035年までは増加傾向 にあり、 精神系・呼吸器系・皮膚系・妊娠・周産期系・先天奇形は既に減少傾向 にある。
	明石市の 入院患者数は2035年まで増加し、その後減少傾向 に転じる見込み。
	明石市の 入院患者推計を傷病別にみると、ほとんどの傷病で2020年よりも増加し、特に呼吸器系の増加率が高い 。一方、 妊娠・周産期・先天奇形は既に減少傾向 にある。
	明石市の DPC入院実患者数は2035年まで増加し、その後減少傾向 に転じる見込み。
	明石市のDPC入院実患者推計をMDC疾患分類別にみると、 神経系・眼科系・呼吸器系・循環器系・腎尿路系・血液系・外傷系・その他で2035年まで増加 する見込み。 女性生殖器系・新生児系・小児系は減少傾向 にある。
	地域包括ケア病棟の入院患者は少なくとも2040年まで増加し、その後ほぼ横ばい に推移する見込み。
	地域包括ケア病床の現在の病床数は将来必要病床数を上回っている 。
5. 明石市における 政策的医療の需給 状況分析【救急】	市内に三次救急医療施設はなく、医療圏内において県立加古川医療センターが三次救急に対応 。
	二次救急体制としては 市内12の医療機関で、病院群輪番制 で対応。
	一次救急に関しては 夜間休日応急診療所及び在宅当番医制 をもって対応。
	救急搬送件数は近年では2019年が最も多く、 約14,000件の救急搬送 。なお、 市内完結率については、85%程度 で推移。
	明石市の 救急搬送件数は2035年まで増加し、その後横ばい に推移する見込み。
5. 明石市における 政策的医療の需給 状況分析【小児】	明石市立市民病院及び明石医療センターの2病院が東播磨臨海地域小児二次救急輪番制の対応病院として、二次救急の受け入れを実施 。
	一次救急については、 夜間休日応急診療所や在宅当番医制(年末年始等) で対応。
	小児科における救急搬送件数は、 2022年で市内完結率は50%を下回っている 。
	明石市の 小児救急搬送件数は今後、減少傾向 となる見込み。
	明石市において、 新生児・小児疾患を受け入れている施設は限られ、先天性疾患等の患者に関しては、加古川中央市民病院が受け入れ 。
	20歳未満の将来患者数について、 入院患者・外来患者とともに現在から既に減少傾向 にある。

8. 調査のまとめ

項目	ポイント
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【災害】	明石市内に災害拠点病院はなく、東播磨圏内においては県立加古川医療センターと加古川中央市民病院が地域災害拠点病院に指定。 明石医療センター、明石市立市民病院が災害対応病院（明石市指定） 南海トラフにおける負傷者数は約1,200～1,900人程度、うち重症者数は140～200人と想定。
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【周産期】	明石市内において、周産期医療を提供している病院は2施設あり、明石医療センターは地域周産期母子医療センターとして、あさぎり病院は地域周産期病院として周産期医療を提供。 明石市内の分娩取扱い施設における年間分娩件数は明石市の出生数を上回っている。 NICU・GCUを保有している医療機関は明石医療センターのみ。 周産期系疾患の将来患者数について、外来患者・入院患者ともに現在から既に減少傾向にある。
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【がん】	専門的ながん診療の機能を有する病院は明石市に2施設。 県立がんセンターががん拠点病院（国指定）を取得。 緩和ケアチームを保有する病院は明石市内には5施設あり、ふくやま病院・大久保病院が緩和ケア病床を保有。 明石市内において、兵庫県立がんセンター（約4,000件/年）と明石医療センター（約1,000件/年）が多くのがん患者を受け入れ。 兵庫県立がんセンターはがん治療に関連する検査機器・治療設備ともに複数台保有。 外来患者は2045年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、肝及び肝内胆管が大幅な増加が見られる一方で乳房・子宮は減少傾向。 入院患者は少なくとも2050年まで増加する見込み。疾患別にみると、胃・結腸・肝及び肝内胆管が大幅な増加が見られる一方で乳房・子宮・白血病で減少傾向。
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【脳血管疾患】	脳卒中の急性期医療の機能を有する病院は明石市には2施設ある。また、回復期医療の機能を有する病院は明石市に6施設ある。 明石市内において、大西脳神経外科病院が最も多くの脳血管疾患の患者を受け入れ。 外来患者は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳梗塞の患者数が大幅に増加。 入院患者は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳内出血、脳梗塞、その他の脳血管疾患が大幅に増加。

8. 調査のまとめ

項目	ポイント
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【心血管疾患】	心血管疾患の急性期医療の機能を有する病院は明石市には2施設ある。また、回復期医療の機能を有する病院は明石市に4施設ある。
	明石市において、心血管疾患の患者を最も多く受け入れているのは明石医療センター。
	明石市内において、血管撮影装置を整備している病院は6施設あり、明石医療センターは3台保有。
	明石医療センターはハイブリッド手術室を整備。
	外来患者は少なくとも2050年まで増加する見込み。疾患別にみると、高血圧性疾患、虚血性心疾患、その他の心疾患、動脈硬化（症）で大幅に増加。
	入院患者は2035年まで増加し、その後ほぼ横ばいに推移する見込み。疾患別にみると、ほとんどの領域で大幅に増加。
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【糖尿病】	糖尿病の専門治療の機能を有する病院は明石市に2施設ある。また、糖尿病の急性増悪時治療の機能を有する病院は明石市に4施設ある。糖尿病の慢性合併症治療の機能を有する病院は明石市に1施設ある。
	明石市内の糖尿病患者の受入状況をみると明石医療センター、大久保病院、明舞中央病院、あさぎり病院で受け入れ。
	外来患者は2045年まで増加し、その後横ばいで推移する見込み。
	入院患者は2035年まで増加し、その後横ばいで推移する見込み。
	明石市において14施設が人工透析を提供しており、最大約1,170人の透析患者の受入が可能
	将来実患者数（血液透析患者かつ通院患者）は2035年度まで増加し、その後横ばいで推移する見込み。供給が需要を上回っている。
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【精神疾患】	精神病床を有する病院は明石市に2施設ある。精神疾患の身体合併症への対応が可能な病院は、明石市に6施設ある。精神疾患に係る診断及び治療について対応が可能な病院は明石市に8施設ある。
	外来患者は2035年まで増加傾向、その後減少傾向になる見込み。疾患別にみると、認知症は大幅な増加が見られる。
	入院患者は2030年以降、減少傾向になる見込み。疾患別にみると、認知症が2050年まで約53%（対2020年）と大幅な増加が見られ、それ以外の疾患では減少傾向。
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【感染症】	感染症病床を有する病院に関して、東播磨圏域において、県立加古川医療センターが第1種・2種感染症病床を保有。明石市においては、感染症病床を保有している病院はない。
	第8次医療計画において、感染症対策における平時及び感染拡大時の対応方針の検討がなされる。
5. 明石市における政策的医療の需給状況分析【在宅】	明石市の在宅療養施設は全国値と比較して多く、明石市には在宅療養支援診療所が42施設、在宅療養支援病院が5施設、在宅療養後方支援病院が1施設、訪問看護が36施設ある。
	訪問診療需要は、2017年度に比べ2025年度には、約1.6倍に増加する見込み。
	今後、要介護状態になるリスクが高い後期高齢者の割合が多くなることから、要介護認定率は高くなる見込み。

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-1．市民病院診療圏における地域医療提供体制

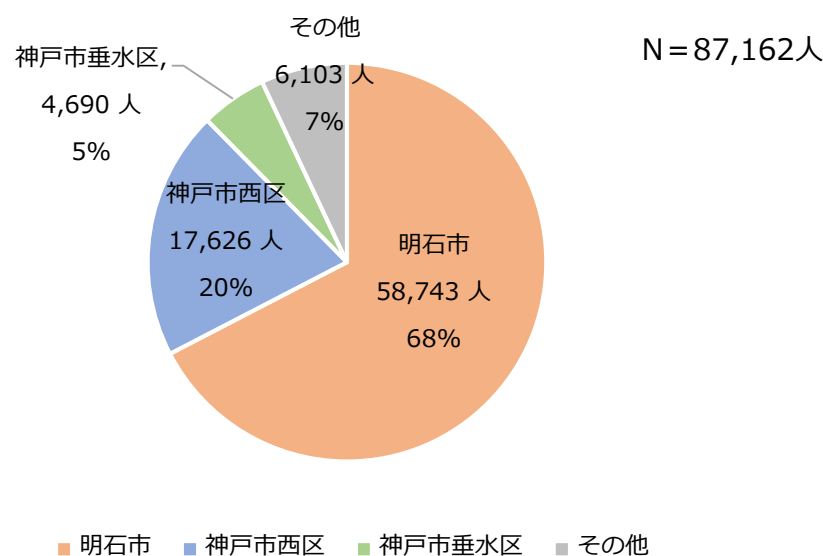
1．診療圏における医療提供体制調査

1. 診療圏における医療提供体制調査

居住地別患者数（明石市立市民病院）

明石市立市民病院における入院患者の居住地は、68%が明石市、20%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区。
外来患者の居住地は、66%が明石市、22%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区。
明石市立市民病院の外部環境調査を実施する上での診療圏は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区と設定する。

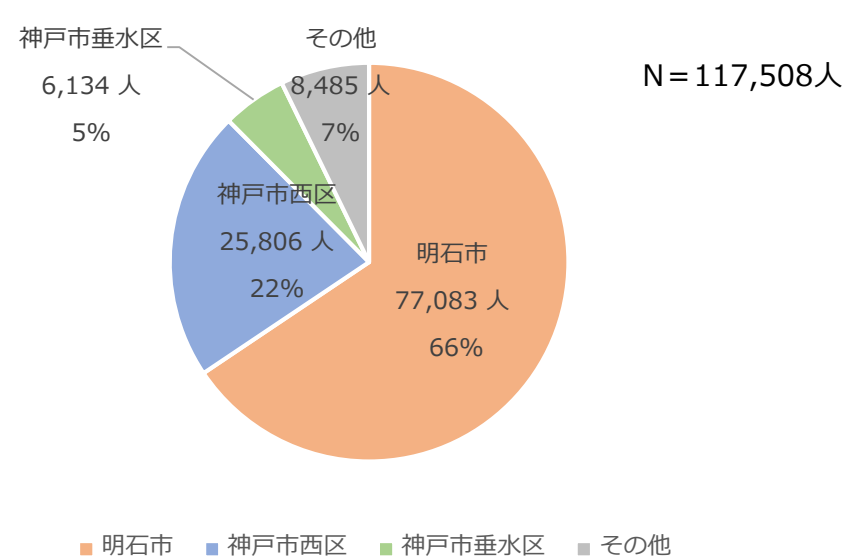
■居住地別延べ患者数（入院）



**明石市内
68%**

**明石市 + 神戸市西区 + 神戸市垂水区
93%**

■居住地別延べ患者数（外来）



**明石市内
66%**

**明石市 + 神戸市西区 + 神戸市垂水区
93%**

1. 診療圏における医療提供体制調査

(1) 診療圏内の医療機関情報

診療圏内に一般病床もしくは療養病床を保有する病院は36施設ある。
明石市では明石医療センター、兵庫県立がんセンター、明石市立市民病院、神戸市西区では神戸市立西神戸医療センター、兵庫県立リハビリテーション中央病院、神戸掖済会病院、神戸市垂水区では神戸徳洲会病院が200床以上の病床を保有している。

■ 診療圏内の病院一覧

※一般病床もしくは療養病床を保有

NO.	所在地	施設名
1	明石市	兵庫県立がんセンター
2	明石市	明石医療センター
3	明石市	明石市立市民病院
4	明石市	大久保病院
5	明石市	明舞中央病院
6	明石市	野木病院
7	明石市	大西脳神経外科病院
8	明石市	明石回生病院
9	明石市	明石仁十病院
10	明石市	江井島病院
11	明石市	石井病院
12	明石市	明石リハビリテーション病院
13	明石市	あさひ病院
14	明石市	あさぎり病院
15	明石市	明石同仁病院
16	明石市	ふくやま病院
17	明石市	神明病院
18	明石市	王子回生病院
19	明石市	明海病院
20	神戸市西区	神戸市立西神戸医療センター
21	神戸市西区	兵庫県立リハビリテーション中央病院
22	神戸市西区	広野高原病院
23	神戸市西区	久野病院
24	神戸市西区	伊川谷病院
25	神戸市西区	みどり病院
26	神戸市西区	協和病院
27	神戸市西区	偕生病院
28	神戸市西区	足立病院
29	神戸市西区	伊川谷北病院
30	神戸市西区	なでしこレディースホスピタル
31	神戸市垂水区	神戸徳洲会病院
32	神戸市垂水区	神戸掖済会病院
33	神戸市垂水区	佐野病院
34	神戸市垂水区	舞子台病院
35	神戸市垂水区	順心神戸病院
36	神戸市垂水区	名谷病院

■ 周辺医療機関分布状況



参照：病床機能報告 2021年度
※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

1. 診療圏における医療提供体制調査

(1) 診療圏内の医療機関情報

診療実績をみると、病床稼働率については200床以上の病院のなかでは明石医療センターが91.9%と最も高い。また、36病院の中で平均在院日数は、なでしこレディースクリニック、あさぎり病院、西神戸医療センター、明石医療センターが短い。

■ 診療圏内36病院の基本情報一覧 参照：病床機能報告 2021年度

NO.	施設名	所在地	許可病床数 (床)		稼働病床数 (床)		延べ患者数 (人)	病床 稼働率	平均 在院日数 (日)	新入院 (転棟含む) (人)	退院 (転棟含む) (人)
			一般	療養	一般	療養					
1	兵庫県立がんセンター	明石市	400	0	343	0	80,994	60.2%	11.5	9,953	9,945
2	明石医療センター		382	0	382	0	127,424	91.9%	10.7	13,324	19,139
3	明石市立市民病院		329	0	303	0	86,885	78.6%	13.0	7,823	7,836
4	大久保病院		160	39	159	39	58,757	78.2%	23.4	3,353	3,329
5	明舞中央病院		149	50	141	50	41,273	59.2%	43.2	955	—
6	野木病院		118	80	114	80	31,117	84.4%	40.6	758	888
7	大西脳神経外科病院		172	0	152	0	48,369	81.2%	20.7	3,816	4,829
8	明石回生病院		155	0	147	0	45,525	82.2%	65.2	868	877
9	明石仁十病院		49	100	50	100	50,184	94.4%	81.1	715	860
10	江井島病院		120	0	120	0	38,722	84.6%	58.4	1,110	1,098
11	石井病院		46	57	40	57	29,664	85.1%	38.3	997	980
12	明石リハビリテーション病院		0	103	0	103	32,284	77.6%	82.5	385	389
13	あさひ病院		100	0	100	0	33,520	87.5%	65.7	471	480
14	あさぎり病院		99	0	76	0	15,239	70.5%	6.0	3,974	3,967
15	明石同仁病院		0	99	0	99	39,291	87.3%	310.6	63	72
16	ふくやま病院		92	0	75	0	21,472	78.1%	20.9	1,326	1,326
17	神明病院		0	71	0	70	19,230	91.2%	126.0	176	169
18	王子回生病院		69	0	69	0	25,051	97.9%	425.2	65	67
19	明海病院	神戸市西区	0	60	0	60	18,593	86.9%	216.2	51	87
20	神戸市立西神戸医療センター		425	0	380	0	119,538	73.8%	10.4	16,398	16,422
21	兵庫県立リハビリテーション中央病院		330	0	282	0	82,672	68.2%	60.8	1,266	1,322
22	広野高原病院		0	147	0	143	48,137	85.7%	135.6	274	387
23	久野病院		0	118	0	87	26,593	65.0%	270.6	94	98
24	伊川谷病院		115	0	113	0	35,558	83.4%	40.2	760	0
25	みどり病院		108	0	108	0	30,684	58.4%	11.0	2,273	2,258
26	協和病院		54	45	41	45	26,064	75.6%	63.0	436.0	430.0
27	偕生病院		81	0	77	0	23,326	80.2%	—	—	—
28	足立病院		60	0	42	0	12,124	57.4%	41.4	294	287
29	伊川谷北病院		0	56	0	34	11,586	93.4%	965.5	12	17
30	なでしこレディースホスピタル		48	0	29	0	9,503	48.8%	4.0	2,144	2,140
31	神戸徳洲会病院	神戸市垂水区	309	0	159	0	34,842	48.5%	13.5	1,955	1,950
32	神戸掖済会病院		286	0	286	0	89,156	75.4%	16.3	7,549	7,554
33	佐野病院		131	0	120	0	32,833	49.1%	11.7	2,292	2,540
34	舞子台病院		60	60	62	60	42,514	63.0%	61.6	722	711
35	順心神戸病院		118	0	118	0	26,518	90.7%	29.4	1,001	1,163
36	名谷病院		60	52	60	52	34,812	85.2%	32.3	1,077	1,212

※ 1 病床稼働率 = 年間延べ患者数 ÷ 年間延べ病床数

※ 2 明石市立市民病院の延べ患者数及び病床稼働率、平均在院日数は病院受領データ（2021年度）より

※ 3 明舞中央病院の平均在院日数は延べ患者数を新規入院患者数で割り戻し算出

※ 4 本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

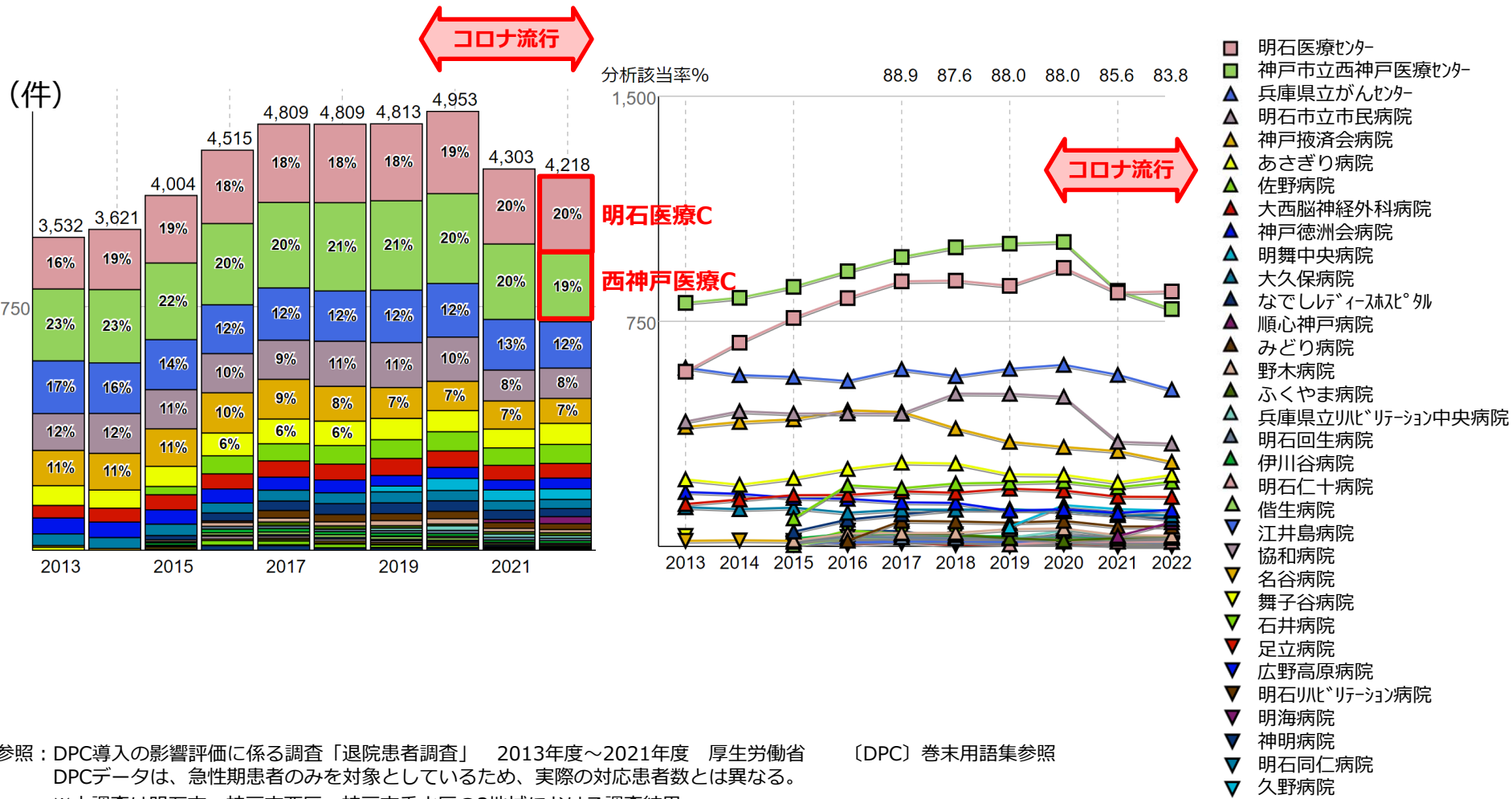
101

1. 診療圏における医療提供体制調査

(2) 診療圏における医療機関別退院患者数及びシェア率

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、診療圏内の医療機関におけるDPC退院患者のうち明石医療センターと神戸市立西神戸医療センターの患者がそれぞれ全体の2割を占めており、続いて兵庫県立がんセンター、明石市立市民病院、神戸掖済会病院の順で退院患者数の割合が高くなっている。明石市立市民病院のDPC退院患者は2021年以降全体の10%を下回り、2013年から2022年の9年間で4%減少している。

■ 医療機関別退院患者割合の推移（診療圏） ■ 医療機関別退院患者数の推移（診療圏）



参照：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」 2013年度～2021年度 厚生労働省
DPCデータは、急性期患者のみを対象としているため、実際の対応患者数とは異なる。
※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

〔DPC〕 巻末用語集参照

1. 診療圏における医療提供体制調査

(2) 診療圏における医療機関別退院患者数及びシェア率

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、2019年度(コロナ前)の診療圏内のDPC患者の受入シェア率をみると、全体では西神戸医療センターが21.0%と最も高く、次いで、明石医療センターが18.6%、兵庫県立がんセンターが12.8%、明石市立市民病院が10.5%である。神経系は大西脳神経外科病院、眼科系はあさぎり病院、新生児系はなでしこレディースホスピタルのシェア率が高い。

■ 診療圏内医療機関のDPC患者受入状況（2019年度）

傷病名	DPC受入状況（上段：受入件数 下段：地域内シェア率）														
	兵庫県立がんセンター	明石医療センター	明石市立市民病院	大久保病院	明舞中央病院	野木病院	大西脳神経外科病院	あさぎり病院	神戸市立西神戸医療センター	兵庫県立リハビリテーション中央病院	神戸救済会病院	神戸徳洲会病院	佐野病院	みどり病院	なでしこレディースホスピタル
①神経系	68	159	197	41	499	23	1,749	-	650	96	511	106	15	59	-
	1.6%	3.7%	4.6%	1.0%	11.6%	0.5%	40.6%	-	15.1%	2.2%	11.9%	2.5%	0.3%	1.4%	-
②眼科系	-	-	613	-	-	-	-	1,619	676	-	-	-	-	-	-
	-	-	20.8%	-	-	-	-	55.0%	23.0%	-	-	-	-	-	-
③耳鼻咽喉科系	347	184	360	33	11	21	-	-	714	-	132	54	23	35	-
	17.4%	9.2%	18.0%	1.7%	0.6%	1.1%	-	-	35.8%	-	6.6%	2.7%	1.2%	1.8%	-
④呼吸器系	1,085	1,784	650	167	131	96	-	46	1,539	-	448	237	205	172	25
	15.0%	24.7%	9.0%	2.3%	1.8%	1.3%	-	0.6%	21.3%	-	6.2%	3.3%	2.8%	2.4%	0.3%
⑤循環器系	17	2,161	401	123	36	142	-	14	811	-	782	319	25	73	-
	0.3%	42.0%	7.8%	2.4%	0.7%	2.8%	-	0.3%	15.8%	-	15.2%	6.2%	0.5%	1.4%	-
⑥消化器系	2,129	2,821	1,737	361	157	203	-	99	2,882	-	554	253	1,655	156	-
	15.7%	20.7%	12.8%	2.7%	1.2%	1.5%	-	0.7%	21.2%	-	4.1%	1.9%	12.2%	1.1%	-
⑦筋骨格系	365	319	88	211	179	22	165	-	305	370	292	14	44	15	-
	14.7%	12.9%	3.6%	8.5%	7.2%	0.9%	6.7%	-	12.3%	14.9%	11.8%	0.6%	1.8%	0.6%	-
⑧皮膚系	169	100	115	-	12	10	-	-	276	-	268	22	10	15	-
	16.7%	9.9%	11.4%	-	1.2%	1.0%	-	-	27.3%	-	26.5%	2.2%	1.0%	1.5%	-
⑨乳房系	368	-	58	-	-	-	-	-	192	-	44	-	-	-	-
	52.3%	-	8.3%	-	-	-	-	-	27.3%	-	6.3%	-	-	-	-
⑩内分泌系	78	263	92	44	64	15	15	31	306	10	123	108	57	43	-
	5.5%	18.7%	6.5%	3.1%	4.5%	1.1%	1.1%	2.2%	21.7%	0.7%	8.7%	7.7%	4.0%	3.1%	-
⑪腎尿路系	849	456	752	82	92	26	-	25	1,361	67	188	108	51	77	-
	19.7%	10.6%	17.4%	1.9%	2.1%	0.6%	-	0.6%	31.5%	1.6%	4.4%	2.5%	1.2%	1.8%	-
⑫女性生殖系	1,326	632	283	-	-	-	-	232	734	-	-	28	299	-	267
	34.9%	16.6%	7.4%	-	-	-	-	6.1%	19.3%	-	-	0.7%	7.9%	-	7.0%
⑬血液系	289	77	159	-	18	11	-	-	340	-	37	20	44	14	-
	28.6%	7.6%	15.8%	-	1.8%	1.1%	-	-	33.7%	-	3.7%	2.0%	4.4%	1.4%	-
⑭新生児系	-	540	-	-	-	-	-	201	182	-	-	-	-	-	657
	-	33.9%	-	-	-	-	-	12.6%	11.4%	-	-	-	-	-	41.3%
⑮小児系	-	31	64	-	-	-	-	-	126	-	-	-	-	-	-
	-	14.0%	29.0%	-	-	-	-	-	57.0%	-	-	-	-	-	-
⑯外傷系	-	763	288	273	395	74	274	36	582	56	458	81	94	22	17
	-	19.5%	7.4%	7.0%	10.1%	1.9%	7.0%	0.9%	14.9%	1.4%	11.7%	2.1%	2.4%	0.6%	0.4%
⑰精神系	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	17	28	-	-	-
	-	23.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	21.8%	35.9%	-	-	-
⑱その他	113	183	71	-	-	10	-	-	165	16	75	64	23	-	-
	15.3%	24.8%	9.6%	-	-	1.4%	-	-	22.4%	2.2%	10.2%	8.7%	3.1%	-	-
合計	7,203	10,491	5,928	1,335	1,594	653	2,203	2,303	11,841	615	3,929	1,442	2,545	681	966
	12.8%	18.6%	10.5%	2.4%	2.8%	1.2%	3.9%	4.1%	21.0%	1.1%	7.0%	2.6%	4.5%	1.2%	1.7%

※ 1 DPC受入件数について10件未満について、公開データの特性上「-」表示となっている。
※ 2 DPC受入件数の合計が500件以上の病院のみ記載 ※ 3 本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果
参照：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」 2019年度 厚生労働省
DPCデータは、急性期患者のみを対象としているため、実際の対応患者数とは異なる。

1. 診療圏における医療提供体制調査

(2) 診療圏における医療機関別退院患者数及びシェア率

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、2021年度(コロナ禍)の診療圏内のDPC患者の受入シェア率をみると、2019年度と同様の傾向がみられた。
明石市立市民病院のシェア率については、2019年度の10.5%から8.8%に減少している。

■ 診療圏内医療機関のDPC患者受入状況（2021年度）

傷病名	DPC受入状況（上段：受入件数 下段：地域内シェア率）														
	兵庫県立がんセンター	明石医療センター	明石市立市民病院	大久保病院	明舞中央病院	野木病院	大西脳神経外科病院	あさぎり病院	神戸市立西神戸医療センター	兵庫県立リハビリテーション中央病院	神戸救済会病院	神戸徳洲会病院	佐野病院	みどり病院	なでしこレディースホスピタル
①神経系	59 1.7%	157 4.4%	130 3.6%	36 1.0%	433 12.1%	-	1,517 42.5%	-	576 16.1%	48 1.3%	451 12.6%	61 1.7%	-	20 0.6%	-
②眼科系	-	-	238 10.0%	-	-	-	-	1,634 68.9%	467 19.7%	-	-	-	-	-	-
③耳鼻咽喉科系	251 19.9%	203 16.1%	193 15.3%	34 2.7%	-	10 0.3%	-	-	356 28.3%	-	70 5.6%	55 4.4%	14 1.1%	19 1.5%	-
④呼吸器系	818 16.3%	1,369 27.3%	287 5.7%	73 1.5%	81 1.6%	32 0.9%	-	32 0.6%	1,010 20.1%	-	346 6.9%	282 5.6%	97 1.9%	53 1.1%	214 4.3%
⑤循環器系	-	1,626 43.8%	363 9.8%	88 2.4%	40 1.1%	24 0.7%	10 0.3%	18 0.5%	595 16.0%	-	660 17.8%	113 3.0%	25 0.7%	30 0.8%	-
⑥消化器系	1,912 15.9%	2,685 22.4%	1,211 10.1%	331 2.8%	143 1.2%	183 5.1%	-	116 1.0%	2,021 16.9%	-	554 4.6%	424 3.5%	1,767 14.7%	118 1.0%	-
⑦筋骨格系	194 10.8%	284 15.9%	76 4.2%	238 13.3%	150 8.4%	15 0.4%	137 7.7%	-	292 16.3%	168 9.4%	118 6.6%	16 0.9%	47 2.6%	-	-
⑧皮膚系	123 18.2%	82 12.1%	89 13.2%	16 2.4%	20 3.0%	13 0.4%	-	13 1.9%	187 27.7%	-	111 16.4%	22 3.3%	-	-	-
⑨乳房系	418 57.5%	-	63 8.7%	-	-	-	-	-	148 20.4%	-	34 4.7%	-	-	-	-
⑩内分泌系	63 5.5%	266 23.3%	64 5.6%	40 3.5%	47 4.1%	12 0.3%	10 0.9%	26 2.3%	219 19.2%	-	109 9.5%	106 9.3%	64 5.6%	24 2.1%	-
⑪腎尿路系	736 19.9%	471 12.7%	598 16.2%	84 2.3%	56 1.5%	22 0.6%	-	27 0.7%	1,251 33.8%	-	168 4.5%	104 2.8%	28 0.8%	48 1.3%	-
⑫女性生殖系	1,299 34.2%	765 20.1%	290 7.6%	10 0.3%	-	-	-	219 5.8%	663 17.4%	-	-	43 1.1%	317 8.3%	-	197 5.2%
⑬血液系	247 26.3%	85 9.0%	162 17.2%	-	14 1.5%	-	-	-	310 33.0%	-	51 5.4%	20 2.1%	38 4.0%	13 1.4%	-
⑭新生児系	-	189 21.3%	-	-	-	-	-	176 19.8%	194 21.9%	-	-	-	-	-	328 37.0%
⑮小児系	-	34 25.2%	26 19.3%	-	-	-	-	-	75 55.6%	-	-	-	-	-	-
⑯外傷系	-	660 18.5%	191 5.4%	262 7.4%	408 11.5%	68 1.9%	277 7.8%	23 0.6%	462 13.0%	134 3.8%	515 14.5%	56 1.6%	99 2.8%	-	23 0.6%
⑰精神系	-	13 24.1%	22 40.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑱その他	97 9.4%	245 23.8%	57 5.5%	-	-	-	-	11 1.1%	382 37.1%	-	78 7.6%	117 11.3%	13 1.3%	-	-
合計	6,255 13.5%	9,134 19.7%	4,060 8.8%	1,212 2.6%	1,392 3.0%	379 0.8%	1,951 4.2%	2,295 4.9%	9,208 19.9%	350 0.8%	3,265 7.0%	1,419 3.1%	2,509 5.4%	325 0.7%	762 1.6%

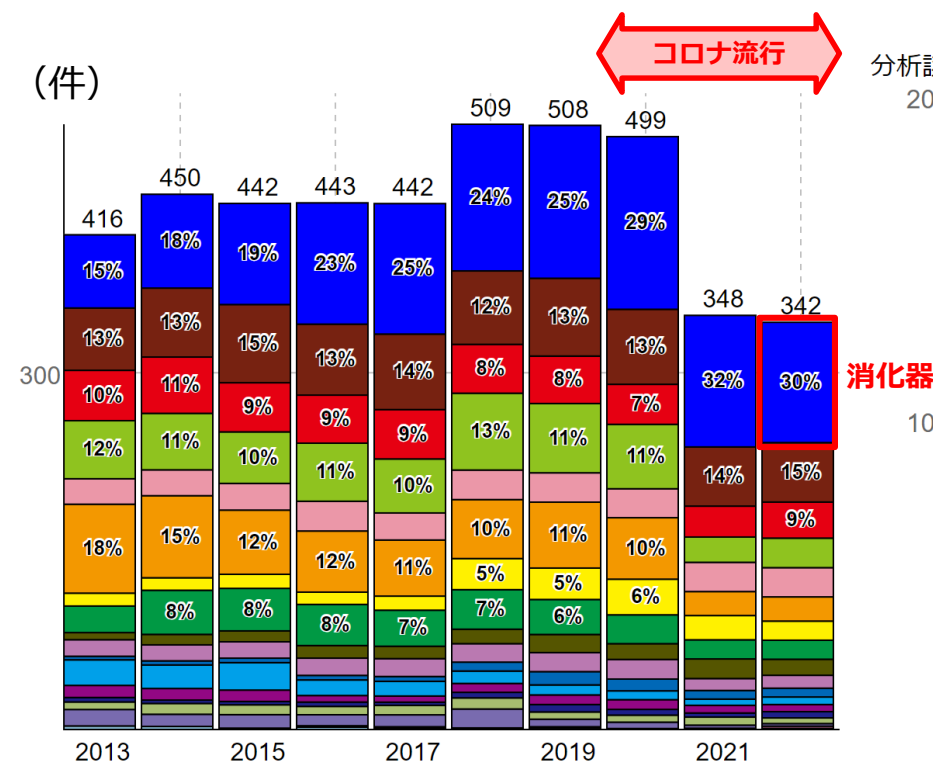
※1 DPC受入件数について10件未満について、公開データの特性上「-」表示となっている。
※2 DPC受入件数の合計が500件以上の病院のみ記載 ※3 本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果
参照：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」 2021年度 厚生労働省
DPCデータは、急性期患者のみを対象としているため、実際の対応患者数とは異なる。

1. 診療圏における医療提供体制調査

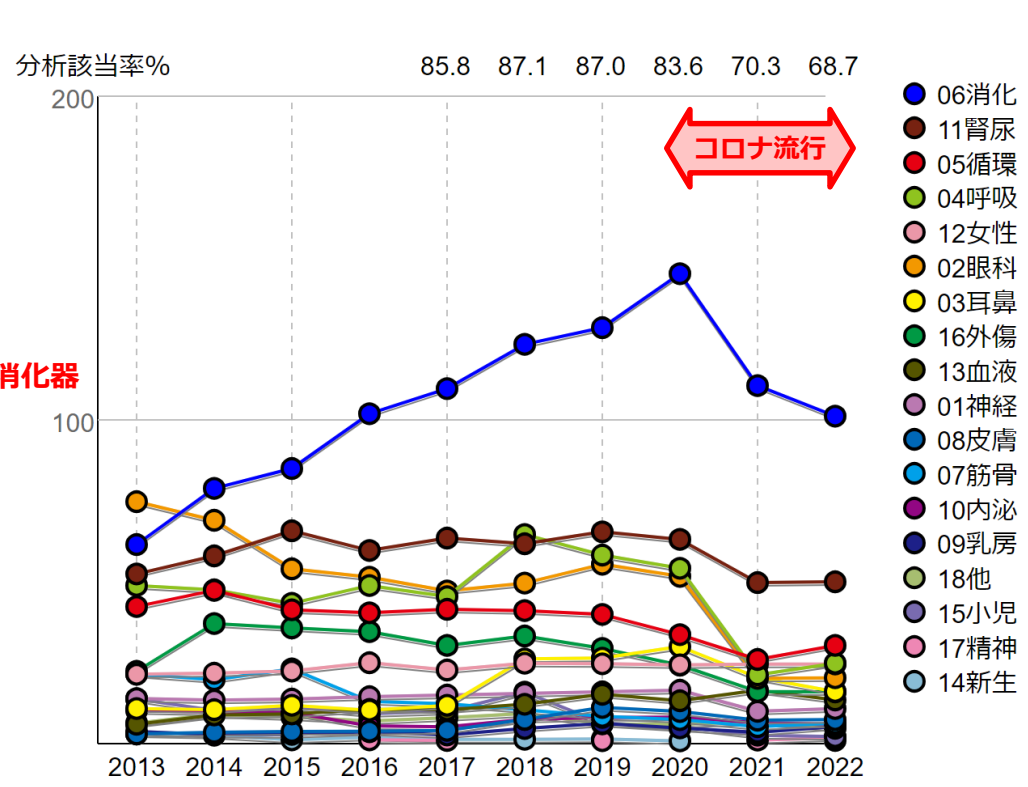
(3) DPC退院患者数及び割合（明石市立市民病院）

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市立市民病院の入院患者数を疾患分類別にみると、消化器系及び耳鼻科系については2020年度まで患者数の伸びがみられた。一方、消化器系、眼科、呼吸器系疾患の患者数は、2021年度以降大幅に減少。それ以外の疾患については大きな変動は見られない。

■ 明石市立市民病院における
DPC退院患者割合（MDC全疾患）



■ 明石市立市民病院における
DPC退院患者数の推移（MDC全疾患）



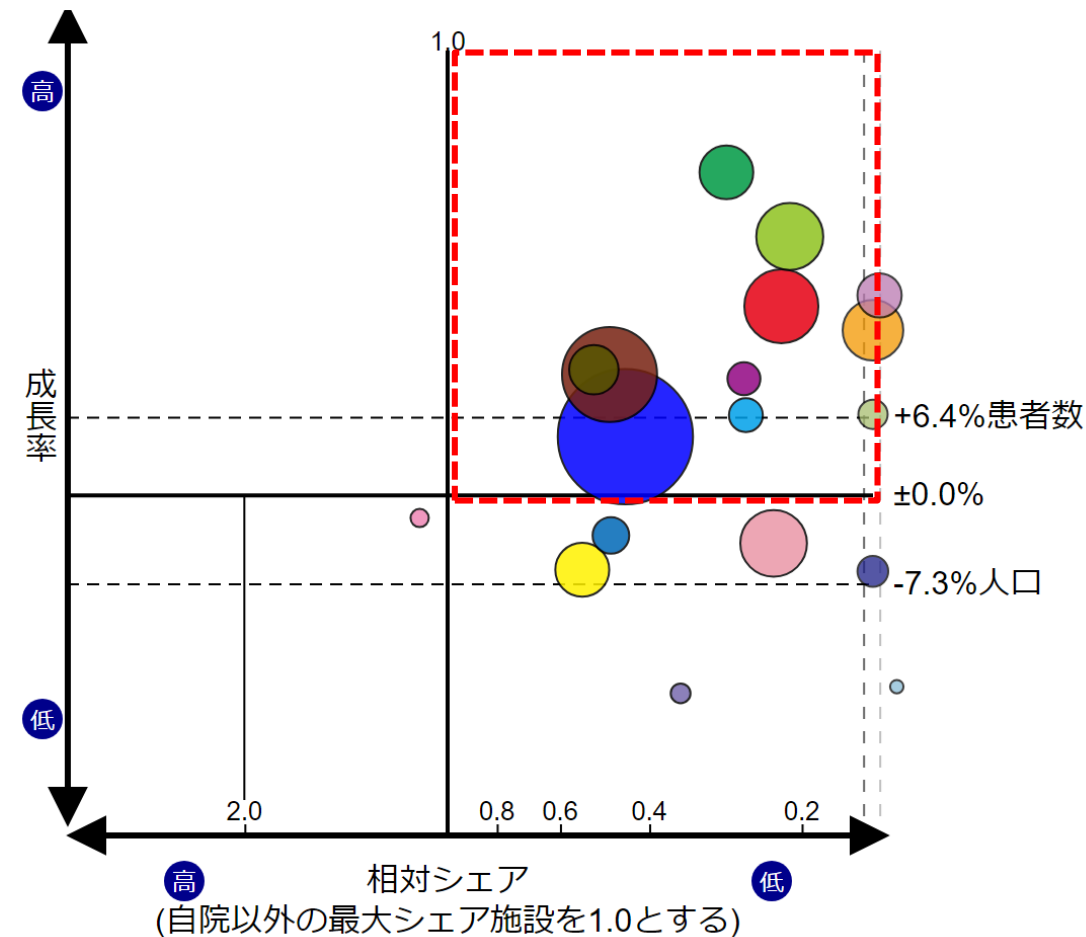
参照：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」 2013年度～2021年度 厚生労働省
DPCデータは、急性期患者のみを対象としているため、実際の対応患者数とは異なる。
※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

1. 診療圏における医療提供体制調査

(3) DPC退院患者数及び割合（明石市立市民病院）

DPC導入の影響評価に関する調査（公開データ）において、明石市立市民病院の疾病領域を市場の成長率と相対シェアの2軸で分析（PPM）すると、相対シェアは各領域で高い分類にはなく、競合が多い状況である。
その中で、腎尿路系・循環器系・呼吸器系・眼科系・外傷系・血液系・神経系・筋骨格系・内分泌系・その他に関しては、市場の成長率は高い領域となっている。

■明石市立市民病院におけるMDC分類別PPM（MDC全疾患）



※成長率：病院毎の疾患別(6桁)に 患者数実績×将来増減率を加重平均し1患者当たりで算出。
将来推計率：地域・年齢・疾患別に将来推計患者数÷現在推計患者数で算出。
縦軸右側「患者数」：現在を100%とした場合の将来患者数の増減率
縦軸右側「人口」：現在を100%とした場合の将来人口の増減率
※相対シェア：1.0付近を強調する為、対数処理等を加えて横軸にプロット。
地域内にベンチマーク施設がない場合は1.0とする。
※施設数：対象疾患が存在する場合のみカウントする
※資源：資源ポテンシャル（件当円相当）

No.	名称	退院患者数	市場成長率	相対シェア	資源	施設数
1	06消化	101	+4.8%	0.45	44.8万	24
2	11腎尿	50	+9.9%	0.48	38.4万	19
3	05循環	30	+15.5%	0.22	102.8万	19
4	04呼吸	25	+21.2%	0.21	41.5万	23
5	12女性	25	-3.9%	0.23	59.9万	9
6	02眼科	20	+13.6%	0.15	24.5万	6
7	03耳鼻	16	-6.1%	0.54	29.9万	16
8	16外傷	16	+26.5%	0.28	60.8万	26
9	13血液	14	+10.3%	0.51	106.4万	10
10	01神経	11	+16.4%	0.09	62.8万	17
11	08皮膚	7	-3.3%	0.48	14.3万	12
12	07筋骨	6	+6.6%	0.26	45.7万	18
13	10内泌	6	+9.6%	0.26	40.1万	19
14	09乳房	5	-6.2%	0.15	41.6万	5
15	18他	5	+6.7%	0.15	73.1万	10
16	15小児	2	-16.3%	0.35	14.7万	3
17	17精神	2	-1.9%	1.10	0.7万	4
18	14新生	1	-15.7%	0.02	21.5万	5

人口推計値は2018年推計の値
参照：DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」 2021年度 厚生労働省
※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-1．市民病院診療圏における地域医療提供体制

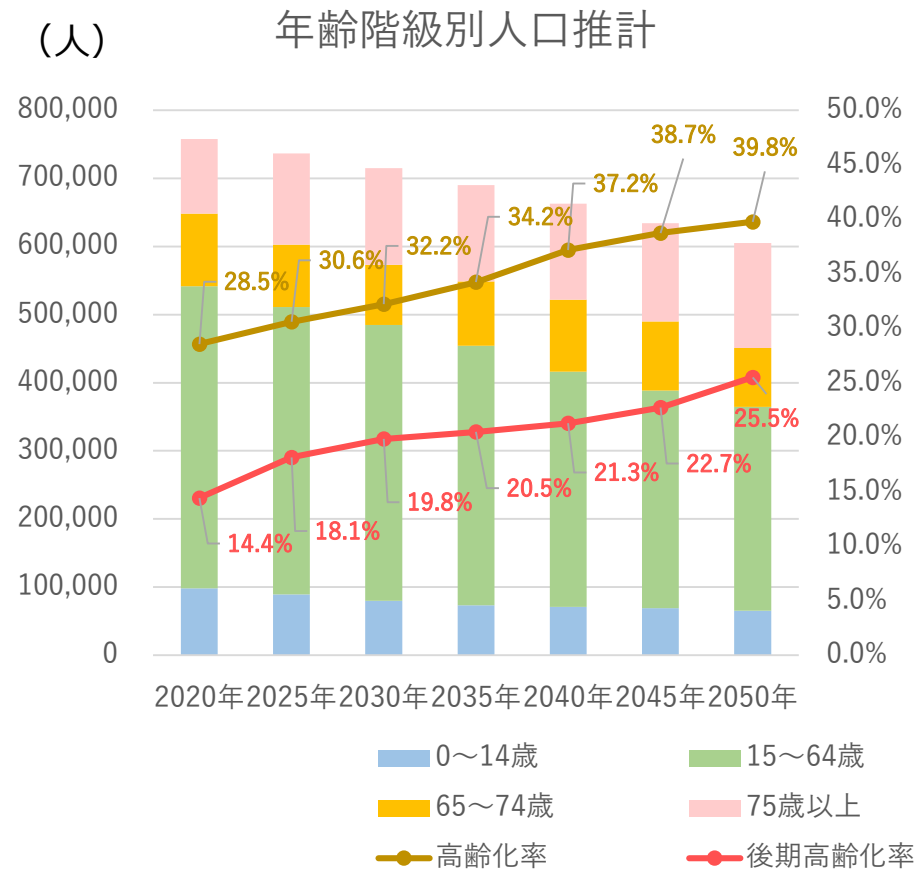
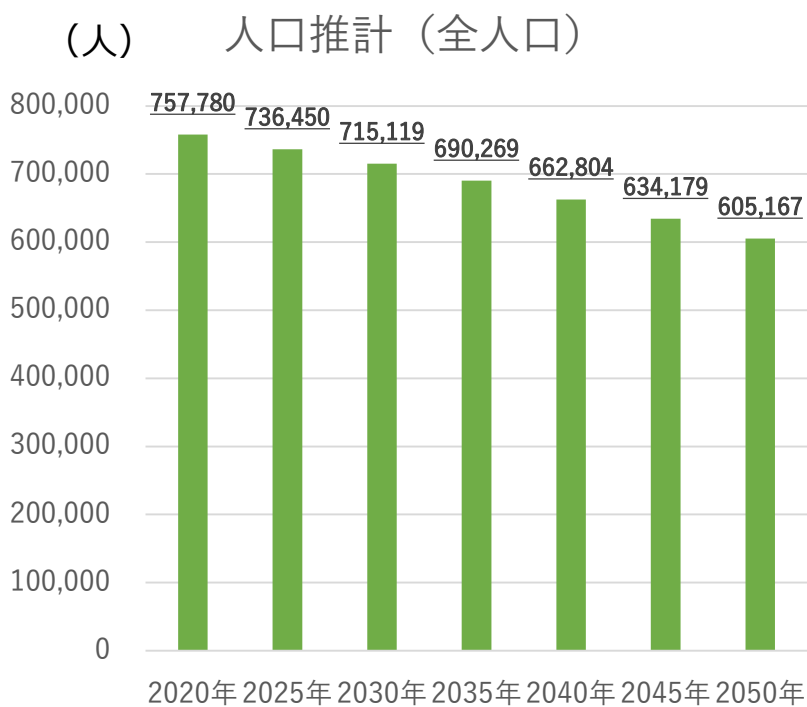
2．診療圏における患者の将来医療需要推計

2. 診療圏における患者の将来医療需要推計

(1) 人口推計

総人口は2020年以降、減少傾向。
一方、高齢化率・後期高齢化率ともに2020年から2050年の間に約11%増加すると見込まれる。

■人口推計（診療圏）



参照：男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口』（国立社会保障・人口問題研究所）

※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

2. 診療圏における患者の将来医療需要推計

(2) 将来外来患者推計

診療圏の外来患者数は2025年まで増加し、その後減少傾向にある。
傷病別にみると、神経系・循環器系が増加傾向にあり、感染症・血液系・精神系・呼吸器系・皮膚系・妊娠・周産期系・先天奇形は減少傾向にある。

■ ICD10疾患分類別 外来患者推計（診療圏）

※増減率減少：青色網掛（95%、90%、85%以下を区切りに濃淡）
増加率増加：オレンジ網掛（105%、110%、115%以上を区切りに濃淡）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
①感染症及び寄生虫症	1,037	1,008	976	951	925	895	857	100%	97%	94%	92%	89%	86%	83%
②新生物	1,563	1,608	1,608	1,592	1,565	1,533	1,494	100%	103%	103%	102%	100%	98%	96%
③血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	132	129	126	123	118	115	111	100%	98%	95%	93%	90%	87%	84%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	2,745	2,827	2,837	2,818	2,785	2,728	2,640	100%	103%	103%	103%	101%	99%	96%
⑤精神及び行動の障害	1,562	1,528	1,485	1,437	1,377	1,312	1,253	100%	98%	95%	92%	88%	84%	80%
⑥神経系の疾患	1,028	1,099	1,150	1,181	1,165	1,140	1,132	100%	107%	112%	115%	113%	111%	110%
⑦眼及び付属器の疾患	2,237	2,304	2,304	2,280	2,254	2,222	2,172	100%	103%	103%	102%	101%	99%	97%
⑧耳及び乳様突起の疾患	616	610	599	587	577	566	548	100%	99%	97%	95%	94%	92%	89%
⑨循環器系の疾患	5,625	6,076	6,347	6,504	6,486	6,404	6,342	100%	108%	113%	116%	115%	114%	113%
⑩呼吸器系の疾患	3,839	3,613	3,453	3,335	3,223	3,101	2,955	100%	94%	90%	87%	84%	81%	77%
⑪消化器系の疾患	7,897	7,858	7,703	7,512	7,318	7,093	6,802	100%	100%	98%	95%	93%	90%	86%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	1,838	1,778	1,729	1,683	1,623	1,558	1,489	100%	97%	94%	92%	88%	85%	81%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	5,515	5,852	5,930	5,877	5,818	5,785	5,718	100%	106%	108%	107%	105%	105%	104%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	1,978	2,001	1,991	1,964	1,922	1,869	1,813	100%	101%	101%	99%	97%	95%	92%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	84	74	70	69	68	64	58	100%	88%	83%	82%	81%	76%	69%
⑯周産期に発生した病態	18	15	14	14	13	13	12	100%	84%	80%	79%	76%	73%	67%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	86	79	76	73	70	67	63	100%	92%	87%	84%	81%	77%	73%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	486	488	486	478	467	454	441	100%	101%	100%	98%	96%	93%	91%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,823	1,815	1,786	1,740	1,684	1,626	1,572	100%	100%	98%	95%	92%	89%	86%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	4,295	4,282	4,234	4,181	4,109	4,006	3,872	100%	100%	99%	97%	96%	93%	90%
計	44,402	45,046	44,906	44,397	43,567	42,551	41,343	100%	101%	101%	100%	98%	96%	93%

参照：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
〔ICD10〕巻末用語集参照

※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

109

2. 診療圏における患者の将来医療需要推計

(3) 将来入院患者推計

診療圏の入院患者数は2035年まで増加し、その後減少傾向にある。
傷病別にみると、ほとんどの傷病で増加傾向にある。特に呼吸器系の増加率が高い。
一方、妊娠・周産期・先天奇形は減少傾向にある。

■ ICD10疾患分類別 入院患者推計（診療圏）

※増減率減少：青色網掛（95%、90%、85%以下を区切りに濃淡）
増加率増加：オレンジ網掛（105%、110%、115%以上を区切りに濃淡）

傷病名	推定患者数 (件)							2020年からの増加率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
①感染症及び寄生虫症	128	142	154	163	162	158	159.0	100%	111%	120%	128%	127%	124%	124%
②新生物	904	958	986	1,002	996	982	967.1	100%	106%	109%	111%	110%	109%	107%
③血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	37	41	45	48	48	47	47.2	100%	112%	122%	130%	129%	126%	127%
④内分泌、栄養及び代謝疾患	212	235	256	273	272	266	266.8	100%	111%	121%	129%	129%	126%	126%
⑤精神及び行動の障害	1,543	1,584	1,602	1,603	1,569	1,513	1,458.9	100%	103%	104%	104%	102%	98%	95%
⑥神経系の疾患	803	894	969	1,018	1,011	994	1,000.6	100%	111%	121%	127%	126%	124%	125%
⑦眼及び付属器の疾患	73	78	80	80	80	80	79.5	100%	107%	109%	109%	109%	109%	109%
⑧耳及び乳様突起の疾患	16	17	18	18	18	17	17.0	100%	105%	108%	110%	108%	106%	103%
⑨循環器系の疾患	1,481	1,681	1,860	2,010	2,012	1,974	1,988.7	100%	113%	126%	136%	136%	133%	134%
⑩呼吸器系の疾患	649	750	850	943	943	919	933.5	100%	116%	131%	145%	145%	142%	144%
⑪消化器系の疾患	421	457	486	505	501	491	489.8	100%	109%	115%	120%	119%	117%	116%
⑫皮膚及び皮下組織の疾患	73	82	90	95	95	93	93.6	100%	112%	123%	131%	130%	128%	129%
⑬筋骨格系及び結合組織の疾患	454	498	529	548	546	538	536.6	100%	110%	116%	121%	120%	118%	118%
⑭腎尿路生殖器系の疾患	326	363	393	416	416	409	410.7	100%	111%	120%	128%	127%	125%	126%
⑮妊娠、分娩及び産じょく	102	90	86	84	83	78	70.7	100%	88%	84%	82%	81%	76%	69%
⑯周産期に発生した病態	42	36	34	34	33	31	28.6	100%	84%	81%	79%	77%	73%	67%
⑰先天奇形、変形及び染色体異常	33	30	28	27	26	25	22.8	100%	90%	85%	82%	78%	74%	69%
⑱症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	91	104	116	127	127	124	124.7	100%	114%	127%	139%	139%	135%	137%
⑲損傷、中毒及びその他の外因の影響	878	987	1,084	1,156	1,152	1,131	1,138.3	100%	112%	124%	132%	131%	129%	130%
⑳健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	73	76	79	82	81	79	77.9	100%	105%	109%	113%	112%	109%	107%
計	8,341	9,104	9,745	10,233	10,169	9,947	9,912	100%	109%	117%	123%	122%	119%	119%

参照：患者調査 2017年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）
※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

110

2. 診療圏における患者の将来医療需要推計

(3) 将来入院患者推計

診療圏のDPC入院実患者数は2035年まで増加し、その後減少傾向にある。
MDC疾患分類別にみると、神経系・眼科系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎尿路系・血液系・外傷系・その他で一時的な増加が見込まれる。耳鼻咽喉科系・乳房系・女性生殖器系・新生児系・小児系・精神系は減少する一方である。

■ MDC疾患分類別 入院実患者推計（診療圏）

※増減率減少：青色網掛（95%、90%、85%以下を区切りに濃淡）
増加率増加：オレンジ網掛（105%、110%、115%以上を区切りに濃淡）

傷病名	推定実患者数（件）							2020年からの増減率						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
①神経系	3,743	3,886	4,028	4,064	3,967	3,859	3,780	100%	104%	108%	109%	106%	103%	101%
②眼科系	2,974	3,109	3,225	3,300	3,254	3,174	3,094	100%	105%	108%	111%	109%	107%	104%
③耳鼻咽喉科系	2,486	2,400	2,336	2,284	2,209	2,120	2,016	100%	97%	94%	92%	89%	85%	81%
④呼吸器系	7,060	7,285	7,650	7,791	7,623	7,434	7,304	100%	103%	108%	110%	108%	105%	103%
⑤循環器系	6,759	7,146	7,517	7,679	7,533	7,356	7,240	100%	106%	111%	114%	111%	109%	107%
⑥消化器系	14,142	14,516	14,834	14,978	14,668	14,252	13,855	100%	103%	105%	106%	104%	101%	98%
⑦筋骨格系	2,935	2,977	2,992	2,993	2,925	2,832	2,733	100%	101%	102%	102%	100%	97%	93%
⑧皮膚系	1,065	1,068	1,085	1,077	1,045	1,012	984	100%	100%	102%	101%	98%	95%	92%
⑨乳房系	912	903	872	839	807	770	732	100%	99%	96%	92%	88%	84%	80%
⑩内分泌系	1,733	1,754	1,775	1,763	1,713	1,658	1,611	100%	101%	102%	102%	99%	96%	93%
⑪腎尿路系	4,969	5,153	5,335	5,424	5,319	5,182	5,067	100%	104%	107%	109%	107%	104%	102%
⑫女性生殖器系	2,952	2,789	2,660	2,535	2,415	2,271	2,127	100%	94%	90%	86%	82%	77%	72%
⑬血液系	1,552	1,605	1,655	1,678	1,646	1,602	1,562	100%	103%	107%	108%	106%	103%	101%
⑭新生児系	1,184	1,014	968	944	911	869	805	100%	86%	82%	80%	77%	73%	68%
⑮小児系	233	198	188	184	178	170	157	100%	85%	81%	79%	76%	73%	67%
⑯外傷系	3,927	4,107	4,300	4,315	4,188	4,077	4,021	100%	105%	109%	110%	107%	104%	102%
⑰精神系	98	95	93	90	86	83	79	100%	97%	95%	92%	88%	84%	80%
⑱その他	940	969	1,005	1,014	989	961	941	100%	103%	107%	108%	105%	102%	100%
合計	59,665	60,974	62,520	62,952	61,475	59,681	58,109	100%	102%	105%	106%	103%	100%	97%

※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

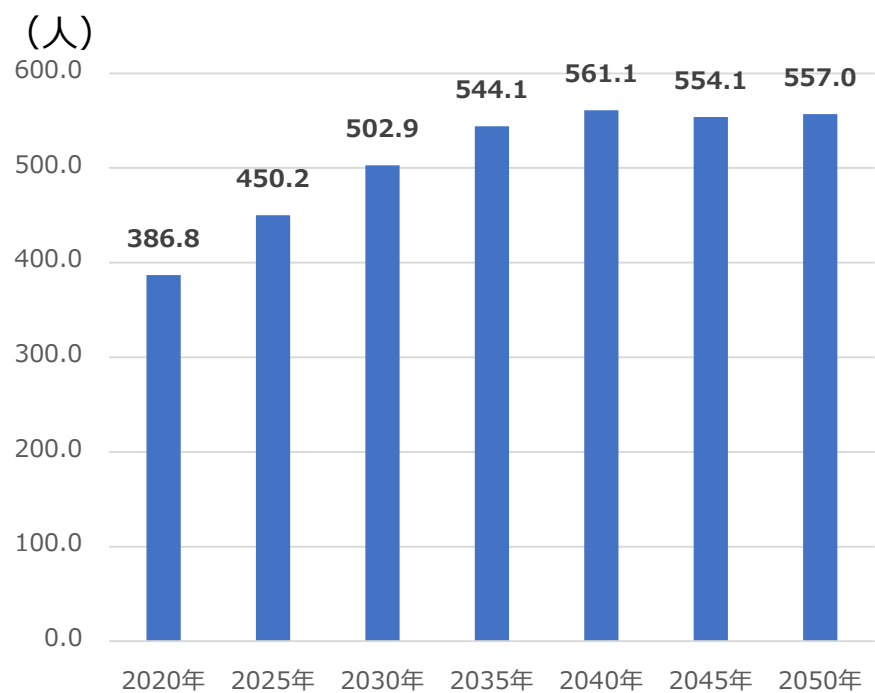
〔DPC〕〔MDC〕
巻末用語集参照

2. 診療圏における患者の将来医療需要推計

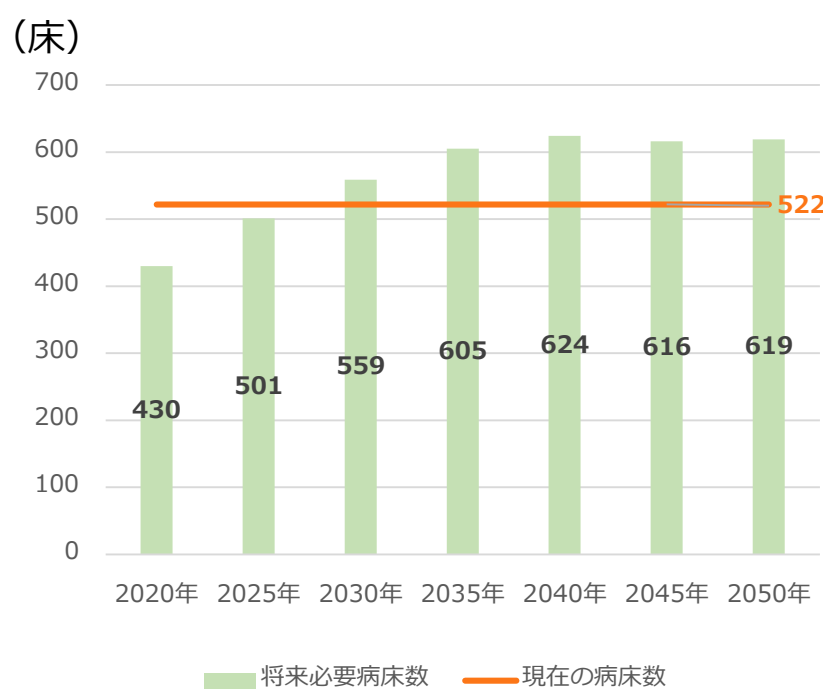
(4) 将来入院患者推計（地域包括ケア病棟）

地域包括ケア病棟の入院患者は2040年まで増加し、その後横ばいに推移する見込み。
また、現在の病床数は将来必要病床数を上回っているが、2030年以降は供給不足が見込まれる。

■ 1日あたり入院患者推計（診療圏）



■ 将来必要病床数推計（診療圏）



入院患者数 : NDBオープンデータより、男女5歳階級別の各入院料の算定件数を取りまとめ、受療率を設定。
その値に診療圏の人口推計値を掛け合わせ算出。
将来必要病床数 : 上記入院患者数を病床稼働率(90% ※1)で割り戻し算出。
※1 厚生労働省が地域医療構想上機能別の病床数を算出する上で、設定している病床稼働率
現在の病床数 : 診療圏の現在の病床数。(令和3年度病床機能報告)

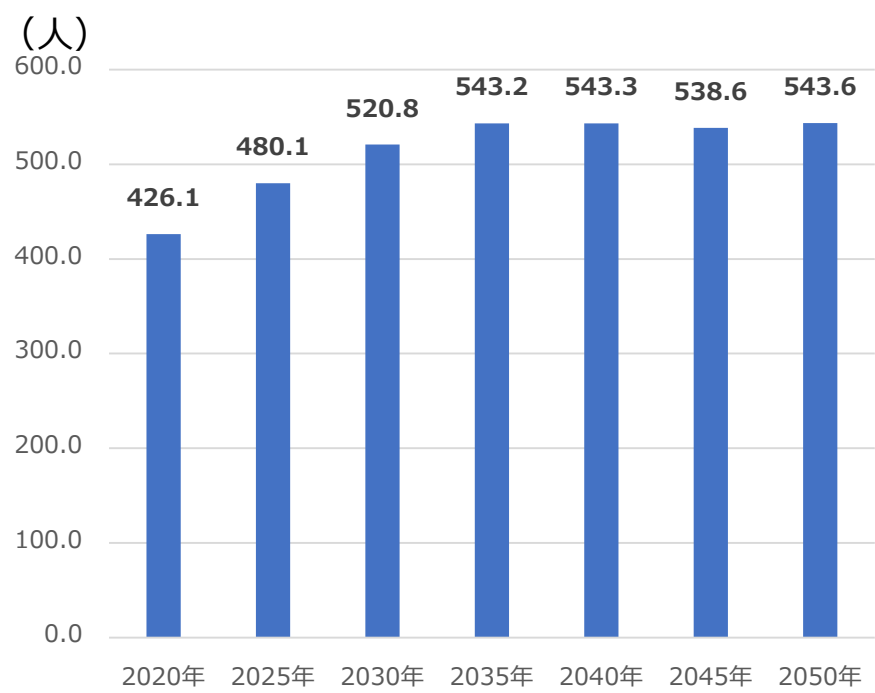
〔NDBオープンデータ〕巻末用語集参照
※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

2. 診療圏における患者の将来医療需要推計

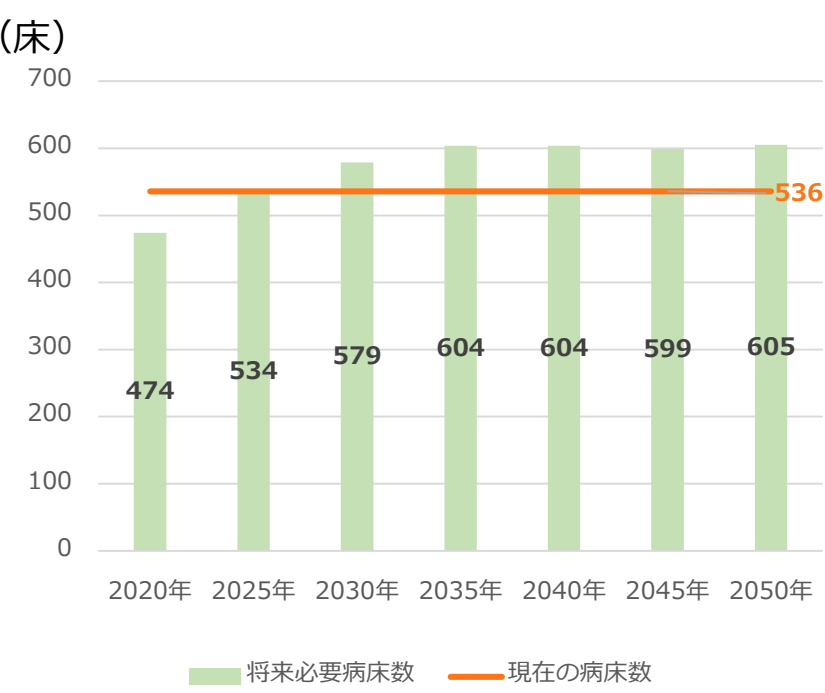
(5) 将来入院患者推計（回復期リハビリテーション病棟）

回復期リハビリテーション病棟の入院患者は2040年まで増加し、その後横ばいに推移する見込み。
また、現在の病床数は将来必要病床数を上回っているが、2030年以降は供給不足が見込まれる。

■ 1日あたり入院患者推計（診療圏）



■ 将来必要病床数推計（診療圏）



入院患者数 : NDBオープンデータより、男女5歳階級別の各入院料の算定件数を取りまとめ、受療率を設定。
その値に診療圏の人口推計値を掛け合わせ算出。
将来必要病床数 : 上記入院患者数を病床稼働率(90% ※1)で割り戻し算出。
※1 厚生労働省が地域医療構想上機能別の病床数を算出する上で、設定している病床稼働率
現在の病床数 : 診療圏の現在の病床数。(令和3年度病床機能報告)

※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-1．市民病院診療圏における地域医療提供体制

3．診療領域ごとの分析

3. 診療領域ごとの分析

次ページの各領域（A・B・C・D）の解釈の仕方

A領域（シェア率**高**、需要**増**）

→現在、明石市立市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が高く（明石市立市民病院の強み）、今後患者増加が見込まれる領域。

そのため、明石市立市民病院の強みを活かしながら、今後増加する患者の受入体制を拡張すべきである。

B領域（シェア率**高**、需要**減**）

→現在、明石市立市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が高く（明石市立市民病院の強み）、今後患者減少が見込まれる領域。

そのため、今後機能強化を図る必要性はないが、患者数に併せ、受入体制を維持していく必要がある。

C領域（シェア率**低**、需要**増**）

→現在、明石市立市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が低く（明石市立市民病院の弱み）、今後患者増加が見込まれる領域。

現在、他医療機関と比較し、患者受入ができていない領域であるが、将来の患者増加が見込まれるため、受入体制の整備が求められる。

D領域（シェア率**低**、需要**減**）

→現在、明石市立市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が低く（明石市立市民病院の弱み）、今後患者減少が見込まれる領域。

患者需要が少なくなる領域であるため、これら領域に該当する患者受入体制を強みとする特定の医療機関に機能集約する等、地域全体として効率的な医療提供を考える必要がある。

3. 診療領域ごとの分析

縦軸⇒ MDC疾患分類別**将来入院患者増減率**（2020年～2040年・2050年）

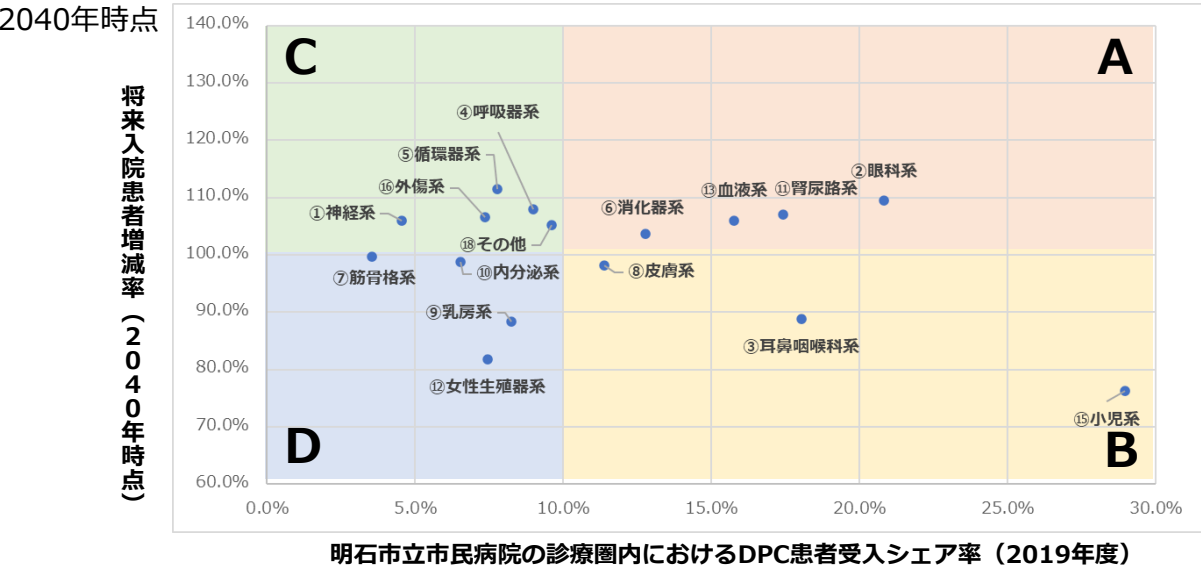
参照：退院患者調査 2019年度（厚生労働省）、男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口 2023年度推計』（国立社会保障・人口問題研究所）

横軸⇒明石市立市民病院の診療圏内におけるDPC患者受入シェア率(2019年度)

参照：退院患者調査 2019年度（厚生労働省）

※本調査は明石市、神戸市西区、神戸市垂水区の3地域における調査結果

2040年時点



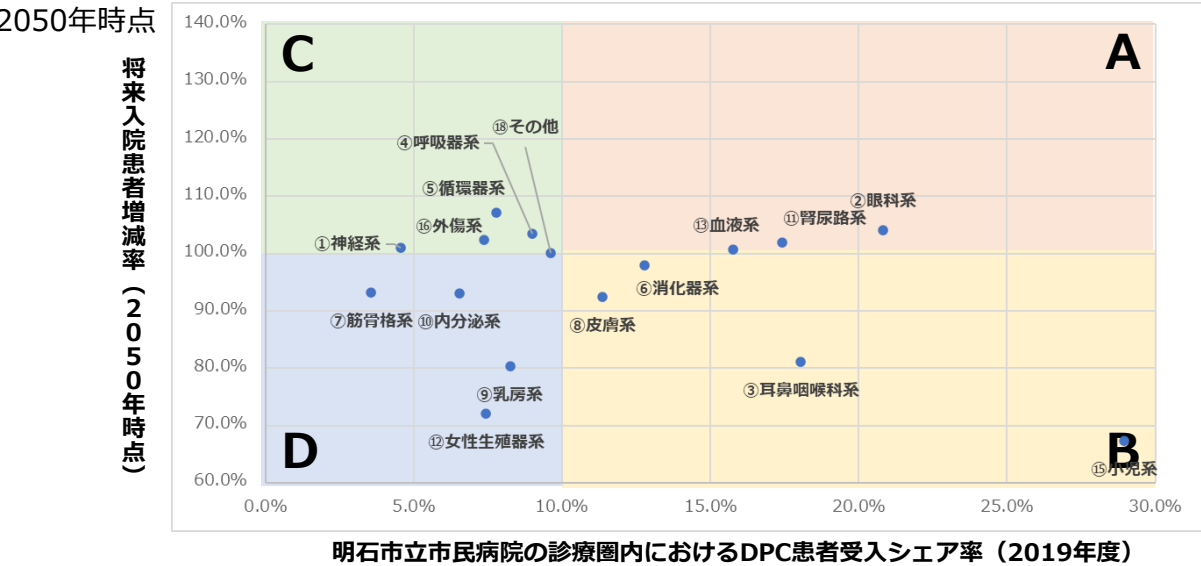
A領域（需要増、シェア高）
→眼科系、消化器系、腎尿路系、血液系

B領域（需要減、シェア高）
→耳鼻咽喉科系、皮膚系、小児系

C領域（需要増、シェア低）
→神経系、呼吸器系、循環器系、外傷系、その他

D領域（需要減、シェア低）
→筋骨格系、乳房系、内分泌系、女性生殖系

2050年時点



A領域（需要増、シェア高）
→眼科系、腎尿路系、血液系

B領域（需要減、シェア高）
→耳鼻咽喉科系、消化器系、皮膚系、小児系

C領域（需要増、シェア低）
→神経系、呼吸器系、循環器系、外傷系、その他

D領域（需要減、シェア低）
→筋骨格系、乳房系、内分泌系、女性生殖系

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-1．市民病院診療圏における地域医療提供体制

4．調査のまとめ

4. 調査のまとめ

項目	ポイント
1. 診療圏における医療提供体制調査	明石市立市民病院における 入院患者の居住地は、68%が明石市 、20%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区。 外来患者の居住地は、66%が明石市 、22%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区。
	診療圏内に一般病床もしくは療養病床を保有する病院は 36施設 ある。
	診療圏内の医療機関におけるDPC退院患者のうち 明石医療センターと神戸市立西神戸医療センターの患者がそれぞれ全体の2割 を占めており、続いて兵庫県立がんセンター、明石市立市民病院、神戸掖済会病院の順で退院患者数の割合が高くなっている。明石市立市民病院のDPC退院患者は 2021年以降全体の10%を下回り、2013年から2022年の9年間で4%減少 している
2. 診療圏における患者の将来医療需要推計	診療圏内の総人口は 2020年以降、減少傾向 である。
	診療圏内の 高齢化率・後期高齢化率ともに2020年から2050年の間に約11%増加 すると見込まれる。
	診療圏内の外来患者数は 2025年まで増加し、その後減少傾向 にある。
	診療圏内の外来患者推計を傷病別にみると、 神経系・循環器系が増加傾向 にあり、 感染症・血液系・精神系・呼吸器系・皮膚系・妊娠・周産期系・先天奇形は減少傾向 にある。
	診療圏内の入院患者数は 2035年まで増加し、その後減少傾向 にある。
	診療圏内の入院患者推計を傷病別にみると、 ほとんどの傷病で増加傾向 にある。特に 呼吸器系の増減率が高い 。一方、 妊娠・周産期・先天奇形は減少傾向 にある。
	診療圏内のDPC入院実患者数は 2035年まで増加し、その後減少傾向 にある。
	診療圏内のDPC入院実患者推計をMDC疾患分類別にみると、 神経系・眼科系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎尿路系・血液系・外傷系・その他で一時的な増加 が見込まれる。 耳鼻咽喉科系・乳房系・女性生殖器系・新生児系・小児系・精神系は減少 する一方である。
	診療圏内において、地域包括ケア病棟の入院患者は 2040年まで増加し、その後横ばい に推移する見込み。
	診療圏内において、地域包括ケア病床の 現在の病床数は将来必要病床数を上回っているが、2030年以降は供給不足 が見込まれる。
	診療圏内において、回復期リハビリテーション病棟の入院患者は 2040年まで増加し、その後横ばい に推移する見込み。
	診療圏内において、回復期リハビリテーション病棟の 現在の病床数は将来必要病床数を上回っているが、2030年以降は供給不足 が見込まれる。

4. 調査のまとめ

機会

【1. 診療圏における医療提供体制調査】

- ・ 明石市立市民病院における入院患者の居住地は、68%が明石市、20%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区。外来患者の居住地は、66%が明石市、22%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区。

【2. 診療圏における患者の将来医療需要推計】

- ・ 高齢化率・後期高齢化率ともに2020年から2050年の間に約11%増加すると見込まれる。
- ・ 将来外来患者数について、神経系・循環器系が増加傾向である。
- ・ 将来入院患者数は2035年まで増加する。
- ・ 将来入院患者数について、ほとんどの傷病で増加がみられ、特に呼吸器系の増減率が高い。
- ・ 将来入院患者数（DPC）は2035年まで増加する。
- ・ 将来入院患者数（DPC）について、神経系・眼科系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎尿路系・血液系・外傷系・その他で一時的に増加が見られる。
- ・ 地域包括ケア病棟の入院患者は2040年まで増加する。
- ・ 地域包括ケア病床は2030年以降は供給不足が見込まれる。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟の入院患者は2040年まで増加する。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟は2030年以降は供給不足が見込まれる。

脅威

【1. 診療圏における医療提供体制調査】

- ・ 診療圏内に一般病床もしくは療養病床を保有する病院は36施設ある。
- ・ 診療圏内の医療機関におけるDPC退院患者のうち明石医療センターと神戸市立西神戸医療センターの患者がそれぞれ全体の2割を占めている。

【2. 診療圏における患者の将来医療需要推計】

- ・ 総人口は2020年以降、減少傾向である。
- ・ 外来患者数は2030年以降減少する見込み。
- ・ 将来外来患者数について、感染症・血液系・精神系・呼吸器系・皮膚系・妊娠・周産期系・先天奇形は減少傾向にある。
- ・ 入院患者数は2040年以降減少する見込み。
- ・ 将来入院患者数について、妊娠・周産期・先天奇形は減少傾向にある。
- ・ 入院患者数（DPC）は2040年以降減少する見込み。
- ・ 将来入院患者数（DPC）について、耳鼻咽喉科系・乳房系・女性生殖器系・新生児系・小児系・精神系は減少する見込み。
- ・ 地域包括ケア病床の現在の病床数は将来必要病床数を上回っている。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟の現在の病床数は将来必要病床数を上回っている。

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-2．市民病院の現状と課題

1．ベンチマーク（BM）設定について

(1) ベンチマーク（BM）の前提条件

■ベンチマーク（BM）病院の選出

ベンチマーク（BM）対象を5病院選出。

ベンチマーク（BM）病院の選出条件

- ・ 地方独立行政法人
- ・ 病床数が300～450床
- ・ 精神病棟を保有していない
- ・ 経常利益（減価償却費・他会計負担金除くが黒字）
- ・ 一般病棟の看護配置が7：1

病院名 (地方独立行政法人)	BM 対象	合計	病床数					経常利益 減価償却費・ 他会計負担金除く	一般病棟 入院基本料
			一般	療養	結核	精神	感染症		
明石市立市民病院	—	329床	329床	-	-	-	-	-351,406千円	7:1
新小山市民病院	○	300床	300床	-	-	-	-	711,286千円	7:1
大牟田市立病院	○	320床	320床	-	-	-	-	329,960千円	7:1
長野市民病院	○	400床	400床	-	-	-	-	32,621千円	7:1
桑名市総合医療センター	○	400床	400床	-	-	-	-	20,268千円	7:1
下関市立市民病院	○	436床	430床	-	-	-	6床	172,254千円	7:1

1. ベンチマーク（BM）設定について

引用：総務省 公営企業年鑑(2019年度実績)
病床機能報告（2022年度）

（1）ベンチマーク（BM）の前提条件

■ベンチマーク（BM）病院の基本情報

ベンチマーク（BM）病院の基本情報は以下の通り。

病院名 (地方独立行政法人)	所在地	所在地 人 口	一般病床 (急性期) 1床あたり人口	地域医療支援 病院の認定	病棟 種別	
明石市立市民病院	兵庫県明石市	306,793 人	198 人	認定有	一般急性期 地域包括ケア 回復期リハ	249床 50床 30床
新小山市市民病院	栃木県小山市	166,158 人	345 人	認定有	一般急性期 地域包括ケア	256床 44床
大牟田市立病院	福岡県大牟田市	106,737 人	107 人	認定有	一般急性期	320床
長野市民病院	長野県長野市	365,796 人	209 人	認定有	一般急性期	400床
桑名市総合医療センター	三重県桑名市	138,986 人	246 人	認定有	一般急性期 地域包括ケア	362床 38床
下関市立市民病院	山口県下関市	247,309 人	226 人	認定有	一般急性期 地域包括ケア 緩和ケア	302床 54床 20床

1. ベンチマーク（BM）設定について

（1）ベンチマーク（BM）の前提条件

■ベンチマーク（BM）病院の主な診療実績
ベンチマーク（BM）病院の主な診療実績は以下の通り。

引用：総務省 公営企業年鑑(2019年度実績)

病院名 (地方独立行政法人)	病床 利用率	平均 在院日数	入院患者数		外来患者数		診療単価		紹介率 (2019年度)	逆紹介率 (2019年度)
			1日 平均	100床 あたり	1日 平均	100床 あたり	入院	外来		
明石市立市民病院	78.0%	9.1日	259人	79人	552人	168人	54,636円	17,007円	75.6% (2022年度) 83.1%	69.9% (2022年度) 82.4%
新小山市民病院	96.8%	12.1日	290人	97人	685人	228人	59,128円	13,347円	76.1%	77.1%
大牟田市立病院	75.3%	11.6日	263人	82人	430人	134人	54,650円	15,094円	92.3%	114.6%
長野市民病院	96.1%	11.4日	384人	96人	928人	232人	66,137円	18,350円	88.4%	105.5%
桑名市総合医療センター	81.1%	11.1日	325人	81人	919人	230人	61,229円	15,779円	90.7%	119.8%
下関市立市民病院	65.6%	11.5日	286人	66人	537人	123人	66,341円	19,531円	77.1%	142.6%

※一般病床のみ

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-2．市民病院の現状と課題

2．明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(1) 入院患者の動向 急性期一般病棟

DPC件数について2019年度(コロナ前)と比較し、2022年度(コロナ禍)・2023年度(実績を元に試算した予測値)は減少。
1日当たりの患者数については、2022年度は減少したものの、2023年度は2019年度と同程度まで回復している。
平均在院日数については、2023年度は2019年度と比べて約2.4日程度長くなっている。

■DPCコード別診療実績の推移

※参照：病院受領資料

	DPC件数（件）			1日当たり入院患者数（人）			平均在院日数（日）		
	2019年度	2022年度	2023年度 (4～9月)	2019年度	2022年度	2023年度 (4～9月)	2019年度	2022年度	2023年度 (4～9月)
①神経系	263	185	103	10.9	9.0	12.2	15.2	17.8	21.8
②眼科系	691	77	8	7.0	0.8	0.1	3.7	3.7	2.9
③耳鼻咽喉科系	437	230	178	5.8	3.0	4.3	4.9	4.7	4.4
④呼吸器系	710	338	287	20.3	13.6	18.4	10.5	14.6	11.7
⑤循環器系	472	450	208	16.6	14.9	17.8	12.9	12.1	15.6
⑥消化器系	1868	1291	709	42.4	33.3	36.8	8.3	9.4	9.5
⑦筋骨格系	229	166	127	8.5	6.7	10.4	13.6	14.7	15.0
⑧皮膚系	145	74	33	2.5	1.7	1.3	6.4	8.4	7.3
⑨乳房系	74	74	33	2.0	1.8	1.2	10.1	8.7	6.7
⑩内分泌系	140	108	51	4.0	3.5	3.1	10.4	11.8	11.1
⑪腎尿路系	868	630	287	21.2	19.4	17.4	8.9	11.2	11.1
⑫女性生殖器系	305	305	165	6.4	6.3	6.9	7.7	7.6	7.6
⑬血液系	184	270	164	12.0	15.4	15.8	23.8	20.9	17.7
⑭新生児系	14	19	5	0.2	0.3	0.1	4.4	4.9	4.4
⑮小児系	65	50	20	0.8	0.7	0.5	4.3	5.0	4.3
⑯外傷系	554	524	272	23.8	25.1	26.6	15.7	17.5	17.9
⑰精神系	9	13	7	0.1	0.1	0.1	2.2	4.1	2.6
⑱その他	93	550	165	5.2	14.8	13.7	20.4	9.8	15.2
合計	7,121	5,354	2,822	189.7	170.4	186.8	9.7	11.6	12.1

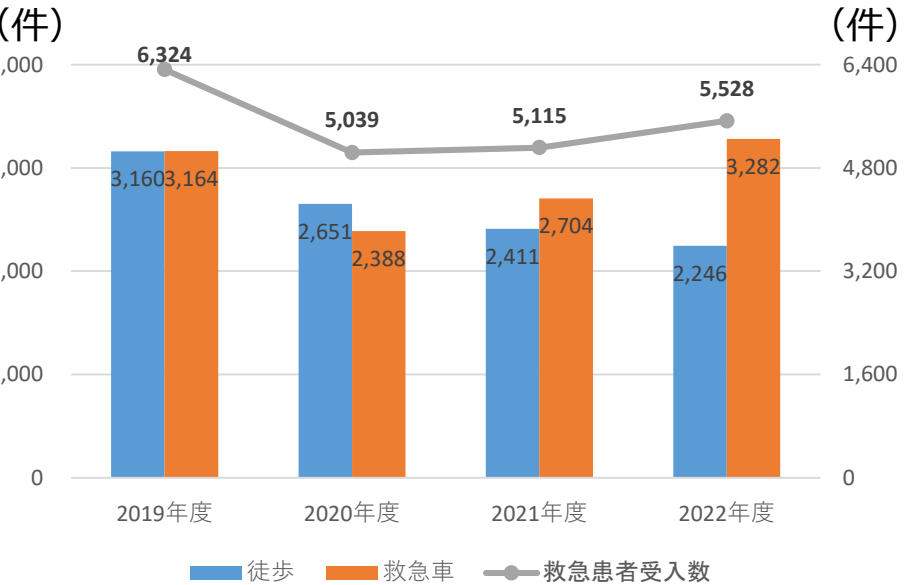
年換算予測 5,644

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

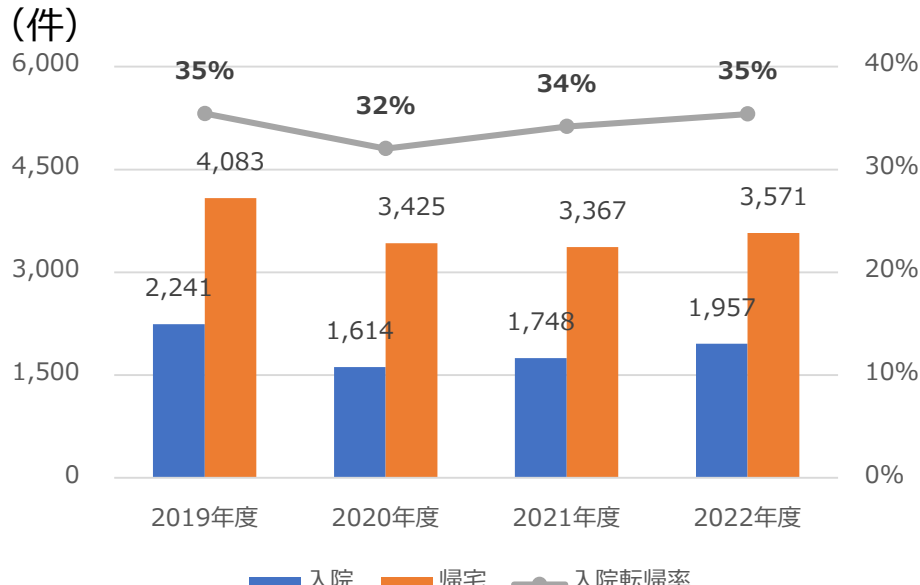
(2) 救急患者の動向

救急受入件数の推移をみると、2019年度(コロナ前)は6,000件を超えていたが、2020年度・2021年度(コロナ禍)は5,000件を少し上回る程度となり、2022年度は約5,500件に回復した。
救急受診からの入院転帰数は2020年度以降2,000件を下回っているものの、徐々に回復傾向。

■ 救急受入件数の推移



■ 救急患者の入院転帰数



	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計	6,324	5,039	5,115	5,528
徒歩	3,160	2,651	2,411	2,246
時間内	1,699	1,770	1,511	1,405
時間外	1,461	881	900	841
救急車	3,164	2,388	2,704	3,282
時間内	1,644	1,282	1,389	1,687
時間外	1,520	1,106	1,315	1,595

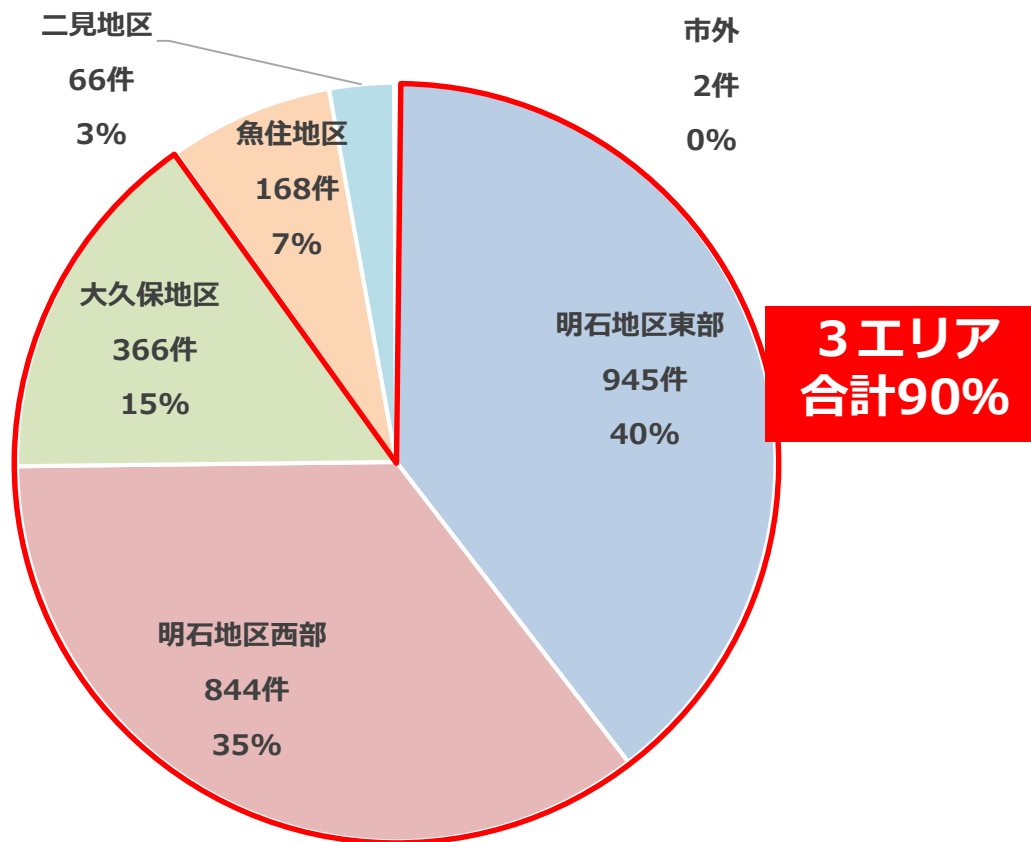
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入院	2,241	1,614	1,748	1,957
帰宅	4,083	3,425	3,367	3,571
入院転帰率	35%	32%	34%	35%

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（2）救急医療の実施状況

明石市立市民病院の救急受入件数の40%は明石地区東部、35%は明石地区西部、15%は大久保地区からの搬送で、3つの地区の合計で90%を占める。

■ 明石市立市民病院のエリア別救急受入状況



参照：明石市消防局データ（2022年）

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(2) 救急医療の実施状況

明石市立市民病院の救急受入総件数は明石市内発生件数の17%を占める。
傷病程度が「死亡」の救急搬送については23%、傷病程度が「重症」の救急搬送については18%受け入れている。

■ 明石市立市民病院のエリア別・重症度別・疾患別 救急受入状況（死亡・重症）

	総計	死亡			重症										
	総計	合計	循環器系 心疾患	その他	合計	循環器系 脳疾患	循環器系 心疾患	消化器系	呼吸器系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状、徴候及び診断名不明確の状態	非開放性骨折
本庁地区(明石川以東)	945	33	32	1	40	3	17		1	1	1	1	4	3	9
本庁地区(明石川以西)	844	9	7	2	37	2	3	3	2		1	2	4	3	17
大久保地区	366	6	4	2	8		3	2					1		2
魚住地区	168	6	6		1		1								
二見地区	66				1										1
市外	2														
A 明石市立市民病院口 受入総件数	2,391	54	49	5	87	5	24	5	3	1	2	3	9	6	29
B 市内発生件数	13,942	237	211	9	471	90	108	13	22	3	3	24	50	34	102
A÷B	17%	23%	23%	56%	18%	6%	22%	38%	14%	33%	67%	13%	18%	18%	28%

(件)

参照：明石市消防局データ（2022年）
※赤色網掛（20%、40%、60%を区切りに濃淡）

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(2) 救急医療の実施状況

傷病程度が「中等症」の救急搬送については明石市内発生件数のうち16%を受け入れている。

■ 明石市立市民病院のエリア別・重症度別・疾患別 救急受入状況（中等症） (件)

	中等症																				
	合計	循環器系 脳疾患	循環器系 心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状、徴候及び診断名不明確の状態	打撲・血腫	開放性骨折	非開放性骨折	脱臼・捻挫	開放創	挫創	内部損傷	窒息	中毒	多発外傷
本庁地区(明石川以東)	387	23	45	48	21		4	8	3	86	84	20		37	3	1	2			1	1
本庁地区(明石川以西)	373	11	40	16	15	3	7	15	7	89	94	18	1	53	1	2				1	
大久保地区	166	9	9	12	13	1		12	3	57	28	6		15			1				
魚住地区	88	4	13	7	5		1	4	1	22	25	1		5							
二見地区	42	4	2	1	1			4		14	11	1		2				1	1		
市外																					
A 明石市立市民病院口 受入総件数	1,056	51	109	84	55	4	12	43	14	268	242	46	1	112	4	3	3	1	1	2	1
B 市内発生件数	6,413	622	637	543	485	46	172	183	176	1,154	1,361	256	16	566	35	9	62	14	4	28	4
A÷B	16%	8%	17%	15%	11%	9%	7%	23%	8%	23%	18%	18%	6%	20%	11%	33%	5%	7%	25%	7%	25%

参照：明石市消防局データ（2022年）
※赤色網掛（20%、40%、60%を区切りに濃淡）

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(2) 救急医療の実施状況

傷病程度が「軽症」の救急搬送については明石市内発生件数のうち18%を受け入れている。

■明石市立市民病院のエリア別・重症度別・疾患別 救急受入状況（軽症） (件)

	軽症																											
	合計	循環器系 脳疾患	循環器系 心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状、徴候及び診断名不明確の状態	打撲・血腫	開放性骨折	非開放性骨折	脱臼・捻挫	神経・頸椎（髄）損傷	開放創	挫創	刺創	切創	剥皮創	内部損傷	異物・誤飲	熱傷・火傷	中毒	多発外傷	その他（医療機関以外含む）	診断不明等
本庁地区(明石川以東)	485	4	20	17	12	15	16	17	1	68	149	105		11	6	1	2	33	1	2	2		1	2				
本庁地区(明石川以西)	425	2	17	13	10	11	18	12		105	130	58	1	9	7	1	3	15		2		1	4		2		3	1
大久保地区	186	1	3	6	9	2	3	6	1	61	59	21		5		1	1	5						1		1		
魚住地区	73		2	3	2		2	2		19	32	5		3				1		2								
二見地区	23				1		1		1	10	7	1			1						1							
市外	2										1			1														
明石市立市民病院口 受入総件数	1,194	7	42	39	34	28	40	37	3	263	378	190	1	29	14	3	6	54	1	6	3	1	5	3	2	1	3	1
市内発生件数	6,821	87	256	239	166	199	346	188	15	1,147	2,163	1,113	3	142	85	13	19	468	17	48	20	2	27	23	18	1	9	3
A÷B	18%	8%	16%	16%	20%	14%	12%	20%	20%	23%	17%	17%	33%	20%	16%	23%	32%	12%	6%	13%	15%	50%	19%	13%	11%	100%	33%	33%

参照：明石市消防局データ（2022年）
※赤色網掛（20%、40%、60%を区切りに濃淡）

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(2) 救急医療の実施状況

2022年度の救急受入件数（3,282件）のうち、軽症は52.2%（1,712件）、中等症以上は47.7%（1,565件）を占める。中等症以上の患者を傷病名ごとにみると、重症患者は主に循環器系患者が多くを占め、中等症は外傷系、消化器系、呼吸系の順に多い。

■ 救急受入件数（重症区分別・傷病分類別） 参照：病院受領資料（2022年度実績）

	受入 件数(件)	総件数に 対する割合
軽症	1,712	52.2%
中等症以上	1,565	47.7%
その他	5	0.2%
総件数	3,282	—

傷病
分類別



傷病名	重症患者		中等症	
	受入件数 (件)	総件数に 対する割合	受入件数 (件)	総件数に 対する割合
①神経系	52	16.9%	65	5.3%
③耳鼻咽喉科系	0	0.0%	26	2.1%
④呼吸器系	18	5.9%	133	10.8%
⑤循環器系	130	42.3%	115	9.3%
⑥消化器系	24	7.8%	183	14.8%
⑦筋骨格系	0	0.0%	35	2.8%
⑧皮膚系	0	0.0%	13	1.1%
⑨乳房系	0	0.0%	3	0.2%
⑩内分泌系	13	4.2%	36	2.9%
⑪腎尿路系	8	2.6%	97	7.8%
⑫女性生殖器系	0	0.0%	1	0.1%
⑬血液系	1	0.3%	20	1.6%
⑮小児系	0	0.0%	27	2.2%
⑯外傷系	30	9.8%	288	23.3%
⑰精神系	1	0.3%	2	0.2%
⑱その他	14	4.6%	116	9.4%
名称不明	16	5.2%	77	6.2%
総件数	307	—	1,237	—

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(2) 救急患者の動向（ベンチマーク（BM）比較）

救急車の受入れ件数としては、明石市立市民病院はベンチマーク（BM）平均値と同程度となっている。
一方、救急患者のうち入院となった患者数としては、休日、夜間・時間外ともにベンチマーク（BM）病院よりも少なく、全体としても最も少ない数となっている。

■ 救急受入件数・入院転帰数（率）の比較

※参照 2019年度 病床機能報告
データ抽出期間：2018年7月～2019年6月

病院名	休日（件）			夜間・時間外（件）		
	A 患者延べ数	B うち入院となった 患者延べ数	C=B÷A 割合	D 患者延べ数	E うち入院となった 患者延べ数	F=E÷D 割合
明石市立市民病院	1,462	268	18.3%	2,552	786	30.8%
新小山市民病院	2,578	735	28.5%	4,481	1,493	33.3%
大牟田市立病院	2,336	494	21.1%	4,032	1,024	25.4%
長野市民病院	8,303	1,306	15.7%	8,537	1,205	14.1%
桑名市総合医療センター	2,712	765	28.2%	3,368	1,296	38.5%
下関市立市民病院	1,523	464	30.5%	2,784	867	31.1%

病院名	合計（件）			救急車の受入件数
	G=A+D 患者延べ数	H=B+E うち入院となった 患者延べ数	I=H÷G 割合	
明石市立市民病院	4,014	1,054	26.3%	3,304
新小山市民病院	7,059	2,228	31.6%	4,353
大牟田市立病院	6,368	1,518	23.8%	1,909
長野市民病院	16,840	2,511	14.9%	4,557
桑名市総合医療センター	6,080	2,061	33.9%	4,107
下関市立市民病院	4,307	1,331	30.9%	2,451

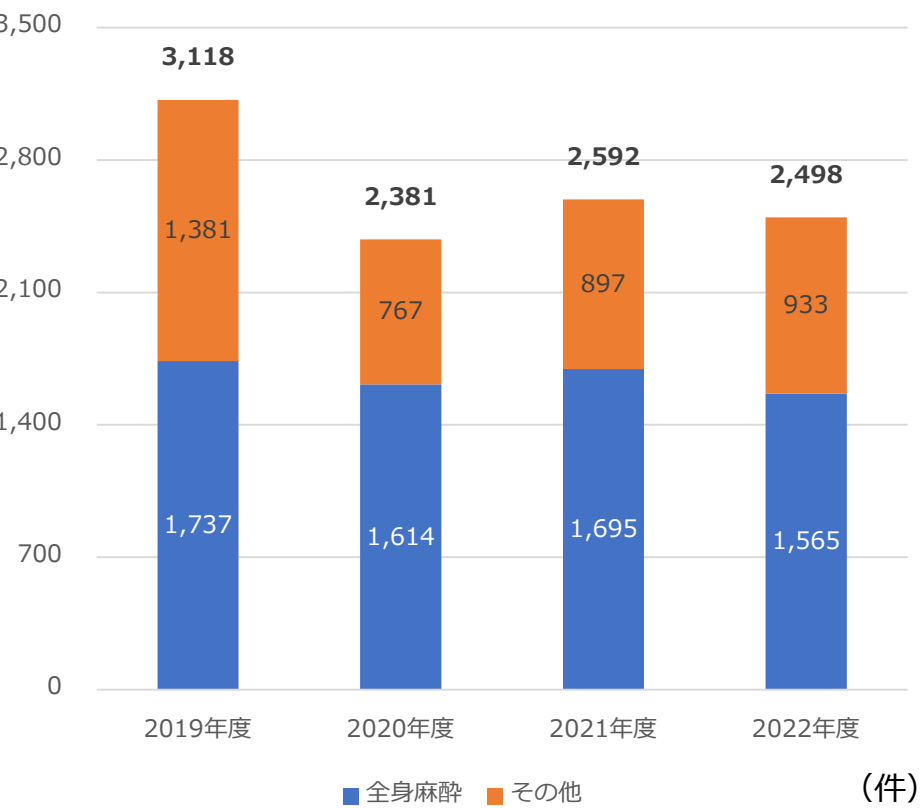
BM平均値
3,475

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（3）手術件数の推移

手術件数は2019年度(コロナ前)は3,000件を超えていたが、2020年度(コロナ禍)以降は2,500件前後を推移している。

■手術室における手術件数の推移（全身麻酔・その他）
（件）



	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
手術件数	3,118	2,381	2,592	2,498
うち全身麻酔	1,737	1,614	1,695	1,565

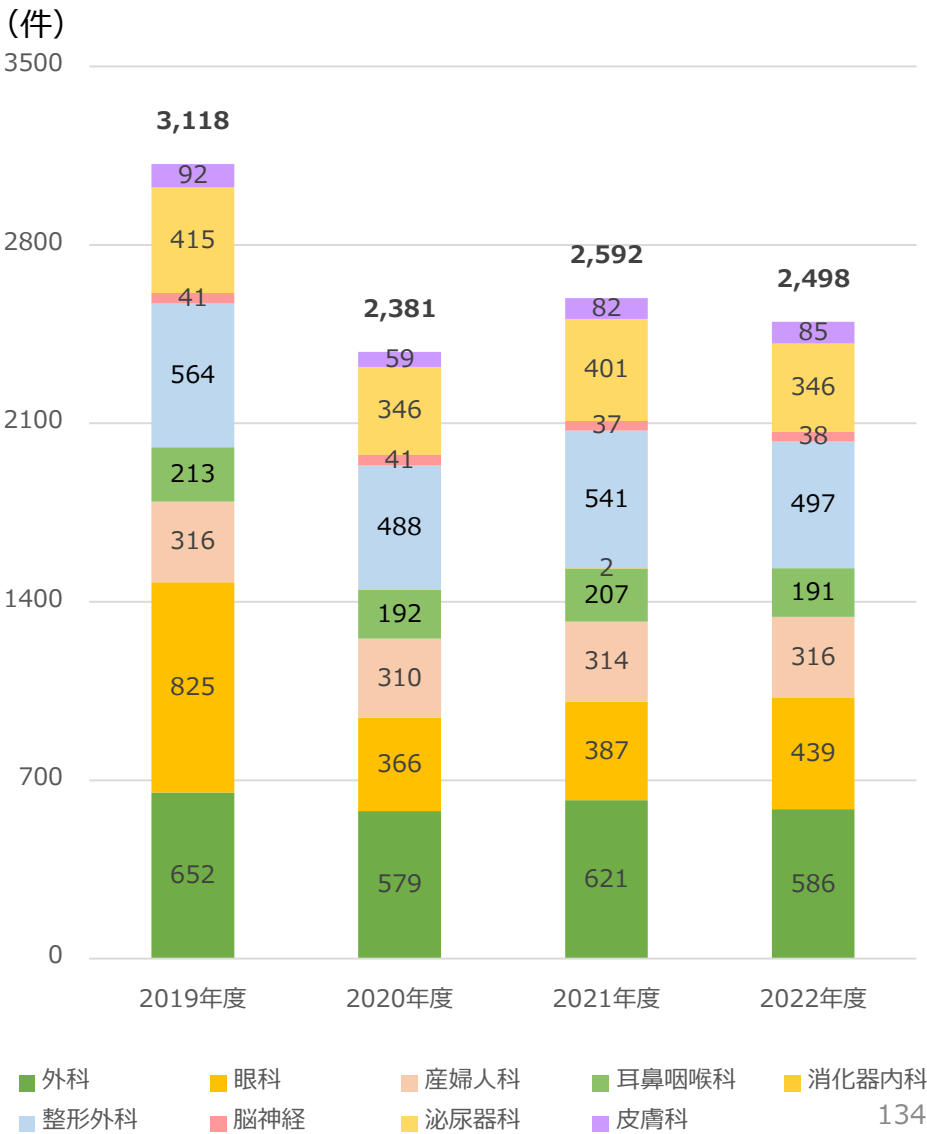
2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（3）手術件数の推移

手術件数を診療科別にみると、2019年度に最も件数の多かった眼科は半数程度まで減少。

■手術室における手術件数の推移（診療科別）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
外科	652	579	621	586
	21%	24%	24%	23%
眼科	825	366	387	439
	26%	15%	15%	18%
産婦人科	316	310	314	316
	10%	13%	12%	13%
耳鼻咽喉科	213	192	207	191
	7%	8%	8%	8%
消化器内科			2	
	0%	0%	0%	0%
整形外科	564	488	541	497
	18%	20%	21%	20%
脳神経	41	41	37	38
	1%	2%	1%	2%
泌尿器科	415	346	401	346
	13%	15%	15%	14%
皮膚科	92	59	82	85
	3%	2%	3%	3%
合計	3,118	2,381	2,592	2,498



2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（4）放射線撮影件数の推移

放射線撮影件数について、2020年度に減少したが、2021年度以降は徐々に回復傾向。

■放射線撮影件数の推移

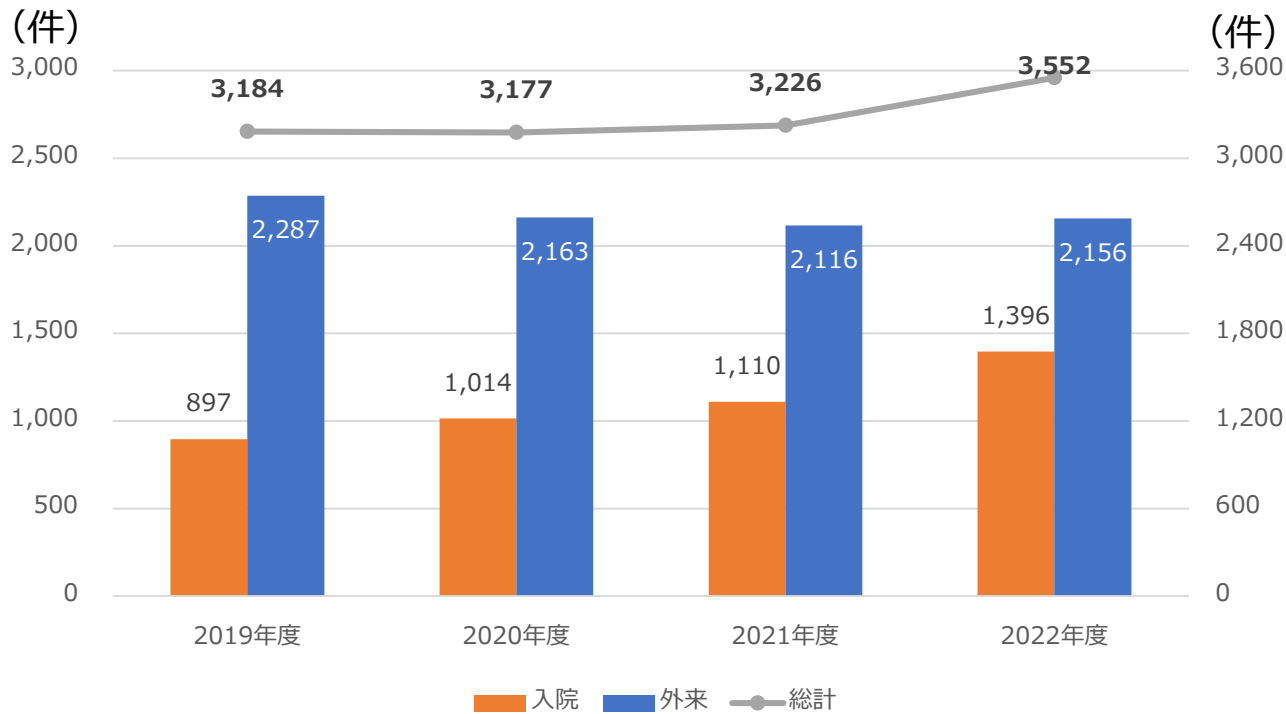
モダリティ	件数 (件)				増減率（対2019年対比）		
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
一般撮影	23,711	20,441	22,449	23,154	86.2%	94.7%	97.7%
C T 検査	13,109	11,863	12,754	13,338	90.5%	97.3%	101.7%
M R I 検査	6,896	6,109	6,261	6,508	88.6%	90.8%	94.4%
内視鏡	4,571	3,760	4,022	3,737	82.3%	88.0%	81.8%
ポータブル	2,605	3,029	3,715	3,210	116.3%	142.6%	123.2%
画像データ	2,009	2,106	2,132	2,100	104.8%	106.1%	104.5%
手術室撮影・イメージ	1,312	1,173	1,282	1,209	89.4%	97.7%	92.1%
泌尿器検査	914	930	909	837	101.8%	99.5%	91.6%
R I 検査	838	753	794	743	89.9%	94.7%	88.7%
第1 TV室検査	705	591	591	629	83.8%	83.8%	89.2%
血管造影	487	489	540	558	100.4%	110.9%	114.6%
第2 TV室検査	428	486	394	439	113.6%	92.1%	102.6%
読影依頼（他院フィルム）	70	102	96	91	145.7%	137.1%	130.0%
合計	57,655	51,832	55,939	56,553	89.9%	97.0%	98.1%

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(5) 化学療法件数の推移

化学療法の件数は2019年度から2022年度まで増加しており、特に入院患者は約500件増加した。

■化学療法件数の推移（入院・外来）



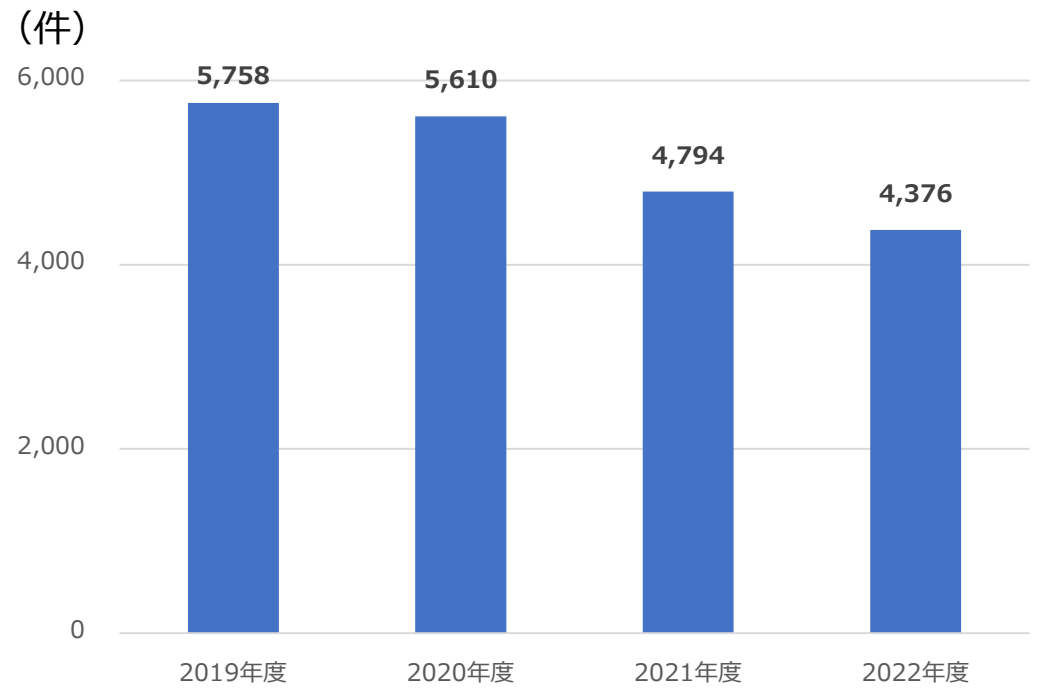
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	総計
外来	2,287	2,163	2,116	2,156	8,722
入院	897	1,014	1,110	1,396	4,417
総計	3,184	3,177	3,226	3,552	13,139

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(6) 人工透析患者数の推移

人工透析の延べ患者数の推移をみると、2019年度以降減少傾向にある。

■ 人工透析患者数の推移（延べ患者数）



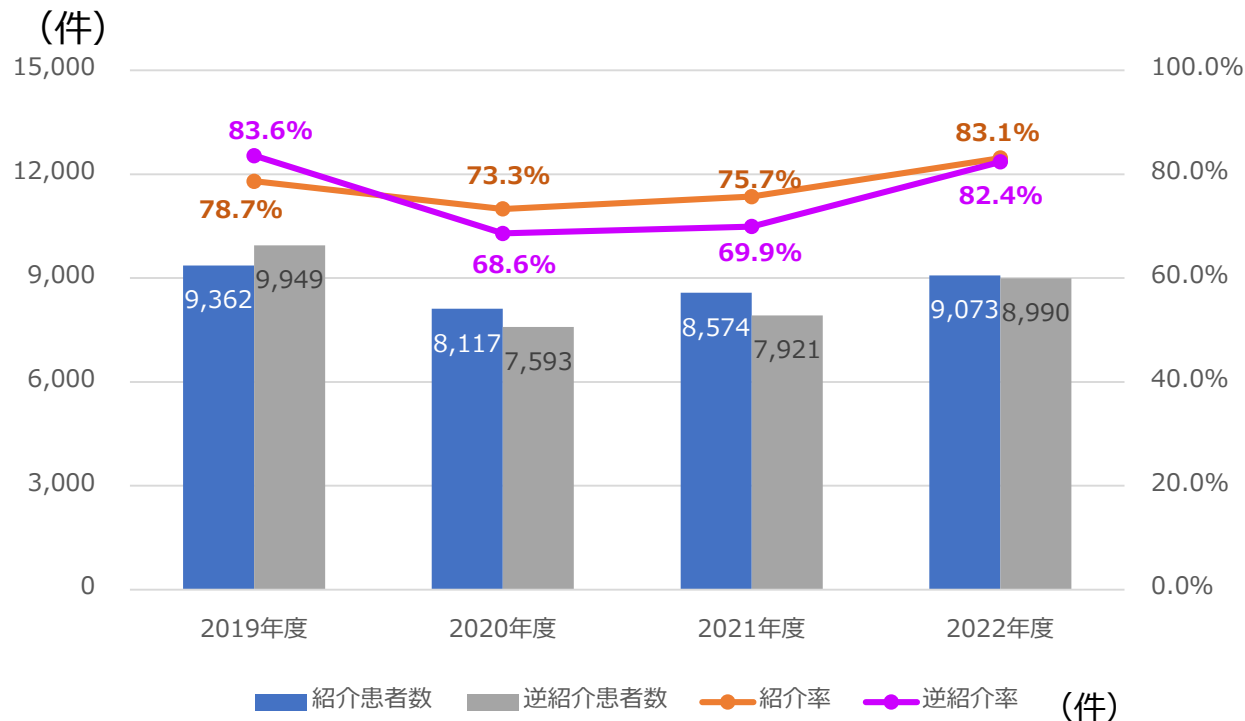
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
透析患者数	5,758	5,610	4,794	4,376

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

(7) 紹介・逆紹介の状況

紹介患者数について、2019年度(コロナ前)から2020年度(コロナ禍)まで約1,200件減少したが、その後9,000件程度まで回復している。
逆紹介患者数について、2019年度から2020年度まで約2,400件減少したが、2022年度は9,000件弱まで回復している。

■ 紹介・逆紹介の推移（件数・率）



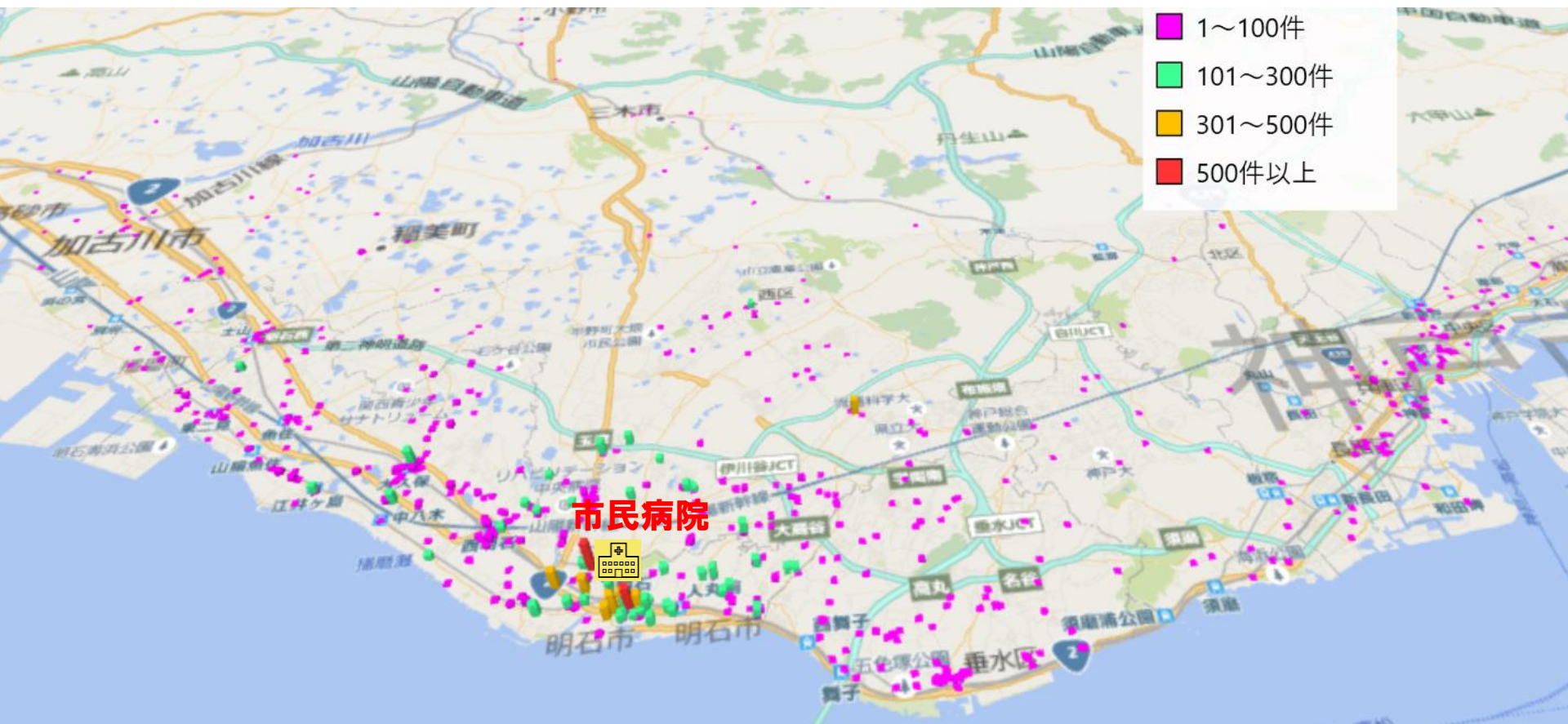
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
紹介患者数	9,362	8,117	8,574	9,073
紹介率	78.7%	73.3%	75.7%	83.1%
逆紹介患者数	9,949	7,593	7,921	8,990
逆紹介率	83.6%	68.6%	69.9%	82.4%

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（7）紹介患者の来院状況（2022年4月～2023年12月）

市民病院への紹介実績を有する医療機関は、明石市内の他、神戸市方面（垂水区、西区、中央区）にも広がっている。その中で301件以上の実績を有する医療機関は9施設で、明石市外の医療機関は1施設のみである。

■広域分布



2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（7）紹介患者の来院状況（2022年4月～2023年12月）

301件以上の紹介実績を有する医療機関の近くには、101～300件の医療機関が複数存在している。

■近隣分布



2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（7）紹介患者の来院状況（2022年4月～2023年12月）

■【参考】101件以上の実績を有する医療機関

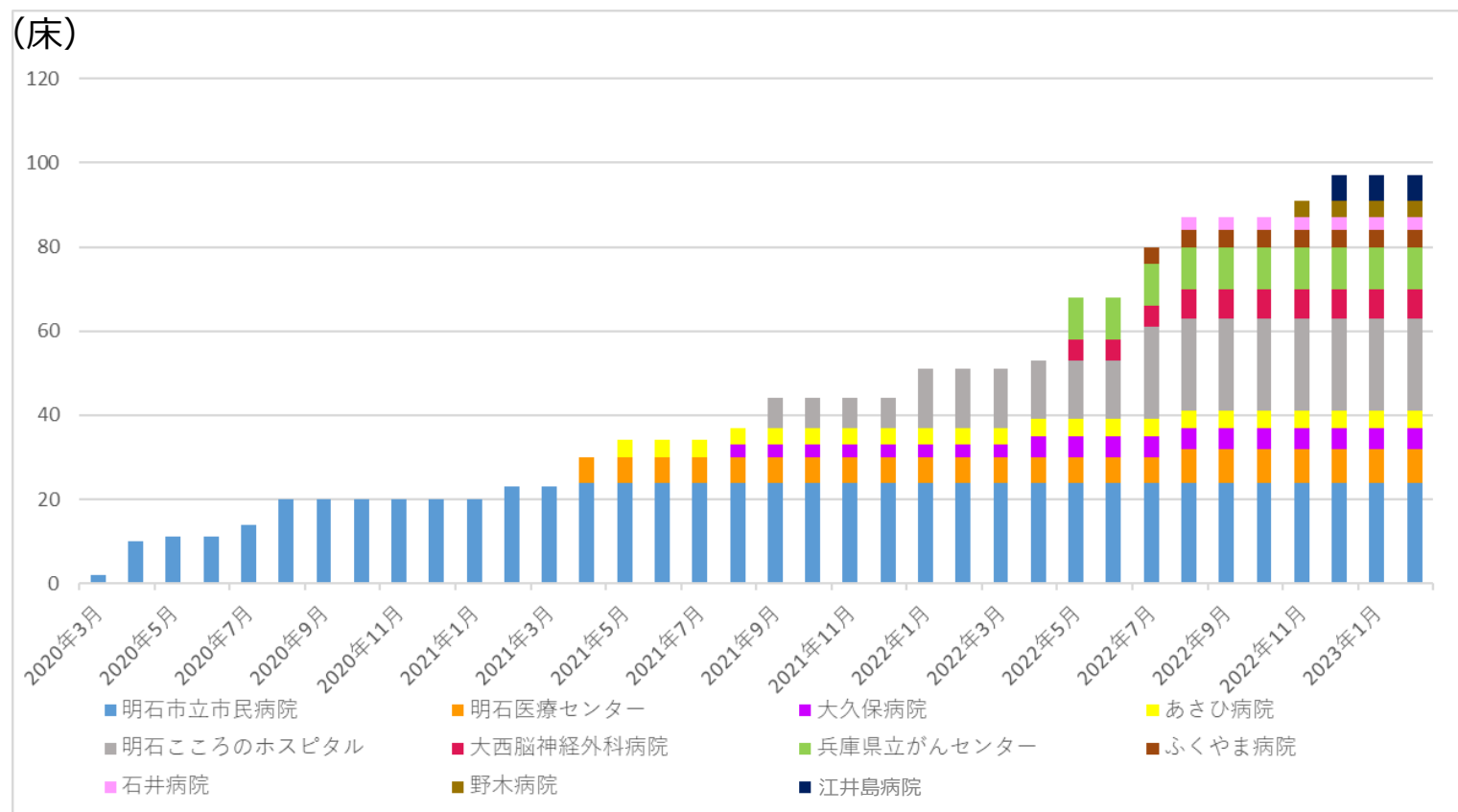
医療機関名	住所	件数	医療機関名	住所	件数
藤本クリニック	明石市和坂	102 件	石原内科・リハビリテーション科	神戸市西区白水	172 件
てらした耳鼻咽喉科	神戸市西区白水	105 件	あさぎり病院	明石市朝霧台	178 件
ひかりクリニック	明石市山下町	106 件	ふくやま病院	明石市硯町	185 件
明石こころのホスピタル	明石市藤江	107 件	下村医院	神戸市西区玉津町	185 件
くすだ泌尿器科	明石市東仲ノ町	108 件	明舞中央病院	明石市松が丘	185 件
さかい内科・胃腸科	明石市朝霧南町	114 件	せいゆうクリニック	明石市鷹匠町	192 件
阿部医院	明石市朝霧町	114 件	長谷川医院	神戸市西区小山	200 件
田路医院	明石市桜町	116 件	宮田整形外科クリニック	明石市太寺大野町	204 件
ゆうこう内科クリニック	神戸市西区水谷	117 件	北整形外科	明石市朝霧南町	205 件
ふくだ医院	神戸市西区中野	119 件	藤原整形外科	明石市新明町	209 件
明石たかぎ耳鼻咽喉科クリニック	明石市東野町	120 件	石井病院	明石市天文町	217 件
こじま肛門外科	明石市本町	121 件	明石医療センター	明石市大久保町	218 件
兵庫県立リハビリテーション中央病院	神戸市西区曙町	122 件	石川泌尿器科	明石市朝霧南町	222 件
片岡整形外科	神戸市西区糺台	122 件	村田整形外科麻酔科	明石市相生町	228 件
さわだ耳鼻咽喉科・アレルギー科	明石市旭が丘	124 件	そが内科クリニック	明石市新明町	231 件
大槻耳鼻咽喉科	明石市松の内	124 件	江本内科循環器科医院	明石市東野町	247 件
田寺泌尿器科医院	明石市西明石北町	128 件	ただいメンタルクリニック	明石市東仲ノ町	255 件
こまつ皮ふ科	神戸市西区白水	132 件	おにしクリニック	明石市大久保町	267 件
山本内科	明石市西新町	136 件	橋本整形外科リウマチクリニック	神戸市西区小山	274 件
さえき耳鼻咽喉科	明石市東仲ノ町	138 件	にった整形外科クリニック	神戸市西区伊川谷町	278 件
かわきた耳鼻咽喉科	明石市二見町	139 件	朝原クリニック	明石市大明石町	294 件
さかねクリニック	明石市松が丘	141 件	大槻整形外科	明石市樽屋町	309 件
花川医院	明石市本町	142 件	さかい整形外科	神戸市西区前開南町	322 件
片平クリニック	明石市大明石町	142 件	阪田整形外科・リハビリクリニック	明石市西新町	329 件
ふくはら乳腺クリニック	神戸市垂水区天ノ下町	143 件	まつい栄養＆認知症クリニック	明石市大明石町	366 件
兵庫県立がんセンター	明石市北王子町	157 件	奥野消化器内科クリニック	明石市東仲ノ町	372 件
えいこう小児科医院	明石市本町	162 件	いまふじ内科クリニック	明石市硯町	396 件
大賀医院	明石市天文町	165 件	たかしな内科小児科クリニック	明石市大明石町	414 件
やすずみ眼科	明石市大久保町	167 件	よこた内科クリニック	明石市大明石町	546 件
あきこレディースクリニック	明石市上ノ丸	170 件	王子クリニック	明石市北王子町	613 件

2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）

（8）新型コロナウイルスまん延下における入院ベッドの稼働

2020年3月、兵庫県からのコロナ受入病床確保の依頼に基づき、明石市では自治体病院である明石市立市民病院に2床の病床を確保し、軽症・中等症患者の受け入れを開始。2021年4月からは、重症病床1床を含む24床を確保し、感染症発生早期より、感染症患者の受け入れを行った。明石市内全体では、最大97床の受入病床を確保していた。

■新型コロナウイルス受入病床の推移（明石市内医療機関）



Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-2．市民病院の現状と課題

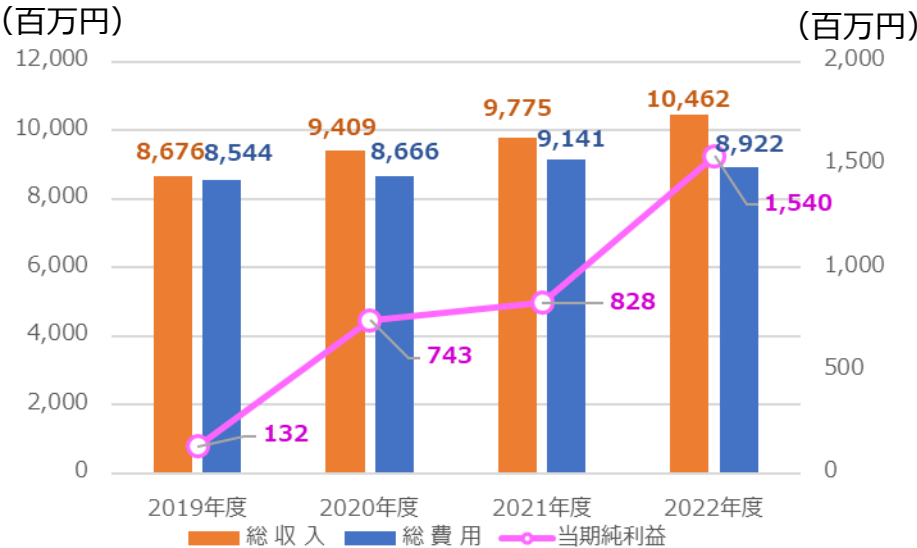
3．明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

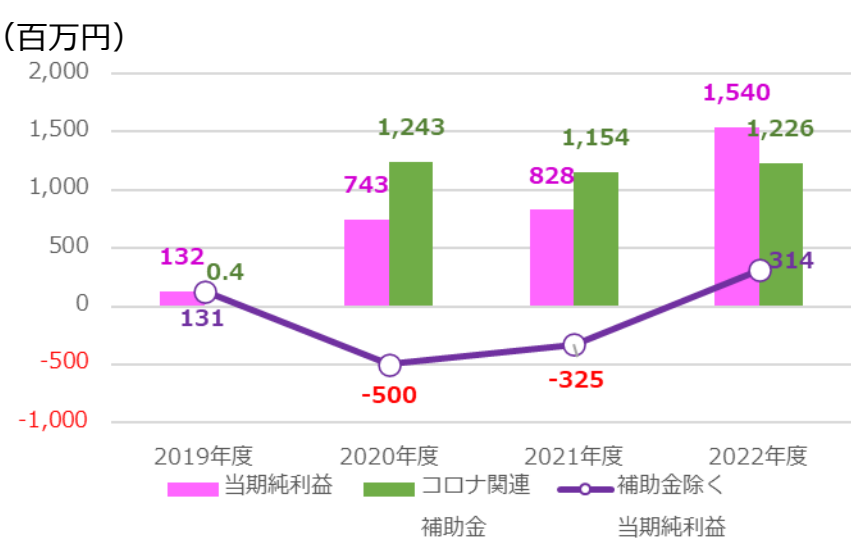
（1）当期純利益の推移

2019(コロナ前)～2022年度(コロナ禍)において、総収入の増加により、当期純利益が増加傾向にある。
ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は赤字化。
2022年度には2019年度を上回る純利益となっている。

①当期純利益の推移



②コロナ関連補助金を除く当期純利益の推移



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
総収入	8,675,861	9,409,320	9,775,094	10,462,006	1,786,146
総費用	8,543,952	8,665,947	9,141,238	8,921,786	377,834
当期純利益	131,909	743,373	828,175	1,540,220	1,408,312

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
当期純利益	131,909	743,373	828,175	1,540,220	1,408,312
コロナ関連補助金	427	1,243,327	1,153,532	1,226,462	1,226,034
補助金除く当期純利益	131,481	-499,954	-325,356	313,759	182,277

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

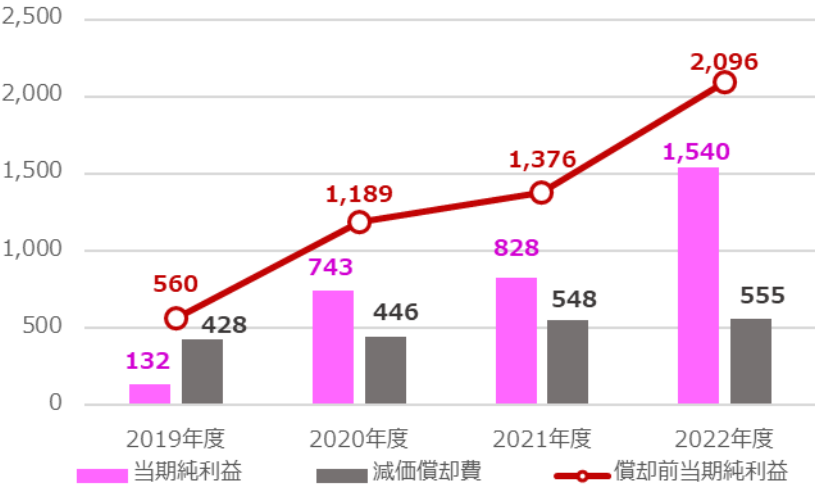
3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

（2）償却前当期純利益の推移

2019(コロナ前)～2022年度(コロナ禍)において、当期純利益の増加により、償却前当期純利益が増加傾向にある。ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度は赤字化、2021年度も2019年度を下回る結果となった。2022年度には2019年度を上回る償却前純利益となっている。

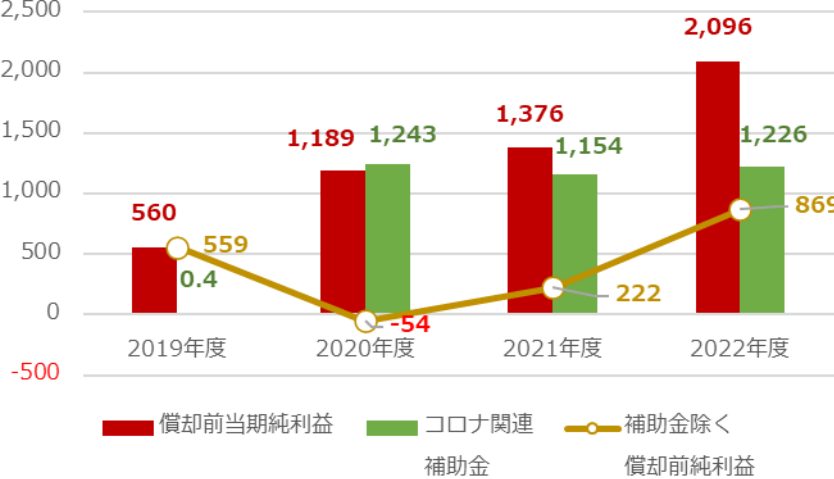
① 償却前当期純利益の推移

(百万円)



② コロナ関連補助金を除く償却前当期純利益の推移

(百万円)



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
当期純利益	131,909	743,373	828,175	1,540,220	1,408,312
減価償却費	427,829	446,063	547,649	555,475	127,646
償却前当期純利益	559,738	1,189,436	1,375,825	2,095,695	1,535,958

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
償却前当期純利益	559,738	1,189,436	1,375,825	2,095,695	1,535,958
コロナ関連補助金	427	1,243,327	1,153,532	1,226,462	1,226,034
補助金除く償却前純利益	559,310	-53,891	222,293	869,234	309,923

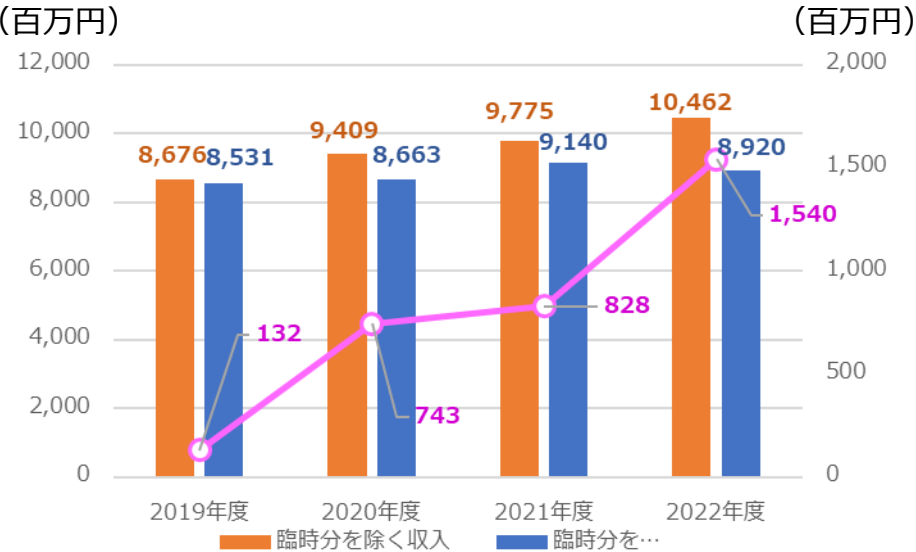
上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

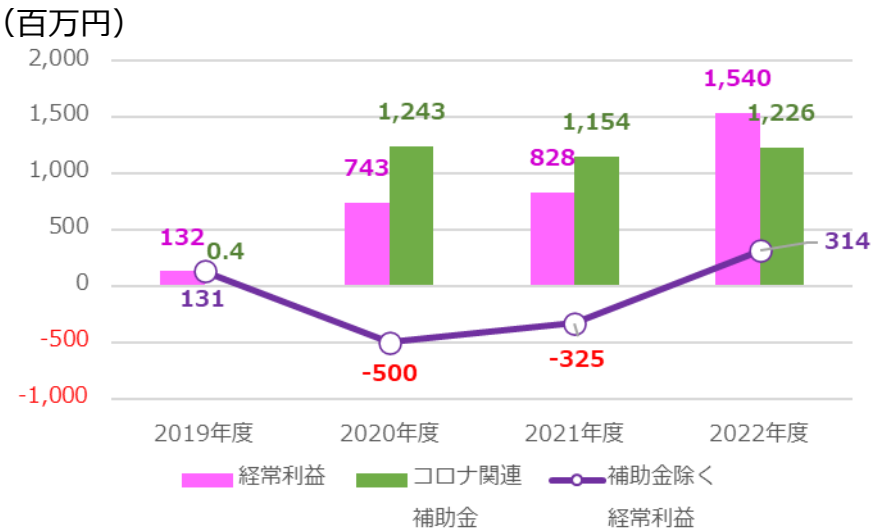
（3）経常利益の推移

2019(コロナ前)～2022年度(コロナ禍)において、臨時収入を除く収入の増加により、経常利益が増加傾向にある。ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は赤字化。2022年度には2019年度を上回る経常利益となっている。

①経常利益の推移



②コロナ関連補助金を除く経常利益の推移



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
臨時分を除く収入	8,675,861	9,409,320	9,775,094	10,462,006	1,786,146
臨時分を除く費用	8,531,296	8,662,528	9,140,359	8,920,317	389,020
経常利益	131,909	743,373	828,175	1,540,220	1,408,312

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
経常利益	131,909	743,373	828,175	1,540,220	1,408,312
コロナ関連補助金	427	1,243,327	1,153,532	1,226,462	1,226,034
補助金除く経常利益	131,481	-499,954	-325,356	313,759	182,277

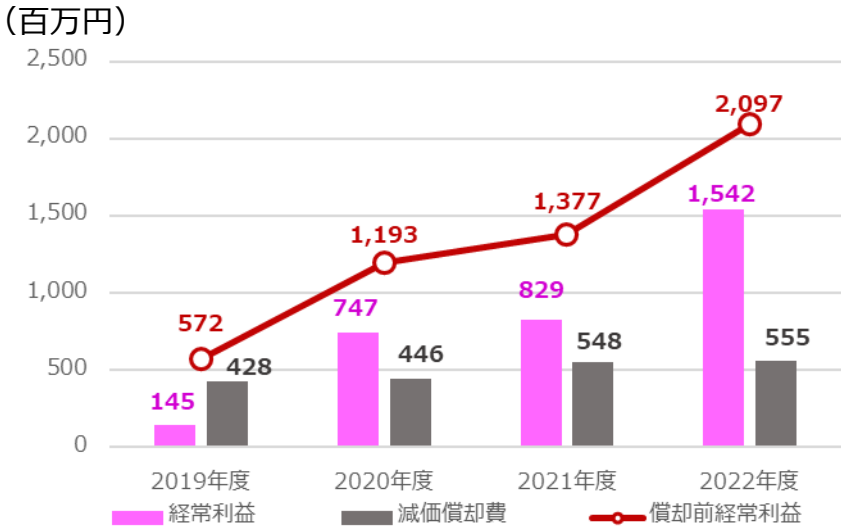
上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

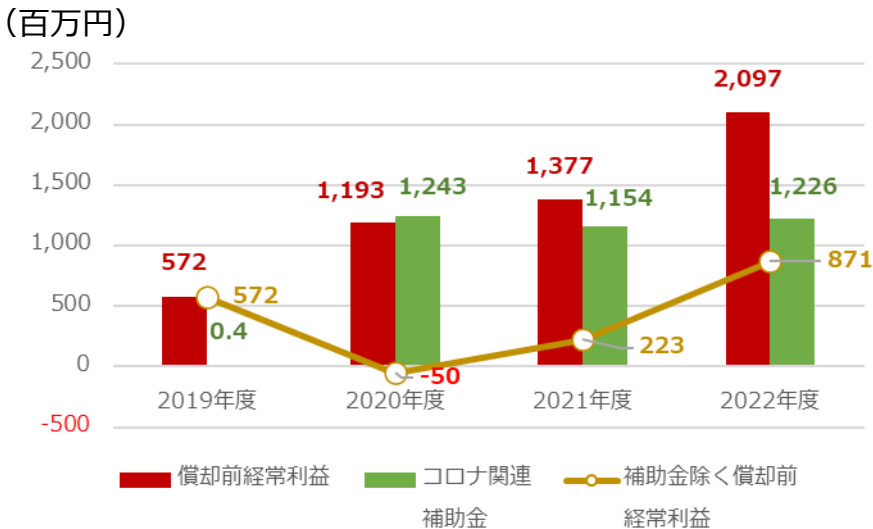
（4）償却前経常利益の推移

2019(コロナ前)～2022年度(コロナ禍)において、経常利益の増加により、償却前経常利益が増加傾向にある。
ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度は赤字化、2021年度も2019年度を下回る結果となった。
2022年度には2019年度を上回る償却前経常利益となっている。

① 償却前経常利益の推移



② コロナ関連補助金を除く償却前経常利益の推移



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
経常利益	144,564	746,792	829,055	1,541,689	1,397,125
減価償却費	427,829	446,063	547,649	555,475	127,646
償却前経常利益	572,393	1,192,855	1,376,704	2,097,164	1,524,771

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
償却前経常利益	572,393	1,192,855	1,376,704	2,097,164	1,524,771
コロナ関連補助金	427	1,243,327	1,153,532	1,226,462	1,226,034
補助金除く償却前純利益	571,966	-50,472	223,173	870,703	298,737

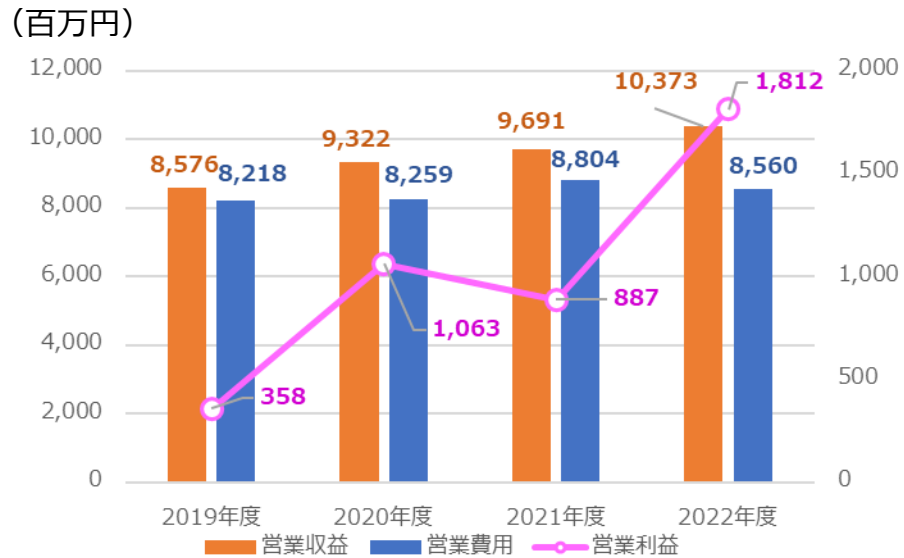
上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

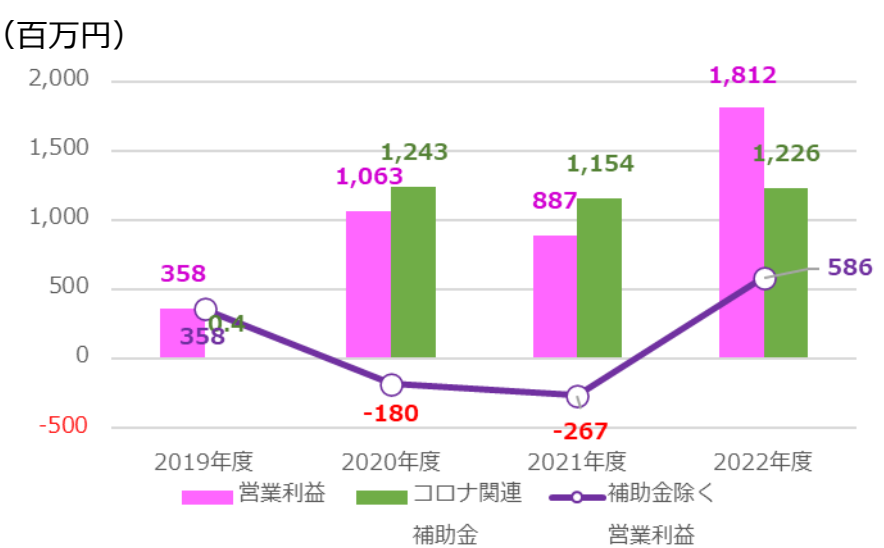
(5) 営業利益の推移

2019(コロナ前)～2022年度(コロナ禍)において、営業収益の増加により、営業利益が増加傾向にある。ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は赤字化。2022年度には2019年度を上回る営業利益となっている。

① 営業利益の推移



② コロナ関連補助金を除く営業利益の推移



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
営業収益	8,576,351	9,322,110	9,690,773	10,372,776	1,796,425
営業費用	8,218,011	8,259,226	8,803,917	8,560,462	342,451
営業利益	358,340	1,062,885	886,856	1,812,314	1,453,974

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
営業利益	358,340	1,062,885	886,856	1,812,314	1,453,974
コロナ関連補助金	427	1,243,327	1,153,532	1,226,462	1,226,034
補助金除く営業利益	357,913	-180,442	-266,676	585,852	227,940

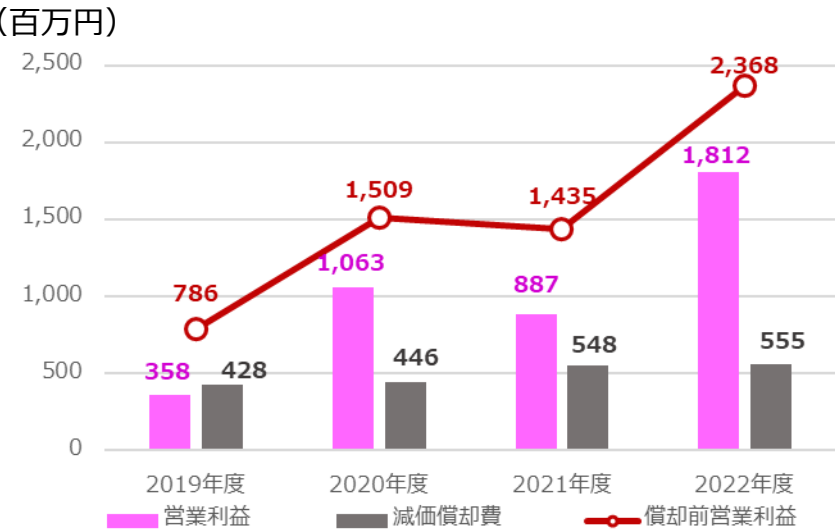
上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

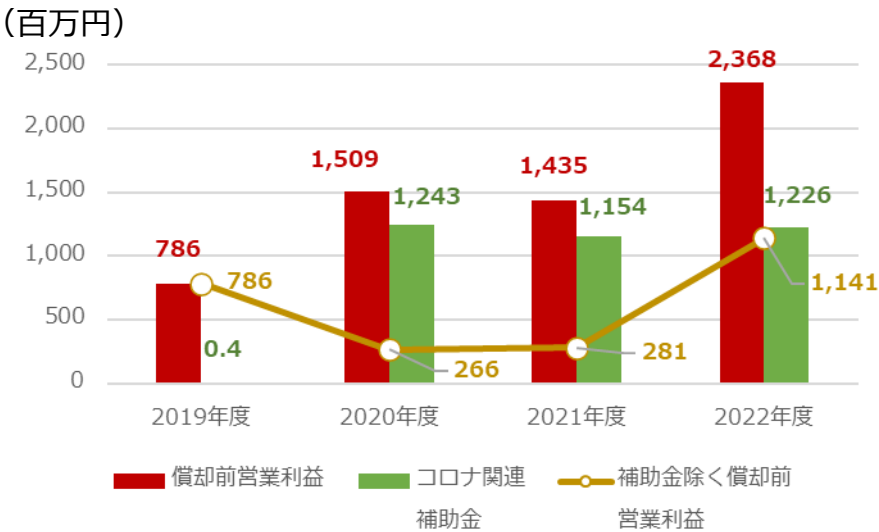
(6) 償却前営業利益の推移

2019(コロナ前)～2022年度(コロナ禍)において、営業利益の増加により、償却前営業利益が増加傾向にある。
ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は2019年度を下回る結果となったが、
2022年度には2019年度を上回る償却前営業利益となっている。

① 償却前営業利益の推移



② コロナ関連補助金を除く償却前営業利益の推移



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
営業利益	358,340	1,062,885	886,856	1,812,314	1,453,974
減価償却費	427,829	446,063	547,649	555,475	127,646
償却前営業利益	786,169	1,508,948	1,434,505	2,367,789	1,581,620

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
償却前営業利益	786,169	1,508,948	1,434,505	2,367,789	1,581,620
コロナ関連補助金	427	1,243,327	1,153,532	1,226,462	1,226,034
補助金除く償却前純利益	785,742	265,621	280,974	1,141,327	355,586

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(7) 営業利益・営業費用の推移

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、医業収益としては約6億円増加した。
営業費用においては給与費の実数としては約2.4億円増加したが、対医業収益比率で見ると-1.6%と減少している。
また材料費においても約1.4億円減少し、対医業収益比率でも減少している。

① 営業収益の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
医業収益	7,599,713	6,912,740	7,538,170	8,199,656	599,943
受託収益	295	218	96,397	18,251	17,956
運営費 負担金収益	917,208	1,096,828	803,402	819,324	-97,884
補助金等 収益	19,631	1,261,276	1,171,498	1,253,342	1,233,711
資産見返運営費負 担金戻入	0	1,960	18,938	18,908	18,908
資産見返補 助金等戻入	79	15,059	29,134	31,858	31,779
資産見返寄 附金等戻入	81	81	833	833	752
資産見返物品受贈 額戻入	39,345	33,949	32,401	30,605	-8,740
営業収益 合計	8,576,351	9,322,110	9,690,773	10,372,776	1,796,425

② 営業費用の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給与費	4,737,743	4,925,726	5,260,223	4,982,216	244,472
材料費	1,822,039	1,648,391	1,676,701	1,678,785	-143,254
減価償却費	427,829	446,063	547,649	555,475	127,646
経費	1,204,031	1,221,654	1,301,145	1,321,911	117,880
研究研修費	26,369	17,391	18,197	22,075	-4,295
営業費用 合計	8,218,011	8,259,226	8,803,917	8,560,462	342,451

対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給与費	62.3%	71.3%	69.8%	60.8%	-1.6%
材料費	24.0%	23.8%	22.2%	20.5%	-3.5%
減価償却費	5.6%	6.5%	7.3%	6.8%	1.1%
経費	15.8%	17.7%	17.3%	16.1%	0.3%
研究研修費	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	-0.1%
営業費用 比率合計	108.1%	119.5%	116.8%	104.4%	-3.7%

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

（8）営業費用項目ごとの推移

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、給与費のうち、退職給付以外の費用は増加しているが、給与及び手当、賞与、退職給付は対医業収益比率では減少している。材料費のうち、薬品費が金額及び対医業収益比率ともに減少している。

①給与費の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給料及び手当	2,678,457	2,782,595	2,738,843	2,814,158	135,701
賞与	747,733	765,318	855,111	800,794	53,061
賃金及び報酬	520,056	575,358	826,668	600,850	80,795
法定福利費	557,377	566,571	599,313	616,241	58,863
退職給付費用	234,120	235,884	240,289	150,173	-83,947
給与費合計	4,737,743	4,925,726	5,260,223	4,982,216	244,472

対医業収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給料及び手当	35.2%	40.3%	36.3%	34.3%	-0.9%
賞与	9.8%	11.1%	11.3%	9.8%	-0.1%
賃金及び報酬	6.8%	8.3%	11.0%	7.3%	0.5%
法定福利費	7.3%	8.2%	8.0%	7.5%	0.2%
退職給付費用	3.1%	3.4%	3.2%	1.8%	-1.2%
給与費比率合計	62.3%	71.3%	69.8%	60.8%	-1.6%

②材料費の推移 ※ただし、一般管理費には材料費の項目はなし

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
薬品費	1,006,671	820,913	796,762	786,124	-220,547
診療材料費	746,045	748,996	806,304	814,876	68,831
給食材料費	55,975	55,756	57,777	63,580	7,605
医療消耗備品費	13,348	22,727	15,859	14,206	858
材料費合計	1,822,039	1,648,391	1,676,701	1,678,785	-143,254

対医業収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
薬品費	13.2%	11.9%	10.6%	9.6%	-3.7%
診療材料費	9.8%	10.8%	10.7%	9.9%	0.1%
給食材料費	0.7%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%
医療消耗備品費	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.0%
材料費比率合計	24.0%	23.8%	22.2%	20.5%	-3.5%

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

（8）営業費用項目ごとの推移

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、減価償却費のうち、建物にかかる減価償却費が金額及び対医業収益比率ともに減少している。

③減価償却費の推移

（千円）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
建物 減価償却費	183,182	172,464	177,836	177,891	-5,291
構築物 減価償却費	4,868	4,868	4,552	4,235	-633
車両運搬具減 価償却費	231	368	634	464	233
工具器具備品 減価償却費	217,377	240,164	310,558	321,790	104,413
無形固定資産 減価償却費	22,171	28,199	54,069	51,095	28,924
減価償却費 合計	427,829	446,063	547,649	555,475	127,646

対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
建物 減価償却費	2.4%	2.5%	2.4%	2.2%	-0.2%
構築物 減価償却費	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
車両運搬具減 価償却費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
工具器具備品 減価償却費	2.9%	3.5%	4.1%	3.9%	1.1%
無形固定資産 減価償却費	0.3%	0.4%	0.7%	0.6%	0.3%
減価償却費 比率合計	5.6%	6.5%	7.3%	6.8%	1.1%

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(8) 営業費用項目ごとの推移

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、経費のうち、光熱水費、修繕費、委託費が年間1000万円以上増加している。

④経費の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
厚生福利費	25,714	24,812	13,178	35,211	9,498
報償費	666	1,149	478	480	-187
旅費交通費	690	239	666	332	-358
職員被服費	124	649	407	71	-53
消耗品費	28,724	24,620	19,267	20,178	-8,546
消耗備品費	2,767	4,190	2,225	2,723	-44
光熱水費	149,439	141,658	151,844	202,298	52,859
燃料費	192	188	3,474	226	34
食糧費	1,146	484	616	411	-735
印刷製本費	3,615	2,136	3,649	2,709	-906
修繕費	33,856	47,423	40,817	45,713	11,857
保険料	14,522	14,432	10,939	11,286	-3,235
賃借料	76,081	79,632	85,891	79,099	3,018
通信運搬費	8,676	9,226	10,136	10,066	1,389
手数料	16,601	14,573	16,491	17,769	1,169
委託費	827,439	841,056	930,236	882,393	54,954
諸会費	3,042	2,931	2,938	3,057	15
寄付金	330	150	300	200	-130
交際費	1,514	718	1,268	1,329	-185
広告費	3,222	8,026	3,710	3,048	-175
租税公課	1,022	1,075	1,010	1,278	257
医業貸倒損失	47	35	0	31	-16
貸倒引当金繰入額	4,600	2,252	1,607	2,001	-2,599
経費合計	1,204,031	1,221,654	1,301,145	1,321,911	117,880

対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
厚生福利費	0.3%	0.4%	0.2%	0.4%	0.1%
報償費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
旅費交通費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
職員被服費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
消耗品費	0.4%	0.4%	0.3%	0.2%	-0.1%
消耗備品費	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
光熱水費	2.0%	2.0%	2.0%	2.5%	0.5%
燃料費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
食糧費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
印刷製本費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
修繕費	0.4%	0.7%	0.5%	0.6%	0.1%
保険料	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	-0.1%
賃借料	1.0%	1.2%	1.1%	1.0%	0.0%
通信運搬費	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
手数料	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%
委託費	10.9%	12.2%	12.3%	10.8%	-0.1%
諸会費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
寄付金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
交際費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
広告費	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
租税公課	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
医業貸倒損失	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
貸倒引当金繰入額	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
経費 比率合計	15.8%	17.7%	17.3%	16.1%	0.3%

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

（8）営業費用項目ごとの推移

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、研究研修費のうち、研究雑費以外の項目で減少している。

⑤研究研修費の推移 ※ただし、一般管理費には材料費の項目はなし

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
謝金	1,238	873	385	580	-658
研究材料費	287	223	198	206	-81
図書費	7,426	6,874	6,152	6,696	-729
旅費交通費	7,720	414	1,163	2,795	-4,925
研究雑費	9,699	9,008	10,300	11,797	2,099
研究研修費 合計	26,369	17,391	18,197	22,075	-4,295

対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
謝金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
研究材料費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
図書費	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
旅費交通費	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	-0.1%
研究雑費	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
研究研修費 比率合計	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	-0.1%

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

（9）医業収益・医業費用の推移

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、収益面では入院収益は約10億円増加している一方、外来収益は約3.4億円減少している。

費用面では給与費が約1.7億円増加しているが、対医業収益比率では2.3%減少している。

材料費は約1.4億円減少しており、対医業収益比率でも3.5%減少している。

① 医業収益の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
入院収益	5,183,196	4,828,399	5,406,585	6,194,523	1,011,326
外来収益	2,269,850	1,953,049	2,017,150	1,928,867	-340,983
その他 医業収益	146,667	131,291	114,436	76,266	-70,401
医業収入 合計	7,599,713	6,912,740	7,538,170	8,199,656	599,943

② 医業費用の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給与費	4,531,028	4,704,292	4,853,877	4,703,673	172,644
材料費	1,822,039	1,648,391	1,676,701	1,678,785	-143,254
減価償却費	413,303	432,365	533,561	541,407	128,104
経費	1,182,777	1,198,515	1,277,079	1,286,285	103,508
研究研修費	26,369	17,391	18,197	22,075	-4,295
医業費用 合計	7,975,517	8,000,954	8,359,416	8,232,225	256,708

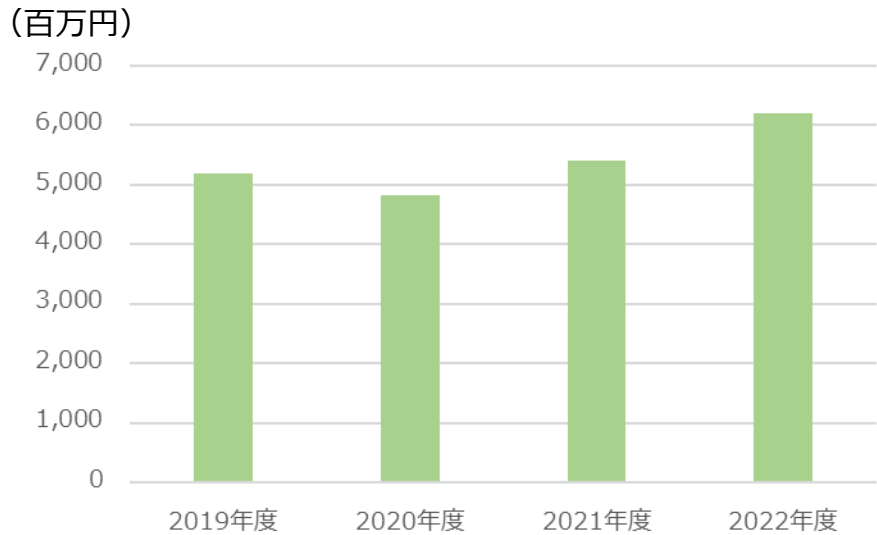
対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給与費	59.6%	68.1%	64.4%	57.4%	-2.3%
材料費	24.0%	23.8%	22.2%	20.5%	-3.5%
減価償却費	5.4%	6.3%	7.1%	6.6%	1.2%
経費	15.6%	17.3%	16.9%	15.7%	0.1%
研究研修費	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	-0.1%
医業費用 比率合計	104.9%	115.7%	110.9%	100.4%	-4.5%

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(10) 医業収益項目ごとの推移

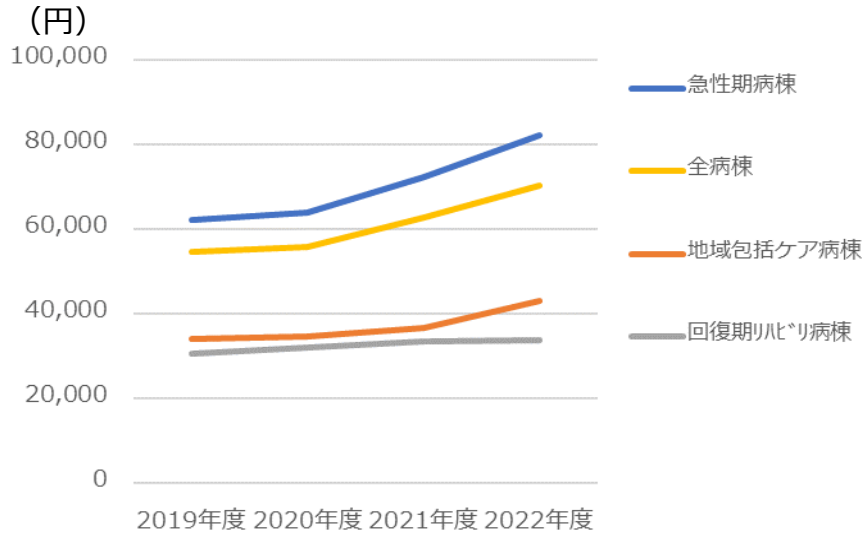
2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、入院収益は約10億円増加している。
各病棟種別ごとの入院単価も増加傾向にある。

①入院収益の推移



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
入院収益	5,183,196	4,828,399	5,406,585	6,194,523	1,011,326

②入院単価の推移



(円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
急性期病棟	62,075	63,816	72,313	82,212	20,137
地域包括 ケア病棟	33,965	34,585	36,720	42,921	8,956
回復期 リハビリ病棟	30,364	31,924	33,389	33,786	3,422
全病棟	54,632	55,805	62,776	70,289	15,657

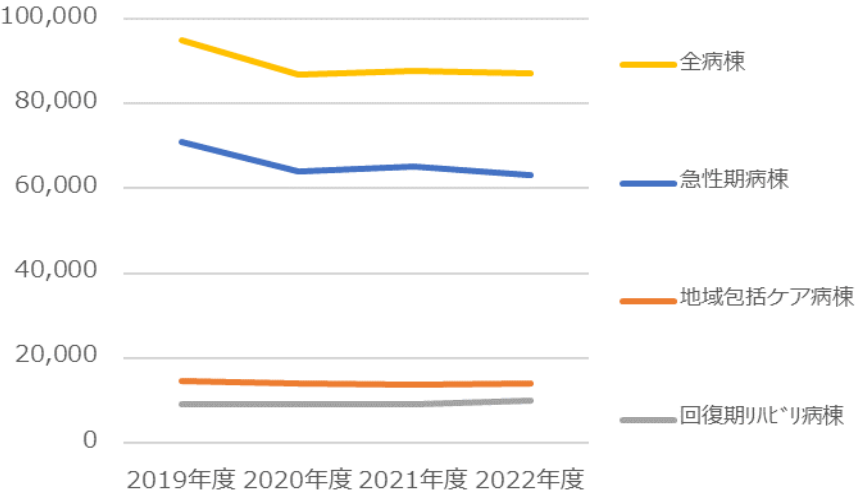
上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(10) 医業収益項目ごとの推移

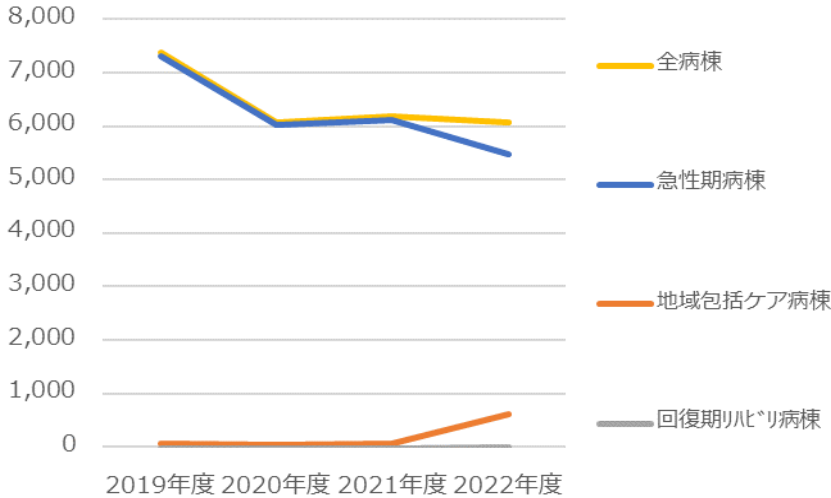
2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、延べ患者数については、急性期病棟、地域包括ケア病棟で減少している。
新入院患者については、急性期病棟は減少しているが、地域包括ケア病棟は増加している。

③入院延べ患者の推移
(人)



(人)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
急性期病棟	70,924	63,897	65,164	63,037	-7,887
地域包括 ケア病棟	14,754	13,933	13,659	14,084	-670
回復期 リハビリ病棟	9,189	9,055	9,038	10,030	841
全病棟	94,867	86,885	87,861	87,151	-7,716

④新入院患者の推移
(人)



(人)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
急性期病棟	7,301	6,015	6,106	5,466	-1,835
地域包括 ケア病棟	76	46	70	608	532
回復期 リハビリ病棟	0	0	0	1	1
全病棟	7,377	6,061	6,176	6,075	-1,302

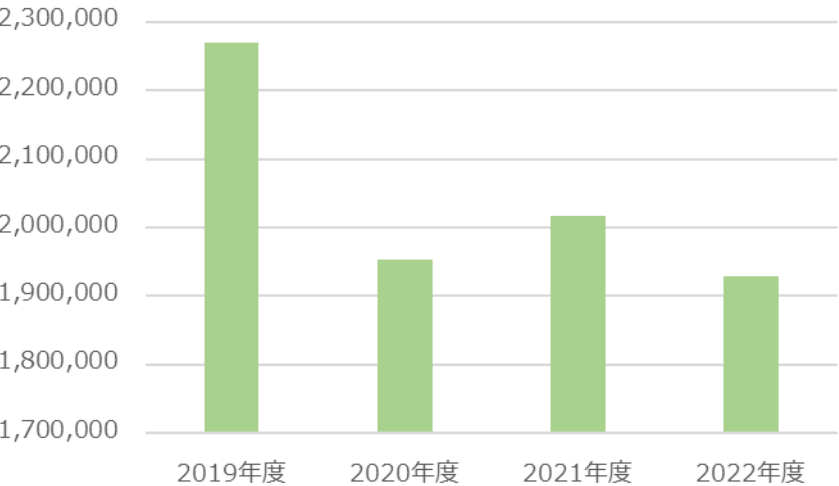
上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(10) 医業収益項目ごとの推移

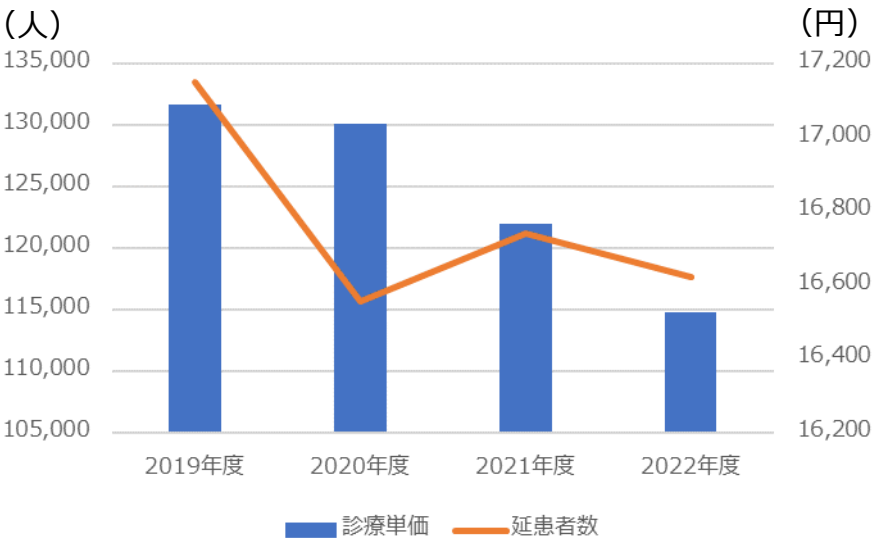
2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、外来収益は約3億円減少している。
診療単価及び延患者数においても減少している。

⑤外来収益の推移
(千円)



(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
外来収益	2,269,850	1,953,049	2,017,150	1,928,867	-340,983

⑥外来単価と延患者数の推移



	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
診療単価	17,090円	17,035円	16,766円	16,524円	-566円
延患者数	133,467人	115,685人	121,176人	117,582人	-15,885人

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

(11) ベンチマーク（BM）病院との比較（医業収益）

医業収益についてベンチマーク（BM）病院と比較すると、100床当たりの入院収益は2019年度(コロナ前)ではBM平均値を下回っていたが、2022年度(コロナ禍)ではBM平均値に近い数値に改善している。
外来収益については、2019年度・2022年度共にBM平均値を下回っている。

① 医業収益の比較（上段：実数・下段：100床当たり）

（千円）	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合医療センター	下関市立市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度	市民病院 2022年度
病床数	300床	320床	400床	400床	436床	371床	329床	329床
入院収益	6,285,295	5,269,854	9,300,564	7,273,536	6,944,610	7,014,772	5,183,196	6,194,523
外来収益	2,220,514	1,893,106	4,136,523	3,478,789	2,539,466	2,853,680	2,269,850	1,928,867
その他医業収益	216,473	577,709	1,095,104	153,101	909,101	590,298	146,667	76,266
医業収益 合計	8,722,282	7,740,669	14,532,191	10,905,426	10,393,177	10,458,749	7,599,713	8,199,656

（千円/100床）	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合医療センター	下関市立市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度	市民病院 2022年度
入院収益	2,095,098	1,646,829	2,325,141	1,818,384	1,592,800	1,895,651	1,575,440	1,882,834
外来収益	740,171	591,596	1,034,131	869,697	582,446	763,608	689,924	586,282
その他医業収益	72,158	180,534	273,776	38,275	208,509	154,650	44,580	23,181
医業収益 合計	2,907,427	2,418,959	3,633,048	2,726,357	2,383,756	2,813,909	2,309,943	2,492,297

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

(11) ベンチマーク（BM）病院との比較（医業収益）

医業収益についてベンチマーク（BM）病院と比較すると、
 入院単価は、2019年度(コロナ前)ではBM平均値を下回っていたが、2022年度(コロナ禍)ではBM平均値を上回っている。
 外来単価は、2019年度・2022年度ともにBM平均値を上回っている。
 1日当たり患者数については、入院・外来とも2019年度・2022年度の結果がBM平均値を下回っている。

② 医業収益の比較（診療単価・1日当たり患者数）

単価（千円） 患者数（人）	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合 医療センター	下関市立市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度	市民病院 2022年度
病床数	300床	320床	400床	400床	436床	371床	329床	329床
入院単価	59,128	54,650	66,137	61,229	66,341	61,497	54,632	70,289
外来単価	13,347	15,094	18,350	15,779	19,531	16,420	17,090	16,524
1日当たり 入院患者数	290	263	384	325	286	310	259	239
1日当たり 外来患者数	685	430	928	919	537	700	552	484

(人/100床)	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合 医療センター	下関市立 市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度	市民病院 2022年度
1日当たり 入院患者数	97	82	96	81	66	84	79	73
1日当たり 外来患者数	228	134	232	230	123	190	168	147

(12) 医業費用項目ごとの推移（医業費用のみ）

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、給与費のうち、退職給付以外の費用は増加しているが、給与及び手当、賞与、退職給付は対医業収益比率では減少している。材料費のうち、薬品費が金額及び対医業収益比率ともに減少している。

① 給与費の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給料及び手当	2,567,698	2,661,087	2,627,963	2,661,590	93,892
賞与	712,260	726,612	817,189	745,445	33,185
賃金及び報酬	498,974	555,637	610,758	575,603	76,628
法定福利費	531,991	540,572	572,724	580,280	48,289
退職給付費用	220,104	220,383	225,243	140,755	-79,350
給与費合計	4,531,028	4,704,292	4,853,877	4,703,673	172,644

対医業収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
給料及び手当	33.8%	38.5%	34.9%	32.5%	-1.3%
賞与	9.4%	10.5%	10.8%	9.1%	-0.3%
賃金及び報酬	6.6%	8.0%	8.1%	7.0%	0.5%
法定福利費	7.0%	7.8%	7.6%	7.1%	0.1%
退職給付費用	2.9%	3.2%	3.0%	1.7%	-1.2%
給与費比率合計	59.6%	68.1%	64.4%	57.4%	-2.3%

② 材料費の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
薬品費	1,006,671	820,913	796,762	786,124	-220,547
診療材料費	746,045	748,996	806,304	814,876	68,831
給食材料費	55,975	55,756	57,777	63,580	7,605
医療消耗備品費	13,348	22,727	15,859	14,206	858
材料費合計	1,822,039	1,648,391	1,676,701	1,678,785	-143,254

対医業収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
薬品費	13.2%	11.9%	10.6%	9.6%	-3.7%
診療材料費	9.8%	10.8%	10.7%	9.9%	0.1%
給食材料費	0.7%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%
医療消耗備品費	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.0%
材料費比率合計	24.0%	23.8%	22.2%	20.5%	-3.5%

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

(12) 医業費用項目ごとの推移（医業費用のみ）

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、減価償却費のうち、工具器具備品にかかる減価償却費が約1億円増加している。

③減価償却費の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
建物 減価償却費	169,033	159,143	164,100	164,150	-4,883
構築物 減価償却費	4,492	4,492	4,200	3,908	-584
車両運搬具減 価償却費	231	368	634	464	233
工具器具備品 減価償却費	217,377	240,164	310,558	321,790	104,413
無形固定資産 減価償却費	22,171	28,199	54,069	51,095	28,924
減価償却費 合計	413,303	432,365	533,561	541,407	128,104

対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
建物 減価償却費	2.2%	2.3%	2.2%	2.0%	-0.2%
構築物 減価償却費	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
車両運搬具減 価償却費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
工具器具備品 減価償却費	2.9%	3.5%	4.1%	3.9%	1.1%
無形固定資産 減価償却費	0.3%	0.4%	0.7%	0.6%	0.3%
減価償却費 合計	5.4%	6.3%	7.1%	6.6%	1.2%

(12) 医業費用項目ごとの推移（医業費用のみ）

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、経費のうち、光熱水費、修繕費、委託費が年間1000万円以上増加している。

④経費の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019	対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
厚生福利費	25,091	24,226	12,600	34,443	9,352	厚生福利費	0.3%	0.4%	0.2%	0.4%	0.1%
報償費	666	1,149	478	480	-187	報償費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
旅費交通費	654	231	642	310	-343	旅費交通費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
職員被服費	124	649	407	71	-53	職員被服費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
消耗品費	28,724	24,612	19,267	19,662	-9,062	消耗品費	0.4%	0.4%	0.3%	0.2%	-0.1%
消耗備品費	2,767	4,190	2,225	2,549	-219	消耗備品費	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
光熱水費	137,991	130,815	140,223	186,789	48,798	光熱水費	1.8%	1.9%	1.9%	2.3%	0.5%
燃料費	177	173	3,205	209	31	燃料費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
印刷製本費	3,615	2,136	3,649	2,709	-906	印刷製本費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
修繕費	32,305	44,849	38,529	43,572	11,268	修繕費	0.4%	0.6%	0.5%	0.5%	0.1%
保険料	14,522	14,432	10,939	11,286	-3,235	保険料	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	-0.1%
賃借料	76,081	78,220	84,390	77,380	1,298	賃借料	1.0%	1.1%	1.1%	0.9%	-0.1%
通信運搬費	8,256	8,779	9,731	9,539	1,283	通信運搬費	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
手数料	15,848	13,891	15,667	16,598	750	手数料	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%
委託費	824,025	836,289	925,892	871,458	47,433	委託費	10.8%	12.1%	12.3%	10.6%	-0.2%
諸会費	2,960	2,856	2,869	2,963	3	諸会費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
寄付金	330	150	300	200	-130	寄付金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
広告費	3,051	7,584	3,524	2,850	-200	広告費	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
租税公課	943	997	933	1,185	242	租税公課	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
医業貸倒損失	47	35	0	31	-16	医業貸倒損失	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
貸倒引当金繰入額	4,600	2,252	1,607	2,001	-2,599	貸倒引当金繰入額	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
経費合計	1,182,777	1,198,515	1,277,079	1,286,285	103,508	経費 比率合計	15.6%	17.3%	16.9%	15.7%	0.1%

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

(12) 医業費用項目ごとの推移（医業費用のみ）

2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較すると、研究研修費のうち、研究雑費以外の項目で減少している。

⑤研究研修費の推移

(千円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
謝金	1,238	873	385	580	-658
研究材料費	287	223	198	206	-81
図書費	7,426	6,874	6,152	6,696	-729
旅費交通費	7,720	414	1,163	2,795	-4,925
研究雑費	9,699	9,008	10,300	11,797	2,099
研究研修費 合計	26,369	17,391	18,197	22,075	-4,295

対医業 収益比率	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2022-2019
謝金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
研究材料費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
図書費	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
旅費交通費	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	-0.1%
研究雑費	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%
研究研修費 比率合計	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	-0.1%

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

引用：総務省 公営企業年鑑(2019年度実績)

(13) ベンチマーク（BM）病院との比較（医業費用＋一般管理費）

費用に掛かるベンチマーク（BM）病院及び市民病院の2019年度(コロナ前)・2022年度(コロナ禍)の実績は下記の通り。

①営業費用の比較（実数）

（千円）	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合 医療センター	下関市立市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度	市民病院 2022年度
病床数	300床	320床	400床	400床	436床	371床	329床	329床
給与費	4,425,537	3,904,935	7,838,489	6,336,894	5,192,094	5,539,590	4,737,743	4,982,216
材料費	1,930,721	1,497,599	3,884,264	2,731,260	2,713,189	2,551,407	1,822,039	1,678,785
減価償却費	819,944	608,199	940,298	1,456,358	800,557	925,071	427,829	555,475
経費	1,733,146	1,505,094	2,278,363	2,100,961	1,636,606	1,850,834	1,204,031	1,321,911
研究研修費	17,128	23,725	74,528	30,926	29,546	35,171	26,369	22,075
資産消耗費	20	133	0	2,882	0	607	0	0
営業費用 合計	8,926,496	7,539,685	15,015,942	12,659,281	10,371,992	10,902,679	8,218,011	8,560,462
償却前 営業費用	8,106,552	6,931,486	14,075,644	11,202,923	9,571,435	9,977,608	7,790,182	8,004,987

上記表中には、新型コロナウイルス感染症にかかる特例加算（救急医療管理加算等）を含む

(13) ベンチマーク（BM）病院との比較（医業費用＋一般管理費）

営業費用におけるベンチマーク（BM）病院との100床当たり費用の比較の結果、2022年度の給与費のみBM平均値を上回っているが、それ以外はBM平均値を下回っている。

②営業費用の比較（100床当たり）

（千円/100床）	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合 医療センター	下関市立 市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度	市民病院 2022年度
給与費	1,475,179	1,220,292	1,959,622	1,584,224	1,190,847	1,486,033	1,440,044	1,514,351
材料費	643,574	468,000	971,066	682,815	622,291	677,549	553,811	510,269
減価償却費	273,315	190,062	235,075	364,090	183,614	249,231	130,039	168,837
経費	577,715	470,342	569,591	525,240	375,368	503,651	365,967	401,797
研究研修費	5,709	7,414	18,632	7,732	6,777	9,253	8,015	6,710
資産消耗費	7	42	0	721	0	154	0	0
営業費用 合計	2,975,499	2,356,152	3,753,986	3,164,820	2,378,897	2,925,871	2,497,876	2,601,964
償却前 営業費用	2,702,184	2,166,089	3,518,911	2,800,731	2,195,283	2,676,640	2,367,836	2,433,127

(13) ベンチマーク（BM）病院との比較（医業費用＋一般管理費）

営業費用におけるベンチマーク（BM）病院との対医業収益比率との比較の結果、給与費が2019年度(コロナ前)及び2022年度(コロナ禍)ともにB M平均値を上回っている。

③営業費用の比較（対医業収益比率）

医業収益比率	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合 医療センター	下関市立 市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度	市民病院 2022年度
給与費	49.8%	53.5%	55.3%	56.9%	53.7%	53.8%	62.3%	60.8%
材料費	21.7%	20.5%	27.4%	24.5%	28.1%	24.4%	24.0%	20.5%
減価償却費	9.2%	8.3%	6.6%	13.1%	8.3%	9.1%	5.6%	6.8%
経費	19.5%	20.6%	16.1%	18.9%	16.9%	18.4%	15.8%	16.1%
研究研修費	0.2%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
資産消耗費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
営業費用 合計	100.4%	103.3%	105.9%	113.7%	107.3%	106.1%	108.1%	104.4%
償却前 営業費用	91.2%	95.0%	99.2%	100.7%	99.0%	97.0%	102.5%	97.6%

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(13) ベンチマーク（BM）病院との比較（職員数）

職員数におけるベンチマーク（BM）病院との100床当たりの比較の結果、
薬剤部門、臨床検査部門、その他部門においてBM平均値を上回っている。

④職員数の比較（100床当たり）

(人/100床)	新小山市民	大牟田市立	長野市民	桑名市総合 医療センター	下関市立 市民	BM平均 2019年度	市民病院 2019年度 ※公営企業年鑑	市民病院 2022年度 ※受領資料
医師	20.0	17.1	28.0	27.7	15.8	21.7	20.8	23.8
看護部門	113.0	87.7	136.5	123.0	85.5	109.1	102.6	106.7
薬剤部門	5.7	5.1	4.3	6.6	4.1	5.2	5.5	7.4
給食部門	1.3	1.4	1.8	-	3.4	2.0	2.4	2.1
放射線部門	5.0	5.0	6.5	5.5	3.9	5.2	4.6	4.6
臨床検査部門	8.0	4.6	9.8	7.4	6.9	7.3	6.4	8.2
事務部門	17.3	11.4	32.8	25.3	17.9	20.9	17.9	18.6
その他部門	28.7	15.2	15.8	25.5	12.4	19.5	25.5	26.2
職員数 合計	199.0	147.5	235.5	221.0	149.9	191.0	185.7	197.8

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(14) 市民病院への財政措置

市民病院が地域に必要な医療を提供するため、採算性の確保が困難な政策的医療等の実施にかかる経費として、明石市の一般会計から運営費負担金を交付している。
地方独立行政法人は、金融機関から直接、長期借入を行うことができないため、市が法人に代わり借入や返済を実施している。

地方交付税

一般会計から病院事業にかかる繰り出しを行った場合は、その一部について地方交付税措置を行う。



地方交付税

運営費負担金

- 救急医療に関する経費
- 保健衛生行政に関する経費
- 院内保育所の運営に関する経費
- 研修研究費
- リハビリテーション医療に要する経費
- 小児医療に要する経費
- 高度医療に要する経費
- 元金利息償還金の1/2※②

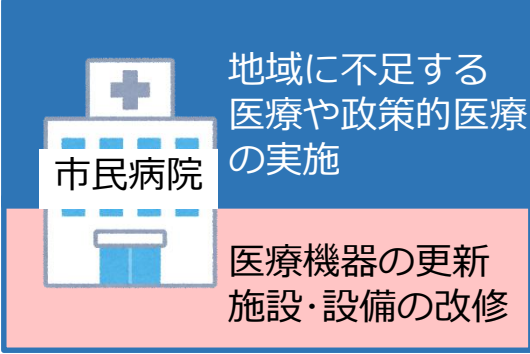


借入
(市債)
返済
(公債費)



運営費負担金

貸付
(貸付金)
返済
(元利収入)



地域に不足する医療や政策的医療の実施
医療機器の更新
施設・設備の改修

経常黒字分は、将来の設備投資等の資金需要に備えて現金積立

【病院事業債の負担割合】

病院事業債100%		
病院50%	市25%	交付税25% ※①

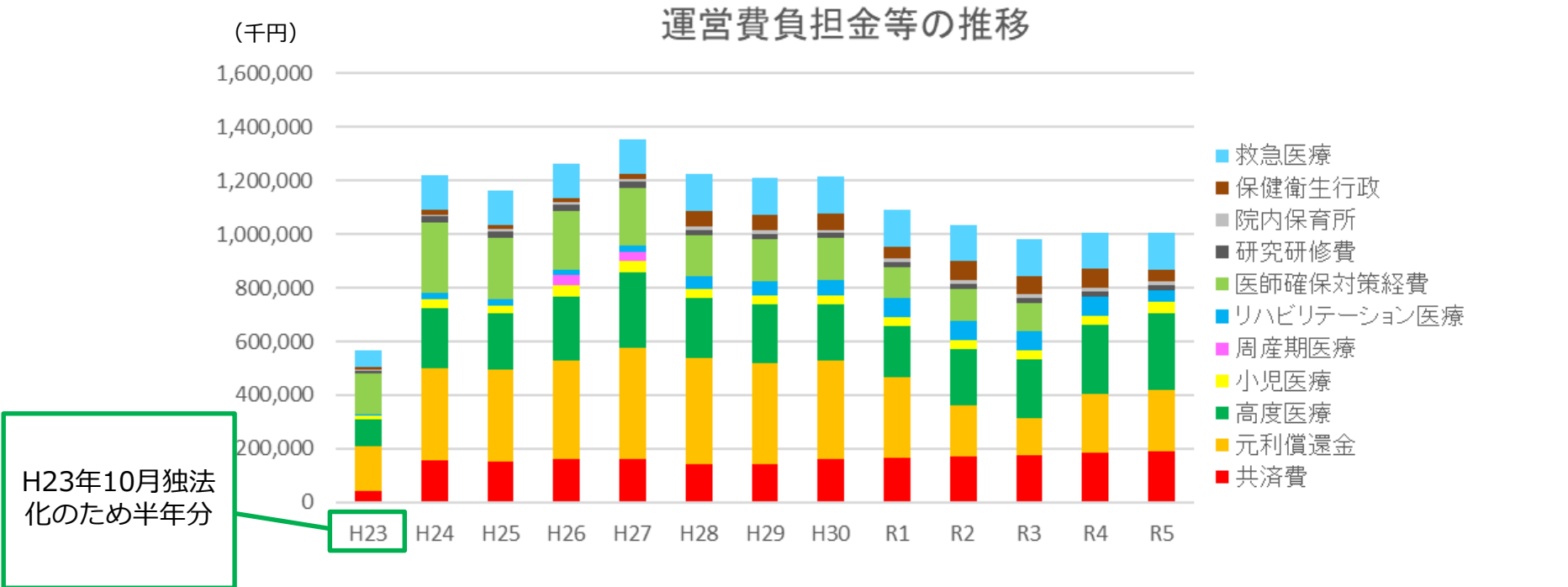
市50%(一般会計 運営費負担金) ※②

※① 建設改良費
上限：1㎡あたり52万円

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(14) 市民病院への財政措置（運営費負担金等）

市民病院への運営費負担金は、令和元年度以降、約10億円で推移しており、独法化直後に比べると約2億円減少した。これは、周産期医療の削減や、基準外である医師確保対策経費の段階的削減による。



【運営費負担金等の額】

	(千円)												
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
運営費負担金	523,220	1,066,266	1,011,298	1,104,391	1,191,353	1,082,517	1,065,225	1,049,495	923,800	862,509	807,670	823,309	813,866
共済費	43,357	154,129	152,925	159,322	159,529	142,337	143,919	163,234	166,710	172,634	173,800	183,582	189,020
合計	566,577	1,220,395	1,164,223	1,263,713	1,350,882	1,224,854	1,209,144	1,212,729	1,090,510	1,035,143	981,470	1,006,891	1,002,886

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

（14）ベンチマーク（BM）病院との比較（運営費負担金の対総収益比率及び対医業収益比率）

法人に交付する運営費負担金の対総収益比率及び対医業収益比率について、ベンチマーク（BM）病院と比較すると、明石市立市民病院が最も高い。

2019年度

	運営費負担金 (交付金を含む)	総収益	運営費負担金等 対総収益比率	医業収益	運営費負担金等 対医業収益比率
明石市立市民病院	923,800	8,675,861	10.6%	7,599,713	12.2%
新小山市民病院	603,000	9,758,300	6.2%	8,891,990	6.8%
大牟田市民病院	668,837	8,103,207	8.3%	7,290,497	9.2%
長野市民病院	1,233,970	15,634,404	7.9%	14,147,471	8.7%
桑名市総合医療センター	217,783	11,538,019	1.9%	11,116,533	2.0%
下関市立市民病院	939,666	10,698,092	8.8%	9,669,364	9.7%

2022年度

	運営費負担金 (交付金を含む)	総収益	運営費負担金等 対総収益比率	医業収益	運営費負担金等 対医業収益比率
明石市立市民病院	823,309	10,462,006	7.9%	8,199,656	10.0%
新小山市民病院	380,000	11,073,393	3.4%	10,036,579	3.8%
大牟田市民病院	623,063	8,693,688	7.2%	7,305,533	8.5%
長野市民病院	1,198,908	17,633,006	6.8%	15,734,871	7.6%
桑名市総合医療センター	818,278	14,373,341	5.7%	11,995,488	6.8%
下関市立市民病院	769,508	10,375,319	7.4%	8,788,604	8.8%

〔総収益〕 費用（支出）を差し引く前の営業収益、営業外収益、特別利益の合計。

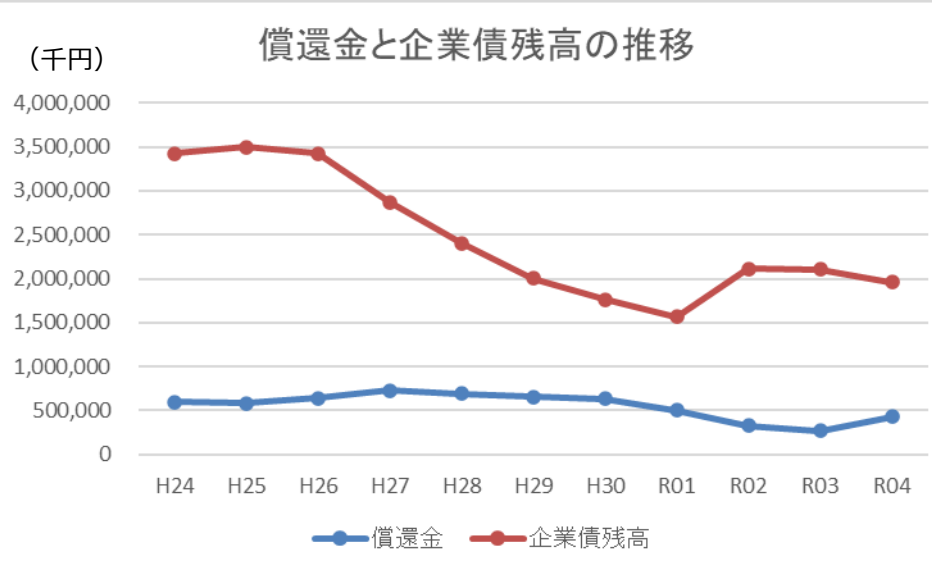
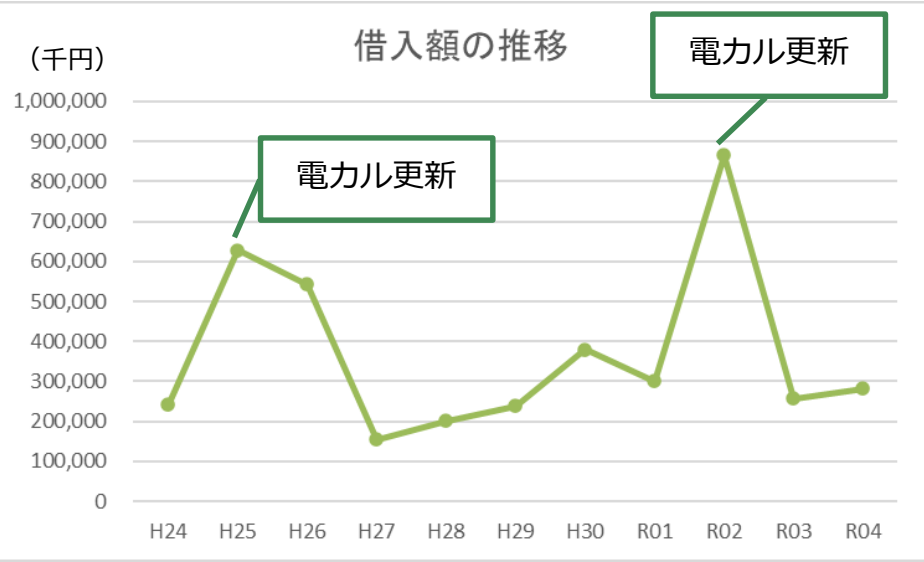
〔医業収益〕 病院の本業である外来患者や入院患者への医療サービスを提供して得られる収益のこと。

※各医療機関のホームページに公表されている財務諸表より作成。

3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）

(14) 市民病院への財政措置（病院企業債借入による貸付金）

平成25年度と令和2年度は、電子カルテ更新のため病院企業債の借入額が増加した。
企業債残高は、電子カルテ更新による借入を除き、施設及び設備の整備による病院企業債の借入額を抑制されたことにより、減少傾向にある。



【借入額・償還額】

	(千円)										
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04
借入額	241,200	628,000	542,900	153,900	200,700	238,800	380,200	300,000	865,400	257,000	281,800
償還金	594,939	583,261	641,568	725,443	691,505	657,342	633,843	501,015	331,268	271,556	433,036
うち移行前地方債	446,698	419,446	416,856	343,609	193,982	159,915	158,973	140,182	139,246	33,774	33,774
企業債残高	3,422,145	3,495,715	3,423,191	2,874,787	2,403,375	2,001,055	1,760,566	1,569,823	2,111,924	2,104,130	1,959,306

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-2．市民病院の現状と課題

4．調査のまとめ

4. 調査のまとめ

項目	ポイント
1.ベンチマーク設定について	明石市より提示候補先10病院より経常利益、病床数、看護配置、病床機能からベンチマーク先の病院として5病院を選出。 DPC件数については、2019年度と比較し、2022年度・2023年度(予測値)は減少している。 1日当たりの患者数については、2022年度は減少したものの、2023年度は2019年度と同程度まで回復している。 平均在院日数については、2023年度は2019年度と比べて約2.4日程度長くなっている。 救急受入件数の推移をみると、2019年度は6,000件を超えていたが、2020年度・2021年度は5,000件を少し上回る程度となり、2022年度は5,500件まで回復している。 救急受診からの入院転帰数は2020年度以降2,000件を下回っているものの、徐々に回復傾向である。 明石市立市民病院の救急受入件数の40%は明石地区東部、35%は明石地区西部、15%は大久保地区からの搬送で3つの地区の合計で90%を占める。 明石市立市民病院の救急受入総件数は明石市内発生件数の17%を占める。 傷病程度が「死亡」の救急搬送については23%、傷病程度が「重症」の救急搬送については18%受け入れている。 傷病程度が「中等症」の救急搬送については明石市内発生件数のうち16%を明石市立市民病院で受け入れている。 傷病程度が「軽症」の救急搬送については明石市内発生件数のうち18%を明石市立市民病院で受け入れている。
2.明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）	2022年度の救急受入件数（3,282件）のうち軽症は52.2%（1,712件）、中等症以上は47.7%（1,565件）を占める。中等症以上の患者を傷病名ごとにみると、重症患者は主に循環器系患者が多くを占め、中等症は外傷系、消化器系、呼吸器系の順に多くなっている。 救急車の受入れ件数としては、明石市立市民病院はベンチマーク平均値と同程度となっている。 一方、救急患者のうち入院となった患者数は、休日、夜間・時間外ともにベンチマーク病院よりも少ない。 手術件数は2019年度は3,000件を超えていたが、2020年度以降は2,500件前後を推移している。 手術件数を診療科別にみると、2019年度に最も件数の多い眼科は半数程度まで減少。 放射線撮影件数について、2020年度は減少したが、2021年度以降は徐々に回復傾向となっている。 化学療法の件数は2019年度から2022年度まで増加しており、特に入院患者は約500件増加している。 人工透析患者数の推移をみると、2019年度以降減少傾向にある。 紹介患者数について、2019年度から2020年度まで約1,200件減少したが、その後9,000件程度まで回復している。 逆紹介患者数について、2019年度から2020年度まで約2,400件減少したが、2022年度は9,000件弱まで回復している。 市民病院への紹介実績を有する医療機関は、明石市内の他、神戸市方面（垂水区、西区、中央区）にも広がっている。 その中で301件以上の実績を有する医療機関は9施設で、明石市外の医療機関は1施設のみである。 301件以上の紹介実績を有する医療機関の近くには、101～300件の医療機関が複数存在している。 新型コロナウイルスまん延下において、明石市内では最大97床の受入病床を確保していた。

4. 調査のまとめ

項目	ポイント
3.明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）	2019～2022年度において、総収入の増加により、当期純利益が増加傾向にある。 ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は赤字化。 2022年度には2019年度を上回る純利益 となっている。
	2019～2022年度において、当期純利益の増加により、償却前当期純利益が増加傾向にある。 ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度は赤字化、2021年度も2019年度を下回る結果となった。 2022年度には2019年度を上回る償却前純利益 となっている。
	2019～2022年度において、臨時収入を除く収入の増加により、経常利益が増加傾向にある。 ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は赤字化。 2022年度には2019年度を上回る経常利益 となっている。
	2019～2022年度において、経常利益の増加により、償却前経常利益が増加傾向にある。 ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度は赤字化、2021年度も2019年度を下回る結果となった。 2022年度には2019年度を上回る償却前経常利益 となっている。
	2019～2022年度において、営業収益の増加により、営業利益が増加傾向にある。 ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は赤字化。 2022年度には2019年度を上回る営業利益 となっている。
	2019～2022年度において、営業利益の増加により、償却前営業利益が増加傾向にある。 ただし、コロナ関連補助金を除いた結果においては、2020年度及び2021年度は2019年度を下回る結果となったが、 2022年度には2019年度を上回る償却前営業利益 となっている。
	2019年度と2022年度を比較すると、医業収益としては約6億円増加した。 営業費用においては 給与費の実数としては約2.4億円増加したが、対医業収益比率でみると-1.6%と減少 している。 また 材料費においても約1.4億円減少し、対医業収益比率でも減少 している。
	2019年度と2022年度を比較すると、 給与費のうち、退職給付以外の費用は増加しているが、 給与及び手当、賞与、退職給付は対医業収益比率では減少 。 材料費のうち、 薬品費が金額及び対医業収益比率ともに減少 している。
	2019年度と2022年度を比較すると、 減価償却費のうち、建物にかかる減価償却費が金額及び対医業収益比率ともに減少している。
	2019年度と2022年度を比較すると、 経費のうち、光熱水費、修繕費、委託費が年間1000万円以上増加 している。

4. 調査のまとめ

項目	ポイント
3.明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）	2019年度と2022年度を比較すると、 研究研修費のうち、研究雑費以外の項目で減少している。
	2019年度と2022年度を比較すると、収益面では 入院収益は約10億円増加している一方、外来収益は約3.4億円減少。 費用面では 給与費が約1.7億円増加しているが、対医業収益比率では2.3%減少している。 材料費は約1.4億円減少しており、対医業収益比率でも3.5%減少している。
	2019年度と2022年度を比較すると、入院収益は約10億円増加している。 各病棟種別ごとの入院単価も増加傾向にある。
	2019年度と2022年度を比較すると、 延べ患者数については、急性期病棟、地域包括ケア病棟で減少している。 新入院患者数については、急性期病棟は減少しているが、地域包括ケア病棟は増加している。
	2019年度と2022年度を比較すると、外来収益は約3億円減少している。 診療単価及び延患者数においても減少している。
	医業収益についてベンチマーク病院と比較すると、 100床当たりの入院収益は2019年度ではBM平均値を下回ったが、2022年度ではBM平均値に近い数値に改善。 外来収益については、2019年度・2022年度共にBM平均値を下回っている。
	医業収益についてベンチマーク病院と比較すると、 入院単価は、2019年度ではBM平均値を下回っていたが、2022年度ではBM平均値を上回っている。 外来単価は、2019年度・2022年度ともにBM平均値を上回っている。 1日当たり患者数については、入院・外来とも2019年度・2022年度の結果がBM平均値を下回っている。
	営業費用におけるベンチマーク病院との100床当たり費用の比較の結果、 2022年度の給与費のみBM平均値を上回っているが、それ以外はBM平均値を下回っている。
	営業費用におけるベンチマーク病院との対医業収益比率との比較の結果、 給与費が2019年度及び2022年度ともにBM平均値を上回っている。
	職員数におけるベンチマーク病院との100床当たりの比較の結果、 薬剤部門、臨床検査部門、その他部門においてBM平均値を上回っている。
	市民病院が地域に必要な医療を提供するため、採算性の確保が困難な政策的医療等の実施にかかる経費として、明石市の一般会計から運営費負担金を交付している。地方独立行政法人は、金融機関から直接、長期借入を行うことができないため、市が法人に代わり借入や返済を実施している。

4. 調査のまとめ

強み

【2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）】

- ・1日当たりの患者数については、2022年度は減少したものの、2023年度は2019年度と同程度まで回復している。
- ・救急受入件数の推移をみると、2019年度は6,000件を超えていたが、2020年度・2021年度は5,000件を少し上回る程度となり、2022年度は5,500件まで回復している。
- ・救急受診からの入院転帰数は2020年度以降2,000件を下回っているものの、徐々に回復傾向となっている。
- ・救急車の受入れ件数としては、明石市立市民病院はベンチマーク平均値と同程度となっている。
- ・放射線撮影件数について、2020年度は減少したが、2021年度以降は徐々に回復傾向となっている。
- ・化学療法の件数は2019年度から2022年度まで増加しており、特に入院患者は約500件増加している。
- ・紹介患者数について、2019年度から2020年度まで約1,200件減少したが、その後9,000件程度まで回復している。
- ・逆紹介患者数について、2019年度から2020年度まで約2,400件減少したが、2022年度は9,000件弱まで回復している。
- ・市民病院への紹介実績を有する医療機関は、明石市内の他、神戸市方面（垂水区、西区、中央区）にも広がっている。

【3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）】

- ・コロナ関連補助金を除いた結果においては、2022年度には2019年度の営業利益、経常利益、純利益を上回っている。
- ・給与費の実数としては約2.4億円増加したが、対医業収益比率でみると-1.6%と減少している。
- ・材料費においても約1.4億円減少し、対医業収益比率でも減少している。
- ・研究研修費のうち、研究雑費以外の項目で減少している。
- ・収益面では入院収益は約10億円増加している。
- ・各病棟種別ごとの入院単価も増加傾向にある。
- ・新入院患者数については、地域包括ケア病棟は増加している。
- ・100床当たりの入院収益は2019年度ではBM平均値を下回ったが、2022年度ではBM平均値に近い数値に改善。

弱み

【2. 明石市立市民病院の現状と課題（医療機能面）】

- ・DPC件数については、2019年度と比較し、2022年度・2023年度（予測値）は減少している。
- ・救急患者のうち入院となった患者数は、休日・夜間・時間外ともにベンチマーク病院よりも少ない。
- ・手術件数は2019年度は3,000件を超えていたが、2020年度以降は2,500件前後を推移している。
- ・手術件数を診療科別にみると、2019年度に最も件数の多い眼科は半数程度まで減少。
- ・人工透析患者数の推移をみると、2019年度以降減少傾向にある。

【3. 明石市立市民病院の現状と課題（経営状況面）】

- ・経費のうち、光熱水費、修繕費、委託費が年間1000万円以上増加している。
- ・延べ患者数については、急性期病棟、地域包括ケア病棟で減少している。
- ・新入院患者数については、急性期病棟は減少している。
- ・外来収益については診療単価及び延患者数においても減少している。
- ・外来収益については、2019年度・2022年度共にBM平均値を下回っている。
- ・ベンチマークと比較して、2022年度の給与費及び対医業収益比率はBM平均値を上回っている。
- ・薬剤部門、臨床検査部門、その他部門においてBM平均値を上回っている。

(1) 補助金受給状況

(円)

補助金等の明細（R元年度・2019年度）	区分	収益計上	コロナ関連抜粋
医師臨床研修費等補助金	通常	3,000,000	
神戸大学協力型病院にかかる臨床研修等補助金	通常	505,464	
利用者情報を記録するICT機器等の整備補助金	個別	0	
保健衛生施設等設備整備費国庫補助金	個別	1,076,200	
新型コロナウイルス感染症対策事業国庫補助金	コロナ	404,000	404,000
明石市保育所等感染症対策事業補助金	コロナ	23,319	23,319
東播磨臨海地域小児二次救急医療事業補助金	通常	9,096,000	
病院群輪番制病院運営事業補助金	通常	3,588,100	
救急救命士業務補助金	通常	1,903,100	
休日急病診療業務補助金	通常	35,000	
		19,631,183	427,319

(1) 補助金受給状況

(円)

補助金等の明細 (R2年度・2020年度)		収益計上	コロナ関連抜粋
医師臨床研修費等補助金	通常	2,921,000	
神戸大学協力型病院にかかる臨床研修等補助金	通常	549,000	
新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急支援事業補助金	コロナ	117,000,000	117,000,000
インフルエンザ流行期における新型コロナウイルス感染症疑い患者を受け入れる救急・周産期・小児医療機関体制確保事業補助金	コロナ	13,000,000	13,000,000
新型コロナウイルス感染症入院医療機関支援事業補助金	コロナ	52,692,000	52,692,000
新型コロナウイルス感染症重点医療機関体制整備事業補助金	コロナ	1,021,832,000	1,021,832,000
新型コロナウイルス感染症患者入院医療機関設備整備事業補助金	コロナ	1,929,281	1,929,281
新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備事業補助金	コロナ	3,374,546	3,374,546
帰国者・接触者外来等設備整備事業（帰国者・接触者外来設備整備）補助金	コロナ	192,276	192,276
感染症検査機関等設備整備補助事業補助金	コロナ	548,000	548,000
新型コロナウイルス感染症を疑う患者受入れのための救急・周産期・小児医療体制確保事業補助金	コロナ	31,853,025	31,853,025
医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業補助金	コロナ	700,000	700,000
年末・年始の体制確保事業補助金	コロナ	90,000	90,000
明石市新型コロナウイルス感染症対策福祉サービス継続助成事業補助金	コロナ	100,000	100,000
明石市保育所等感染症対策事業補助金	コロナ	16,002	16,002
東播磨臨海地域小児二次救急医療事業補助金	通常	9,012,000	
病院群輪番制病院運営事業補助金	通常	4,003,400	
救急救命士業務補助金	通常	1,428,000	
休日急病診療業務補助金	通常	35,000	
		1,261,275,530	1,243,327,130

(1) 補助金受給状況

(円)

補助金等の明細 (R3年度・2021年度)		収益計上	コロナ関連抜粋
医師臨床研修費等補助金	通常	3,039,000	
神戸大学協力型病院にかかる臨床研修等補助金	通常	181,000	
新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急支援事業補助金	コロナ	19,500,000	19,500,000
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止継続支援事業補助金	コロナ	100,000	100,000
新型コロナウイルス感染症入院医療機関支援事業補助金	コロナ	64,560,000	64,560,000
新型コロナウイルス感染症重点医療機関体制整備事業補助金	コロナ	1,064,009,000	1,064,009,000
新型コロナウイルス感染症患者入院医療機関設備整備事業補助金（入院医療機関設備整備）	コロナ	3,163,810	3,163,810
新型コロナウイルス感染症入院医療機関設備整備事業補助金（重点医療機関等設備整備）	コロナ	974,000	974,000
新型コロナウイルス感染症を疑う患者受入れのための救急・周産期・小児医療体制確保事業補助金	コロナ	540,000	540,000
発熱等診療・検査医療機関等運営支援事業補助金（ゴールデンウィーク中の体制確保）	コロナ	105,000	105,000
発熱等診療・検査医療機関等運営支援事業補助金（年末年始中の体制確保）	コロナ	15,000	15,000
新型コロナウイルス感染症対策事業補助金（医療従事者の宿泊施設助成）	コロナ	189,000	189,000
明石市保育所等新型コロナウイルス感染症対策事業補助金	コロナ	375,894	375,894
東播磨臨海地域小児二次救急医療事業補助金	通常	9,096,000	
病院群輪番制病院運営事業補助金	通常	3,520,400	
救急救命士業務補助金	通常	1,921,500	
休日急病診療業務補助金	通常	35,000	
オンライン資格確認関係補助金	個別	173,000	
		1,171,497,604	1,153,531,704

(1) 補助金受給状況

(円)

補助金等の明細 (R4年度・2022年度)		収益計上	コロナ関連抜粋
医師臨床研修費等補助金	通常	2,978,000	
京都府立医科大学附属病院群研修医にかかる臨床研修等補助金	通常	733,000	
看護職員等処遇改善事業補助金	コロナ	10,464,000	10,464,000
新型コロナウイルス感染症入院医療機関支援事業補助金	コロナ	46,044,000	46,044,000
新型コロナウイルス感染症重点医療機関体制整備事業補助金	コロナ	1,167,946,000	1,167,946,000
新型コロナウイルス感染症にかかる自宅療養者等に対する訪問看護支援事業補助金	コロナ	480,000	480,000
新型コロナウイルス感染症夜間救急対応医療機関支援事業補助金	コロナ	456,000	456,000
医療機関等原油価格・物価高騰対策一時支援金支給事業補助金	個別	6,590,000	
支援が必要な感染高齢者に対するフォローアップ体制強化事業補助金	コロナ	676,000	676,000
原油価格・物価高騰等対策介護サービス事業所等支援事業補助金	個別	25,000	
物価高騰による保育施設等支援事業補助金	個別	49,700	
病児保育事業補助金	個別	847,980	
病児保育施設の一部改築事業補助金	個別	807,300	
明石市保育所等感染症対策事業補助金	コロナ	395,669	395,669
東播磨臨海地域小児二次救急医療事業補助金	通常	9,180,000	
病院群輪番制病院運営事業補助金	通常	3,723,500	
救急救命士業務補助金	通常	1,911,000	
休日急病診療業務補助金	通常	35,000	
		1,253,342,149	1,226,461,669

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-3．市民病院の病床・機能分析

1．病院機能・診療領域及び役割分析

1. 病院機能・診療領域及び役割分析

① 病院機能

	強み	弱み
機会	機会×強み	要素
	機会①	地域包括ケア病床は2030年以降は供給不足が見込まれる。
	機会②	回復期リハビリテーション病床は2030年以降は供給不足が見込まれる。
	強み①	急性期一般病床、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床と幅広い機能の病床を保有している。
	強み②	回復期リハビリテーション病床の延患者は増加している。
	強み③	回復期リハビリテーション病床の稼働率が高い。
	方針（案）	回復期病床を継続運用する。特に回復期リハビリテーション病棟は現状で病床稼働率が高いことや診療圏内におけるニーズの増加率が大いことに考慮し、多少の増床も検討する。
脅威	該当なし	該当なし

1. 病院機能・診療領域及び役割分析

②診療領域・役割

強み		弱み	
機会	機会×強み	要素	
	機会①	診療圏内の患者流出・流入傾向をみると、MDC疾患分類のほとんどの領域が流出傾向である。	
	機会②	MDC疾患分類の中で、眼科系、消化器系、皮膚系、腎尿路系、血液系、神経系、呼吸器系、循環器系、筋骨格系、内分泌系、外傷系、その他においては患者増加が見込まれる。	
	強み①	MDC疾患分類の中で、眼科系、消化器系、皮膚系、腎尿路系、血液系においては、明石市立市民病院のDPC患者受入シェアが高い。	
	方針（案）	眼科系、消化器系、皮膚系、腎尿路系、血液系に関しては、将来の医療ニーズに対応するために機能強化を図る。	
脅威	脅威×弱み	要素	
	脅威①	MDC疾患分類の中で、小児系、耳鼻咽喉科系、乳房系、女性生殖器系においては患者減少が見込まれる。	
	強み①	MDC疾患分類の中で、小児系、耳鼻咽喉科系においては、明石市立市民病院のDPC患者受入シェアが高い。	
	強み②	明石市内において、小児科、耳鼻咽喉科を標ぼうする病院は少なく、明石市立市民病院は双方標ぼうしている。	
	方針（案）	小児科、耳鼻咽喉科領域に対応する病院が少ないことから、これら領域は、引き続き現在の機能を担い続ける。	
機会	機会×弱み	要素	
	機会①	診療圏内の患者流出・流入傾向をみると、ほとんどの領域が流出傾向である	
	機会②	MDC疾患分類の中で、眼科系、消化器系、皮膚系、腎尿路系、血液系、神経系、呼吸器系、循環器系、筋骨格系、内分泌系、外傷系、その他においては患者増加が見込まれる。	
	弱み①	MDC疾患分類の中で、神経系、呼吸器系、循環器系、筋骨格系、内分泌系、外傷系、その他においては明石市立市民病院のDPC患者受入シェアが低い。	
	方針（案）	呼吸器系、循環器系、筋骨格系に関しては、現状で流出数が多いことから、地域にて医療を完結するために機能強化を図る。	
脅威	脅威×弱み	要素	
	脅威①	MDC疾患分類の中で、小児系、耳鼻咽喉科系、乳房系、女性生殖器系においては患者減少が見込まれる。	
	脅威②	兵庫県立がんセンターが乳房系、女性生殖器系ともにシェアが特段高い。	
	弱み①	MDC疾患分類の中で、乳房系、女性生殖器系においては、明石市立市民病院のDPC患者受入シェアが低い。	
	方針（案）	乳房系、女性生殖器系のがん疾患は兵庫県立がんセンターに患者を集約する。女性生殖器系については、専門特化することで病院のブランド化を図る。	
脅威	脅威×弱み	要素	
	脅威①	明石市内において、14施設が人工透析を提供しており、最大約1,170人の透析患者の受入が可能。また、将来供給が需要を上回ることが想定される。	
	弱み①	明石市立市民病院の人工透析延患者数は減少傾向にある。	
	方針（案）	人工透析について、明石市立市民病院では導入透析や急性期疾患で入院する患者の透析のみ対応する方向性とし、通院透析に関しては、市内の他医療機関が機能を担う。	

Ⅱ．明石市立市民病院を取り巻く医療について

（市民病院を核とした地域医療の現状・将来需要等）

Ⅱ-3．市民病院の病床・機能分析

2．必要病床数の検証

2. 必要病床数の検証 【急性期病床】

(1) 病床数検証（第1ステップ）の考え方

1. 現在の患者数
(2019年度(コロナ前))

全体：189.7人/日
眼科除く：182.7人/日



2. 将来患者増減率
(2035・40・45・50年：2020年対比)

2035年：106%
2040年：103%
2045年：100%
2050年：97% ※いずれも全体の増減率



3. 将来患者数
(2035・40・45・50年)

2035年 203.5人/日
2040年 198.8人/日
2045年 193.7人/日
2050年 190.5人/日



4. 想定病床稼働率

78% or 84%



5. 将来必要病床数
(2035・40・45・50年)

病床稼働率78%		病床稼働率84%	
2035年	266床	2035年	247床
2040年	260床	2040年	242床
2045年	254床	2045年	235床
2050年	250床	2050年	232床

2. 必要病床数の検証 【急性期病床】

(2) 明石市立市民病院の現在の患者数

2019年度のDPC退院患者数は6,430人、1日あたり患者数は182.7人/日、平均在院日数は10.4日であった。
※いずれも眼科を除く

■ 明石市立市民病院の現在の患者数

参照：病院受領資料
※いずれの値もDPC 6桁コード別の値を集計したもの

傷病名	2019年度実績		
	退院患者数 (人)	1日あたり 入院患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)
①神経系	263	10.9	15.2
②眼科系	691	7.0	3.7
③耳鼻咽喉科系	437	5.8	4.9
④呼吸器系	710	20.3	10.5
⑤循環器系	472	16.6	12.9
⑥消化器系	1,868	42.4	8.3
⑦筋骨格系	229	8.5	13.6
⑧皮膚系	145	2.5	6.4
⑨乳房系	74	2.0	10.1
⑩内分泌系	140	4.0	10.4

傷病名	2019年度実績		
	退院患者数 (人)	1日あたり 入院患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)
⑪腎尿路系	868	21.2	8.9
⑫女性生殖器系	305	6.4	7.7
⑬血液系	184	12.0	23.8
⑭新生児系	14	0.2	4.4
⑮小児系	65	0.8	4.3
⑯外傷系	554	23.8	15.7
⑰精神系	9	0.1	2.2
⑱その他	93	5.2	20.4
合計	7,121	189.7	9.7
合計（眼科除く）	6,430	182.7	10.4

現在は地域包括ケア病床にて受け入れているため、
本検証において、急性期一般病床の患者としては
見込まないこととする。

2. 必要病床数の検証 【急性期病床】

(3) 診療圏における将来患者増減率

診療圏のDPC入院実患者は2035年まで増加し、その後減少傾向にある。MDC疾患分類別にみると、神経系・眼科系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎尿路系・血液系・外傷系・その他で一時的に増加が見られる。耳鼻咽喉科系・乳房系・女性生殖器系・新生児系・小児系・精神系は減少する一方である。

■ MDC疾患分類別 入院実患者推計（診療圏）

傷病名	推定実患者数 (件)							2020年からの増減率							
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	
①神経系	3,743	3,886	4,028	4,064	3,967	3,859	3,780	100%	104%	108%	109%	106%	103%	101%	増減率減少 →青色網掛 (95%、90%、85%以下 を区切りに濃淡)
②眼科系	2,974	3,109	3,225	3,300	3,254	3,174	3,094	100%	105%	108%	111%	109%	107%	104%	
③耳鼻咽喉科系	2,486	2,400	2,336	2,284	2,209	2,120	2,016	100%	97%	94%	92%	89%	85%	81%	増加率増加 →オレンジ網掛 (105%、110%、115%以上 を区切りに濃淡)
④呼吸器系	7,060	7,285	7,650	7,791	7,623	7,434	7,304	100%	103%	108%	110%	108%	105%	103%	
⑤循環器系	6,759	7,146	7,517	7,679	7,533	7,356	7,240	100%	106%	111%	114%	111%	109%	107%	※推定実患者数及び増減率はDPC 6桁コード別の値を集計したもの
⑥消化器系	14,142	14,516	14,834	14,978	14,668	14,252	13,855	100%	103%	105%	106%	104%	101%	98%	
⑦筋骨格系	2,935	2,977	2,992	2,993	2,925	2,832	2,733	100%	101%	102%	102%	100%	97%	93%	
⑧皮膚系	1,065	1,068	1,085	1,077	1,045	1,012	984	100%	100%	102%	101%	98%	95%	92%	
⑨乳房系	912	903	872	839	807	770	732	100%	99%	96%	92%	88%	84%	80%	
⑩内分泌系	1,733	1,754	1,775	1,763	1,713	1,658	1,611	100%	101%	102%	102%	99%	96%	93%	
⑪腎尿路系	4,969	5,153	5,335	5,424	5,319	5,182	5,067	100%	104%	107%	109%	107%	104%	102%	
⑫女性生殖器系	2,952	2,789	2,660	2,535	2,415	2,271	2,127	100%	94%	90%	86%	82%	77%	72%	
⑬血液系	1,552	1,605	1,655	1,678	1,646	1,602	1,562	100%	103%	107%	108%	106%	103%	101%	
⑭新生児系	1,184	1,014	968	944	911	869	805	100%	86%	82%	80%	77%	73%	68%	
⑮小児系	233	198	188	184	178	170	157	100%	85%	81%	79%	76%	73%	67%	
⑯外傷系	3,927	4,107	4,300	4,315	4,188	4,077	4,021	100%	105%	109%	110%	107%	104%	102%	
⑰精神系	98	95	93	90	86	83	79	100%	97%	95%	92%	88%	84%	80%	
⑱その他	940	969	1,005	1,014	989	961	941	100%	103%	107%	108%	105%	102%	100%	
合計	59,665	60,974	62,520	62,952	61,475	59,681	58,109	100%	102%	105%	106%	103%	100%	97%	

2. 必要病床数の検証 【急性期病床】

(4) 将来患者数の検証

入院患者数は2035年時点で203.5人/日、2040年時点で198.8人/日、2045年時点で193.7人/日、2050年時点で190.5人/日と推計される。

■ 1日あたり入院患者数の将来推計 ※DPC6桁コード別の患者数（2019年実績）に
DPC6桁コード別の患者増減率を掛け合わせたものの合計

傷病名	1日あたり入院患者数(将来)					
	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
①神経系	11.5	12.1	12.3	12.0	11.7	11.6
③耳鼻咽喉科系	5.5	5.3	5.2	5.0	4.8	4.5
④呼吸器系	21.7	23.7	24.2	23.6	23.1	23.1
⑤循環器系	18.3	20.0	20.5	20.1	19.7	19.7
⑥消化器系	43.9	45.2	45.7	44.7	43.5	42.4
⑦筋骨格系	8.8	9.1	9.1	8.9	8.7	8.5
⑧皮膚系	2.6	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5
⑨乳房系	2.0	2.0	1.9	1.8	1.7	1.7
⑩内分泌系	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0	3.9
⑪腎尿路系	22.0	22.8	23.1	22.6	22.0	21.5
⑫女性生殖器系	6.5	6.4	6.4	6.3	6.1	5.8
⑬血液系	12.4	12.7	12.8	12.6	12.3	11.9
⑭新生児系	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
⑮小児系	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5
⑯外傷系	25.8	28.0	28.5	27.8	27.2	27.1
⑰精神系	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
⑱その他	5.5	5.8	5.9	5.8	5.7	5.6
合計（眼科除く）	191.5	200.8	203.5	198.8	193.7	190.5

2. 必要病床数の検証 【急性期病床】

(5) 必要病床数の検証

病床稼働率78%で想定する場合、2035年時点で266床、2040年時点で260床、2045年時点で254床、2050年時点で250床と推計される。
病床稼働率84%で想定する場合、2035年時点で247床、2040年時点で242床、2045年時点で235床、2050年時点で232床と推計される。

■ 1日あたり入院患者数の将来推計

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
DPC患者推計値	191.5人/日	200.8人/日	203.5人/日	198.8人/日	193.7人/日	190.5人/日
DPC外想定数	4.1人/日					
想定患者数（合計）	195.6人/日	204.9人/日	207.6人/日	202.9人/日	197.8人/日	194.6人/日

急性期病床の患者データは当該期間に退院した患者のデータであり、このデータから集計した現在の1日あたり患者数と急性期病床の1日あたり患者数の値に誤差(4.1人/日)が生じるため、これら患者数をDPC外想定数として加味した。

■ 必要病床数の検証

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
病床稼働率 78%稼働の場合	251床	263床	266床	260床	254床	250床
病床稼働率 84%稼働の場合	233床	244床	247床	242床	235床	232床

病床稼働率設定の根拠
78%→地域医療構想上の必要病床数算出時に設定される急性期病床の病床稼働率
84%→内部環境調査より、ベンチマーク病院の病床稼働率の平均値

2. 必要病床数の検証 【地域包括ケア病床】

(1) 病床数検証（第1ステップ）の考え方

1. 現在の患者数
(2019年度(コロナ前))

全体：38.3人/日
※眼科分は2023年4～9月までの患者数



2. 将来患者増減率
(2035・40・45・50年：2020年対比)

2035年：106%
2040年：103%
2045年：100%
2050年：97% ※いずれも全体の増減率



3. 将来患者数
(2035・40・45・50年)

2035年 42.2人/日
2040年 41.1人/日
2045年 40.0人/日
2050年 39.3人/日



4. 想定病床稼働率

81% or 90%



5. 将来必要病床数
(2035・40・45・50年)

病床稼働率81%		病床稼働率90%	
2035年	54床	2035年	49床
2040年	53床	2040年	48床
2045年	51床	2045年	46床
2050年	51床	2050年	46床

2. 必要病床数の検証 【地域包括ケア病床】

(2) 明石市立市民病院の現在の患者数

2019年度の退院患者数は934人、1日あたり患者数は38.3人/日、平均在院日数は15.0日であった。
※いずれも眼科は2023年4月～9月分

■ 明石市立市民病院の現在の患者数

参照：病院受領資料
※いずれの値もDPC 6 桁コード別の値を集計したもの

傷病名	2019年度実績		
	退院患者数 (人)	1日あたり 入院患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)
①神経系	39	2.0	19.0
②眼科系	125	1.1	3.1
③耳鼻咽喉科系	80	1.2	5.6
④呼吸器系	49	2.0	14.9
⑤循環器系	54	2.4	16.6
⑥消化器系	90	3.7	14.9
⑦筋骨格系	65	4.0	22.3
⑧皮膚系	25	0.9	12.8
⑨乳房系	15	0.3	7.0
⑩内分泌系	93	3.8	14.8

傷病名	2019年度実績		
	退院患者数 (人)	1日あたり 入院患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)
⑪腎尿路系	106	4.0	13.7
⑫女性生殖器系	3	0.0	5.0
⑬血液系	12	0.5	14.7
⑭新生児系	0	0.0	0.0
⑮小児系	0	0.0	0.0
⑯外傷系	162	11.7	26.4
⑰精神系	0	0.0	0.0
⑱その他	16	0.8	19.0
合計	934	38.3	15.0

2019年度時点では地域包括ケア病床で眼科患者を受け入れておらず、2022年度より当該患者を地域包括ケア病床で受入。そのため、上記眼科分の値は2023年4～9月分の実績値とした。

2. 必要病床数の検証 【地域包括ケア病床】

(3) 将来患者数の検証

入院患者数は2035年時点で42.2人/日、2040年時点で41.1人/日、2045年時点で40.0人/日、2045年時点で39.3人/日と推計される。

■ 1 日あたり入院患者数の将来推計 ※DPC6桁コード別の患者数（2019年実績）に
DPC6桁コード別の患者増減率を掛け合わせたものの合計

傷病名	1日あたり入院患者数(将来)					
	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
①神経系	2.2	2.3	2.4	2.3	2.3	2.2
②眼科系	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1
③耳鼻咽喉科系	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	1.0
④呼吸器系	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.4
⑤循環器系	2.7	3.0	3.1	3.0	3.0	3.0
⑥消化器系	3.8	3.9	4.0	3.9	3.8	3.7
⑦筋骨格系	4.1	4.2	4.2	4.2	4.0	3.9
⑧皮膚系	0.9	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9
⑨乳房系	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2
⑩内分泌系	3.9	3.9	3.9	3.8	3.7	3.6
⑪腎尿路系	4.1	4.3	4.3	4.2	4.1	4.0
⑫女性生殖器系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑬血液系	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
⑭新生児系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑮小児系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑯外傷系	12.2	12.7	12.7	12.4	12.0	11.8
⑰精神系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑱その他	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
合計	40.1	41.8	42.2	41.1	40.0	39.3

2. 必要病床数の検証 【地域包括ケア病床】

(4) 必要病床数の検証

病床稼働率81%で想定する場合、2035年時点で54床、2040年時点で53床、2045年時点で51床、2050年時点で51床と推計される。
病床稼働率90%で想定する場合、2035年時点で49床、2040年時点で48床、2045年時点で46床、2050年時点で46床と推計される。

■ 1日あたり入院患者数の将来推計

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
患者推計値	40.1人/日	41.8人/日	42.2人/日	41.1人/日	40.0人/日	39.3人/日
地域包括ケア病床患者 データ外の患者想定数	1.7人/日					
想定患者数（合計）	41.8人/日	43.5人/日	43.8人/日	42.8人/日	41.7人/日	41.0人/日

地域包括ケア病床の患者データは当該期間に退院した患者のデータであり、このデータから集計した現在の1日あたり患者数と地域包括ケア病床の1日あたり患者数の値に誤差（1.7人/日）が生じるため、これら患者数を回復期病床患者データ外の患者想定数として加味した。

■ 必要病床数の検証

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
病床稼働率 81%稼働の場合	52床	54床	54床	53床	51床	51床
病床稼働率 90%稼働の場合	46床	48床	49床	48床	46床	46床

病床稼働率設定の根拠
81%→2019年度の明石市立市民病院の地域包括ケア病床の病床稼働率
90%→地域医療構想上の必要病床数算出時に設定される回復期病床の病床稼働率

2. 必要病床数の検証 【回復期リハビリテーション病床】

(1) 病床数検証（第1ステップ）の考え方

1. 現在の患者数
(2022年度(コロナ禍))

全体：26.5人/日



2. 将来患者増減率
(2035・40・45・50年：2020年対比)

2035年：106%
2040年：103%
2045年：100%
2050年：97% ※いずれも全体の増減率



3. 将来患者数
(2035・40・45・50年)

2035年 33.0人/日
2040年 32.4人/日
2045年 31.8人/日
2050年 31.8人/日



4. 想定病床稼働率

90% or 92%



5. 将来必要病床数
(2035・40・45・50年)

病床稼働率90%
2035年 38床
2040年 37床
2045年 36床
2050年 36床

病床稼働率92%
2035年 37床
2040年 36床
2045年 36床
2050年 36床

2. 必要病床数の検証 【回復期リハビリテーション病床】

(2) 明石市立市民病院の現在の患者数

2022年度の退院患者数は205人、1日あたり患者数は26.5人/日、平均在院日数は47.3日であった。

■ 明石市立市民病院の現在の患者数 参照：病院受領資料

DPC 6桁コード	傷病名	2022年度実績		
		退院患者数 (人)	1日あたり 入院患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)
010010	脳腫瘍	2	0.2	35.0
010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	2	0.4	74.0
010040	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外)	3	0.5	63.7
010060	脳梗塞	15	2.8	68.4
040081	誤嚥性肺炎	1	0.1	30.0
050170	閉塞性動脈疾患	2	0.5	98.0
060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	1	0.1	50.0
070230	膝関節症(変形性を含む)	17	1.4	30.6
070341	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 頸部	3	0.8	100.7
070370	脊椎骨粗鬆症	1	0.1	24.0
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	2	0.2	34.0
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症 (変形性を含む)	14	1.6	42.3
11013x	下部尿路疾患	1	0.2	87.0

DPC 6桁コード	傷病名	2022年度実績		
		退院患者数 (人)	1日あたり 入院患者数 (人/日)	平均在院日数 (日)
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	6	0.7	43.8
160690	胸椎・腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む)	28	3.1	40.6
160760	前腕の骨折	1	0.1	26.0
160800	股関節・大腿近位の骨折	90	11.7	47.7
160820	膝関節周辺の骨折・脱臼	5	0.4	30.2
160835	下腿足関節周辺の骨折	1	0.2	58.0
160870	頸椎頸髄損傷	2	0.2	42.5
160980	骨盤損傷	3	0.4	49.7
160990	多部位外傷	2	0.2	37.5
180030	その他の感染症(真菌除く)	1	0.0	0.0
180040	手術・処置等の合併症	2	0.4	72.5
合計		205	26.5	47.3

2. 必要病床数の検証 【回復期リハビリテーション病床】

(3) 将来患者数の検証

入院患者数は2035年時点で33.0人/日、2040年時点で32.4人/日、2045年時点で31.8人/日、2050年時点で31.8人/日と推計される。

■ 1日あたり入院患者数の将来推計

※DPC6桁コード別の患者数（2019年実績）に
DPC6桁コード別の患者増減率を掛け合わせて算出

DPC 6桁コード	傷病名	1日あたり入院患者数(将来) (人/日)					
		2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
010010	脳腫瘍	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5
010060	脳梗塞	3.0	3.3	3.4	3.3	3.3	3.2
040081	誤嚥性肺炎	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
050170	閉塞性動脈疾患	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
070230	膝関節症（変形性を含む）	1.5	1.5	1.6	1.5	1.5	1.4
070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む） 頸部	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.8
070370	脊椎骨粗鬆症	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む）	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5
11013x	下部尿路疾患	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.8
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む）	3.5	3.8	4.0	3.9	3.8	3.8
160760	前腕の骨折	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
160800	股関節・大腿近位の骨折	13.5	15.5	16.1	15.8	15.6	15.8
160820	膝関節周辺の骨折・脱臼	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
160835	下腿足関節周辺の骨折	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
160870	頸椎頸髄損傷	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2
160980	骨盤損傷	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
160990	多部位外傷	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
180030	その他の感染症（真菌除く）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
180040	手術・処置等の合併症	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
合計		29.2	32.1	33.0	32.4	31.8	31.8

2. 必要病床数の検証 【回復期リハビリテーション病床】

(4) 必要病床数の検証

病床稼働率90%で想定する場合、2035年時点で38床、2040年時点で37床、2045年時点で36床、2050年時点で36床と推計される。
病床稼働率92%で想定する場合、2035年時点で37床、2040年時点で36床、2045年時点で36床、2050年時点で36床と推計される。

■ 1日あたり入院患者数の将来推計

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
患者推計値	29.2人/日	32.1人/日	33.0人/日	32.4人/日	31.8人/日	31.8人/日
回復期病床患者データ外の患者想定数	0.9人/日					
想定患者数（合計）	30.2人/日	33.0人/日	33.9人/日	33.3人/日	32.7人/日	32.7人/日

回復期病床の患者データは当該期間に退院した患者のデータであり、このデータから集計した現在の1日あたり患者数と回復期リハビリテーション病床の1日あたり患者数の値に誤差（0.9人/日）が生じるため、これら患者数を回復期病床患者データ外の患者想定数として加味した。

■ 必要病床数の検証

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
病床稼働率 90%稼働の場合	34床	37床	38床	37床	36床	36床
病床稼働率 92%稼働の場合	33床	36床	37床	36床	36床	36床

病床稼働率設定の根拠
90%→地域医療構想上の必要病床数算出時に設定される回復期病床の病床稼働率
92%→2022年度の明石市立市民病院の回復期リハビリテーション病床の病床稼働率

2. 必要病床数の検証

(5) 必要病床数の検証まとめ

	急性期一般 病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床	合計
現在	249床	50床	30床	329床
2035年時点	247床	49床	37床	333床
2040年時点	242床	48床	36床	326床
2045年時点	235床	46床	36床	317床
2050年時点	232床	46床	36床	314床

2. 必要病床数の検証 参考) 緩和ケア病床の需給状況

(6) 診療圏内における緩和ケア病床需給分析

診療圏内における緩和ケア病棟入院料想定患者は2035年まで増加し、その後減少傾向である。
2035年時点の1日あたり患者数は45.1人/日と予測され、病床稼働率を全国平均値（75%）で想定すると、必要病床数は60床となる。現状の診療圏内における緩和ケア病床の病床数は52床であるが、兵庫県立がんセンターが新たに15床整備予定であるため、将来的に緩和ケア病床は充足すると見込まれる。（将来病床数は67床）

(人)

診療圏	2025年		2030年		2035年		2040年		2045年		2050年	
	延患者数	1日あたり患者数	延患者数	1日あたり患者数	延患者数	1日あたり患者数	延患者数	1日あたり患者数	延患者数	1日あたり患者数	延患者数	1日あたり患者数
緩和ケア病棟入院料想定患者数	15,014	41.1	15,970	43.8	16,478	45.1	16,453	45.1	16,304	44.7	16,307	44.7

※NDBオープンデータより緩和ケア病棟入院料の受療率を算出し、将来人口推計値を掛け合わせ検証。

(床)

		2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
緩和ケア必要病床数	病床稼働率75%	55	58	60	60	60	60
医療圏内現状病床数	52床	52	52	52	52	52	52
医療圏内将来病床数	67床	-	67	67	67	67	67
緩和ケア病床の需給バランス (+は充足、-は不足)		▲3	9	7	7	7	7

- ※1 病床稼働率は全国の緩和ケア病床の平均値程度で想定
- ※2 医療圏内現状病床数については、ふくやま病院が34床保有、大久保病院が18床保有
- ※3 ※2とは別に兵庫県立がんセンターが15床整備予定。

Ⅲ. 明石市立市民病院の再整備について (建物に関する調査検証等)

1. 建物の調査結果

1. 建物の調査結果

調査内容

(1) 調査概要	概要・前提
(2) 敷地内建物の概要	
(3) 全体の面積水準	施設の全体的な課題
(4) 平面計画 -外来エリア-	
(5) 平面計画 -手術エリア-	
(6) 平面計画 -病棟エリア-	
(7) 主要な機械設備関連の課題	
(8) 現況確認の結果 -厨房関連-	諸室の現況の課題
(9) 現況確認の結果 -病室-	
(10) 現況確認の結果 -病棟関連-	
(11) 現況確認の結果 -外来・診療関連-	
(12) 課題の整理	まとめ
(13) 検討の方針（案）	

サマリー

現地調査を踏まえて、現病院の施設環境面の課題を大きく4つに整理します。

- ① 病院全体の床面積の不足
- ② 病院の機能上重要な動線計画の課題
- ③ 改修の可否に関わる構造上の課題
- ④ 設備や内装の劣化

新病院整備の計画パターンを再確認した上で、概略の比較検討を進めることが望ましいと思われます。

1. 建物の調査結果

(1) 調査概要

目的	病院施設の現況確認を行い、建築・設備に関わる課題点を抽出する
調査対象	明石市立市民病院（本館内部および敷地内の建物配置状況の確認）
実施日	2023年11月29日（水）13時00分～16時00分

調査実施場所	
① 地下1階 ・ 厨房周辺（調理室、配膳車プール、職員更衣室、事務室等） ・ 機械室 ② 7 階 ・ 機械室 ③ 6階 ・ 病棟（スタッフステーション、病室、浴室、トイレ等） ④ 5階 ・ 病棟（特別浴室等）	⑤ 1階 ・ リハビリ部門（待合スペース含む） ・ 放射線部門 ・ 生理検査部門 ・ 薬剤部門 ・ 外来診察室周辺 ・ 救急外来周辺 ・ 検体検査部門 ⑥ 2階 ・ 手術室周辺 ⑦ 屋外（敷地内の建物配置状況の確認）

1. 建物の調査結果

(2) 敷地内建物の概要

老朽化が進行している本館は7年ほど、敷地内に隣接し最も新しく建てられたあかしユニバーサル歯科診療所は31年ほどの減価償却期間が残っていると想定される。

※受領資料より作成、不明箇所は想定

	建物	構造	竣工年	法定耐用年数 (=減価償却年数と想定)	減価償却残年数
1	本館	SRC一部RC造	1991年	39年	7年
2	増築棟（新館）	RC造	1997年	39年	13年
3	患者サポートセンター	S造	2007年	34年	18年
4	あかしユニバーサル 歯科診療所	S造と想定	2020年	34年	31年
5	カルテ倉庫棟	S造	2015年	34年	26年
6	車庫	S造	1991年	34年	2年
7	職員託児所	S造	2008年	34年	19年
8	研修棟	S造	1988年	34年	—
9	喜春寮	RC造	1975年	39年	—

1. 建物の調査結果

(3) 全体の面積水準 - 1 病床あたり延床面積-

近年の他病院において予定されている新病院の1床当たりの延べ床面積の平均値と比較し、明石市立市民病院の現在の面積は小さいことが分かる。
それぞれの現在の病院の床面積と比較すると、同程度の面積となっている。

■ 1 病床あたり延床面積の比較

※現病院は本館・増築棟・カルテ倉庫棟を合計した面積
※建設通信新聞、医療産業情報、病院公表資料および当社支援状況より作成
※新病院整備予定（計画・設計・工事が進行中）、病床数400床未満

	新病院 整備状況	竣工予定	病院名	所在地	区分	病床数	延床面積	1 床あたり 延床面積	旧病院における 1 床あたり 延床面積
—	—	—	明石市立市民病院（現病院）	兵庫県	地方独立行政法人	329床	23,082 m ²		70.2 m ² /床
1	建設工事中	2024年度 (令和6年度)	さんむ医療センター	千葉県	地方独立行政法人	199床	16,762 m ²	84.2 m ² /床	54.0 m ² /床
2	建設工事中	2024年度 (令和6年度)	泉大津市新市立病院	大阪府	公共	300床	23,700 m ²	79.0 m ² /床	84.0 m ² /床
3	設計中	2026年度 (令和8年度)	野洲市民病院	滋賀県	公共	199床	14,850 m ²	74.6 m ² /床	55.3 m ² /床
4	設計中	2027年度 (令和9年度)	昭和伊南総合病院	長野県	公共	199床	18,905 m ²	95.0 m ² /床	72.3 m ² /床
5	設計中	2028年度 (令和10年度)	神戸市立医療センター西市民病院	兵庫県	地方独立行政法人	358床	39,000 m ²	108.9 m ² /床	80.5 m ² /床
6	設計中	2028年度 (令和10年度)	柏市立柏病院	千葉県	公共	240床	20,160 m ²	84.0 m ² /床	60.6 m ² /床
7	設計中	2028年度 (令和10年度)	新四国中核病院	愛媛県	公立学校共済組合	224床	18,400 m ²	82.1 m ² /床	69.7 m ² /床
8	計画検討中	未定	(A病院)	兵庫県	公共	350床	31,500 m ²	90.0 m ² /床	73.2 m ² /床
9	計画検討中	未定	(B病院)	大阪府	民間	323床	32,000 m ²	99.1 m ² /床	95.3 m ² /床

他事例の平均・・・88.6m²/床 71.6m² 205

1. 建物の調査結果

(4) 平面計画 -外来エリア-

救急外来から放射線部門や手術室へ搬送する重要な動線が長く、EV台数が不足している。

■ 1 階平面図



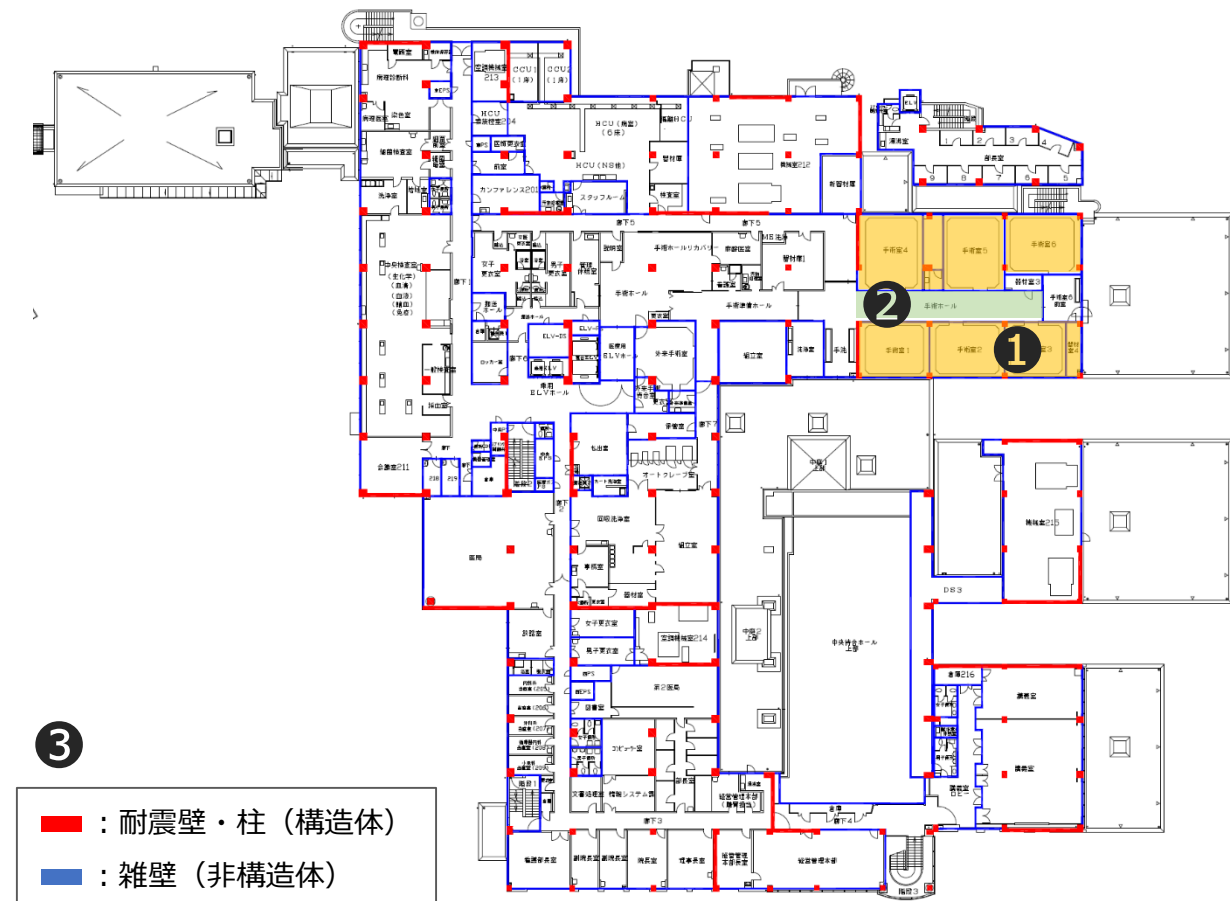
- ①救急外来から放射線診断、患者搬送EVへの動線が長く、幅員が約2.2mの狭い廊下をストレッチャー等で搬送する必要が生じている。
- ②サービス用EVが2台（うち1台は地下1階まで着床しない）と少なく、待ち時間が頻繁に発生する。一般用のEVホール周辺でサービス動線が交錯する。
- ③検査室や診察室の扉の幅が狭く、ベッド搬送できずストレッチャーへの乗り換えが必要となる。開き戸が多く使い勝手が悪い。
- ④中央採血室から2階の検体検査室まで、毎回スタッフが検体を運んでいる。待合ホール付近の狭い通路の往復となり運用効率が悪い。
- ⑤構造体であるコンクリートの耐震壁が広範囲で設けられており、改修による平面計画の変更ができない。雑壁もコンクリートで作られている部分が多い。

1. 建物の調査結果

(5) 平面計画 -手術エリア-

手術室は近年の標準的な寸法より狭く、今後、大型の医療機器を必要とする高度医療を導入する場合は対応が困難。

■ 2 階平面図



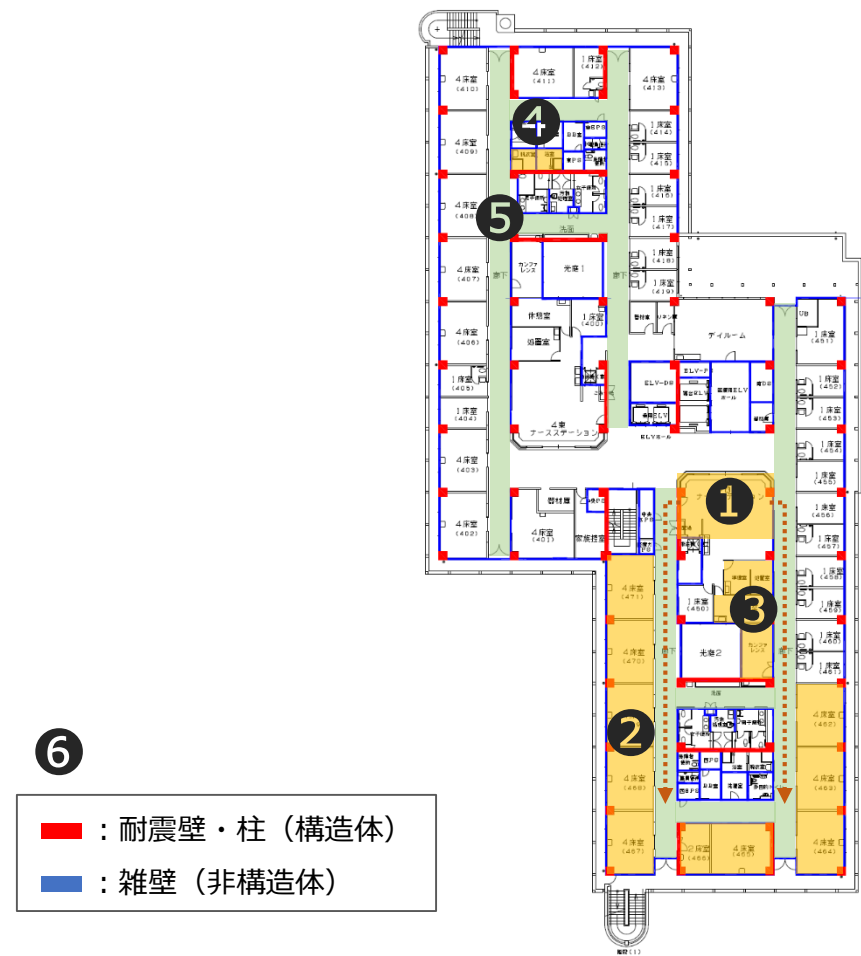
- ①手術室は短辺方向の内法が5.2～5.6mで計画されており、近年の標準的な寸法である7～8m程度より狭く、ダヴィンチ等の医療機器を必要とする高度医療に対応できないことが懸念される。
- ②手術の術式の変化により、内視鏡、モニター、ポータブルX線装置などの器材が増加し、収納スペースの確保が難しい。
- ③構造体であるコンクリートの耐震壁が広範囲で設けられており、改修による平面計画の変更ができない。雑壁もコンクリートで作られている部分が多い。

1. 建物の調査結果

(6) 平面計画 -病棟エリア-

多床室の面積は1床あたり6.4㎡程度で計画されており、療養環境加算の施設基準（1床あたり8㎡）以下である。

■ 4 階平面図（病棟基準階）



- ① スタッフステーションから各病室への動線が長く、患者の見守りがしづらく、看護効率が低い。
- ② 多床室は1床あたり6.4㎡の施設基準を満たす最低限の広さであり、療養環境加算（1床あたり8㎡）を取得することができない。
- ③ スタッフの仮眠室がなく、スタッフ用トイレは和式便所1か所のみを使用しており、アメニティ面の課題がある。
- ④ 浴室は1病棟（50床）に1か所のみであり、シャワー室はない。機械浴室は全病棟で1か所しかなく、使用する際はフロア間の患者搬送が必要となる。
- ⑤ 廊下幅員は、施設基準の内法2.1m以上を満たす最低限の寸法で計画されている。一般的な内法2.7m程度と比べて狭く、物品等が置かれているとベッド搬送ができない。
- ⑥ 構造体であるコンクリートの耐震壁が広範囲で設けられており、改修による平面計画の変更ができない。雑壁もコンクリートで作られている部分が多い。

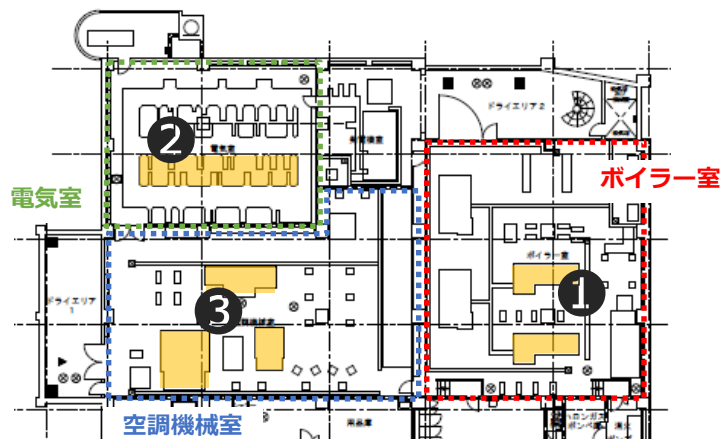
1. 建物の調査結果

(7) 主要な機械設備関連の課題

熱源をはじめ耐用年数を過ぎて老朽化している機械設備が目立つ状況である。

機械設備の設置台数や供給系統は、医療機能を止めずに更新することができないものとなっている。

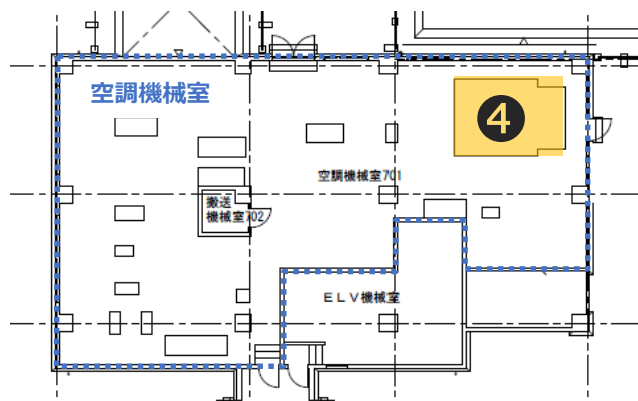
■地下1階 機械室平面図



- ①ボイラーは2台を交互に運転している。1988年に製造されており、耐用年数（15年）を過ぎ老朽化が懸念される。
- ②受変電装置は2台設置されているが、うち1台はすべての電気系統で経由する計画になっており、更新することができないことが懸念される。



■7階 機械室平面図



- ③空調機は令和5(2023)年に複数台が更新されているが、制御システムや配管等が更新されておらず、適切な空調性能が実現できていないことが懸念される。
- ④病棟の空調を1台の空調機から1つの系統のみで供給しているため、不具合や更新等で停止すると病棟全体の空調機能が停止する。



1. 建物の調査結果

(8) 現況確認の結果

■ 現状と問題点

① 地下1階寝台EV



- 地下1階に着床するEVが1台のみ。給食・物品・患者搬送等での使用が集中し、5分以上の待ち時間が発生しやすい。

② 個室



- 病室内スペースに余裕がなく、ベッドサイドでのケアやベッドでの搬送がしづらい状況。

③ 4床室



- 簡易陰圧装置で感染症患者の入院に対応。特に4床室ではベッドサイドが窮屈な状況。

④ 5階特殊浴室



- 特殊浴室は床仕上げの劣化が著しい。脱衣室がなく、床面が濡れている浴室内までベッドで出入りしている。

⑤ 6階ナースステーション



- 天井内の配管劣化による水漏れあり。

⑥ 地下1階厨房 洗浄エリア天井



- 天井内の配管劣化による水漏れあり。

1. 建物の調査結果

(8) 現況確認の結果

■ 現状と問題点



- CT室をはじめとする各種画像診断は出入口の扉が狭く、ベッドでの入退室が困難。



- 扉や廊下の幅が狭いため、物品等が置かれているとベッド搬送ができない。



- 放射線部門の廊下は幅員が狭くベッドでの患者搬送に支障が生じている。扉の幅員も狭いため、ストレッチャーへの乗り換えが必要となる。



- 救急外来での患者の受け入れは直接外部と繋がっており、風除室や洗浄スペースがない。



- 救急外来の回復スペースは狭く、ストレッチャーの出入りや患者の処置がしづらい状況。



- 外来診察室の扉は開き戸が多く、車いす利用者は通行しづらい。

1. 建物の調査結果 【調査まとめ】

（１）病院全体の床面積の不足

- ・現病院の延床面積（70.2㎡/床）は、整備事業が進行している他病院の平均的な面積水準（88.6㎡/床）と比較して狭い。

（２）病院の機能上重要な動線計画の課題

- ・救急外来から連携部門への搬送動線が長い。
- ・搬送用エレベータの台数が不足。
- ・建設当初の搬送設備は、現在の給食や薬剤の搬送に対応できず、また旧システムのため更新ができない。
- ・サービス動線と一般利用者動線の交錯する。
- ・診察室などの扉が狭く、ストレッチャーに乗り換えが必要。
- ・開き扉が多く、患者搬送に不便。
- ・病棟において、スタッフステーションから死角になる病室がある。
- ・病棟廊下が狭く、2台のベッドが行き交うことが困難。

（３）改修の可否に関わる構造上の課題

- ・内部の壁の多くが解体工事等のしにくいコンクリートで施工されている。
(耐震壁は取り壊すことができず、雑壁であっても改修時には大きな騒音・振動・粉塵が発生を避けられない。)

（４）設備や内装の劣化

- ・各種配管は水漏れなどの問題が顕在化。
- ・特に病棟内で仕上げ材の劣化は多く見られる。
- ・ボイラーの耐用年数（15年）が過ぎている。
- ・受変電装置のうち、1台は全ての電気系統で経由する計画になっており、更新することが困難。
- ・病棟空調が1台の空調機から1つの系統のみで供給しているため、停止時には病棟全体の空調機能が停止する。

Ⅲ. 明石市立市民病院の再整備について (建物に関する調査検証等)

2. 整備手法別検討

2. 整備手法別検討

整備手法別の条件整理

	A-1 大規模改修	A-2 増築＋改修	B 現地建替え	C 新築移転建替え
平面計画の 自由度	原則、既存建物の部門配置を継続することとなり、動線や部門間連携は現行維持となる。	増築棟は敷地形状の制約により、歪な形状になる可能性あり。既存の大規模改修となるため、縦動線・柱・RC壁及び残置される部門があるため、根本的な問題解決の改修とする難易度が高い。	敷地南側外来駐車場に成型形状で建築は可能。平面計画としても、すべての機能を新設するため理想的な計画をすることが可能となるが、個室率は30%～50%程度となる見込み。	理想的な敷地がある場合、平面計画としては、すべての機能を新設するため理想的な計画をすることが可能となる。
縦動線の 自由度	本館に直接、EVを増設することは建築基準法上の建て増築に該当するため、困難である。既存建物に隣接する形でEV棟を設置することも可能であるが、建物中央に設置できないため、既存建物の搬送設備を継続することとなり、動線や部門間連携は現行維持となる。	本館に直接、EVを増設することは建築基準法上の建て増築に該当するため、困難である。既存建物に隣接する形もしくは増築棟にEVを設置することも可能であるが、建物中央に設置できないため、既存建物の搬送設備を継続することとなり、動線や部門間連携は現行維持となる。	縦動線としては、すべての機能を新設するため、理想的な計画をすることが可能。	縦動線としては、すべての機能を新設するため理想的な計画をすることが可能。
将来の 拡張性	敷地としては、将来的にも増築や敷地内での建替えも可能なため、拡張性はあると考えられる。	増築棟建設時点で、外来駐車場側に機能的に連結する動線が確保できないため、拡張性は少ない。増築棟検討時に、2期・3期などを見据えたプランニングが必要。	現在、病院本館があるエリアが将来拡張エリアと想定される。新病院の正面となる可能性もあるため、将来拡張エリアを考慮した設計検討が必要。	将来的な再整備が可能かは、同規模以上の病院が建設できる用地を確保できるかなどの敷地条件による。
工事中の 運用	敷地内建設のため、工事関係と病院関係の利用者動線や車両動線が交錯し、安全性への配慮が必要。既存建物を運用しながらの改修工事となるため、騒音・振動・粉塵が発生及び、電気設備・機械設備盛替え時には、機能停止期間が発生。診療制限による収益減少の可能性はある。	敷地内建設のため、工事関係と病院関係の利用者動線や車両動線が交錯し、安全性への配慮が必要。既存建物を運用しながらの改修工事となるため、騒音・振動・粉塵が発生及び、電気設備・機械設備盛替え時には、機能停止期間が発生。診療制限による収益減少の可能性はある。	敷地内建設のため、工事関係と病院関係の車両動線が交錯し、安全性への配慮が必要。	現敷地外のため、現病院の運用に支障は出ない。現病院と移転地が離れるため、移転時大規模な患者搬送が発生する。

2. 整備手法別検討

※期間や金額については想定によるものであり、今後の検討の中で変更が発生します。

整備手法別の条件整理

	A-1 大規模改修	A-2 増築＋改修	B 現地建替え	C 新築移転建替え
スケジュール	改修内容による。	約10年	約10年	約8～9年 ※移転用地の確保が見込めている場合
建物の 対応年数	病院本館（改修）償却期間が2029年に終了となり、以降は延命処置が必要。	増築棟竣工後、償却期間39年 病院本館（改修）償却期間が2029年に終了となり、以降は延命処置が必要。	新病院竣工後、償却期間39年 その他の残置建物あり	新病院竣工後、償却期間39年
建築 工事費	設備更新の大規模更新のみならば50億円程度、その他の改修の内容で変動。	120～160億円程度 ※増築棟や改修工事の規模による	220～272億円程度 ※建築単価を63～81万円程度で設定した場合 立体駐車場、設計監理費、解体費含む	215～267億円程度 ※建築単価を63～81万円程度で設定した場合 設計監理費、解体費含む <u>土地確保費用は見込まず</u>
収益性の バランス	減収する一方で固定費は維持されるため工期中の収益性が低下	減収する一方で固定費は維持されるため工期中の収益性が低下	駐車場用地などの確保などで費用増加が見込まれる	医療機能や規模に合わせて計画的な固定費の調整は可能なため、バランスの取れた収益性は継続可能
事業費項目 の特徴	機能移転用の仮設工事費や駐車場用地の確保費用が必要	機能移転用の仮設工事費や駐車場用地の確保費用が必要	機能移転用の仮設工事費や駐車場用地の確保費用が必要	建設用地の確保や造成費用が必要
総論 (メリット)	設備更新や最低限の改修工事で済ませた場合、事業費が安価となる。	設計プランニング次第で、大規模改修プランよりも診療制限範囲が縮小でき、建替えプランよりも安価となる。	設計プランニングにおいて、効率的な運用が実現できる部門配置が検討できる。	設計プランニングにおいて、効率的な運用が実現できる部門配置が検討できる。 敷地条件によっては個室率を高め、収入増加を望める。
総論 (デメリット)	工事期間中の診療制限により収入が減少し、収益性が低下する。長期的な視点では、躯体の劣化が顕著にみられるようになった際に、建替えするとトータル費用として高くなる可能性がある。	工事期間中の診療制限により収入が減少し、収益性が低下する。長期的な視点では、既存建物の躯体の劣化が顕著にみられるようになった際に、建替えするとトータル費用として高くなる可能性がある。その際の設計プランニングの制限も考慮しておき必要がある。	工事期間中の駐車場用地の確保と、利用者の安全性の確保が必要。	敷地確保に要する期間により、再整備時期が左右される。また敷地確保費用分だけ事業費が高騰する。

Ⅲ. 明石市立市民病院の再整備について (建物に関する調査検証等)

3. 経営面での影響

3. 経営面での影響

(1) シミュレーションの条件設定

【整備事業に関する補足】

- ・新病院開院を2033年度と想定。

【報告書での試算パターン】

- ・建築単価を63万円(税込)、81万円(税込)の2パターンで事業費を設定。（直近の公立病院の工事入札事例より設定）

【収益に関する想定】

- ・入院収益・外来収益については、令和8(2026)年度以降は第4期中期計画数値を元に設定。
- ・運営費負担金収益として、営業収益に償還金の元金返済に係る繰入額、営業外収益に利息返済に係る繰入額を想定。
- ・補助金については、2023年度以降はコロナ関連補助金を加味しないために、2019年度の数値を参照。

【費用に関する想定】

- ・医業費用については、変動費（主に材料費）は医業収益に2019年度の対医業収益比率を加味し計算。
- 給与費については、令和8(2026)年度以降は第4期中期計画数値の対医業収益比率を元に設定。
- 経費については、一部は2019年度数値を引用しているが、基本的に2022年度の数値を元に設定。
- 新病院整備にあたり発生する減価償却費も見込んでいる。

【償還計画に関する想定】

- ・建物に関する費用(実施設計・建築工事・施工監理)については、30年償還、据置5年、金利1.30%と仮想定。
- ・医療機器等整備に関する費用については、5年償還、据置1年、金利0.2%と仮想定。
- ・元金・利息の償還金額の1/2を運営費負担金収益として収益に加味。

3. 経営面での影響

【参考】第4期中期目標期間における数値目標

第4期中期目標期間：2023年4月1日から2027年3月31日

項目	2026年度目標値
急性期病棟稼働率	84.00%
地域包括ケア病棟稼働率	86.00%
回復期リハビリテーション病棟稼働率	95.00%
訪問看護ステーション訪問回数	500回/月
救急車による搬入患者数	3,800人
救急車お断り率	20.00%
紹介率	80.00%
逆紹介率	85.00%
一日平均入院患者数	279.0人
病床稼働率	85.30%
入院診療単価（急性期）	65,000円
入院診療単価（地ケア）	39,000円
入院診療単価（回復期リハ）	33,000円
新入院患者数	7,800人
一日平均外来患者数	540.0人
外来診療単価	17,000円
常勤医師数	75人

項目	2026年度目標値
材料費対医業収益比率	21.50%
経費対医業収益比率	15.60%
人件費対医業収益比率	63.30%
経常収支比率	100.00%
医業収支比率（※）	96.50%
修正医業収支比率（※）	93.50%
医業収益(百万円)	8,186
入院収益(百万円)	5,856
外来収益(百万円)	2,212
資金期末残高（百万円）	4,882

※シミュレーションの条件として使用した項目
収益：病床稼働率、入院診療単価、一日平均外来患者数、外来診療単価
費用：人件費対医療収益比率

3. 経営面での影響

(1) シミュレーションの条件設定

【更新にかかる想定】

- ・建物に係る保全費用として、新病院開院の2年度前まで**1.5～3.5億円程度（通常の設備改修費用1.5億円＋保守費用2億円）を計上し、設備の一括更新は想定しない。**
上記とは別に経費内の修繕費用として約4000万円程度計上。
- ・**医療機器の更新費用として1.5～2.5億円程度計上。**（開院年度は新病院予算で想定）
電子カルテについては、2027年度・2033年度（新病院予算）・2041年度・2048年度～に**7億円計上。**

【今後】

- ・今回のシミュレーションについては、機能改善や収益改善を加味していないものであり、第4期中期計画を踏まえた再整備を行うことで財政面でどのような結果となるかのイメージを付けるためにたたき案として作成したものである。
今後は関係者間で試算条件の再設定・事業費の精査を行い、新病院開設に向けた機能強化について議論・反映することで、精度の高いシミュレーションを行っていくこととなる。

3. 経営面での影響

【参考】最近の病院入札情報

	金額情報 時期	病院名	所在地	発注方式	進捗状況	病床数	金額（税抜）		備考
							工事費	工事単価	
1	2020年5月	さんむ医療センター	千葉県	基本設計 デザインビルド	建設工事中	199床	77億円	46万円/㎡	設計中の2022年7月に約10億円の増額を実施（52万円/㎡）工事中の物価上昇による精算協議の実施状況は不明
2	2021年11月	泉大津市新市立病院	大阪府	実施設計 デザインビルド	建設工事中	300床	95億円	40万円/㎡	物価上昇による精算協議の実施状況は不明
3	2023年2月	昭和伊南総合病院	長野県	設計施工分離	設計中 （基本設計）	199床	118億円	62万円/㎡	物価上昇による予算見直しの協議状況は不明
4	2023年2月	伊丹市立伊丹総合医療センター	兵庫県	設計施工分離	建設工事中	602床	417億円	74万円/㎡	2度の入札不調があり予算の見直しを実施
5	2023年2月	神戸市立医療センター西市民病院	兵庫県	実施設計 デザインビルド	設計中 （基本設計）	358床	340億円	87万円/㎡	物価上昇による予算見直しの協議状況は不明
6	2024年1月	千葉市立新病院	千葉県	ECI	実施設計完了	333床	313億円	81万円/㎡	R5年決定
7	2024年1月	小田原市民病院	神奈川県	基本設計 デザインビルド	建設工事中	400床	348床	63万円/㎡	R5年決定
8	2023年11月	野洲市民病院	滋賀県	基本設計 デザインビルド	設計中 （基本設計）	199床	105億円	71万円/㎡	デザインビルド方式（設計施工一括）にて公告中に予算を見直し。2023年12月より設計に着手。

3. 経営面での影響

(2) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価63万円）

区 分	金額	適 用
事業費		
土地関連費用	0	事業費には計上していない。20億円程度？ 路線価74,200円/㎡(明石市コメント)×想定敷地面積26,500㎡
建築工事費	19,100,000	
建築工事費	18,370,000	延床面積29,150㎡、建築単価630,000円/㎡で想定
外構工事費	730,000	外構面積24,190㎡、建築単価30,000円/㎡で想定
立体駐車場等	0	新築移転の場合は見込まず。
既存設備 予防保全/事後保全費用	0	大規模な保全工事は想定せず、毎年度保全費用を計上。
既存棟解体工事費	1,626,300	
設計監理費	800,000	
基本設計	240,000	想定設計監理費8億円のうち30%
実施設計・現場監理	560,000	想定設計監理費8億円のうち70%
医療機器等整備費	4,940,000	医療機器は1床あたり11百万円（税込）、 医療情報は1床あたり4百万円（税込）で想定
その他（移転費・医療コンサル費）	495,000	移転費は2.2億円(税込)、医療コンサル費用は月250万円(税込)で2024～2034年度上旬の10年間＋3か月で想定。
事業費 計	26,961,300	

※上記事業費には建設地取得費用、建設地取得後の土地整備に係る各種費用（造成費用、土壌汚染対策費等）、既存土地改良工事費、既存土地売却費は含んでいない。

財源内訳		
地方債（土地関連費用）	0	
地方債（建物）	19,100,000	
地方債（既存設備改修）	0	想定せず（参考：既存設備の改修工事は地方債の対象）
地方債（既存棟解体工事費）	1,626,300	
地方債（実施設計、施工監理）	560,000	
地方債（医療機器）	4,940,000	
補助金	0	
一般会計繰入金	0	
病院事業資金	735,000	基本設計、その他費用
財源内訳 計	26,961,300	

(千円)

■建築工事費

延床面積	建築単価(税込)
29,150㎡	630,000円/㎡
病床数329 床 坪単価2,079,000 円(税込)	

■外構工事費

外構面積	建築単価(税込)
24,190㎡	30,000円/㎡
坪単価99,000 円(税込)	

■既存解体費

延床面積	建築単価(税込)
27,105㎡	60,000円/㎡

■医療機器等整備費用

医療機器(税込)	医療情報(税込)
3,619,000 千円	1,316,000 千円

■その他（移転費・医療コンサル費）

移転費(税込)	医療コンサル費用(税込)
220,000 千円	275,000 千円

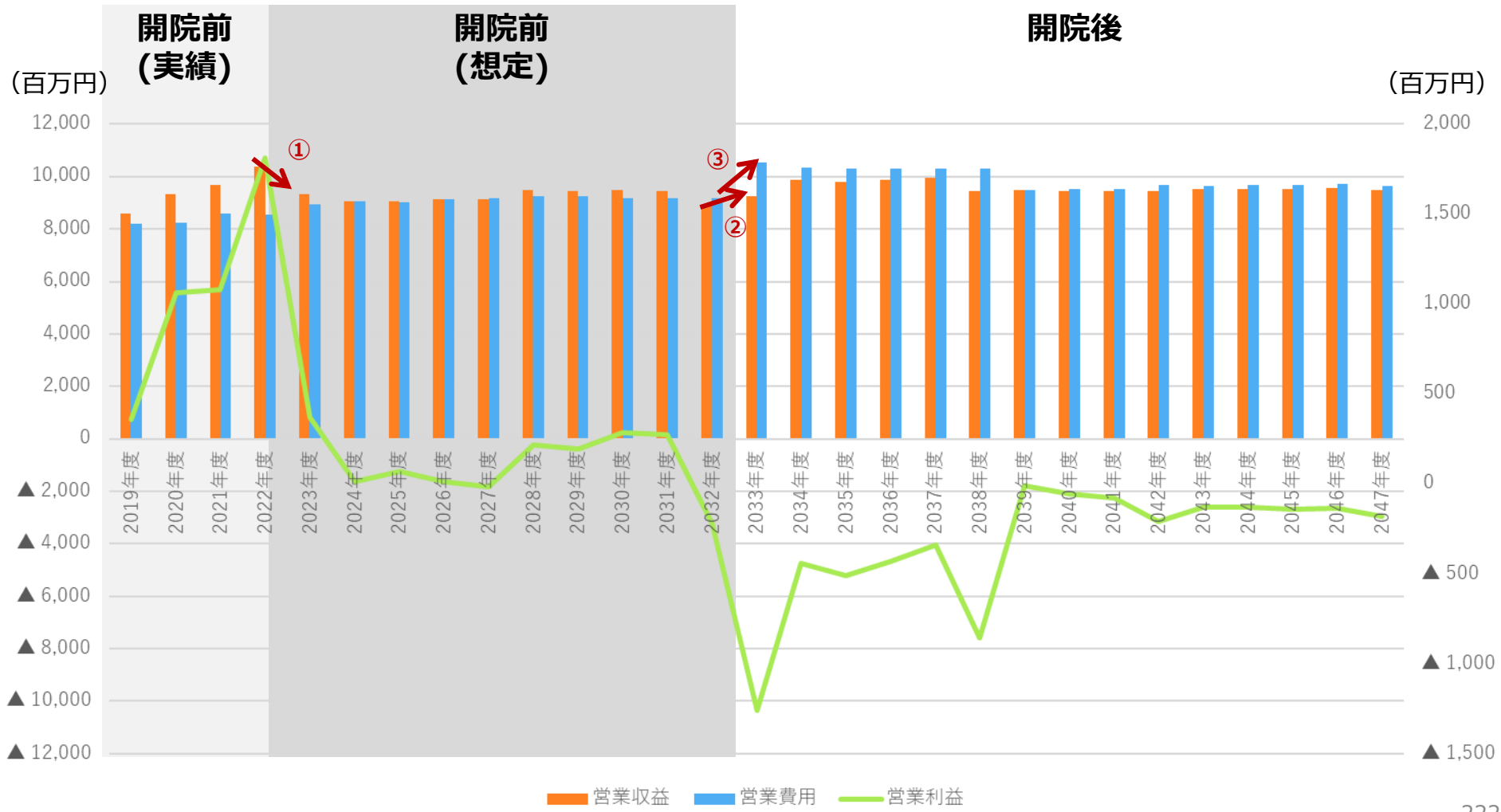
【参考】現病院の間の保全費用合計
2,180,000 千円

3. 経営面での影響

(2) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価63万円）

今回のシミュレーションでは、収益改善効果を反映していない。
現病院の営業収益においては、2023年以降はコロナ関連補助金がなくなった分、収益減としている。(①)
新病院の営業収益においては、元金償還にかかる負担金収入が増加するため、収益増となる。(②)
一方、営業費用においては、新病院開院以降の減価償却の増額分だけ費用過多となり、結果的に営業利益が赤字となる。(③)

■ 営業利益の推移

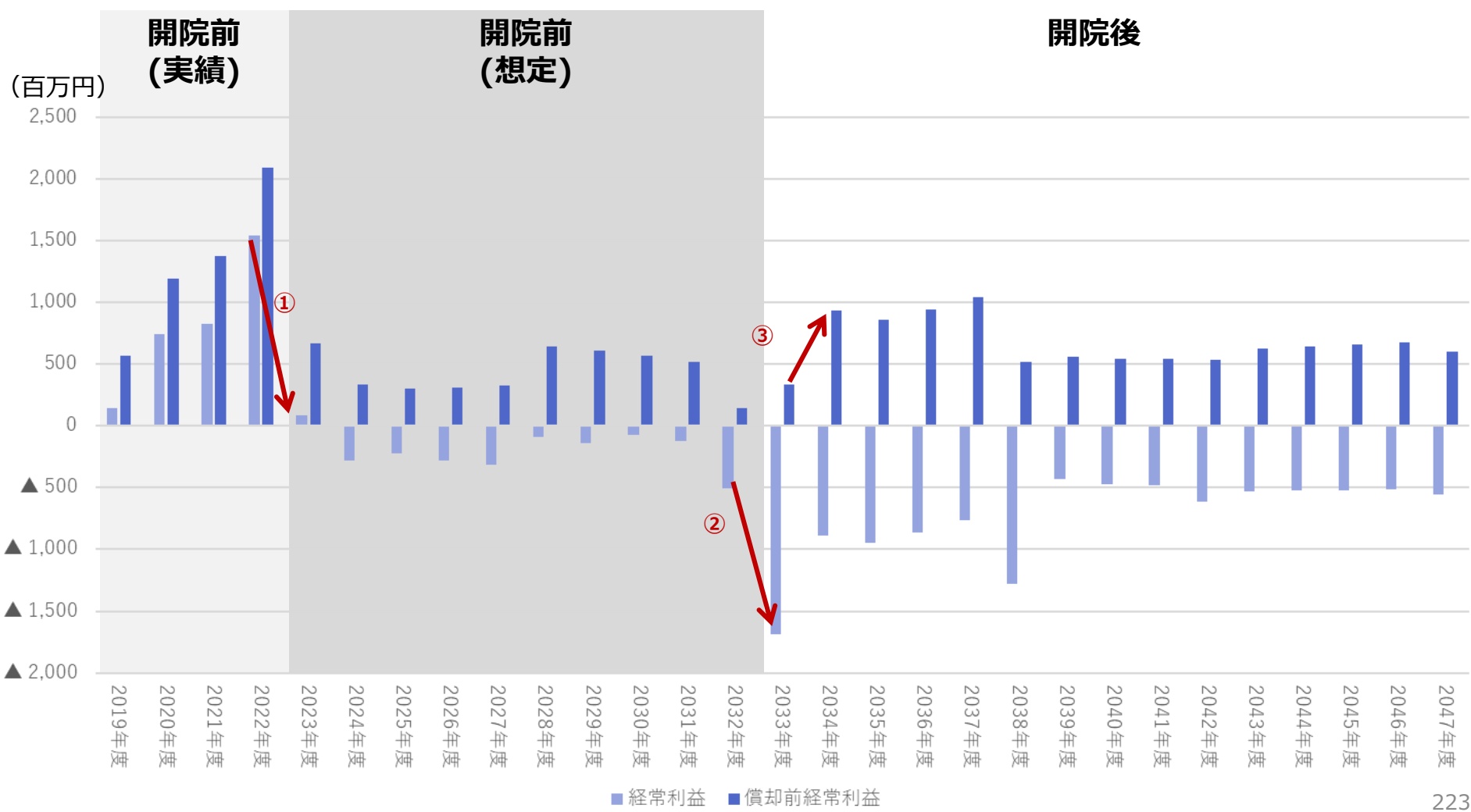


3. 経営面での影響

(2) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価63万円）

現病院の経常利益においては、2023年以降はコロナ関連補助金が無くなった分、利益減としている。(①)
新病院の経常利益においても、新病院開院以降の減価償却の増額分だけ費用過多となり、赤字が大きくなる。(②)
ただし、償還に係る負担金収入の増加により、償却前では利益増となる。(③)

■ 経常利益の推移

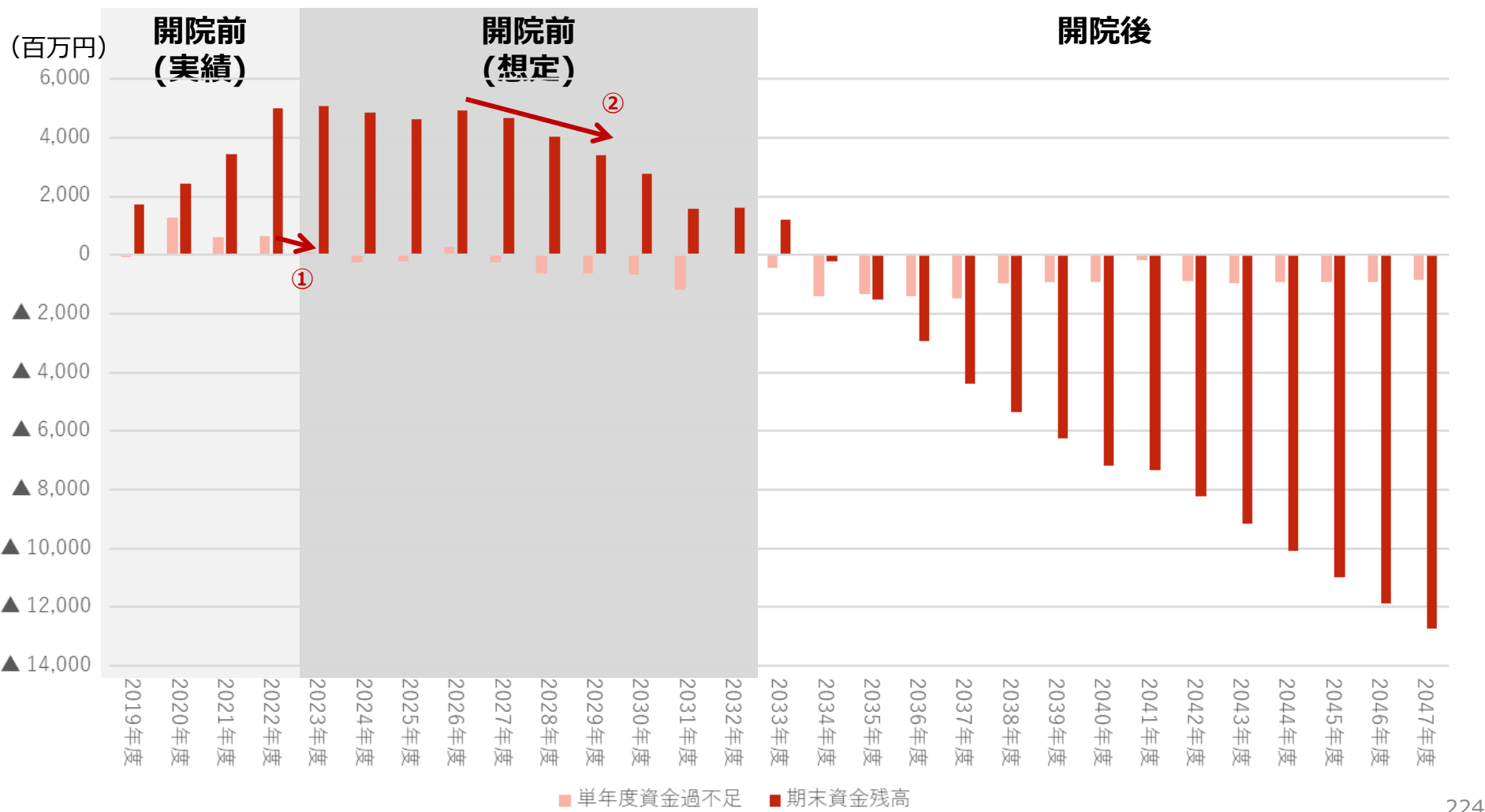


3. 経営面での影響

(2) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価63万円）

現病院の資金余剰においては、利益改善を反映していないため、コロナ関連補助金がなくなった分、不足傾向となる。(①)
そのため、累積余剰の期末資金残高についても、今後減少傾向となり、開院2年目にはマイナスとなる。(②)

■ 資金余剰の推移



3. 経営面での影響

(3) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価81万円）

区 分	金額	適 用
事業費		
土地関連費用	0	事業費には計上していない。20億円程度？ 路線価74,200円/㎡(明石市コメント)×想定敷地面積26,500㎡
建築工事費	24,350,000	
建築工事費	23,620,000	延床面積29,150㎡、建築単価8150,000円/㎡で想定
外構工事費	730,000	外構面積24,190㎡、建築単価30,000円/㎡で想定
立体駐車場等	0	新築移転の場合は見込まず。
既存設備 予防保全/事後保全費用	0	大規模な保全工事は想定せず、毎年度保全費用を計上。
既存棟解体工事費	1,626,300	
設計監理費	800,000	
基本設計	240,000	想定設計監理費8億円のうち30%
実施設計・現場監理	560,000	想定設計監理費8億円のうち70%
医療機器等整備費	4,940,000	医療機器は1床あたり11百万円（税込）、 医療情報は1床あたり4百万円（税込）で想定
その他（移転費・医療コンサル費）	495,000	移転費は2.2億円(税込)、医療コンサル費用は月250万円(税込)で2024～2034年度上旬の10年間＋3か月で想定。
事業費 計	32,211,300	

※上記事業費には建設地取得費用、建設地取得後の土地整備に係る各種費用（造成費用、土壌汚染対策費等）、既存土地改良工事費、既存土地売却費は含んでいない。

財源内訳		
地方債（土地関連費用）	0	
地方債（建物）	24,350,000	
地方債（既存設備改修）	0	想定せず（参考：既存設備の改修工事は地方債の対象）
地方債（既存棟解体工事費）	1,626,300	
地方債（実施設計、施工監理）	560,000	
地方債（医療機器）	4,940,000	
補助金	0	
一般会計繰入金	0	
病院事業資金	735,000	基本設計、その他費用
財源内訳 計	32,211,300	

(千円)

■ 建築工事費		■ 外構工事費	
延床面積	建築単価(税込)	外構面積	建築単価(税込)
29,150㎡	810,000円/㎡	24,190㎡	30,000円/㎡
病床数329 床 坪単価2,673,000 円(税込)		坪単価99,000 円(税込)	
■ 既存解体費			
延床面積	建築単価(税込)		
27,105㎡	60,000円/㎡		
■ 医療機器等整備費用		■ その他（移転費・医療コンサル費）	
医療機器(税込)	医療情報(税込)	移転費(税込)	医療コンサル費用(税込)
3,619,000 千円	1,316,000 千円	220,000 千円	275,000 千円

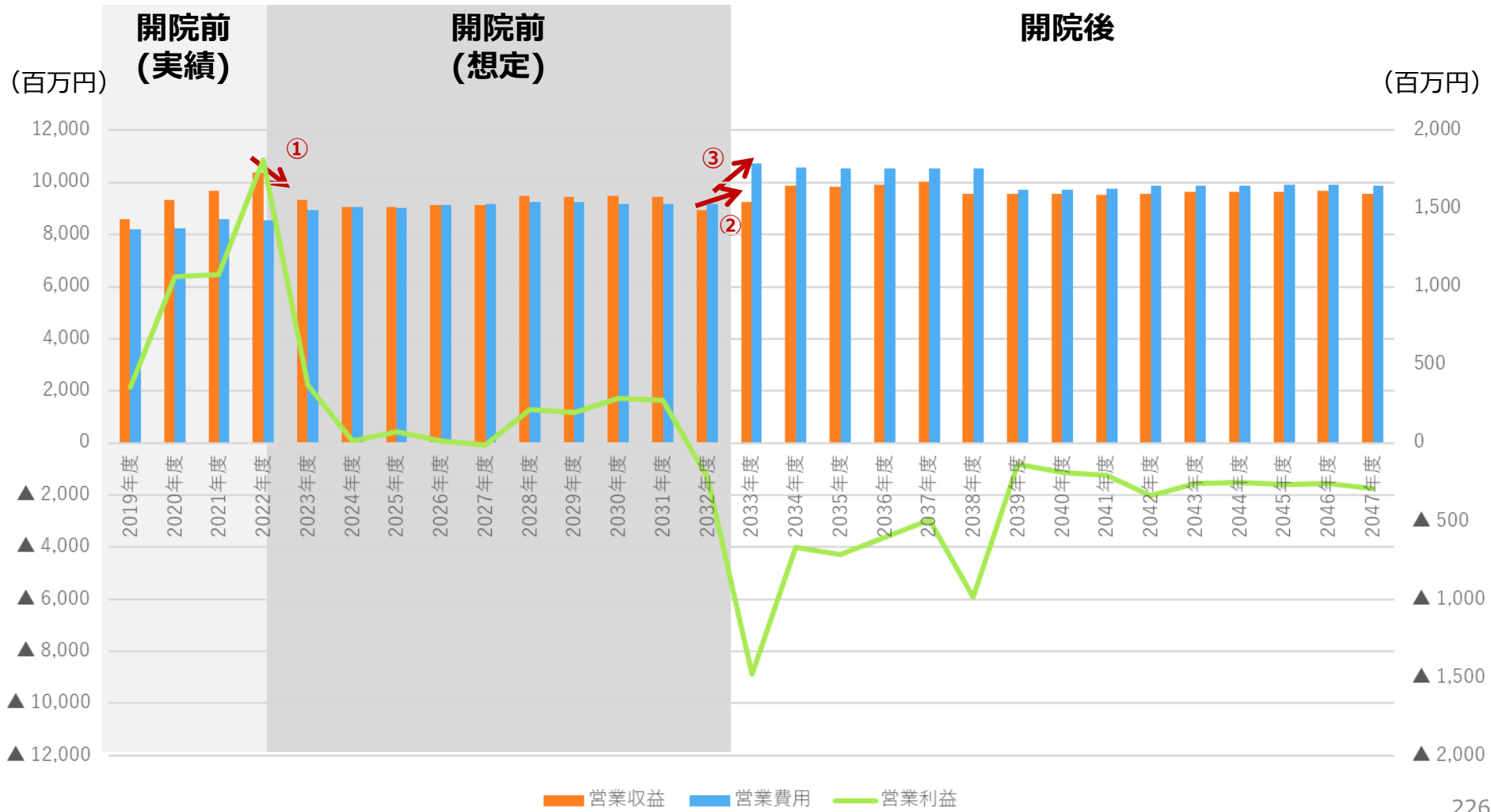
【参考】現病院の間の保全費用合計
2,180,000 千円

3. 経営面での影響

(3) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価81万円）

今回のシミュレーションでは、収益改善効果を反映していない。
現病院の営業収益においては、2023年以降はコロナ関連補助金がなくなった分、収益減としている。(①)
新病院の営業収益においては、元金償還にかかる負担金収入が増加するため、収益増となる。(②)
一方、営業費用においては、新病院開院以降の減価償却の増額分だけ費用過多となり、結果的に営業利益が赤字となる。(③)

■ 営業利益の推移

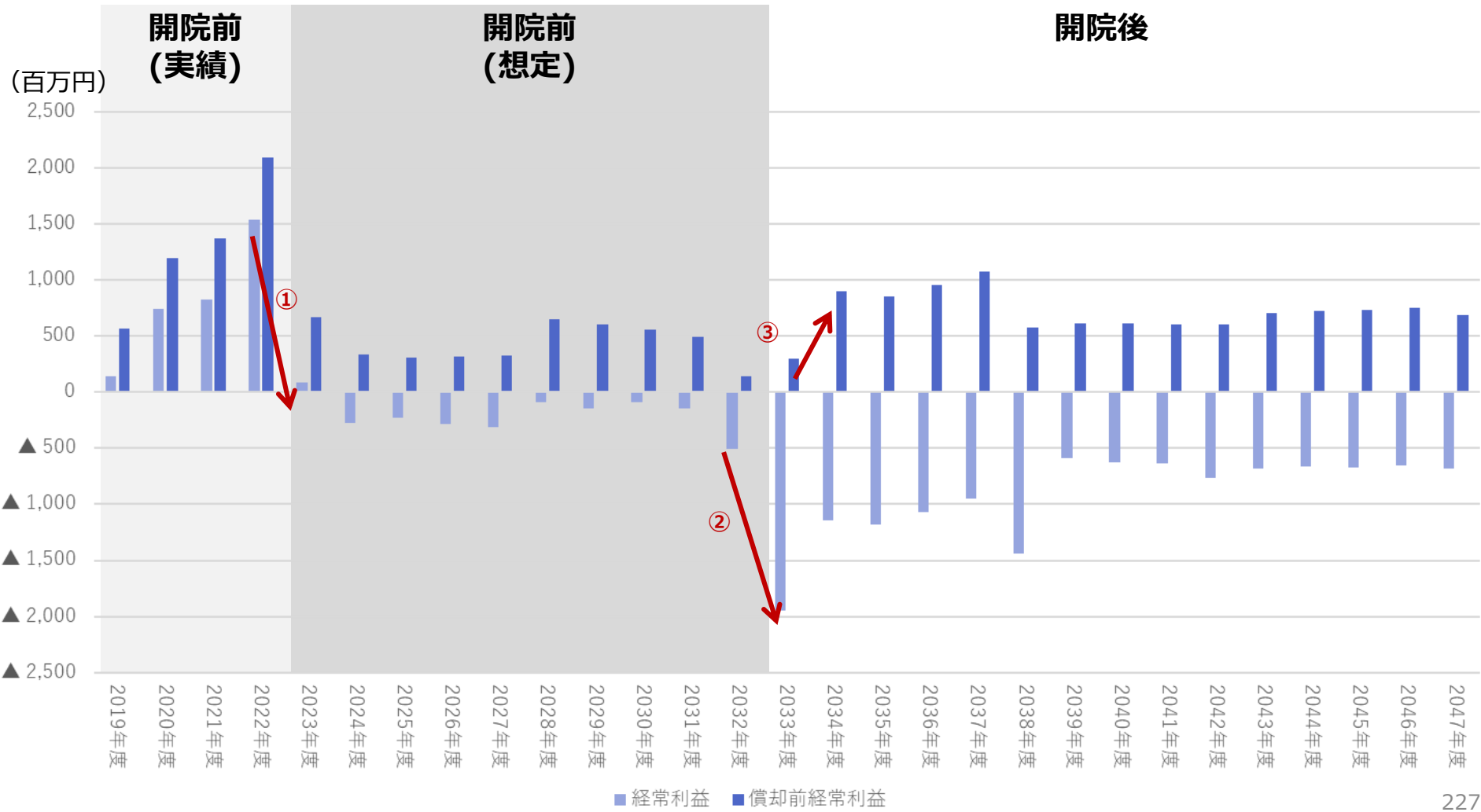


3. 経営面での影響

(3) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価81万円）

現病院の経常利益においては、2023年以降はコロナ関連補助金が無くなった分、利益減としている。(①)
新病院の経常利益においても、新病院開院以降の減価償却の増額分だけ費用過多となり、赤字が大きくなる。(②)
ただし、償還に係る負担金収入の増加により、償却前では利益増となる。(③)

■ 経常利益の推移

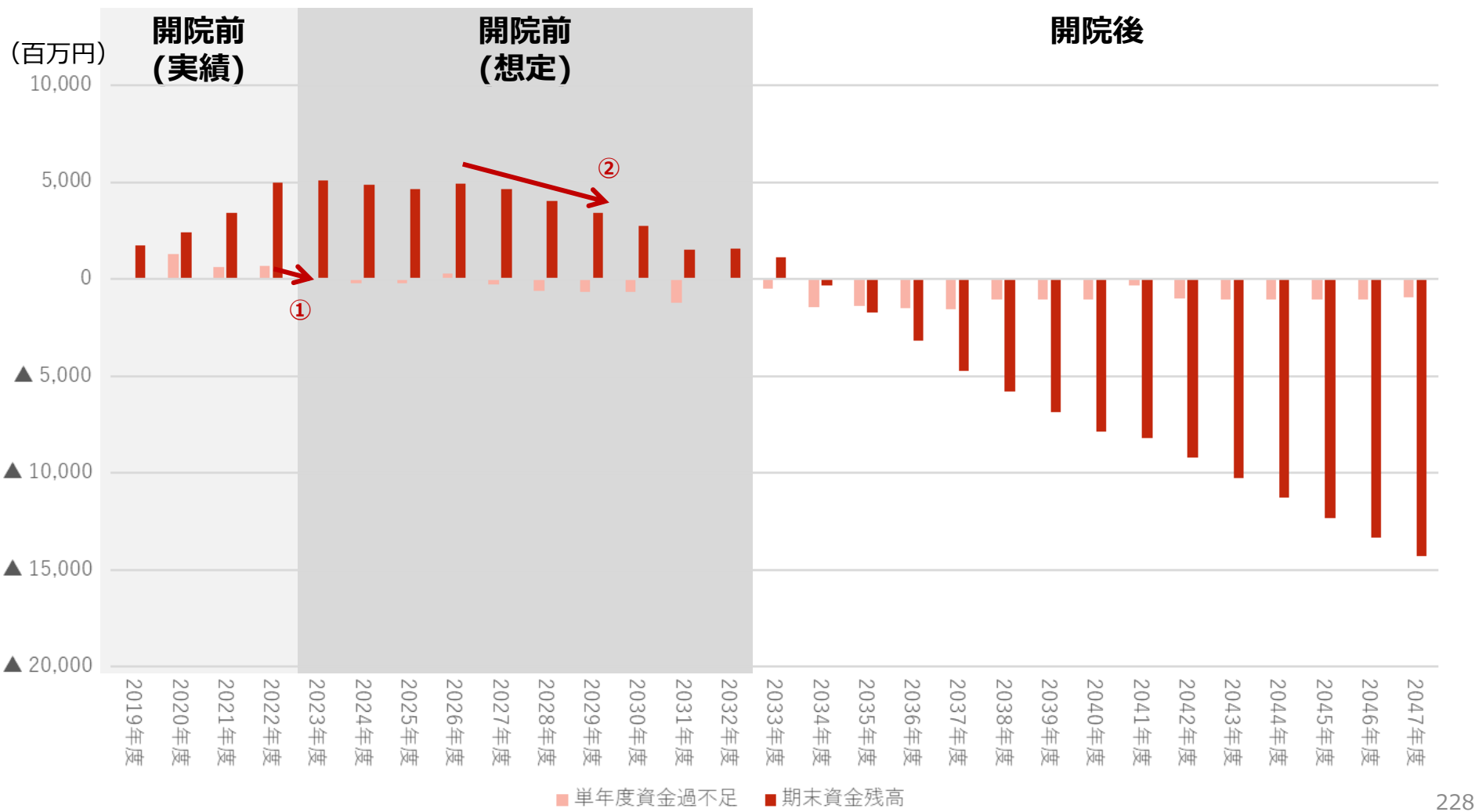


3. 経営面での影響

(3) 新築移転に係るシミュレーション（建築単価81万円）

現病院の資金余剰においては、利益改善を反映していないため、コロナ関連補助金がなくなった分、不足傾向となる。(①)
そのため、累積余剰の期末資金残高についても、今後減少傾向となり、開院2年目にはマイナスとなる。(②)

■ 資金余剰の推移



IV. まとめ

IV-1. 調査結果のまとめ

1. 明石市の地域医療について

（１）明石市における医療提供体制調査

- 明石市における現在の機能別病床数の状況について、2021年度の病床機能報告の各病院の報告値ベースでみると、急性期病床数は回復期病床数よりも1,000床以上多い。ただし、病床数を入院基本料をベースに急性期・回復期に振り分けた結果、病床数の差が100床未満となった。

（２）明石市における患者の疾病動向・受療動向調査

- 明石市のレセプトデータからみた入院患者について、市内完結率（平均値）は74%であり、精神系、神経系、皮膚系、筋骨格系、周産期系、先天奇形、その他の領域は平均値よりも市内完結率が低い。
- 明石市のレセプトデータからみた外来患者について、市内完結率（平均値）は85%であり、感染症、新生物、血液系、精神系、神経系、消化器系、皮膚系、筋骨格系、妊娠、周産期、先天奇形、その他、損傷・中毒は平均値よりも市内完結率が低い。

（３）明石市における患者の将来医療需要推計

- 明石市においての将来入院患者推計より、高度急性期・急性期領域の患者二一ズは微増、回復期・慢性期領域の患者二一ズが大きく増加することが予測される。
- 明石市の入院患者推計（ICD10分類）を傷病別にみると、2040年時点ではほとんどの傷病で増加が見られ、特に呼吸器系の増減率が高い。一方、妊娠、周産期、先天奇形は減少傾向にある。
- 明石市の外来患者推計（ICD10分類）を傷病別にみると、2040年時点では新生物、内分泌系、神経系、眼科系、循環器系、筋骨格系、腎尿路系、その他、は増加傾向にあり、感染症、血液系、精神系、耳鼻咽喉科系、消化器系、皮膚系、妊娠、周産期、先天奇形、損傷・中毒は減少傾向にある。

（４）明石市における政策的医療の需給状況分析

- 救急搬送件数は近年では2019年が最も多く、約14,000件の救急搬送。なお、市内完結率は、85%程度で推移。
- 明石市の救急搬送件数は2035年まで増加し、その後横ばいに推移。特に中等症・重症の増加率が高い。
- 小児救急搬送件数は近年では2019年が最も多く、約1,700件の救急搬送。なお、市内完結率は60%程度で推移。
- 明石市の小児救急搬送件数は今後、減少傾向にある。

2. 明石市立市民病院を取り巻く医療について(市民病院診療圏における地域医療提供体制)

(1) 診療圏における医療提供体制調査

- 明石市立市民病院の入院患者の68%が明石市、20%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区からきており、外来患者の66%が明石市、22%が神戸市西区、5%が神戸市垂水区からきている。
- 診療圏内の医療機関におけるDPC退院患者のうち明石医療センターと神戸市立西神戸医療センターの患者がそれぞれ全体の2割を占めており、続いて兵庫県立がんセンター、明石市立市民病院、神戸掖済会病院の順で退院患者数の割合が高くなっている。明石市立市民病院のDPC退院患者は2021年以降全体の10%を下回り、2013年から2022年の9年間で4%減少している
- 診療圏内における明石市立市民病院のDPC退院患者シェア率（2019年度）の平均値は10.5%である。眼科系、耳鼻咽喉科系、消化器系、皮膚系、腎尿路系、血液系、小児系ではシェア率が平均値よりも高く、神経系、呼吸器系、循環器系、筋骨格系、乳房系、内分泌系、女性生殖器系、外傷系、その他ではシェア率が平均値よりも低い。

(2) 診療圏における患者の将来医療需要推計

- 診療圏内のDPC入院実患者数は2035年まで増加し、その後減少傾向にある。MDC疾患分類別にみると、2040年時点では神経系、眼科系、呼吸器系、循環器系、消化器系、腎尿路系、血液系、外傷系、その他で増加が見られる。一方、耳鼻咽喉科系、皮膚系、乳房系、内分泌系、女性生殖器系、新生児系、小児系、精神系は減少する。
- 診療圏内の入院患者数は2035年まで増加し、その後減少傾向にある。傷病別にみると、ほとんどの傷病で増加が見られ、特に呼吸器系の増減率が高い。一方、妊娠・周産期・先天奇形は減少傾向にある。
- 診療圏内の外来患者数は2025年まで増加し、その後減少傾向にある。傷病別にみると、神経系・循環器系が増加傾向にあり、感染症・血液系・精神系・呼吸器系・皮膚系・妊娠・周産期系・先天奇形は減少傾向にある。
- 診療圏内において、診療圏内において、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟ともに入院患者は2040年まで増加し、その後横ばいに推移する。

2. 明石市立市民病院を取り巻く医療について(市民病院の現状と課題)

(1) 医療機能面

- ・入院患者DPCデータから、DPC件数が2019年度(コロナ前)と比較し、2022年度(コロナ禍)は少ない。
- ・救急受入れ状況としては、
救急患者の受入れとしては、2022年度(コロナ禍)は2019年度(コロナ前)より少ない。
救急車の受入れ件数としては、ベンチマーク病院の平均値と同程度。
救急受診から入院となる患者の割合(入院転記率)としては、2019年度(コロナ前)から一時減少したが、2022年度(コロナ禍)は同程度まで回復。
明石市内で発生している件数のうち、市民病院では約17%を受入れ。傷病程度「死亡」は23%、「重症」18%を受入れ。
- ・手術の対応状況としては、
2022年度(コロナ禍)は2019年度(コロナ前)より600件程度減少。特に眼科の件数は約半数まで減少。
- ・紹介患者については、
2019年(コロナ前)度から一時減少したが、2022年度(コロナ禍)にかけて回復傾向にある。
市民病院への紹介実績を有する医療機関は、明石市内の他、神戸市方面(垂水区、西区、中央区)にも広がっている。

(2) 経営状況面

- ・コロナ補助金を差し引いた2022年度は2019年度(コロナ前)よりも営業利益が上回り、その影響で経常利益や純利益も上回っている。ただし、コロナ患者への診療に対する加算の影響もある。
- ・入院収益については、
2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較して、増加傾向にある。
入院単価は、各病棟機能において増加している。
延べ患者数は減少傾向にあり、実患者数は急性期が減少、地域包括ケアは増加している。
ベンチマークとの比較では、100床当たりの入院収益及び入院単価は2019年度(コロナ前)ではBM平均値を下回ったが、2022年度(コロナ禍)ではBM平均値に近い数値に改善。患者数は、2022年度も平均値より下回っている。
- ・外来収益については、
2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ禍)を比較して、減少傾向にある。
患者数、単価ともに減少している。
ベンチマークとの比較では、外来収益及び外来患者数は、2019年度(コロナ前)・2022年度(コロナ禍)共にBM平均値を下回っている。
- ・給与費については、
2019年度(コロナ前)と2022年度(コロナ前)を比較して、実数としては増加しているが、対医業収益比率では減少している。
ベンチマークとの比較では、対医業収益比率として8.5%ほど高い。
職員数におけるベンチマーク病院との100床当たりの比較の結果、薬剤部門、臨床検査部門、その他部門においてBM平均値を上回っている。
- ・経費については、光熱水費、修繕費、委託費それぞれが年間1000万円以上増加している。

3. 市民病院の施設・設備について

(1) 病院全体の床面積の不足

- ・現病院の延床面積（70.2㎡/床）は、整備事業が進行している他病院の平均的な面積水準（88.6㎡/床）と比較して狭い。

(2) 病院の機能上重要な動線計画の課題

- ・救急外来から連携部門への搬送動線が長い。
- ・搬送用エレベータの台数が不足。
- ・建設当初の搬送設備は、現在の給食や薬剤の搬送に対応できず、また旧システムのため更新ができない。
- ・サービス動線と一般利用者動線の交錯する。
- ・診察室などの扉が狭く、ストレッチャーに乗り換えが必要。
- ・開き扉が多く、患者搬送に不便。
- ・病棟において、スタッフステーションから死角になる病室がある。
- ・病棟廊下が狭く、2台のベッドが行き交うことが困難。

(3) 改修の可否に関わる構造上の課題

- ・内部の壁の多くが解体工事等のしにくいコンクリートで施工されている。
(耐震壁は取り壊すことができず、雑壁であっても改修時には大きな騒音・振動・粉塵が発生を避けられない。)

(4) 設備や内装の劣化

- ・各種配管は水漏れなどの問題が顕在化。
- ・特に病棟内で仕上げ材の劣化は多く見られる。
- ・ボイラーの耐用年数（15年）が過ぎている。
- ・受変電装置のうち、1台は全ての電気系統で経由する計画になっており、更新することが困難。
- ・病棟空調が1台の空調機から1つの系統のみで供給しているため、停止時には病棟全体の空調機能が停止する。

4. 市民病院の経営について

(1) 利益不足による資金残高の減少

- ・ 2023年まではコロナ関連補助金を加味しているため、それ以降はそのままでは収益減となる。
- ・ 中期計画に基づく推計では、医業収益は改善する。
- ・ 一方、現行の給与費の対医業収益比率63%が据え置かれた場合、医業収益の増加に伴い給与費も増加するため、医業利益の改善幅が低く抑えらる。
- ・ 給与比率については、市民病院の内部環境調査結果にもあった通り、黒字のベンチマーク病院と比較して2019年度時点で対医業収益比率として8.5%ほど高い影響が出ている。

(2) 事業費の高騰

- ・ 本調査では、建築単価を税込み63万円と81万円で試算。
63万円で試算した場合の建築費は約191億円、総事業費は約270億円
81万円で試算した場合の建築費は約244億円、総事業費は約323億円 と試算。

IV. まとめ

IV- 2. 課題整理

1. 明石市の地域医療について

(1) 医療機能ごとの病床確保について

- ① 兵庫県の保健医療計画では、今後の医療需要を見据えた東播磨圏域における医療提供体制としては、急性期病床が過剰となり、回復期病床が不足すると見込まれており、将来的に、医療圏内において、機能別病床数の調整が必要となると考えられる。

(2) 診療領域ごとの入院機能について

- ① 診療領域ごとに入院患者市内完結率と将来入院患者増減率から分析結果を取りまとめた。
- A領域：現在、市内完結率が高く、今後、患者増加が見込まれる領域。そのため、今後、増加する患者の受入体制を整える必要がある。【該当領域：新生物、血液、内分泌、眼、耳、循環器、呼吸器、消化器、腎尿路、損傷・中毒】
- B領域：現在、市内完結率が高く、今後、患者減少が見込まれる領域。そのため、今後、機能強化を図る必要性はないが、患者数に合せ、受入体制を維持していく必要がある。【該当領域：妊娠】
- C領域：現在、市内完結率が低く、今後、患者増加が見込まれる領域。そのため、将来の患者増加分だけでなく、市内完結率向上の観点からも、受入体制の拡張が求められる。【該当領域：感染症、精神、神経、皮膚、筋骨格、その他】
- D領域：現在、市内完結率が低く、今後、患者減少が見込まれる領域。市内完結率が低いという状況を改善する必要性がある一方で、患者需要が少なくなることから、特定の医療機関に機能集約する等、効率的な医療提供を考える必要がある。【該当領域：周産期、先天奇形】
- ② 入院体制について、感染症・精神・神経・皮膚・筋骨格系の疾患については、今後の需要増が見込まれるが、市内における完結率が低く、医療提供体制の強化の余地がある。

(3) 診療領域ごとの外来機能について

- ① 診療領域ごとに外来患者市内完結率と将来外来患者増減率から分析結果を取りまとめた。それぞれの領域における解釈の仕方は上記(2)のとおり。
- A領域：【該当領域：内分泌、眼、循環器、腎尿路】
- B領域：【該当領域：耳、呼吸器】
- C領域：【該当領域：新生物、神経、筋骨格、その他】
- D領域：【該当領域：感染症、血液、精神、消化器、皮膚、妊娠、周産期、先天奇形、損傷・中毒】

(4) 救急医療提供体制の強化について

- ① 将来人口推計において、今後、高齢化率・後期高齢化率の上昇により増加が見込まれる救急搬送件数に対応可能な救急医療提供体制の拡充が必要である。
- ② 市の救急搬送について、救急全体の市内完結率は約85%であるが、一方で小児科における救急搬送の市内完結率は50%弱と低く、患者の年齢層により差が生じている。小児救急医療提供体制については、東播磨圏域全体で整備されるものだが、市内の病院への搬送を望む市民の声も寄せられている状況があり、市としても、市民ニーズに応える取組みを検討する必要がある。

2. 市民病院が担うべき役割及び医療機能

(1) 病床機能別病床数の検討

- ① 急性期病床については、DPC患者推計の増減率、各診療領域の強化・縮小の方向性、適正な病床稼働率の観点等を勘案しながら、今後、医療を取り巻く状況に応じて必要となる病床数を検討していく必要がある。
- ② 市民病院の診療圏においては、将来人口推計において高齢化率・後期高齢化率の上昇が見込まれることから、回復期リハビリテーション病床の効果的な運用について検討する必要がある。

(2) 診療領域ごとの医療提供体制の検討

- ① 診療領域ごとに市民病院の診療圏内におけるDPC患者受入シェア率と将来入院患者増減率から、分析結果を取りまとめた。
 - A領域：現在、市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が高く（市民病院の強み）、今後、患者増加が見込まれる領域。
そのため、患者増加分の受入体制の構築を市内医療機関とともに、検討する必要がある。
【該当領域：眼科系、消化器系、腎尿路系、血液系】
 - B領域：現在、市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が高く（市民病院の強み）、今後、患者減少が見込まれる領域。
そのため、患者数に併せた受入体制の維持を市内医療機関とともに、検討する必要がある。
【該当領域：耳鼻咽喉科系、皮膚系、小児系】
 - C領域：現在、市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が低く（市民病院の弱み）、今後、患者増加が見込まれる領域。
現在、市民病院は患者受入が少ない領域であるが、将来の患者増加が見込まれるため、市内医療機関と協力しながら、受入体制を整備することが求められる。
【該当領域：神経系、呼吸器系、循環器系、外傷系、その他】
 - D領域：現在、市民病院の診療圏内のDPC患者受入シェア率が低く（市民病院の弱み）、今後、患者減少が見込まれる領域。
患者需要が少なくなる領域であるため、これら領域に該当する患者受入体制を強みとする特定の医療機関に機能集約する等、地域全体として効率的な医療提供体制を検討する必要がある。
【該当領域：筋骨格系、乳房系、内分泌系、女性生殖器系】
- ② 今後、顕著な高齢化が見込まれる市民病院の診療圏において、医療需要の増加が見込まれるがシェア率が低い「神経系」「呼吸器系」「循環器系」「外傷系」などの診療領域について、医療機能の検討が必要である。

(3) 政策的医療について

- ① 災害や救急などの政策医療を担うなど地域の中核病院としてその役割を果たしてきた。特にコロナ禍においては市民病院の重要性が再認識された。今後の新興感染症や、南海トラフ巨大地震等を想定した平時からの医療提供体制の備えが必要である。
- ② 将来人口推計において、高齢化率・後期高齢化率の上昇による救急需要の増加が見込まれる。また、小児救急は市内完結率が低く、これまで以上の救急患者の受入体制の強化が望まれる。
- ③ 市民ニーズが高い産後ケア事業や医療的ケア児のレスパイト入院については、市が目指すまちづくりの方向性を踏まえた医療的な政策への参画推進を図りたい。

3. 市民病院の施設・設備について

(1) 建物・設備の状況

- ① 1床あたりの床面積が小さい。また、病院運営を行う上で、医療的動線・物流動線上の課題がある。
- ② 構造体であるコンクリートの耐震壁が広範囲で設けられており、改修工事の難易度が高い。
- ③ 設備については、計画的な設備更新が進んでおらず、更新上の課題が多い。

(2) 現施設の計画的な保全

- ① 市民病院の再整備の検討にあたっては、5～10年の期間を要すると想定されることから、命を預かる施設として、患者にとって安心安全な医療を継続的に提供するためには、現状に至った原因を整理するとともに、施設の保全計画を早急に作成し、経営計画に組み込む必要がある。
- ② 保全計画の作成にあたっては、現施設の大規模改修又は部分的改修により市民病院の再整備を行う可能性も含めて、非効率な投資とならないよう留意が必要である。

(3) 実現性を踏まえた再整備の検討

- ① 大規模改修案については、既存建物の一部において減価償却期間が10年以上残っている箇所があるが、診療を継続しながら大規模な設備の更新や諸室の間取り変更も含めた改修を行うことになるため、運用制限、騒音、駐車場の確保等の問題が発生する。また、大規模改修によって、解決できる課題が限られているため、費用対効果の精査が必要である。
- ② 現地建替え案及び移転新築案については、近年の整備費の高騰を踏まえると、全体事業費が極大化する可能性があり、市民病院の経営の持続可能性の観点からも、実現性についての検討が必要である。中でも、移転新築案については、移転に適した用地の確保だけでなく、用地取得に伴う費用負担が別途発生するため、現敷地の売却や新用地取得費用の低減等により、病院の経営を継続できる程度までいかに圧縮できるかなど、様々な検討が必要である。
- ③ いずれの手法においても、再整備にあたっては、長期的な視野に立った保全の計画についても、併せて検討する必要がある。

(4) 各整備手法の前提条件・課題の精査

- ① Ⅲ. 2整備手法別の比較表については、現時点で収集した客観的視点での情報を取りまとめたものであるため、追加の情報収集や関係者へのヒアリング等により、さらに精査する必要がある。
- ② 敷地面積や建物の延床面積は、現在の敷地及び建物を踏まえ、近年整備された他の公立病院の面積等を参考に算出しているが、面積の増加は工事費を含めたライフサイクルコストの増大に直結することを踏まえ、民間病院等の事例も調査するなど、更なる精査が必要である。
- ③ 整備費単価は、直近の他の公立病院の建設工事の入札・契約実績等を参考に算出しているが、整備費をできる限り低減化するため、民間病院も含め構造や仕様、整備手法等を調査し、厳しく精査する必要がある。
- ④ 整備費単価については、検討期間中、定期的に市場の最新の状況を確認する必要がある。
- ⑤ 関係者へのヒアリング等により、現敷地内での工事の課題や、新施設に求められる機能等を詳細化するとともに各整備手法の前提条件及び収支シミュレーションに反映する必要がある。

4. 市民病院の経営・市財政について

(1) 市民病院の経営改善

- ① 収入面では、ベンチマーク病院と比較し、入院の単価・患者数及び外来の患者数は、いずれも少なく、一般会計からの繰入金是最も多い。よって、収益力の強化により、運営費負担金に依存しない経営体質改善を図っていく必要があるが、医師確保等により、収益の向上を目指すべき診療領域がある一方で、診療報酬の枠組みの制限を受ける「医療」という業態の性質上、企業と同様の手法による利益向上が難しい面もある。さらに、患者目線の医療を提供するという公立病院の使命を果たしていくためには、極端な収益性は目指すべきではないという側面もあり、バランスのとれた経営感覚が求められる。
- ② 医業収益については、今後の方向性にかかわらず中期計画の必達及び将来を見据えた更なる改善の取組について、現段階から協議し準備することが必要である。特に、急性期病棟の稼働率向上に向けて、患者の受入方法や病棟構造等についての検討が重要となる。
- ③ 支出面では、ベンチマーク病院と比較し、人件費率が高く、その他部門の職員数が多いため、詳細確認の上、人員配置や給与の適正化を図る必要がある。但し、医療職については、経営に直結する面があるため、慎重な取組が必要となる。
- ④ 大幅な人員配置の見直しを行うことなく収支改善を図るためには、病院職員から大小様々な提案を募って、業務改善を行なうほか、病院経営や施設管理の外部専門家も活用し、施設の適正な維持管理や各種データ分析に基づく経営改善策を講じるなど、より有効かつ多様な方法で、法人一丸となった組織全体での取組が必要となる。また、公立病院だけでなく、民間病院や自治体の外郭組織が経営する施設や機関等にも視野を広げ、経営改善や安定経営の好事例を収集し、可能なものから随時取り入れるなど、これまでにない視点からの取組も重要と考える。

(2) 市の財政運営への影響の明確化

- ① 実現可能な整備費の最低水準が見極められ、その実現のために必要な収支改善が市民病院の経営改善計画等によって裏付けされて初めて、市民病院の再整備にかかる市の財政負担が明確になる。
- ② 市においては、現在、計画を進めている市役所本庁舎の建替えや新ごみ処理施設の整備をはじめ、各種公共施設の老朽化への対応が課題となっている中で、市民病院の再整備にかかる財政負担によって、市の財政運営に支障を来すことがないか確認する必要がある。

(3) 各整備手法の収支シミュレーションの精査と市民病院の負担の明確化

- ① 市民病院の再整備費用は、いずれの手法についても、市及び法人にとって非常に大きな負担となる。再整備費用は、基本的に病院事業債を活用して賄い、市民病院と市で各二分の一を負担することになる。一方、市には地方交付税措置により市負担の二分の一が補填されるが、市民病院負担分には補填は見込めず病院の経営上の課題が大きいと考えられる。
- ② 再整備に関しては、建築費の高騰等により費用が高額になると見込まれる状況において、今後の方向性を見極める必要がある。市民病院の経営を継続していくために必要な収支改善の水準を見極めるとともに、国の「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を踏まえ、他の医療機関との統合・機能分化・連携強化については、公立医療機関のみならず、民間医療機関も含めて広く検討する必要がある。これにより、経営基盤の強化につながるとともに、市の負担軽減につながる有利な財政支援措置を活用できる可能性もある。

5. 市民理解と取組体制について

(1) 市民理解

- ① どの病院でも選べるフリーアクセスや退院まで治療する病院完結型、歩いていける距離に受診したい医療機関のある環境等、過去では当たり前だった状況が、医療の機能分化が進んだことで当たり前ではなくなりつつある。医師の偏在や働き方改革、人口や疾病構造の変化による周産期・小児科等の医師の減少等、市民が望む利便性の高い医療環境と、実際の医療資源との間に隔たりがあり、ミスマッチによる苦情やトラブルも増えている。

また、このような状況の中、地域医療の中核を担ってきた市民病院の老朽化の現状や総合病院としての必要性等について、市民や関係機関等がどのように考え、感じているのか、市関係者以外の視点をどのように反映していくことができるのか、ということについて、市民目線で考える必要がある。

- ② 広域での体制整備が行われている医療について、明石市単独で、どこまでの体制整備を目指すのか。病院の再整備や運営には巨額の費用負担が生じることを勘案すると、自治体病院を維持することのメリット・デメリットを明確にし、市民の理解を得ることが必要となる。

(2) 取組体制

- ① 経営改善に取り組むにあたっては、将来にわたり安定的に医療提供が行えるよう、市民病院の組織において役割分担と責任を明確にする必要がある。
- ② 医療面だけでなく、施設の維持や経営管理等の実施にあたり、他病院の事例等を参考に必要なノウハウを継続的に確保し、経営に活かしていくための有効的方策を、法人自らが、検討する必要がある。
- ③ 今後、課題の検討を進めるにあたり、法人と市がより一層連携し、必要に応じて県や関係機関の協力も得られる体制を構築する必要がある。

市民病院が担うべき役割や医療機能に関しては、これまでも、市直営から独立行政法人化が図られた際などにおいて、一定程度検討されてきた。施設の老朽化が進み、再整備を含めた今後のあり方について検討を行う段階を迎えているなかで、本調査・分析で行ったシミュレーションによると、いずれの手法によるとしても、市はもとより法人にとっても非常に大きな財政負担となることから、市民病院の今後の更なる経営改善の必要性が明らかとなったが、まずは、本調査結果を踏まえ、法人として、長期的な視野に立ち、地域医療の中で市民病院が果たすべき役割を改めて整理した上で、将来の市民病院像と現実的な収支見込を立てるべきである。

役割の検討にあたっては、現状の機能を維持することを前提とするのか、維持を前提にシェア率の低い分野をさらに強化するのか、聖域なく大胆な整理を行うのか（シェア率の低い分野の廃止等）を議論の俎上に載せ、それぞれのメリット・デメリットを明確化したうえで、方針を検討する必要がある。そして、公立病院として政策的な不採算分野の医療ニーズに応えていくためには、収益性の高い診療領域で収益を確保するなど、地域の医療ニーズへの対応と持続可能な経営を両立できるよう、より総合的かつ戦略的な検討が必要となる。

収支の面については、公益性の高い不採算医療の実施等にかかる市からの運営費負担金等の公的資金の投入がある中、法人においては、一般の病院が実現できるレベルでの事務部門の専門性、効率性、経済性を実現した上で、運営費負担金等に依存しない経営を目指す意識が必要となる。一方で、患者目線の医療を提供するという公立病院の使命を果たしていくためには、極端な収益性は目指すべきではないという側面もあり、バランスのとれた経営感覚が求められる。

また、市としても運営費負担金等の交付については、今後、より適切なものとなるように、あり方について整理し、検討を行う必要がある。

なお、調査・分析の実施に使用したデータは、コロナの影響を受けている期間のものであるため、可能な限り最新のデータに更新し、より現実的かつ客観的な将来推計を行なう必要がある。

用語集

	用語	内容
D	DPC	Diagnosis Procedure Combination の略。「診断群分類包括評価」。急性期入院医療を対象に入院患者の診療報酬額について、従来の出来高払いではなく、診断群分類に従った定額払いをする包括評価制度。 患者が該当する診断群分類(DPC)の点数に入院日数と病院ごとの係数を乗じて算定する診療報酬点数に、出来高部分の点数を加えたものが、その患者の入院医療費となる。
G	GCU	Growing Care Unitの略。急性期治療が終了、または集中治療を要しない新生児を受け入れる病床。NICU の後方病床として位置付けされている。
I	ICD10	International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems(ICD)の略。「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」。異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関(WHO)が作成した分類。
M	MDC	DPCの14桁コードの上2桁で18の主要診断群。
	MRI	Magnetic Resonance Imaging の略。「核磁気共鳴画像法」。磁場と電波を用いて体内の断層画像を撮影する装置。
N	NDBオープンデータ	厚生労働省がホームページに公表している、日本の医療におけるビックデータを扱った統計資料。国民の医療の動向や健康状態を把握出来るため、有用なデータとして研究機関など様々な分野で利活用が進められている
	NICU	Neonatal Intensive Care Unit の略。「新生児特定集中治療室」。新生児の治療に必要な保育器、人工呼吸器等を備え、24 時間体制で集中治療が必要な新生児のための治療室。

	用語	内容
P	PET	Positron Emission Tomographyの略。通常がんや炎症の病巣を調べたり、腫瘍の大きさや場所の特定、良性・悪性の区別、転移状況や治療効果の判定、再発の診断などを調べる検査。
	PET-CT	PET検査同時にCTの画像を撮影する検査のこと。
	PET-MRI	PET検査同時にMRIの画像を撮影する検査のこと。
	PPM	ポジタロン・ポートフォリオ・マネジメント。項目ごとに市場における成長度と相対的なシェア率の2軸でそれぞれの立ち位置を分類する指標のこと。
S	SPECT	Single Photon Emission Computed Tomography の略。微量の放射線を出す検査薬を投与し、その検査薬が集積した部位から出てくる放射線を検知し、画像化する検査。
T	t-PA治療	血栓溶解療法。発症から4.5時間以内の急性期脳梗塞に対する標準的な治療。tPAという薬剤は、詰まった血栓を溶かす作用がある。これを急速に点滴し、脳の血栓を溶かし、再度血液が流れるようにする治療。
い	1次救急	入院治療の必要がなく、帰宅可能な軽症患者に対する救急医療のこと。
	一般病床	精神病床、感染症病床、結核病床、療養病床以外の病床のこと。
	医業収益	病院の本業である外来患者や入院患者へ医療サービスを提供して得られる収益のこと。
	医療DX	保険・医療・介護に関する情報やデータを活かして病気の予防やより良い医療と介護の実現を目指すために社会や生活を変えること。
	陰圧装置	病室内の空気をHEPAフィルタを通して外気へ排気することで、病室内が陰圧に保たれる。陰圧にすることで、隣接する部屋や廊下から常に病室内に空気が流れ込む気流となるため、汚染物質の拡散リスクを低減できる。

	用語	内容
え	遠隔操作式密封小線源治療装置	ラルス (Remote After Loading System) 。直径1mmのイリジウム線源を病巣部に挿入し、体内より放射線を照射する装置。
お	応急入院指定病院	緊急を要し、家族等の入院同意を得られない場合に、本人の同意がなくても精神保健指定医の診察により72時間に限り入院させることができる病院。
	汚物処理室	汚物を処理する区域。
	オンライン診療	医師－患者間において、情報通信機器を通して、患者の診察及び診断を行い、診断結果の伝達や処方等の診療行為をリアルタイムに行う。
か	回復期	主に急性疾患において、発症間もない病状の不安定な時期を過ぎて安定している、あるいは緩やかに快方に向かっている時期のこと。
	回復期リハビリテーション病棟	急性期の治療を終え、自宅や社会に戻ってからの生活を少しでも元に近い状態に近づけるためのリハビリテーションを専門に行う。入院期間は最大180日(疾患・状態により異なる)、リハビリテーションは1日最大3時間を行い、社会・在宅復帰を目指す。
	回復室	手術室に併設され、術直後で状態が不安定な患者を収容し集中的に管理する部屋。
	化学療法	薬(抗がん剤)を使って、がん細胞の増殖を抑えたり、破壊したりする事による治療法。
	かかりつけ医	健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと。
	がん診療拠点病院	がん患者の生存率を高める目的で、全国に整備された病院のこと。概ね「都道府県がん診療連携拠点病院」は都道府県に1カ所、「地域がん診療連携拠点病院」は二次保健医療圏に1カ所整備される。

	用語	内容
か	ガンマナイフ	脳内の一点(病巣部)に192個の細かいガンマ線ビーム(X線よりもさらに波長の短い電磁波)を集中照射させる放射線治療。
	緩和ケア	がんによる心と身体の苦痛を和らげ、自分らしい生活を送れるようにするケア。
き	機械浴室	座った姿勢が保持できない方や寝たきりの方が使用するための浴槽。
	逆紹介(患者)率	当院から他の医療機関に紹介した患者の割合を示す数字。 逆紹介(患者)率 = 逆紹介件数 ÷ 初診患者数 × 100
	救急告示病院	救急隊が搬送する傷病者の収容及び治療を行う医療機関のこと。救急病院等を定める省令に基づいて知事が認定し告示している。
	急性期	病気の初期段階、症状が比較的激しい時期。また処置、投薬、手術などを短期間で集中して行い、1ヵ月程度で治療する期間のこと。
	急性増悪	急に症状が著しく悪くなること。
	教育入院	食事療法や薬物治療で血糖値をコントロールすることに加えて、 ① 糖尿病についての理解 ② 食事療法の習得 ③ 糖尿病合併症の状態を知ること を目的とする。
	強度変調放射線治療器	放射線の照射中に、照射野内の放射線の強さに強弱をつけ、腫瘍に対して集中的に照射を行うことができる。放射線の量を変化させることで、腫瘍の形が不整形で複雑な場合や腫瘍の近くに正常組織が隣接している場合でも、多くの放射線を腫瘍に当てることが可能。
	緊急ペーシング	洞不全症候群や房室ブロックなどで、心不全やショックなどを伴う症候性徐脈に対して、電氣的に心筋を刺激して心拍数を増加させる一時的な処置。

	用語	内容
け	血液透析	腕の血管に針を刺し、ポンプを使って体内から血液を取り出して、ダイアライザーと呼ばれる血液透析器に通すことにより、体に溜まった老廃物や余分な水分を取り除く方法。
	血管撮影室	カテーテルと呼ばれる細い管を太ももの付け根や腕の血管から挿入し、造影剤を流しながらX線撮影を行うことで、血管の状態や血液の流れを検査する部屋。
	言語聴覚士	言語や聴覚に障がいをもった人に対し、機能の改善や維持、代わりとなる手段獲得などの訓練を行う専門職。
	検体検査室	体から採取した検体(血清・血液・尿など)の成分を化学的に分析し、結果を診療側へ提供する検査室。
こ	公開データ	DPC 導入の影響評価等を行うことを目的とした「退院患者調査」。退院患者について診断群分類の妥当性の検証及び診療内容の変化等を評価する。
	後期高齢者	高齢者は一般的に65歳以上の方。そのうち、後期高齢者は75歳以上。
	高度急性期	病気の発症直後の重篤な時期。救命救急による処置対応を行い、その後の専門治療、集中治療を行う急性期へ繋げる時期のこと。
	後方支援	退院・転院相談及び付随する相談(介護保険制度など)が中心的業務であり、医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)が対応する。
さ	災害拠点病院	各都道府県により選定又は設置され、災害時において医療救護活動の拠点となる病院。災害時における患者受け入れ機能や水・医薬品・医療機器の備蓄機能が強化され、応急用資機材の貸し出し等によって地域の医療施設を支援する機能を有する。「基幹災害拠点病院」は原則として都道府県に1ヶ所、「地域災害拠点病院」は原則として二次医療圏に1ヶ所設置される。

	用語	内容
さ	サイバーナイフ	X線を使った放射線治療装置の一種で、腫瘍にピンポイントで照射することに特化した装置。
	作業療法士	日常の基本動作を発展させた応用的動作や社会適応動作のリハビリテーションを行う専門職。
	3次救急	2次救急では対応できない重篤な患者に対する救急医療。複数診療科にわたる特に高度な処置が必要であり「救命救急センター」や「高度救命救急センター」が対応する。
	産じょく	分娩後から非妊娠時の状態に戻るための期間のことをいい、産じょく期は出産後約6～8週間とされる。
し	施設基準	厚生労働大臣が定めた医療機関の機能や設備、診療体制、安全面やサービス面等の基準で、一部の保険診療報酬の算定要件として定められている。
	実患者数	1箇月のレセプト枚数と同じ。複数回や複数科にわたる受診、再入院についてはまとめて1名とする。
	指定病院	国等以外が設置する精神科病院等で都道府県が指定する病院。措置入院の受入に応じる。
	集学的治療	手術治療・薬物治療・放射線治療など複数の治療法を組み合わせる治療法。
	重篤	病状が非常に重いこと。
	受療率	調査日当日に、病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数と、人口10万人との比率を「受療率」といい、人口10万人あたりで、どのくらいの方が医療機関を受診したかを表す数字。 受療率(人口10万対) = 推計患者数/推計人口×100,000

	用語	内容
し	紹介(患者)率	当院を受診した患者のうち、他の医療機関から紹介されて来院した患者の割合を表す数字。 紹介(患者)率 = 紹介患者数 ÷ 初診患者数 × 100
	新興感染症	最近新しく認知され、局地的あるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症のことで、SARS(重症急性呼吸器症候群)や鳥インフルエンザ、エボラ出血熱など。
	人工透析	人工的に血液中の余分な水分や老廃物を取り除き、血液をきれいにする働きを腎臓に代わって行う治療法。
	心臓カテーテル検査	細いプラスチック製の管(カテーテル)を動脈ないしは静脈内に挿入し、その中を進めて心臓に到達させ、心内圧を測定したり、冠動脈や心臓の血行動態を得るためにX線撮影装置を用いて造影を行う検査。
	心臓リハビリテーション	心臓病患者の体力と自信を回復させ、再発予防法を学び実践していくための治療プログラム。
	診療圏	医療機関を受診する患者の主な分布範囲。
	診療単価	患者1名が1回の診療で払う医療費。
	診療報酬改定	医療機関が提供する医療サービスや医薬品等の公定価格を2年に一度見直す。
す	ストレッチャー	傷病者を乗せて運搬するための器具。いわゆる「担架」。

	用語	内容
せ	生検	病変の一部を採って、顕微鏡で詳しく調べる検査。
	先天性疾患	生まれつき体や臓器の機能に異常がある疾患のこと。
そ	ゾーニング	感染症対策を目的に、病原体により汚染されている「汚染区域」と汚染されていない「清潔区域」を区分けすること。
た	第1種・2種感染症病床	1類感染症は感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見て危険性が極めて高い感染症であり、感染まん延防止のため入院をしなければならない。1類感染症患者の入院を担当する感染症指定医療機関が「第1種感染症指定医療機関」となる。 「第2種感染症指定医療機関」は、急性灰白髄炎(ポリオ)、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザなどの2類感染症患者の治療を行う。 それら感染症の患者が使用する病床のこと。
	ダヴィンチ	従来の腹腔鏡手術をさらに進化させ、患者さんの負担(侵襲)が少なくなるよう開発された最新の低侵襲手術用ロボットのこと。
	大動脈バルーンポンピング	心臓の働きを助ける補助循環法の一つ。
ち	地域医療支援病院	地域の病院や診療所の支援を通じて、地域の医療機能の役割分担や連携をすすめるために法律で定められた医療機関の機能の一つで、入院治療や専門外来、救急医療など医療の中核を担う体制が備わった病院のこと。
	地域周産期病院	地域周産期母子医療センターと連携して、ハイリスクの妊産婦又はハイリスク新生児に対する二次的医療を行う施設を「地域周産期病院」として指定している。

	用語	内容
ち	地域周産期母子医療センター	産科・小児科(新生児)を備え、周産期に係る比較的高度な医療行為を常時担う医療機関。
	地域包括ケア病棟	地域包括ケアシステムにおける「治し、支える医療の充実」のため、急性期治療を経過し、病状が安定した患者に対して、在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援を行う病棟。
	超音波検査	耳には聞こえない高い波長の音波を使って、身体の中の臓器を画面に写し出し調べる検査。
	超急性期	発症、受傷、術後直後の状態のこと。
と	読影	CTやMRI、核医学、レントゲン写真などの画像を高精細モニターで見て、病気の有無や程度を診断し、画像診断報告書を作成すること。
	特定基本入院料	急性期の集中的な治療や濃厚なケアなど特定の機能または患者特性に着目して、一般、精神、感染症病床の病床区分で、病棟単位、治療室単位、病室単位あるいは患者単位で設定されている。
	特定病院	緊急その他やむを得ない理由があるときは、指定医に代えて特定医師の診察によって、12時間に限り医療保護入院をさせることができる病院のこと。
	特例措置	一定の要件を満たしている場合に限り、緊急その他やむを得ない場合に12時間を限度として、精神保険指定医の診察がなくとも、任意入院患者に対する退院制限、医療保護入院又は応急入院行うことができる。
に	2次救急	入院治療や手術を必要とする重篤患者に対する救急医療。都道府県が定めた医療圏域(2次医療圏)ごとに整備する。

	用語	内容
に	入院基本料	医療法でいう一般病床、療養病床、精神病床、結核病床、感染症病床をそれぞれ評価したもので入院料の基本となる部分のこと。
	入院転帰率	救急受入患者でそのまま入院に繋がった率 算出式：救急受入患者でそのまま入院した患者数 ÷ 救急受入患者数
の	延患者数	延入院患者数は、当月末在院患者数(24時現在入院している患者)と退院患者数を合計した延べ人数。 延外来患者数は、1年間の外来を受診した患者の数。
は	ハイブリッド手術室	X線透視下の診断・治療(血管内、C Tガイド穿刺等)と外科手術とを同時に行うことができる。
ひ	病床稼働率	運用病床数に対し患者がどのくらいの割合で入院していたかを示す指標であり、病床稼働率が高いとは、ベッドを効率的に運用していることを表す。 病床稼働率＝月間入院延べ患者数÷月間延べ運用病床数
	病床機能報告	毎年度、自機関の医療機能の現状、病床(一般病床及び療養病床)の医療機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)について、病棟単位で都道府県に報告することが義務付けられている。
ふ	腹膜透析	お腹の中に透析液を入れて、体内で血液を浄化する方法。
へ	平均在院日数	1人の患者が入院してから退院するまでの期間が平均でどれくらいかを表している。 平均在院日数＝年間延べ入院患者数÷{(年間新入院数＋年間退院数)÷2}
	へき地	交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地、離島その他の地域のうち、医療の確保が困難である地域。

	用語	内容
へ	ベンチマーク	自施設の経営状況を把握する目的で情報収集した類似施設における経営状況。
ま	慢性期	病状は比較的安定しているが、治癒が困難で病気の進行は穏やかな状態が続いている時期。
も	モダリティ	医療機器の種類やタイプを表す言葉。医療用画像機器を総称してモダリティ機器と呼ぶケースが多い。
や	夜間透析	夜間4～5時間かけて行う通常の血液透析のこと。
よ	要介護	人の手を借りずに自分だけで日常生活を送ることが難しい状態。
	要支援	日常生活の基本的なことは、自分で対応することができるが、部分的な生活支援が必要な状態。
り	理学療法士	基本的動作の維持・回復を図るリハビリテーションを行う専門職。
	療養環境加算	一定水準以上の(広い)病室を評価したもの。
	療養病床	慢性期の治療ステージにある方が、長期に渡る療養を目的とした病床。
れ	レセプト	医療機関が保険者に提出する月ごとの診療報酬明細書のこと。